

ISSN 1341-6952

東北大学埋蔵文化財調査年報 11

仙台城二の丸跡第12地点の調査

仙台城二の丸跡第14地点の調査

青葉山遺跡E地点第2次調査

東北大学埋蔵文化財調査研究センター

1999

「東北大学埋蔵文化財調査年報11」正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
✓目次	第1章2	組織改組	改組	✓123	30	図19	図46
✓表目次	表29	燭德利	燭德利	✓124	2	図版168-5	図版168-6
✓1	表1の2行目	保険	保健	✓124	6	図版168-6	図版168-5
✓13	37	38'	38'	✓126	表68	Ⅱ-8区5層	Ⅱ-8区4層
✓47	29	燭德利	燭德利	✓126	表69	Ⅱ-8区5層	Ⅱ-8区4層
✓55	9・12	燭德利	燭德利	✓129	7・18	指標	示標
✓57	7	燭德利	燭德利	✓130	36	指標	示標
✓68	29	一の蔵	一ノ蔵	✓135	15	8点	5点
✓68	30	FACTPRY	FACTORY	✓136	表75のNo. 22	高台付杯	高台付坏
✓68	33	与	與	✓136	表75のNo. 45	杯	坏
✓76	20	㊦	㊦	✓136	9	行われて	行われた
✓111	18	無	な	✓137	4	追求	追究
✓113	37	調査では	調査は	✓141	1	top, and	top, and
✓119	✓27-30	Ⅱ-Ⅰ区	Ⅱ-Ⅰ区	✓141	18	includes	include
✓120	19	保険	保健	✓294	1の説明	竹田菱文	武田菱文
✓123	12	多量含まれ	多量に含まれ	✓314	発行年月日	2月28日	2月26日

東北大学埋蔵文化財調査年報11

東北大学埋蔵文化財調査研究センター

1999



1. 仙台城二の丸跡第12地点 江戸時代の礎跡（東から）



2. 仙台城二の丸跡第12地点 江戸時代の堀を横切る環状施設（東から）

序

近年の埋蔵文化財の発掘調査では、中世、近世遺跡の調査が全国的に著しく増加している。その調査規模もきわめて大規模なものとなっている。東北大学の川内キャンパスは、仙台城二の丸跡とそれに隣接する武家屋敷跡にあるため、本学では、埋蔵文化財調査委員会、埋蔵文化財調査室そして平成6年に開設された埋蔵文化財調査研究センターが、その構内遺跡の調査を15年におよび継続して調査しつづけてきた。

これまでの調査の結果、仙台城二の丸は、建物、施設群の大部分が明治初めの火災で焼失し、火災後の盛土、整地のため、二の丸の遺構群は地下にきわめて良好な状態で保存されていることが明らかになってきた。そして、大小100カ所におよぶ組織的調査の積み重ねによって、二の丸の建物構造、規模、配列、その変遷の解明が着実に進展している。また、膨大な量の遺物が出土しており、仙台城における伊達藩主周辺の生活の内容も徐々に解明されつつある。このような成果からみて、本学の埋蔵文化財調査組織は、近世城郭の調査と研究に先駆的な役割を果たしてきたといえる。

本年報は、保健管理センター建設に伴う事前調査として取り組んだ仙台城二の丸北濠跡の調査・研究成果を報告する。この第12次調査において、二の丸を防御する北濠の構造、規模、その造営方法、造営時期が明らかにされた。ことに、この濠はこれまで取り組んできた遺構としては最大規模のものであり、江戸時代の築城工事の実態を追究することのできる貴重な手掛かりがえられたといえる。

また、本報告書では、明治、大正期の遺物についての調査研究の結果を掲載した。本調査では、濠を埋めた堆積土は極めて厚く、江戸時代の遺物とともに、膨大な量の明治期の陶磁器、ガラス容器などの生活遺物が出土した。これらの膨大な一括資料のうち、ごく一部を計画的に抽出し、その考古学的な分析と検討をすすめた。近代の明治、大正期の遺物について、考古学的に研究する必要があるのかという疑問も起こるが、人類ののこした遺物、遺構、遺跡から社会、文化の歴史を解明しようとする考古学の立場からすれば、近代の考古学研究も可能であり、時には重要であるといえる。実際に、近年、明治期の鉄道施設、歴史建造物の考古学調査もしばしば実施され、重要な成果をあげている。

今回の第12次調査のように、近世城郭跡の遺構を調査する場合に上層に堆積した厚い包含層から出土した近代の一括遺物の的確な研究は、今後の構内の埋蔵文化財調査を効率的かつ正確にすすめていくうえでは不可欠であり、その分析資料は、重要な基準資料となるものである。さらに、今回、近代の出土遺物に対して、新たに構築、実施した調査方法と研究方法は今後の「近代考古学」のひとつの基準となりうるものと考えている。

本年度調査の実施、資料整理、報告書の作成、刊行にあたって、施設部をはじめ、関係部局には多大な支援と協力を頂いた。また、資料分析、関連資料の収集にあたって多くの機関の方にご支援を頂いた。関係各位に厚く感謝する次第である。

埋蔵文化財調査研究センター

センター長 須藤 隆

例 言

1. 本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査委員会が1993年度に行った遺跡調査、ならびに研究成果をまとめたものである。
2. 報告される遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下の通りである。

仙台城二の丸跡第12次調査地点	試掘調査	1992年11月18日～12月18日	藤沢敦・関根達人
(NM12)	本調査	1993年6月30日～10月27日	藤沢敦・関根達人・菊池佳子
仙台城二の丸跡第14次調査地点 (NM14)		1994年1月24日～3月17日	藤沢敦・関根達人・菊池佳子
青葉山遺跡E地点第2次調査 (AOE2)		1993年6月25日～7月30日	藤沢敦・関根達人・菊池佳子
3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査委員会の委嘱を受け、埋蔵文化財調査室が行った。(1994年度からは埋蔵文化財調査研究センター)
4. 本年報の編集は、須藤隆の指導のもとに、藤沢敦・関根達人・奈良(旧姓菊池)佳子が担当した。
5. 本文は、藤沢敦・関根達人・奈良佳子が分担執筆した他、仙台城二の丸跡第12地点出土の動物遺存体と植物遺存体については、下記の方々に分析を依頼し、原稿をいただいた。

第II章4(2)㉔動物遺存体	氷見淳哉・川口貴史(東北大学文学部考古学研究室)
第II章4(2)㉕植物遺存体	内藤俊彦(東北大学理学部附属植物園)

これ以外の本文執筆分担は、以下のとおりである。

第I章、第II章1～3・4(2)㉑～㉓・5、第III章、第IV章	藤沢敦
第II章4(1)・(2)㉖～㉗	関根達人
第II章4(2)㉘	奈良佳子

また、英文要旨については奈良佳子が作成し、阿子島香氏に校訂していただいた。
6. 発掘調査および整理・報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる。

浅見紀夫(株式会社一ノ蔵)・岡泰正(神戸市立博物館)・遠藤智一(鳴子町文化財保護委員)
鈴木甲意(会津本郷焼資料館)・中川学(東北大学百年史編さん室)・永田英明(東北大学記念資料室)
中富洋(仙台市歴史民俗資料館)・本田泰貴(東北陶磁文化館)・松本秀明(東北大学大学院理学研究科)
山田秀安(大堀相馬焼協同組合)
仙台市博物館・仙台市教育委員会・宮城県教育委員会・東北大学文学部考古学研究室・会津碍子株式会社・親和銀行情報調査部
7. 出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査研究センターで保管・管理している。

凡 例

1. 方位は、真北に統一してある。
2. 図1と図2は、それぞれ国土地理院作成の、2万5千分の1地形図「仙台北西部」と「仙台西南部」、1万分の1地形図「青葉山」を使用した。
3. 川内地区の仙台城二の丸跡、および北方の武家屋敷地区にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」（縮尺500分の1）を使用した。
4. 遺物の実測図および写真の縮尺は各々に示した。写真図版で特に記載がないものの縮尺は任意である。
5. 挿図中のスクリーン・トーンの表現は、特に記した以外は、下記の通りである。
遺構断面図 木材： 礎：
6. 遺物観察表の法量の単位は、特に記載がないものは、cmである。
7. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また本文中で、東北大学埋蔵文化財調査年報を引用する場合は、年報1という形で略記した。

発掘調査参加者

青山博樹 阿部友衛 井上英司 岩井利佳 歌川喜恵子 梅沢みえ 大井義夫 太田すゑ子 太田はるよ
大谷基 大橋育順 小関満知子 葛西信弘 菅野春枝 岸本さち 工藤健吾 熊谷宏靖 黒須靖之
小泉友字子 佐伯晴子 佐光律人 佐藤剛 佐藤鉄生 佐藤良和 澤田純明 椎名敏 鈴木さおり 相馬貴史
庄司明美 高橋和子 高橋周平 高橋朋子 田中政幸 多辺育子 千田裕美恵 独古史恵 中野恵
成田和歌子 橋本幸枝 長谷川チエ子 樋口優子 横山東市 劉暉 渡辺英恵

整理作業参加者

青井恭子 今泉八重子 内海薫 大塚玲子 後藤真希子 古山友子 庄司明美 白石浩子 千葉直美
独古史恵 平井真理

東北大学埋蔵文化財調査委員会 (1993年度)

委員長	学 長		西澤 潤 一
委 員	川内地区協議会委員長	(法学部長)	小山 貞 夫
	青葉山地区協議会委員長	(工学部長)	阿部 博 之
	星陵地区協議会委員長	(医学部長)	平 則 夫
	片平地区協議会委員長	(金研所長)	増本 健 夫
	文 学 部 教 授		渡辺 信 夫
	文 学 部 教 授		羽下 徳 彦
	文 学 部 教 授	(調査室長)	須藤 隆 雄
	文 学 部 助教授		今泉 隆 雄
	文 学 部 助教授		阿子 島 香
	工 学 部 助教授		飯淵 康 一
	事 務 局 長		廣田 史 郎
調 査 員	文 学 部 助 手		藤沢 敦 人
	文 学 部 助 手		関根 達 子
	文 学 部 助 手	(1993年7月～)	菊池 佳 子
幹 事	施 設 部 長		山本 努
	庶 務 部 長		賀須井 昭 平
	経 理 部 長		山 田 清

東北大学埋蔵文化財調査研究センター設置規程

(平成6年5月17日 規第56号)

(設置)

第一条 東北大学(以下「本学」という。)に、東北大学埋蔵文化財調査研究センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第二条 センターは、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査及び研究を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職員)

第三条 センターに、センター長、調査研究員及びその他の職員を置く。

- 2 センター長は、本学の専任の教授をもって充て、総長が命ずる。
- 3 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 4 センター長の任期は、二年とし、再任を妨げない。
- 5 調査研究員は、本学の専任の教官をもって充て、総長が命ずる。
- 6 調査研究員は、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

第四条 センターに、センターの組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第五条 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 東北大学施設整備委員会各地区協議会の協議員 各一名
- 二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授 若干名
- 三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は助教授で、その都度委員長が指名するもの
- 四 施設部長

(委員長)

第六条 委員長は、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の同意を得て、委員以外の者を委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(専門委員会)

第七条 委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、委員長及び次の各号に掲げる専門委員をもって組織する。
 - 一 調査研究員
 - 二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授 若干名
 - 三 施設部企画課長
 - 四 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長
- 3 委員長は、センター長をもって充てる。

(委嘱)

第八条 第五条第一号から第三号までに掲げる委員並びに前条第二項第二号及び第四号に掲げる専門委員は、総長が委嘱する。

(幹事)

第九条 委員会に幹事を置き、施設部企画課長をもって充てる。

(事務)

第十条 センターの事務は、当分の間、事務局施設部において処理する。

(雑則)

第十一条 この規程に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則 (略)

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会 (1999年2月現在)

委員 長	センター長 (文学部 教授)	須 藤 隆
	川内地区協議会 (文学部 教授)	安 田 二 郎
	青葉山地区協議会 (薬学部 教授)	大 内 和 雄
	星陵地区協議会 (医学部 教授)	大 井 龍 司
	片平地区協議会 (素材工学研究所 教授)	島 田 昌 彦
	文 学 部 教 授	今 泉 隆 雄
	文 学 部 教 授	大 藤 修
	文 学 部 教 授	阿子島 香
	理 学 部 教 授	蟹 澤 聰 史
	工 学 部 教 授	飯 淵 康 一
	東北アジア研究センター 教 授	入間田 宣 夫
	施 設 部 長	渡 邊 正 雄
幹 事	施 設 部 企画課長	渡 邊 三 郎

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会専門委員会 (1999年2月現在)

委員 長	センター長 (文学部 教授)	須 藤 隆
	文 学 部 教 授	今 泉 隆 雄
	文 学 部 教 授	大 藤 修
	文 学 部 教 授	阿子島 香
	理 学 部 教 授	蟹 澤 聰 史
	工 学 部 教 授	飯 淵 康 一
	東北アジア研究センター 教 授	入間田 宣 夫
	調査研究員 (文学部 助手)	藤 沢 敦
	調査研究員 (文学部 助手)	関 根 達 人
	調査研究員 (文学部 助手)	奈 良 佳 子
	理 学 部 事 務 長	渡 邊 正 雄
	施 設 部 企画課長	渡 邊 三 郎

目 次

巻頭カラー図版

序

例言・凡例

東北大学埋蔵文化財調査委員会委員（1993年度）

東北大学埋蔵文化財調査研究センター設置規程

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（1999年2月現在）

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会専門委員会（1999年2月現在）

目次

図目次

表目次

図版目次

第I章 1993年度調査の概要	1
1. はじめに	1
2. 1993年度調査の推移と改組への動き	1
3. 埋蔵文化財調査の概要	4
(1) 川内地区の調査	4
(2) 青葉山地区の調査	4
(3) 川渡地区の調査	9
4. その他の調査室の活動	11
第II章 仙台城二の丸跡第12地点（NM12）の調査	12
1. 調査経緯	12
(1) 川内地区の立地と歴史および1992年度までの調査	12
(2) 調査地点の位置	13
(3) 調査の方法と経過	13
2. 基本層序と時期区分	16
3. 検出遺構	20
(1) I期（近世）の遺構	20
① I a期（12層上面）の遺構	20
② I b期（10層上面）の遺構	25
(2) II期（近代）の遺構	25
① II a期（6・7層上面）の遺構	25
② II b期（5層上面）の遺構	26
③ II c期（4層上面）の遺構	29
④ II d期（3層上面）の遺構	29
(3) 時期による遺構の変化と絵図・地図との対比	32
(4) 江戸時代の堀の復元	34

4. 出土遺物	38
(1) 近世の遺物	38
① 陶磁器・土器	38
② その他の遺物	38
(2) 近代の遺物	45
① 遺物整理の方法	45
② 磁器	46
③ 軟質磁器	57
④ 陶器	57
⑤ 石器	62
⑥ 土師質土器・瓦質土器・軟質施釉土器	62
⑦ 硬質陶器	64
⑧ ガラス製品	66
⑨ 石製品	70
⑩ 骨製品	70
⑪ 金属製品	71
⑫ 皮革製品	71
⑬ 木・竹製品	73
⑭ 繊維製品	75
⑮ ボタン	75
⑯ 瓦	76
⑰ その他の遺物	77
⑱ 動物遺存体	101
⑲ 植物遺存体	110
㉔ 小結	111
5. まとめ	113
第Ⅲ章 仙台城二の丸跡第14地点（NM14）の調査	115
1. 調査地点の位置と調査経緯	115
(1) I工区	115
(2) II工区	119
(3) III工区	119
(4) IV工区	120
(5) V工区	120
(6) VI工区	120
2. 検出遺構と出土遺物	121
(1) I工区	121
(2) II工区	121
(3) III工区	123
(4) IV工区	123
(5) V工区	123

(6) VI区	123
3. まとめ	125
第IV章 青葉山遺跡E地点第2次調査	129
1. 調査経緯	129
(1) 青葉山地区の立地とこれまでの調査	129
(2) 調査地点の位置	130
(3) 調査の方法と経過	130
2. 基本層序	130
3. 検出遺構	132
4. 出土遺物	132
5. まとめ	136

引用・参考文献

英文要旨

写真図版

目 次

<p>図1 東北大学と周辺の遺跡……………2</p> <p>図2 仙台城と二の丸の位置……………3</p> <p>図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点……………5</p> <p>図4 青葉山地区調査地点……………7</p> <p>図5 大型計算機センター地点 試掘調査区と断面図……………10</p> <p>図6 上川原遺跡の位置と試掘調査地点……………11</p> <p>図7 仙台城二の丸跡第12地点調査区的位置……………14</p> <p>図8 仙台城二の丸跡第12地点断面図(1)……………17</p> <p>図9 仙台城二の丸跡第12地点断面図(2)……………18</p> <p>図10 基本層・遺構の年代を推定できる遺物……………19</p> <p>図11 仙台城二の丸跡第12地点I a 期検出遺構……………21</p> <p>図12 仙台城二の丸跡第12地点I b 期検出遺構……………22</p> <p>図13 仙台城二の丸跡第12地点堰状遺構平面図……………23</p> <p>図14 仙台城二の丸跡第12地点 I a・b 期検出遺構平面図・断面図……………24</p> <p>図15 仙台城二の丸跡第12地点II a 期検出遺構……………27</p> <p>図16 仙台城二の丸跡第12地点II b 期検出遺構……………28</p> <p>図17 仙台城二の丸跡第12地点II c 期検出遺構……………30</p> <p>図18 仙台城二の丸跡第12地点II d 期検出遺構……………31</p> <p>図19 仙台城二の丸跡第12地点 調査区周辺の絵図・地図……………33</p> <p>図20 二の丸北側の塼の復元……………35</p> <p>図21 覆状遺構の構築方法復元図……………37</p> <p>図22 仙台城二の丸跡第12地点近世の磁器……………39</p> <p>図23 仙台城二の丸跡第12地点近世の陶器……………40</p> <p>図24 仙台城二の丸跡第12地点近世の瓦質土器……………40</p> <p>図25 仙台城二の丸跡第12地点 近世のその他の遺物……………41</p> <p>図26 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(1)……………48</p> <p>図27 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(2)……………49</p> <p>図28 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(3)……………50</p> <p>図29 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(4)……………51</p>	<p>図30 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(5)……………52</p> <p>図31 仙台城二の丸跡第12地点 近代の磁器器形分類図(6)……………53</p> <p>図32 仙台城二の丸跡第12地点 近代磁器の装飾技法……………54</p> <p>図33 仙台城二の丸跡第12地点 近代の軟質磁器器形分類図……………57</p> <p>図34 仙台城二の丸跡第12地点 近代の陶器器形分類図(1)……………58</p> <p>図35 仙台城二の丸跡第12地点 近代の陶器器形分類図(2)……………59</p> <p>図36 仙台城二の丸跡第12地点 近代の陶器器形分類図(3)……………60</p> <p>図37 仙台城二の丸跡第12地点 近代の陶器器形分類図(4)……………61</p> <p>図38 仙台城二の丸跡第12地点 近代の瓦器器形分類図……………63</p> <p>図39 仙台城二の丸跡第12地点 近代の土師質土器器形分類図……………63</p> <p>図40 仙台城二の丸跡第12地点硬質陶器分類図……………65</p> <p>図41 仙台城二の丸跡第12地点ガラス瓶分類図……………67</p> <p>図42 仙台城二の丸跡第14地点 調査地点の位置(川内北地区)……………116</p> <p>図43 仙台城二の丸跡第14地点 調査地点の位置(川内南地区)……………117</p> <p>図44 仙台城二の丸跡第14地点 II区平面図・断面図……………122</p> <p>図45 仙台城二の丸跡第14地点 IV区平面図・断面図……………122</p> <p>図46 仙台城二の丸跡第14地点出土陶磁器……………124</p> <p>図47 仙台城二の丸跡第14地点出土瓦……………125</p> <p>図48 青葉山遺跡E地点 第2次調査調査区的位置……………131</p> <p>図49 青葉山遺跡E地点 第2次調査平面図・断面図……………133</p> <p>図50 青葉山遺跡E地点第2次調査出土遺物……………135</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

表 目 次

表 1	1993年度調査概要表……………	1	表20	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表00 水滴……………	82
表 2	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世磁器集計表……………	42	表21	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表01 合子(身)……………	83
表 3	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世陶器集計表……………	42	表22	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表02 合子(蓋)……………	83
表 4	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世その他の遺物集計表……………	43	表23	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表03 段重・蓋物(身)……………	84
表 5	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世陶磁器産地別出土点数……………	43	表24	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表04 段重・蓋物(蓋)……………	84
表 6	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世磁器観察表……………	44	表25	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表05 土瓶(身)……………	85
表 7	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世陶器観察表……………	44	表26	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表06 土瓶(蓋)……………	85
表 8	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世瓦質土器観察表……………	44	表27	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表07 急須(身)……………	86
表 9	仙台城二の丸跡第12地点出土 近世木製品観察表……………	44	表28	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表08 急須(蓋)……………	86
表10	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代摺繪磁器文様分類……………	55	表29	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表09 燗徳利……………	87
表11	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(1) 大碗(身)……………	78	表30	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表10 酒杯……………	87
表12	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(2) 大碗・鉢(蓋)……………	78	表31	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表11 火鉢……………	88
表13	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(3) 中碗(身)……………	79	表32	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表12 その他の器種……………	88
表14	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(4) 中碗(蓋)……………	79	表33	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表13 器種不明……………	89
表15	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(5) 小碗……………	80	表34	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表14 全器種……………	89
表16	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(6) 鉢(身)……………	80	表35	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代陶器集計表(1)……………	90
表17	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(7) 小坏……………	81	表36	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代陶器集計表(2)……………	90
表18	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(8) 皿……………	81	表37	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代陶器集計表(3)……………	91
表19	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表(9) 湯呑み……………	82	表38	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器集計表……………	91

表39	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代土師質土器集計表……………91	表57	仙台城二の丸跡第12地点出土 動物遺存体種名表……………103
表40	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代瓦質・軟質施釉土器、軟質磁器集計表…91	表58	仙台城二の丸跡第12地点出土 貝類出土量表……………103
表41	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代硬質陶器集計表……………92	表59	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(1)……………104
表42	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代石製品・その他の遺物集計表……………92	表60	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(2)……………105
表43	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品集計表(1)……………93	表61	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(3)……………106
表44	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品集計表(2)……………93	表62	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(4)……………107
表45	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代骨製品集計表(1)……………94	表63	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(5)……………108
表46	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代骨製品集計表(2)……………94	表64	仙台城二の丸跡第12地点出土 魚類出土量表(6)……………108
表47	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代金属製品集計表(1)……………95	表65	仙台城二の丸跡第12地点出土 鳥類出土量表……………109
表48	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代金属製品集計表(2)……………95	表66	仙台城二の丸跡第12地点出土 哺乳類出土量表……………109
表49	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代皮革製品集計表(1)……………96	表67	仙台城二の丸跡第12地点出土植物遺存体…110
表50	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代皮革製品集計表(2)……………96	表68	仙台城二の丸跡第14地点出土 陶磁器・土器・土製品集計表……………126
表51	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木製品集計表(1)……………97	表69	仙台城二の丸跡第14地点出土 その他の遺物集計表……………126
表52	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木製品集計表(2)……………97	表70	仙台城二の丸跡第14地点出土磁器観察表…126
表53	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ボタン集計表……………98	表71	仙台城二の丸跡第14地点出土陶器観察表…126
表54	仙台城二の丸跡第12地点出土近代瓦集計表…98	表72	仙台城二の丸跡第14地点出土 軒瓦瓦類観察表……………126
表55	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の名札類観察表(1)……………99	表73	仙台城二の丸跡第14地点出土 軒平瓦類観察表……………126
表56	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の名札類観察表(2)……………100	表74	仙台城二の丸跡第14地点出土 その他の瓦観察表……………126
		表75	青葉山遺跡E地点 第2次調査出土遺物観察表……………136

図 版 目 次

<p>図版 1 仙台城二の丸跡第12地点 試掘・外周壁セクション ……………143</p> <p>図版 2 仙台城二の丸跡第12地点 外周壁セクション・I a 期の遺構 ……………144</p> <p>図版 3 仙台城二の丸跡第12地点 I a 期・I b 期の遺構 ……………145</p> <p>図版 4 仙台城二の丸跡第12地点 I b 期の遺構 ……………146</p> <p>図版 5 仙台城二の丸跡第12地点 I b 期・II a 期・II b 期の遺構 ……………147</p> <p>図版 6 仙台城二の丸跡第12地点 II b 期・II c 期の遺構 ……………148</p> <p>図版 7 仙台城二の丸跡第12地点 II c 期の遺構 ……………149</p> <p>図版 8 仙台城二の丸跡第12地点 II d 期の遺構 ……………150</p> <p>図版 9 仙台城二の丸跡第12地点 出土近世の磁器 ……………151</p> <p>図版10 仙台城二の丸跡第12地点 出土近世の陶器 ……………152</p> <p>図版11 仙台城二の丸跡第12地点出土 近世のその他の遺物 ……………153</p> <p>図版12 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(1)手描き磁器(1) ……………154</p> <p>図版13 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(2)手描き磁器(2) ……………155</p> <p>図版14 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(3)手描き磁器(3) ……………156</p> <p>図版15 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(4)手描き磁器(4) ……………157</p> <p>図版16 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(5)手描き磁器(5) ……………158</p> <p>図版17 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(6)手描き磁器(6) ……………159</p> <p>図版18 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(7)手描き磁器(7) ……………160</p> <p>図版19 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(8)手描き磁器(8) ……………161</p>	<p>図版20 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(9)手描き磁器(9) ……………162</p> <p>図版21 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(10)手描き磁器(10) ……………163</p> <p>図版22 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(11)手描き磁器(11) ……………164</p> <p>図版23 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(12)手描き磁器(12) ……………165</p> <p>図版24 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(13)手描き磁器(13) ……………166</p> <p>図版25 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(14)手描き磁器(14) ……………167</p> <p>図版26 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(15)手描き磁器(15) ……………168</p> <p>図版27 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(16)手描き磁器(16) ……………169</p> <p>図版28 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(17)手描き磁器(17) ……………170</p> <p>図版29 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(18)手描き磁器(18) ……………171</p> <p>図版30 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(19)手描き磁器(19) ……………172</p> <p>図版31 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(20)手描き磁器(20) ……………173</p> <p>図版32 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(21)手描き磁器(21) ……………174</p> <p>図版33 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(22)手描き磁器(22) ……………175</p> <p>図版34 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(23)手描き磁器(23) ……………176</p> <p>図版35 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(24)手描き磁器(24) ……………177</p> <p>図版36 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(25)手描き磁器(25) ……………178</p> <p>図版37 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(26)手描き磁器(26) ……………179</p> <p>図版38 仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器(27)手描き磁器(27) ……………180</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図版39	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器②8摺絵磁器(1) ……………	181	図版59	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥8摺絵磁器② ……………	201
図版40	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器②9摺絵磁器(2) ……………	182	図版60	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥9摺絵磁器② ……………	202
図版41	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③0摺絵磁器(3) ……………	183	図版61	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤0摺絵磁器③ ……………	203
図版42	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③0摺絵磁器(4) ……………	184	図版62	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤0摺絵磁器④ ……………	204
図版43	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④2摺絵磁器(5) ……………	185	図版63	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤0摺絵磁器⑤ ……………	205
図版44	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③3摺絵磁器(6) ……………	186	図版64	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤0摺絵磁器⑥ ……………	206
図版45	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③4摺絵磁器(7) ……………	187	図版65	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤4摺絵磁器⑦ ……………	207
図版46	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③5摺絵磁器(8) ……………	188	図版66	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤5摺絵磁器⑧ ……………	208
図版47	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③6摺絵磁器(9) ……………	189	図版67	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤6摺絵磁器⑨ ……………	209
図版48	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③7摺絵磁器⑩ ……………	190	図版68	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤7摺絵磁器⑩ ……………	210
図版49	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③8摺絵磁器⑪ ……………	191	図版69	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤8摺絵磁器⑪ ……………	211
図版50	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器③9摺絵磁器⑫ ……………	192	図版70	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑤9銅版転写磁器(1) ……………	212
図版51	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④0摺絵磁器⑬ ……………	193	図版71	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥0銅版転写磁器(2) ……………	213
図版52	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④0摺絵磁器⑭ ……………	194	図版72	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥0銅版転写磁器(3) ……………	214
図版53	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④2摺絵磁器⑮ ……………	195	図版73	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥2銅版転写磁器(4) ……………	215
図版54	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④3摺絵磁器⑯ ……………	196	図版74	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥3銅版転写磁器(5) ……………	216
図版55	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④0摺絵磁器⑰ ……………	197	図版75	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥4銅版転写磁器(6) ……………	217
図版56	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④5摺絵磁器⑱ ……………	198	図版76	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥5銅版転写磁器(7) ……………	218
図版57	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④6摺絵磁器⑲ ……………	199	図版77	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥6銅版転写磁器(8) ……………	219
図版58	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器④7摺絵磁器⑳ ……………	200	図版78	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器⑥7銅版転写磁器(9) ……………	220

図版79	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器68銅版転写磁器00	221	図版99	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800クロム青磁(2)	241
図版80	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器69銅版転写磁器00	222	図版100	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800クロム青磁(3)	242
図版81	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器70銅版転写磁器00	223	図版101	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800クロム青磁(4)	243
図版82	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器71銅版転写磁器00	224	図版102	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800クロム青磁(5)	244
図版83	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器72銅版転写磁器00	225	図版103	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800クロム青磁(6)	245
図版84	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器73銅版転写磁器00	226	図版104	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器800その他の磁器	246
図版85	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器74銅版転写磁器00	227	図版105	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(1)	247
図版86	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器75銅版転写磁器00	228	図版106	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(2)	248
図版87	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器76銅版転写磁器00	229	図版107	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(3)	249
図版88	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器77銅版転写磁器00	230	図版108	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(4)	250
図版89	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器78銅版転写磁器00	231	図版109	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(5)	251
図版90	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器79型打ち磁器(1)	232	図版110	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(6)	252
図版91	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器80型打ち磁器(2)	233	図版111	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(7)	253
図版92	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器81型打ち磁器(3)	234	図版112	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(8)	254
図版93	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器82白磁(1)	235	図版113	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様(9)	255
図版94	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器83白磁(2)	236	図版114	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様00	256
図版95	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器84白磁(3)	237	図版115	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様01	257
図版96	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器85白磁(4)	238	図版116	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代磁器の細部文様02	258
図版97	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器86白磁(5)	239	図版117	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(1)	259
図版98	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の磁器87クロム青磁(1)	240	図版118	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(2)	260

図版119	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(3)……………261	図版139	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(8)……………281
図版120	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(4)……………262	図版140	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(9)……………282
図版121	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(5)……………263	図版141	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(10)……………283
図版122	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(6)……………264	図版142	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代石製品……………284
図版123	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(7)……………265	図版143	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代骨製品・歯ブラシ(1)……………285
図版124	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(8)……………266	図版144	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシ(2)……………286
図版125	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶器(9)・石器(1)……………267	図版145	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシ(3)……………287
図版126	仙台城二の丸跡第12地点出土近代の 石器(2)・土師質土器・軟質磁器……………268	図版146	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシ(4)……………288
図版127	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代陶磁器・石器の鉞(1)……………269	図版147	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシ(5)……………289
図版128	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代陶磁器・石器の鉞(2)……………270	図版148	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシ(6)……………290
図版129	仙台城二の丸跡第12地点出土近代白磁 湯呑み(湯呑みV類)の文字資料……………271	図版149	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシの刻印(1)……………291
図版130	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の陶磁器にみられる墨書……………272	図版150	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代歯ブラシの刻印(2)……………292
図版131	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代硬質陶器……………273	図版151	仙台城二の丸跡第12地点出土 銭貨……………293
図版132	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(1)……………274	図版152	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代金属製品(1)……………294
図版133	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(2)……………275	図版153	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代金属製品(2)……………295
図版134	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(3)……………276	図版154	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代皮革製品(1)……………296
図版135	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(4)……………277	図版155	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代皮革製品(2)……………297
図版136	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(5)……………278	図版156	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木・竹製品(1)……………298
図版137	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(6)……………279	図版157	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木・竹製品(2)……………299
図版138	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代ガラス製品(7)……………280	図版158	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木・竹製品(3)……………300

図版159	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代木・竹製品(4)……………301	図版166	仙台城二の丸跡第12地点出土 動物遺存体(4) 鳥類・哺乳類……………308
図版160	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代纖維製品・ボタン・ゴム製品……………302	図版167	仙台城二の丸跡第14地点 調査状況(1)……………309
図版161	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の瓦……………303	図版168	仙台城二の丸跡第14地点 調査状況(2)……………310
図版162	仙台城二の丸跡第12地点出土 近代の刻印ある瓦……………304	図版169	仙台城二の丸跡第14地点 出土遺物……………311
図版163	仙台城二の丸跡第12地点出土 動物遺存体(1) 貝類・魚類……………305	図版170	青葉山遺跡E地点 調査状況(1)……………312
図版164	仙台城二の丸跡第12地点出土 動物遺存体(2) 魚類……………306	図版171	青葉山遺跡E地点 調査状況(2)・出土遺物……………313
図版165	仙台城二の丸跡第12地点出土 動物遺存体(3) 魚類……………307		

第 I 章 1993年度調査の概要

1. はじめに

東北大学には、仙台市内の川内・青葉山・片平・星陵・雨宮の各キャンパスに加えて、他に多くの研究施設があり、その敷地は10県にわたる広大なものとなっている。これらの各地区の構内には、多くの埋蔵文化財があり、特に川内地区は、近世の仙台城二の丸跡と武家屋敷跡にあたり、青葉山地区には旧石器時代から古代の遺跡が存在する（図1・2）。

これらの大学構内の埋蔵文化財の調査・保護を組織的に行うために、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が組織され、その実務機関として埋蔵文化財調査室が置かれた。以来、大学構内の埋蔵文化財調査を実施するとともに、調査成果を「東北大学埋蔵文化財調査年報」1～10において報告してきた。

2. 1993年度調査の推移と改組への動き

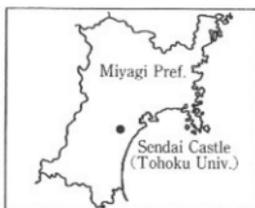
1993年度においても、多くの調査が行われ、新たな資料を提供することとなった。当年度は、年度当初より計画の変更・追加が相次ぎ、急激な事業量の増大に、それまでの体制では対応できない局面が生じた。結果的には、翌年度からの改組と、それを前提とした調査員の増員を行うことで、当面の対処にあたることとなった。そのため、1993年度は埋蔵文化財調査委員会としては最後の年度となり、翌年度の埋蔵文化財調査研究センターへの改組へとつながる、節目の年度でもあった。そこで、最初に年間の調査の推移と、それに伴う機構改革の動きについて簡単にまとめておきたい。

当初は片平地区に建設が予定されていた大型計算機センターの建設場所が、前年度の3月になって青葉山地区に急速変更となった。そのため、前年度の事業として実施していた記念講堂前環境整備による浸透料設置部分の調査（仙台城二の丸跡第13地点、年報10）の終了後すぐに、3月12日から前倒して大型計算機センター新宮に伴う試掘調査に着手した。大型計算機センターの試掘調査は、順調に進んだが、補正予算において、新たに青葉山地区基幹整備（共同溝）と保健管理センター新宮の事業が認められた。前者は試掘調査が必要であり、後者では本調査を実施する必要がある。補正予算の関係上、調査期間は限られ、調査員2名の体制では、要求される期間内に調査を終了させることは不可能な状況に立ち至った。また、それまで調査員は、理学部と工学部からの助手の借用定員であったが、両学部から定員の借用は1993年度を限りとして、今後は不可能である旨が示されていた。施設部をはじめとする関係部局との折衝が繰り返された結果、かかる状況の下、これまでの借用定員による調査員（助手）2名体制で学内の埋蔵文化財調査に対処するには、もはや制度的にも、実際の仕事量の上からも、不可能であることが理解されるに至った。そこで、翌年度から、学内共同利用機関としての埋蔵文化財センターへと改組することを前提に、今年度は薬学部から1名の借用定員を確保し、7月より調査員3名体制で調査に当たることとなった。この措置によって、当初は調査期間を5ヶ月間と見込んでいた保健管理センターの調査を、3ヶ月間に短縮して調査にあたることとなった。

表 1 1993年度調査概要

Tab.1 Excavations on the campus in the fiscal year 1993

種類	調査地(略号)	原因	調査期間	面積	時期
本調査	仙台城二ノ丸跡第12地点(NM12)	保健管理センター新宮	6/30~10/27	386㎡	近世
	青葉山地区E地点第2次調査(AOE2)	青葉山地区基幹整備	6/25~7/30	181㎡	縄文・弥生・古代
	仙台城二の丸跡第14地点(NM14)	屋外環境整備ほか	1/24~3/17	56㎡	近世
試掘調査	大型計算機センター地点(93-1)	大型計算機センター新宮	3/14~6/24	260㎡	-
	上川原遺跡(93-2)	川渡農場実習施設新宮	4/12	20㎡	-
立会調査	青葉山東北電力鉄塔地点(93-3)	東北電力鉄塔建て替え	1/26~2/3	-	-
	工学部機械系学科地点(93-4)	給水管改修	3/14~3/22	-	-



- 1 : Ruin of Sendai Castle
- 2 : Kawauchi steles
- 3 : Aobayama Site Loc.B
- 4 : Aobayama Site Loc.E
- 5 : Aobayama Site Loc.C
- 6 : Aobayama Site Loc.A
- 7 : Aobayama Site Loc.D
- 8 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 青葉山遺跡B地点 4 : 青葉山遺跡E地点 5 : 青葉山遺跡C地点
- 6 : 青葉山遺跡A地点 7 : 青葉山遺跡D地点 8 : 戸ノ口遺跡 9 : 片平仙台大御所の板碑 10 : 鎌六日如來の碑
- 11 : 志保城跡 12 : 鎌六城跡 13 : 鎌六建武碑 14 : 沼田遺跡 15 : 郷六御殿跡 16 : 郷六道跡 17 : 松ヶ岡遺跡
- 18 : 内山常葉遺跡 19 : 萩ヶ丘遺跡 20 : 茨ヶ崎城跡 21 : ニツ沢城穴墓群 22 : 萩ヶ丘B遺跡 23 : 八木山緑町遺跡
- 24 : ニツ沢遺跡 25 : 青山二丁目遺跡 26 : 青山二丁目B遺跡 27 : 砂土手(鹿野土手) 28 : 砂押原散遺跡
- 29 : 砂押古墳 30 : 富沢遺跡 31 : 泉崎浦遺跡 32 : 金洗沢古墳 33 : 土手内宮跡 34 : 土手内遺跡
- 35 : 土手内横穴墓群 36 : 三神峯遺跡 37 : 金山遺跡 38 : 三神峯古墳群 39 : 富沢宮跡 40 : 裏町東遺跡
- 41 : 裏町古蹟 42 : 原東遺跡 43 : 原遺跡 44 : 八幡遺跡 45 : 後田遺跡 46 : 町遺跡 47 : 神籠山遺跡
- 48 : 銅堂平遺跡 49 : 上野山遺跡 50 : 北原遺跡 51 : 佐保山東遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡

Fig.1 Archaeological sites and Tohoku University

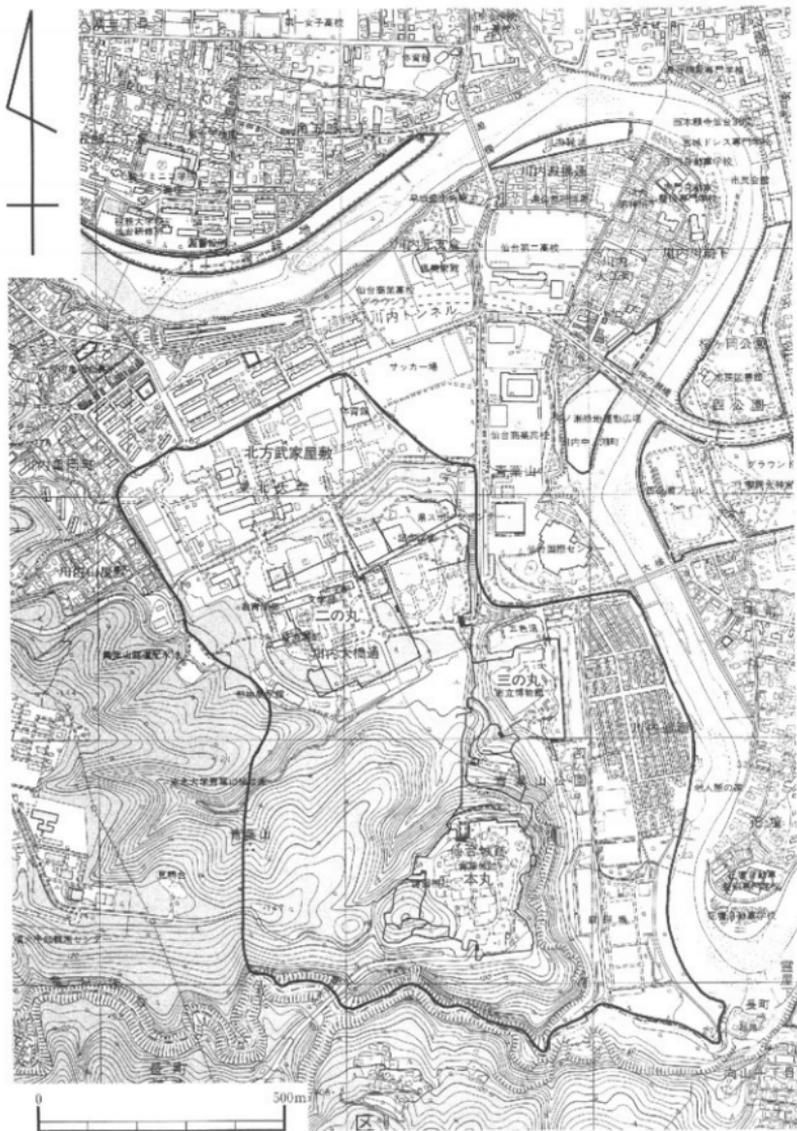


図2 仙台城と二の丸の位置
Fig.2 Distribution of Sendai Castle

大型計算機センターの付帯施設(共同溝)部分の調査の一部が終了していなかったが、これは翌年度に延期し、6月24日に調査を終了した。翌25日からは、青葉山基幹整備に伴う調査に移行し、それと並行して、28日からは保健管理センター新営に伴う調査のグリッド設定・重機による掘削を開始した。当初、試掘調査として実施した青葉山基幹整備に伴う調査では、調査開始後すぐに弥生土器の出土を見、当初計画の倍近い面積の本調査へ移行せざるを得なくなった。そのため、現場での図面作成作業は可能な限り後回しにして、少数の人員を残して実測作業を行うこととし、掘り上げることを最優先した。その結果、作業員のほとんどは7月21日に保健管理センターの調査へ投入した。

7月上旬まで比較的安定していた天候は、この頃より雨の降らない日が無いような状況となった。保健管理センター新営に伴う調査では、仙台城二の丸北側の堀を調査することとなった。未曾有の大凶害の年であり、ただでさえ湧水の多い調査地点の上、連日の雨に悩まされ、調査は難渋を極めることとなった。さらに、予想をはるかに越える遺物量に手間取った上、蛇籠で護岸し上面に石を敷き詰めた塚状遺構の発見によって、実測作業に多大の時間をとられることとなってしまった。当初の調査期間を2週間延長したが、調査によって建物基礎の深さより深く掘った部分に、学内の他の工事現場で発生した土砂を入れて埋め戻す関係上、その工事の進行状況に制約され、さらなる延長は不可能になってしまった。そのため、土日も作業を行い、さらに実測作業はサーチライトの下、連日夜間まで行うという状況であった。どうにか10月28日に調査を終了したが、最後の作業が終わったのは、深夜1時であった。

調査が終了した11月以降、施設部をはじめとする関係部局と、改組に向けた作業を続け、12月13日開催の埋蔵文化財調査委員会において、「(仮称)東北大学埋蔵文化財調査研究センター設置要求書」が審議・承認された。これをもとに、3月に開催された流用査定委員会で、調査員(助手)3名の流用が承認され、翌5月17日開催の評議会において、埋蔵文化財調査研究センターの設置が正式に認められる運びとなった。

3. 埋蔵文化財調査の概要

1993年度に調査を実施したのは、本調査3件、試掘調査2件、立会調査2件の、合計7件である(表1)。

(1) 川内地区の調査

川内地区では、本調査2件を実施した(図3)。

1件は、保健管理センター新営に伴う、仙台城二の丸跡第12地点の調査である。昨年度の試掘調査に引き続き、今年度に本調査を行った。これについては、本年報の第II章において報告する。

もう一件は、川内地区の屋外環境整備などの一連の営繕工事に伴う仙台城二の丸跡第14地点の調査である。これについては、本年報の第III章において報告する。

(2) 青葉山地区の調査

青葉山地区では、本調査1件、試掘調査1件、立会調査2件を実施した(図4)。

本調査を実施したのは、青葉山地区基幹整備のための共同溝建設に伴う、青葉山遺跡E地点の第2次調査である。当初試掘調査として着手したが、縄文土器・弥生土器などの出土を見たことから、直ちに本調査へ移行した。これについては、本年報のIV章において報告する。

試掘調査を実施したのは、大型計算機センター新営に伴う調査である(図5)。調査地点は、工学部応用物理学科と津波防災研究施設にはさまれた、雑木林・荒地となっていた部分で、全体に北西方向に傾斜したところである。建物建設範囲と、建設に伴って削平を受ける区域に、調査区を配置することとした。新設建物の方向に台合わせて、4mのグリッドを任意に組んで調査を行った。調査区の東側を中心に、盛土が大規模になされており、深くまで調査することが限られた調査区では危険なため、愛島軽石層まで調査することを基本とした。I・J-7

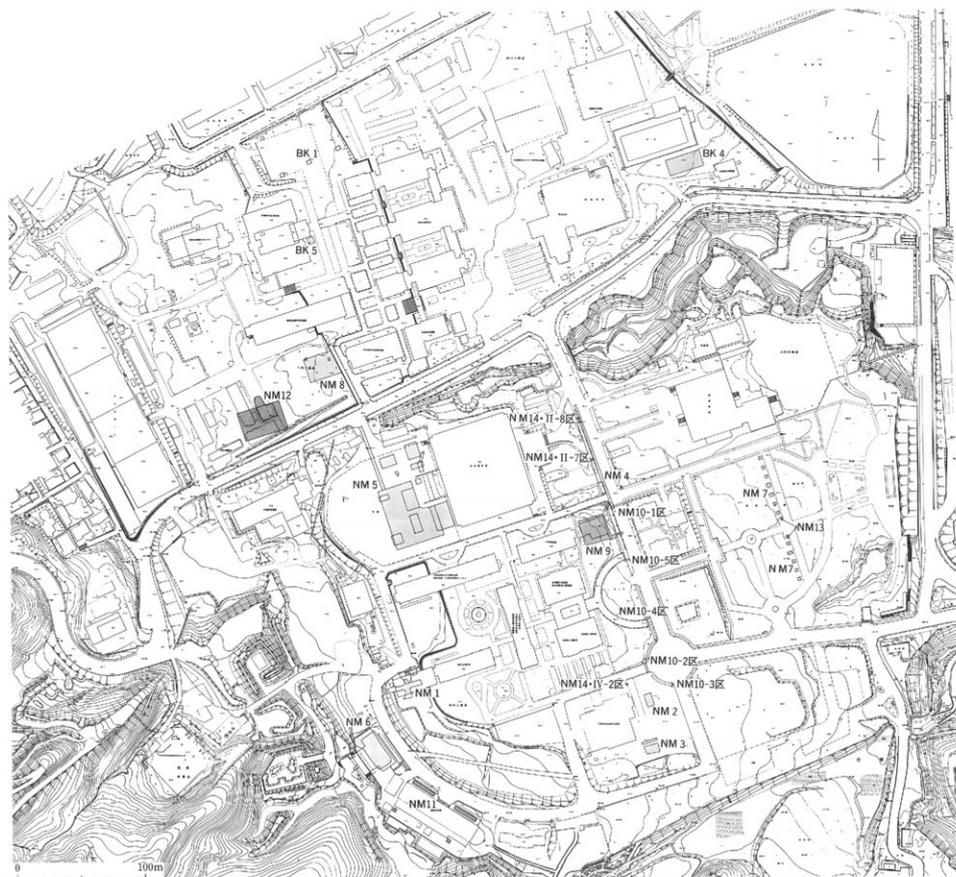


図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点

Fig.3 Location of excavations until 1993 at Ninamaru (NM i.e. Secondary Citadel) and samurai residence(BK)

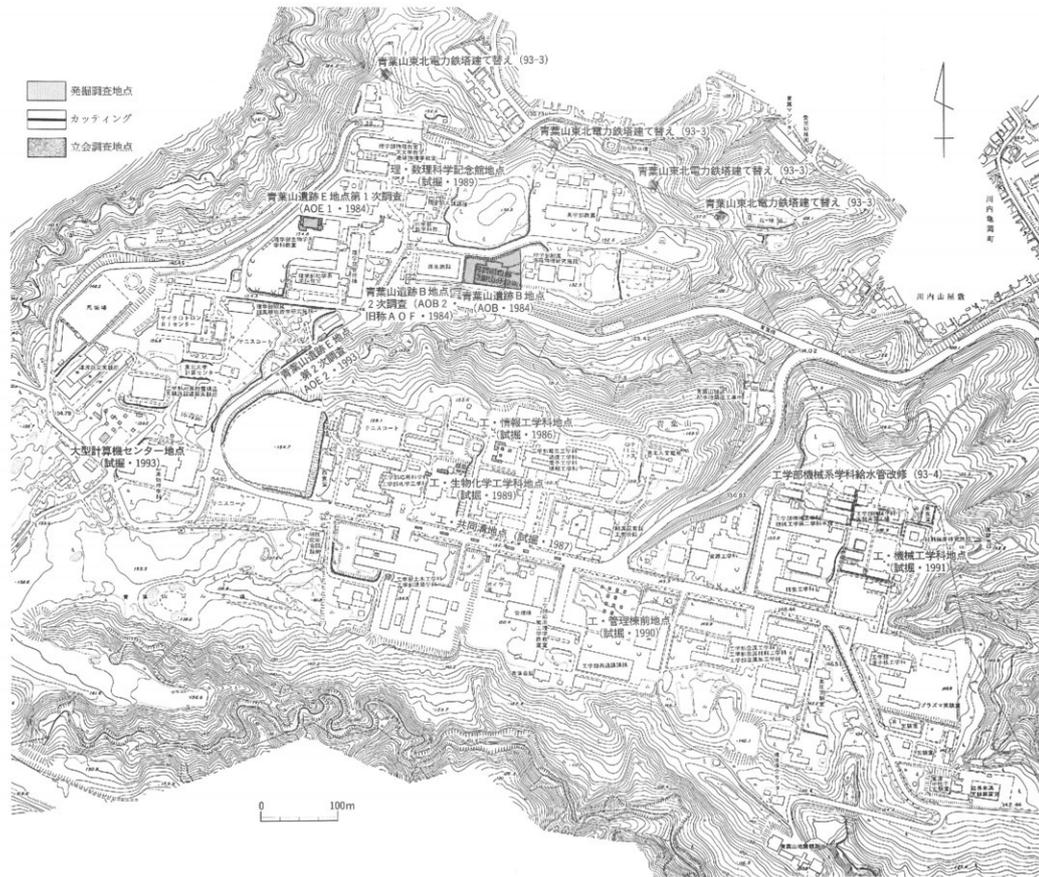


図4 青葉山地区調査地点
Fig.4 Location of excavations at Aobayama campus

～9区では調査区を広く設定し、ここで深掘り調査を行って、愛鳥軽石層の下層の状況を確認した。

また、共同溝が工学部応用物理学棟から新設建物まで造られるため、共同溝のルートにあわせて、共同溝東区・西区の2ヶ所の調査区を設定した。既設埋設管などがあり、調査を実施できる範囲が限られていたので、調査が行いやすい場所を選んで調査区を設けた。

各調査区とも層の堆積状況は似通っており、これまでの青葉山地区での調査結果と大きく変わるところはない。各層は、ほぼ水平に近い。但し、O列より西側では、再堆積層と思われる層が堆積し、愛鳥軽石層より上層は安定していない。川崎スコリアは、4層上面にブロック状に確認されている。7層は愛鳥軽石層の風化部分、あるいは風化部分が混じっている層である。愛鳥軽石層の上面には、場所によっていわゆる青砂層が認められる。愛鳥軽石層の下面には、褐鉄鉱と思われる沈着層が認められ、その下層にはグライ化した粘土層が続いている。

出土遺物は、1層の盛土層から、近世および近代の陶磁器が出土しているだけである。川内地区で出土する遺物と基本的に同じであり、大学造成時に川内地区から土砂を搬入した結果、このような遺物が含まれたものと思われる。これ以外の遺物は発見されず、遺構も確認できなかったため、試掘段階で調査を終了することとした。

なお、共同溝東区については、他の調査を優先して実施する必要が出てきたため、1993年度に実施することが困難となった。そのため、この部分については翌年度に延期し、1994年の4月18日から27日の期間で調査を行った。火山灰層の上部は、削平を受けていた部分もあるが、全体に保存は良好であった。層序は建物本体部分と同様である。遺構・遺物は発見されなかった。

立会調査を実施した2件の内の1件は、東北電力の鉄塔建て替えに伴う調査である。青葉山地区には、東北電力の高圧送電線が通っており、一部は工学部の特高変電所に引き込まれている。送電線を支える鉄塔は、東北電力が東北大学の土地を借りる形で建てている。この鉄塔の老朽化による建て替えに伴い調査を実施した。昨年度に3基の建て替えが済んでおり、今年度は残る4基の建て替え部分の調査である。いずれも平坦面から斜面に移行する部分で、火山灰の堆積状況が良くないと予想されたため、立会調査とした。なお、この立会調査は、工事主体者が民間企業であるという性格上、仙台市教育委員会と合同で実施した。

もう一件は工学部機械工学系給水管改修に伴うものである。工事の場所が、周知の遺跡からは離れた場所でも、また既存の給水管の改修ということもあり、立会調査としたものである。

2件とも遺構・遺物は発見されなかった。

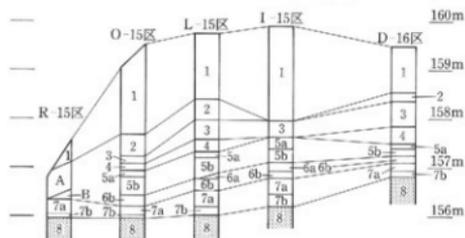
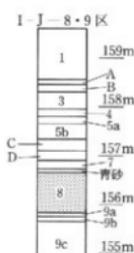
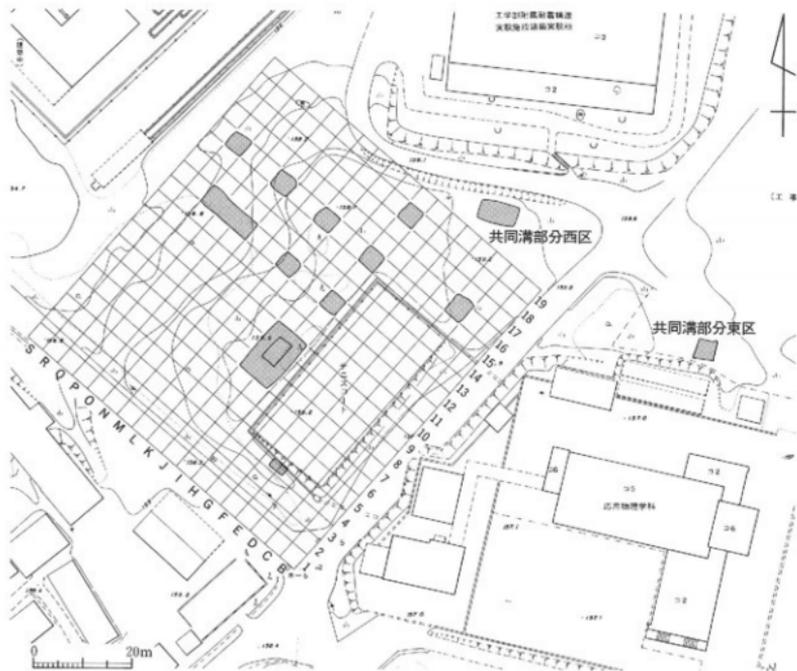
(3) 川渡地区の調査

川渡地区では、試掘調査1件を実施した。

宮城県北西部に所在する玉造町鳴子町の川渡地区一帯には、農学部の附属農場がある。戦前の陸軍軍馬育成地であった場所を利用しており、農場の実習施設にはその時代からの建物も多い。この老朽化した実習施設を、全面的に建て替える計画に伴う試掘調査である。

宮城県教育委員会発行の遺跡地図では、現在農場管理棟や作物生産管理実習施設のある地区のほぼ全体が、上川原遺跡(旧称上原遺跡)とされている。しかし、遺跡登録のもととなった、県教育委員会保管の調査カードの記載と現地状況に多くの相違点が見られたため、調査担当者の遠藤智一氏(鳴子町文化財保護委員)に照会したところ、遺跡の位置は、管理棟などから北西約1km、家畜生産管理実習施設のおかれている地区の誤りで、かつて縄文時代晩期の土器が採集されていることが判明した。この地区は既存施設の建設の際に、削平を受けている可能性があったため、遺跡の残存状況などを確認する目的で試掘調査を行った。管理棟などの地区については、上川原遺跡の範囲からは外れるが、念のため遺跡の有無を確認する目的で試掘調査を行った(図6)。

建物の建設計画位置、現状の地形などを考慮し、合計6ヶ所に調査区を設定した。農場所有の重機によって表土を除去し、地層の状況、遺構・遺物の有無を確認した。この地域一帯には、いわゆる黒ボク土が広く分布して



- 1層 盛土層
- A層 7.5YR5/6 明褐色シルト・しまり目 非編スコリアがランダムに散入 } O層以西にのみ分布
 B層 10YR5/8 黄褐色 粘土質シルト・しまり目 } 河原砂層
 2層 10YR4/6 褐色 シルト 粘り中・しまり目
 3層 7.5YR5/6 明褐色 シルト 粘り中・しまり目
 4層 10YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘り中・しまり目 上面に非編スコリアがブロック状に入る
 5a層 10YR5/6 明褐色 シルト 粘り中・しまり目 黄緑色の粘土質砂を含む
 5a層 10YR5/6 明褐色 シルト 粘り中・しまり目 黄緑色の粘土質砂を含む
 5a層 10YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘り中・しまり目
 6層 7.5YR5/6 明褐色 粘り強シルト 粘り強・しまり目
 C層 10YR5/8 黄褐色 シルト質粘土 粘り強・しまり目 } 1・J-7-9区と同層
 D層 10YR5/8 黄褐色 粘り強シルト 粘り強・しまり目 } 5a・6a層に砂が混入
 7a層 10YR7/7 黄褐色 粘り強シルトがブロック状の7.5YR5/3がリング状の砂質シルトに包まれる
 7a層 7.5YR/3 オープン砂 粘り強シルト 粘り強・しまり目 砂が混入 下部には粘り強砂質シルト
 8層 7.5YR6/8 褐色 粘り強砂質シルト
 9a層 5YR4/8 赤褐色 粘り強砂質シルト
 9a層 10YR5/6 明褐色 粘り強シルト 粘り強・しまり目
 9a層 5Y7/1 灰褐色 粘り強シルト 粘り強・しまり目

図5 大型計算機センター地点試験調査区と断面図

Fig.5 Plan and cross sections of test trenches at the campus of Faculty of Engineering



図6 上川原遺跡の位置と試掘調査地点
 Fig.6 Archaeological sites and University Farm

いる。調査の結果、多くの部分で削平を受けており、黒ボク土自体の残存状況がおしなべて悪く、遺構・遺物は確認されなかった。また、下層のローム層も安定して堆積している部分はほとんど認められなかった。このため、遺跡はほとんど破壊されている可能性が高いものと判断し、将来の建物工事の際には、立会調査で対処することとした。なお、遺跡の位置については、宮城県教育委員会によって、訂正の措置が取られている。

4. その他の調査室の活動

その他の活動としては、12月18日に仙台市博物館講堂で開催された宮城県遺跡調査成果発表会において、仙台城二の丸跡第12地点の調査成果について報告した。

第II章 仙台城二の丸跡第12地点(N M12)の調査

1. 調査経緯

(1) 川内地区の立地と歴史および1992年度までの調査

東北大学の川内地区は、沢とその脇を東西に走る道路によって、川内南地区と北地区に分かれている。この川内南地区は、仙台城二の丸が置かれた場所であり、川内北地区は、二の丸の北方に広がっていた武家屋敷地区に相当する。

仙台城は、仙台市街地の西方、広瀬川を渡った、通称青葉山の東端に位置している(図1)。北と東を広瀬川に、南を竜の口溪谷によって囲まれている。本丸は標高115~140mの急崖上に立地しており、また北側の二の丸、北東の三の丸も、それぞれ標高61~78m、40mの河岸段丘面上にある。この中で二の丸跡は、東方を蛇行して流れる広瀬川に向かって、緩やかに傾斜する上町段丘上(武蔵野面相当)に位置する。

仙台城は、慶長5年(1600年)、仙台藩初代藩主の伊達政宗によって、本丸の造営が開始される。川内地区の後に二の丸が造営される区域には、伊達政宗の四男である伊達宗泰の屋敷が置かれたと伝えられる。元和6年(1620年)には、この伊達宗泰の屋敷の北側に、政宗の長女五郎八姫の居館「西屋敷」が造られる。

一方、二の丸北方の武家屋敷地については、それが整備されていく状況を具体的に知ることができる絵図などは知られていない。しかし、正保2・3年(1645・46年)の「奥州仙台城絵図」では、二の丸の北方一帯に屋敷が広がっていることが知られ、おそらく本丸の造営が開始された頃から、屋敷が造られていったものと思われる。二の丸北方の武家屋敷は、その後細かな変化は見せるものの、一貫して比較的上級の家臣の屋敷地として幕末まで利用されていく。

寛永15年(1638年)、二代藩主伊達忠宗は、もとの伊達宗泰の屋敷地において、二の丸の造営を始める。二の丸完成後、仙台藩の政治・諸儀式のほとんどはここに移され、二代藩主以降はその居館ともなる。二の丸の北隣には、五郎八姫の「西屋敷」が存続する。寛文元年(1661年)には五郎八姫が死去し、「西屋敷」のあった場所は「天鶴院様元御屋敷」と呼ばれ、蔵や作業場などの実務的な空間となる。さらに17世紀末から18世紀初頭の元禄年間には、四代藩主伊達綱村によって二の丸は大改造され、もとの「西屋敷」の敷地を取り込んで、拡大される。その後いく度かの災害や火災を被るが、その度に再建され、二の丸は幕末まで、事実上仙台城の中核として機能していく。

版籍奉還の明治2年(1869年)には、二の丸に勤政庁が置かれ、明治4年(1871年)の廃藩置県後は、仙台城が明治政府・兵部省の管轄下に移り、東北鎮台(後に仙台鎮台)が置かれる。この頃に本丸の建物群は取り壊されるが、二の丸建物群は依然として残っている。しかし、明治15年(1882年)の火災によって、二の丸建物群のほとんどが焼失する。明治21年(1888年)には、仙台鎮台が廃止され、仙台第二師団が設置され、敗戦まで続くこととなる。もとの二の丸にあたる区域には、第二師団司令部が、北側の武家屋敷にあたる区域には、歩兵隊や輜重隊などが置かれていた。

敗戦間際の昭和20年(1945年)7月10日、午前零時ごろからおよそ2時間にわたる仙台空襲は、市街地全域に甚大な被害をもたらした。この仙台空襲によって、大手門などわずかに残っていた建物も焼失し、仙台城の建物は全てが失われることとなった。そして戦後は米軍の駐留地となり、昭和32年(1957年)、米軍より返還されてのち、東北大学がこの川内地区に移転し、現在に至るのである。

東北大学が川内地区に移転してからしばらくの間は、米軍の建物が使われていたが、昭和35年(1960年)の記念講堂建設以降、随時施設整備が進行することとなる。特に、昭和40年代後半に、多くの施設が建設された。この移転に伴う一連の施設整備に伴っては、埋蔵文化財の調査はほとんど行われず、1974年の文系4学部厚生会館建築に伴って、仙台市教育委員会によって一部が調査されただけであった。また、1978年には、川内北地区のブ

一ル脇の排水管理設の際に、石組の井戸が発見され、東北大学文学部考古学研究室によって臨時的調査がなされたが、その経過上、小規模な調査に留まらざるを得なかった。

1983年に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置され、学内の埋蔵文化財調査に組織的・継続的に対応する体制が整って以降は、委員会と、その下に実務機関として設置された埋蔵文化財調査室が調査にあたることとなった。埋蔵文化財調査委員会による仙台城二の丸跡の調査は、1992年度までに13地点を数えるに至っている。これらの調査成果については、『東北大学埋蔵文化財調査年報』1～10において報告してきたところである。

この10年間の調査によって、検出遺構と絵図との対比が、かなり高い確度で行えるようになってきている。また、膨大な各種の遺物が出土しており、陶磁器類などについては、その変遷の大要が明らかとなっている。これらについては、年報9においてまとめて検討されているので、参照されたい。

(2) 調査地点の位置

現在の川内地区は、道路をはさんで北地区と南地区に分かれている。今回の調査地点は、川内北地区の中でも最も南よりの、道路のすぐ北側の場所である(図7)。西側の丘陵にも近い所で、これまでの二の丸跡の調査では、最も西よりの場所である。

川内地区を南北に分ける道路の南側には、平行して沢が流れている。この沢の東半部は、江戸時代の絵図にも見られ、もともと存在した自然の沢と考えられる。西半部は、江戸時代の絵図では、広い堀となっている。本来は、西から東へ下る沢が存在していたのが、この沢を広げる形で、江戸時代初頭に堀が造られたものと考えられる。この堀は、二の丸と北側の武家屋敷地とを分けるもので、幕末まで存在し、さらに明治以降も残り、大正時代以降に埋められたものと考えられる。現在の道路は、この堀を埋めた上に造られている。今回の調査地点は、この二の丸北側の堀の北岸付近にあたる場所である。前述のように、堀より北側には、江戸時代には比較的上級の藩士の屋敷地が広がっていた。明治以降は、第二師団の輜重隊がこの場所に置かれていた。

(3) 調査の方法と経過

今回の調査地点の北東側には、1986年度に調査を実施した二の丸跡第8地点の調査区が存在し、この調査においても、二の丸北側の堀の北岸が検出されている(年報4)。この第8地点の調査結果から、今回の調査地点は二の丸北側の堀の、北岸から堀底にかけての部分に相当することが予想された。第8地点の調査においては、調査途中で集中豪雨に見舞われ、調査区の壁が大規模に崩壊し危険なため、堀の底まで調査できずに終わっている。そのため、江戸時代の堀については、岸の一部の状況を把握しただけで、堀の内部については、ほとんど判明していない。今回の調査では、第8地点での調査を踏まえ、江戸時代の堀を底まで調査することを目標としたが、そのためには試掘調査を行い、調査地点の概要を把握し、安全対策を講じる必要があった。

試掘調査は、堀の底の深さ、堆積土の状況を確認する目的で、1992年11月18日から12月18日までの1ヶ月間の期間で実施したが、現有建物や使用中の排水管などで、調査を行える範囲は限られていた(年報10)。第8地点と同様に、二の丸北側の堀の北岸が検出され、基本的な層序関係も、第8地点とほぼ同じであった。調査区をあまり大きくできなかったため、現地表面から6mの深さまで調査を行った時点で、それ以上深く調査する事は危険と判断し、調査を打ち切らざるを得なくなった。結局、堀の底の深さは確認できないまま調査を終える結果となった。

本調査は、翌1993年6月30日から10月28日までの期間で行った。本調査にあたっては、建物予定位置に合わせ、3mのグリッドを組んだ。グリッド設定の際の基準点の国土座標値は下記のとおりで、基準線は北から17°38'00"西偏している。

原点NM12E X=-193 604.069 原点NM12W X=-193 614.833

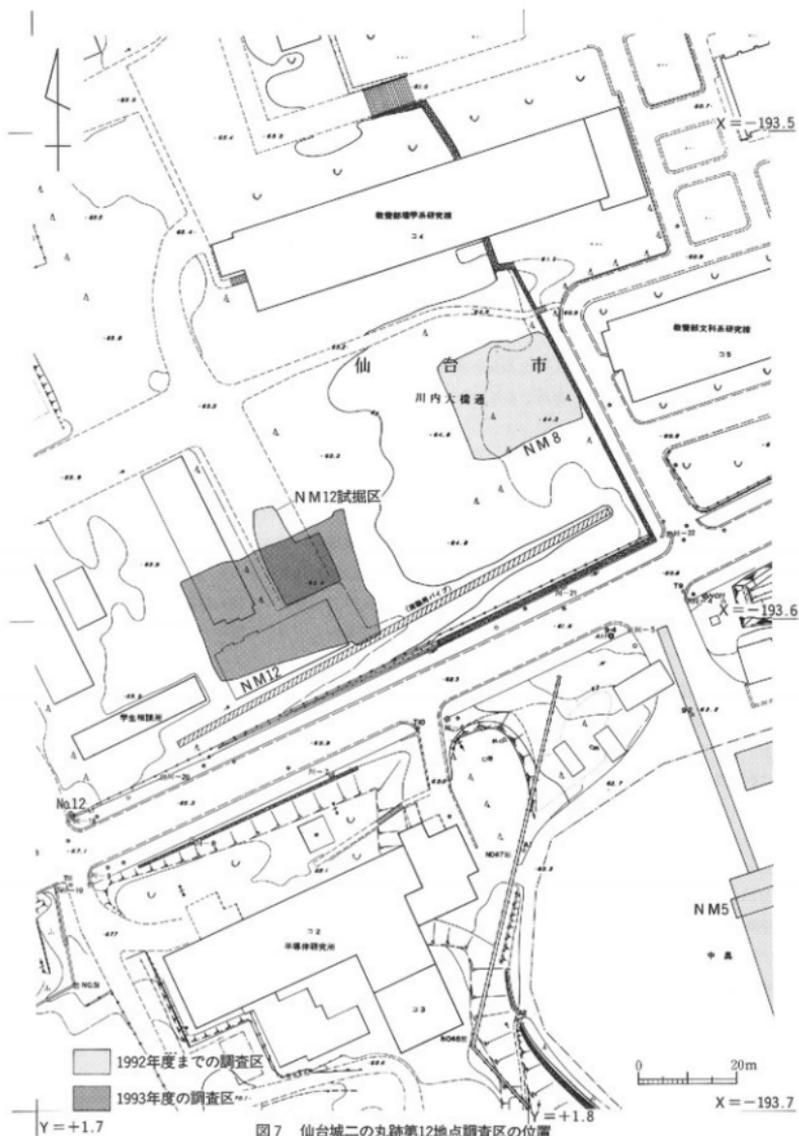


図7 仙台城二の丸跡第12地点調査区の位置

Fig.7 Location of NM12

NM12 i.e. Location 12 of *Ninomaru* (the secondary citadel of Sendai Castle)

NM8 i.e. Location 8 of *Ninomaru*

$$Y = 1\ 771.018$$

$$Y = 1\ 737.153$$

記録にあたっては、全体の平面図は縮尺100分の1で平板実測を行い、細かな遺構図については適宜縮尺20分の1、あるいは10分の1で実測した。

試掘調査結果より、現地表面から6 m以上深くなることは確実であるため、調査区の壁は60°の傾斜で掘削し、さらに現地表面より5 mの深さで幅2 mの段を付けることとした。段より上ののり面には、全面にシートを張ったが、これは、のり面の保護と落石の防止のためには極めて効果があった。

試掘調査の結果、明治以降の遺物が大量に含まれる3層から、手掘りによる精査を行うこととし、3層上面まで重機によって掘削した。重機による掘削がほぼ終了した時点から、3層上面の清掃に入ったが、連日の雨と湧水で、作業は遅々として進まなかった。また、重機では掘れなかった窪みの中の2層の除去にも手間取り、3層上面の清掃にほぼ1ヶ月を要することとなった。

3層とした遺物包含層は、対応する層が隣接する第8地点の調査の際にも確認されており、明治後半以降の軍隊の廃棄物層であることが判明していた。近代の包含層ではあるが、遺物密度が高いため、重機で掘削するわけにもいかず、大まかに分層して、遺物を回収する方針で臨んだ。試掘調査の結果では、この3層の厚さは30cm弱で、掘り上げるのにさほど長期間を要しないという見込みであったことも、このような判断の理由の一つであった。3層を掘り始めると、西側では当初の想定を大きく超え、厚いところでは1.5mにも及ぶ厚さで、その掘り上げに予想外の時間をとられることとなった。3層が堆積する以前の堀の傾斜が、調査区の外で大きく異なり、試掘調査を実施した場所が、堀の斜面の傾斜が最も強い部分で、廃棄物層もごく薄くしか堆積していなかったことが、見込み違いの原因であった。小規模な試掘調査結果で、全体を類推することの危険性を、改めて噛み締めることとなった。

この3層の掘り上げが終わっていなかった9月10日、夕刻の激しい雨で、それまでの長雨にも持ちこたえてきた調査区南壁が、ついに大規模に崩壊した。シート貼りのおかげで、遺構面への土砂の流入は最小限で抑えられたが、崩壊部の外側に亀裂が確認された。この崩壊部と崩壊の危険の有る部分の土砂の撤去のためには、重機を調査区内へ降ろさなければならなくなった。また現地表面より6 m以上の深さに重機を降ろす関係上、排土を調査区外に排出する事も困難になってしまった。

そのため、重機導入に先行して、調査区の西壁沿い・南壁沿いなど各所に先行トレンチを入れ、下層の状態を検討した。その結果、8列以東の1号堀とした、明治以降に堀の底を掘り直した部分では、それ以前の遺構は完全に削平されていることが判明した。また1号堀の埋土は、西端を除くと、シルトと砂がラミナ状に堆積する水成堆積層で、遺物も認められなかった。そのため、1号堀については、トレンチ調査のみで、全体を掘り上げることは断念し、調査区東南部のポンプ用の釜場としていた所を排土置き場とすることにし、9月20日に重機で崩壊土を除去した。

このような対応策をとらざるを得なくなったため、II a期・II b期・II c期の遺構については、各部分で調査の進行状態に前後が生じており、調査状況の写真が、部分ごとでしか残っていない場所がある。また先行トレンチを入れた部分については、遺構面を平面的に検討できていない部分もあり、それらの平面図(図15~17)については、セクションから復元して作成している部分がある。

基本層の6層・7層については、先行した断ち割り調査によって、ほとんど遺物を含まないことが判明したため、この6・7層については10月7日に重機によって排除した。また、8列より東側は、岸の斜面が急で危険なため、この部分については7層上面で調査を終えている。

6・7層を除去し、江戸時代の遺構面まで調査が進むと、堀に直交する堰状の遺構が検出された。この堰状遺構は上面は石敷、両側の斜面には石を詰めた竹製の蛇籠で護岸を施すという、江戸時代の土木工事の実態を如実に示すものであった。この堰状遺構の上面で、すでに現地表面より6 m下であり、基礎杭以外の建物基礎の深さよ

りはるかに深くなっており、直接破壊されるのは基礎杭の部分だけであった。そのため、基礎杭によって破壊される部分のみ、石を撤去して調査を行い、それ以外の部分はそのまま建物の下で残すこととし、最後に山砂を全体に入れて埋め戻した。

2. 基本層序と時期区分

基本層序は、1層から13層までを確認した(図8・9)。

1層および2層は、大正時代以降から現代の間に施された大規模な盛土層である。試掘調査の際に大きく区分したが、本調査の段階では、調査区の壁面に安全確保のためシート貼りをしていたこともあり、1層と2層については、詳細な検討は行っていない。したがって、1層および2層のそれぞれの、細かな形成年代等は検討できていない。

3層は、遺物を大量に含む廃棄物層である。堀の斜面を中心に堆積しており、岸の上面ではごく薄い。また、調査区南側の堀の中心部に近い方には堆積していないか、薄くなっている。したがって、北岸から堀の斜面に捨てられたものであると考えられる。この3層は、傾斜が5列以西(西区)と6列以东(東区)で大きく異なり、様相も若干異なっている。調査時には、東西でそれぞれ別々に掘り下げを進めた。当初は対応するものとして、東西それぞれで3a層・3b層として調査を進めたが、調査の進行に伴って、再度検討したところ、東区の3a層が西区の3a層から3c層に、東区の3b層が西区の3d層に対応するものと現地で判断した。本報告のなかでは、この認識にしたがって、層名を変更して記載した。したがって西区では3a層・3b層・3c層・3d層に4細分されているのに対して、東区では3a～3c層・3d層の2つの層に細分したことになる。しかし、整理作業を進め出土遺物の様相を検討すると、東区の3d層は、西区の3d層とは異なり、全体に新しい遺物が含まれている。東西での細分層の対応関係の認識が、正確でなかった可能性が残っている。

4層は調査区南西隅の、堀の底の部分だけに見られるもので、自然堆積層と思われる。5層は岸の上面から斜面全体に分布し、一部堀の底にも分布する。各部分によって層相は異なるが、同じ段階と考えられるため、5層としてまとめた。岸の上面や斜面の部分は整地層と考えられるが、堀底の部分は確実ではない。6層は堀の底の部分にのみ分布する、水成堆積層である。7層は岸の斜面から上面に分布する大規模な盛土層で、場所によっては1.5mを越える厚さがある。

8層は堀の底に分布する水成堆積層。9層は堀底の岸の斜面の近くにのみ分布する。自然堆積と思われる。

10層・11層・12層は、岸の部分に分布する層である。層相から3つに大別したが、調査できた範囲が狭く、充分な検討が行えなかった部分も残っている。それぞれ細分したが、遺構の埋土や整地層を含んでいる。13層は地山の無遺物層である。

時期区分にあたっては、7層の大規模な整地層をはきんで、調査区の様相が大きく変わることから、7層より下層をI期、それより上層をII期と大別した。

I期の遺構は、Ia期とIb期に細分した。Ia期は、10層より下層のものを一括した。遺構が検出されているのは、13層上面と11層上面である。調査時には、層位的関係を十分検討できず、一括して調査を進めたため、便宜的にまとめたものである。Ib期は、10層上面の遺構である。

II期は、さらに4期に細分することができた。すなわち、6・7層上面の遺構をIIa期、5層上面の遺構をIIb期、4層上面の遺構をIIc期、3層上面の遺構をIId期とした。

個々の遺構の詳細については、後に述べるが、各期の推定される年代について、ここにまとめておく。

Ia期については、遺構から絵図との対比などは行えないが、10層～12層で出土した遺物は、17世紀のもので占められており、18世紀代の遺物を含んでいない。したがってIa期は17世紀代と考えられる。

Ib期では、堀の底で、堀に直交する環状の遺構が検出されている。後に詳述するが、この環状の施設は、18

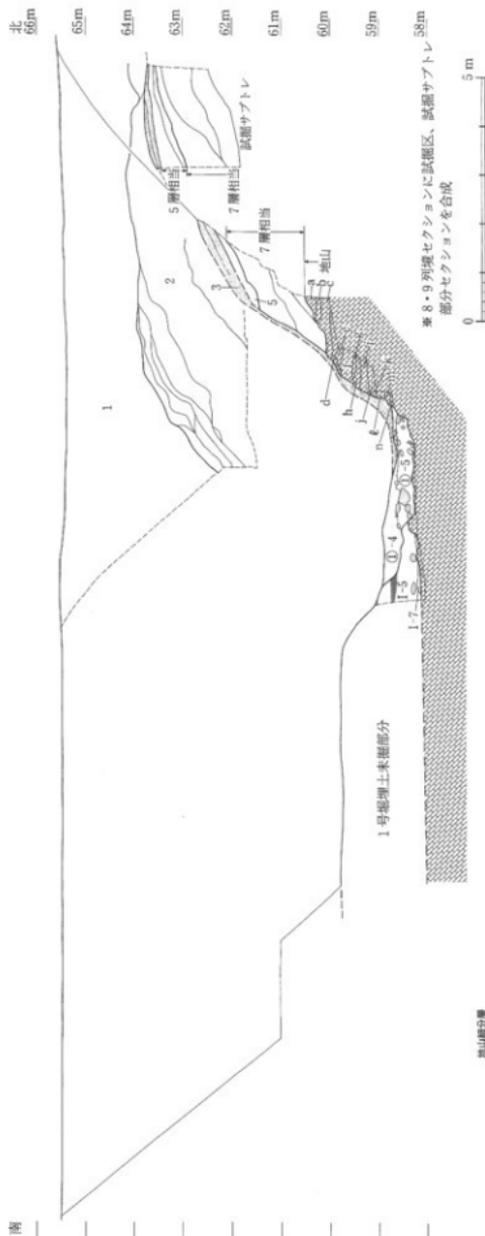


図9 仙台城二の丸跡第12地点断面図(2)

Fig.9 Cross section of excavation at NMI22

西暦	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
東洋圏連主要年表	<ul style="list-style-type: none"> 東北鎮台設置 仙台鎮台へ改称 仙台藩 二小隊設置 仙台藩 大隊設置 仙台藩 藩政改革 歩兵第十七連隊 日清戦争 秋田へ転出 日露戦争 第二次世界大戦 																																																										
3a層	<ul style="list-style-type: none"> 磁器 燧德利D1類(日本酒 商標「鳳山」) 4点 磁器 燧德利D1類(日本酒 商標「鳳山」) 1点 磁器 燧德利D1類(日本酒 商標「鳳山」) 1点 磁器 燧德利D1類(日本酒 商標「鳳山」) 14点 磁器 燧德利D1類(日本酒 商標「鳳山」) 1点 有溝式蹄鉄 4点 有溝式蹄鉄 2点 有溝式蹄鉄 5点 明治10年半銭銅貨 1点 明治20年半銭銅貨 1点 明治14年二銭銅貨 1点 明治13年半銭銅貨 1点 																																																										
3b層	<ul style="list-style-type: none"> 無色ガラス瓶(脳神経薬 商標「健脳丸」) 1点 有溝式蹄鉄 2点 																																																										
3c層	<ul style="list-style-type: none"> 無色ガラス瓶(胃腸薬 商標「ヘルプ」) 1点 青色ガラス小瓶(化粧水 商標「美顔水」) 1点 有溝式蹄鉄 5点 明治20年半銭銅貨 1点 明治14年二銭銅貨 1点 明治13年半銭銅貨 1点 																																																										
西区	<ul style="list-style-type: none"> 磁器 燧德利C田類(日本酒 商標「電気正宗」) 2点 無色ガラス瓶(商店名・商標「参天堂薬房・大目日業」) 1点 有溝式蹄鉄 1点 磁器 合子蓋CIV類(商標「鹿印権前番」) 3点 青色ガラス角瓶(商標・商店名「ダイヤモンド・高陽堂・平尾製」) 陶器 徳利A類(商店名「浅見酒店」) 1点 磁器 合子蓋B田類(商標「福原衛生南磨石輪」) 4点 																																																										
1号溝1層上段	<ul style="list-style-type: none"> 磁器 燧德利DaV類(日本酒 商標「鳳山」) 1点 有溝式蹄鉄 1点 明治17年一銭銅貨 2点 																																																										
4層	<ul style="list-style-type: none"> 明治10年五銭銀貨 1点 																																																										
1号溝2層中段	<ul style="list-style-type: none"> 磁器 燧德利DaV類(日本酒 商標「鳳山」) 1点 有溝式蹄鉄 1点 																																																										
3号溝1層上段	<ul style="list-style-type: none"> 習書札(墨書書名「東北日報」) 1点 札(墨書年号「廿五年製作中」) 2点 名札(墨書地名「新潟県北蒲原郡紫雲寺村」) 1点 名札(墨書組織名「歩兵十七聯隊」) 2点 																																																										

図10 基本層・遺構の年代を推定できる遺物

・新聞広告で商品の存在を確認

Fig.10 Remains by which we can place the dates of strata and features

世紀末までの絵図には見られず、19世紀中葉の絵図に描かれている。したがって、I b期の遺構は18世紀末以降19世紀前半の間に造られた可能性が強く、幕末を中心とする年代が考えられる。I b期の遺構を覆う8層と9層は、自然堆積層と考えられ、8層はこの現状施設の上面から上流側に堆積した層である。これは、堀の手入れが維持されなくなった段階で堆積した層の可能性が考えられ、明治時代初頭まで下る可能性がある。

7層の大規模な盛土の形成年代を直接検討できるような遺物は出土していないが、次に述べる5層上面の遺構は、日清戦争頃に埋まり出しており、遅くとも明治中頃までには7層盛土がなされていたものと考えられる。

II期の遺構を埋めている層序からは、多数の遺物が出土しており、その中には年代が限定できる遺物も少なくない。そこで遺物に残る文字資料や、特定の種類の製品の出現時期など、年代の限定できる遺物を選んで、一覧表にまとめたものが図10である。3層については、東区の細分が不確かな点を残しているため、西区のみを使用した。おおむね、上層ほど年代が新しくなっていく状況が明らかであろう。これによって、II b期の3号溝の埋土は日清戦争頃、II c期の1号溝の埋土と3 d層は日露戦争頃、3 a・3 b・3 c層は第一次世界大戦頃と考えて大過無い。したがって、II b期の遺構が埋まり出すのが日清戦争頃の1890年代、II c期の遺構が埋まり出すのが日露戦争頃の1900年代で、その後第一次世界大戦頃の1910年代にかけて、廃棄物層が形成されていったものと考えられる。

2層の大規模な盛土が掘が埋められていく時期については、直接明らかにできる資料は無いが、第一次世界大戦以降であることは、3 a層の遺物より確実である。後述する地図の検討からは、少なくとも昭和3年(1928年)までに、2層の盛土がなされていたと考えられる。

3. 検出遺構

(1) I期(近世)の遺構

① I a期(12層上面)の遺構(図11・14、図版2・3)

I a期は、11層~13層上面の遺構を一括したが、調査終盤で、各層の関係を現地では十分に検討する時間的余裕が無く、また12層を完全に掘り上げることができなかった。12層上面では、薄く炭化物層が存在する部分があり、これが一つの明確な遺構面であると考えられたため、全体の平面図は12層上面の段階で作成した。ただし、12層の分布が限られているため、13層上面掘り込みの遺構も含まれている。また、11層上面でピットを1基検出しており、それも含めた。なお、実測の際に、I b期の堀によって削られている範囲を記録しなかったため、低い部分はI b期の図と一緒に表現したが、おおむね標高61mより下は、I b期の堀で削平された部分である。

この段階で検出された遺構としては、東西方向の段差がある。この段差の方向は、次のI b期の堀跡の方向とほぼ一致している。西照セクションからは、溝状の落ち込みなどが確認されるが、平面的に認識することができなかった。段差が、整った形態を示さず、不整形な凹凸が認められるのは、複数の遺構の集積した結果かもしれない。方向がI b期の堀と似ているため、古い段階の堀の可能性も考えられるが、段差の深さは、12層下面の最も深い所でも1m程度であり、この段差を堀と考えて良いかは問題がある。溝状の遺構や、1段低い平坦面である可能性も考慮しておく必要がある。

この段差以外に検出された遺構としては、2号土坑と、ピット7がある。また、調査区北端のH-4・5区で、13層上面に不整形の浅い落ち込みが検出されている。

【2号土坑】

G-5区の13層上面で検出したもので、南側は段差によって切られている。本来の形は不明であるが、東西1.5m、南北0.5mの大きさで、深さは40cm程である。遺物は出土していない。

【ピット7】

G-3区の11層上面で検出したピットである。長軸90cm、短軸60cmの平面楕円形を呈し、深さは30cm程である。

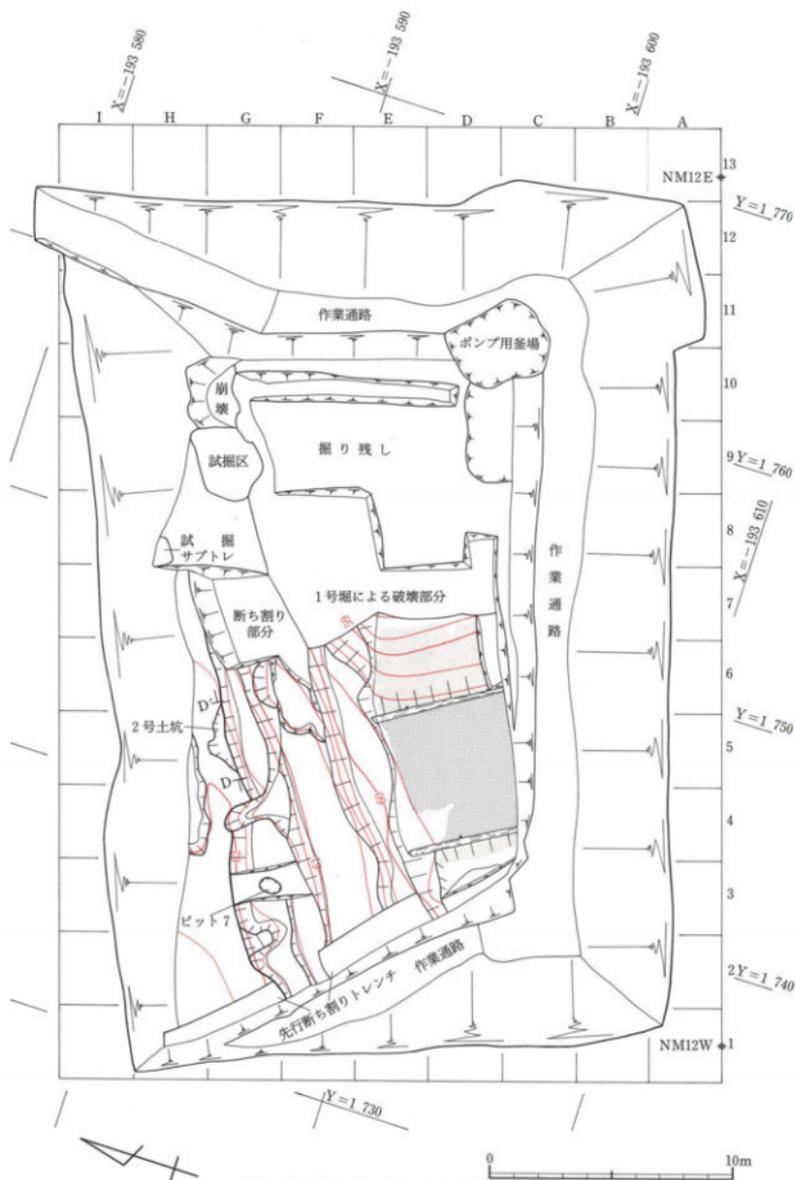


図11 仙台城二の丸跡第12地点 I a 期検出遺構
Fig.11 Features of phase 1 a at NM12

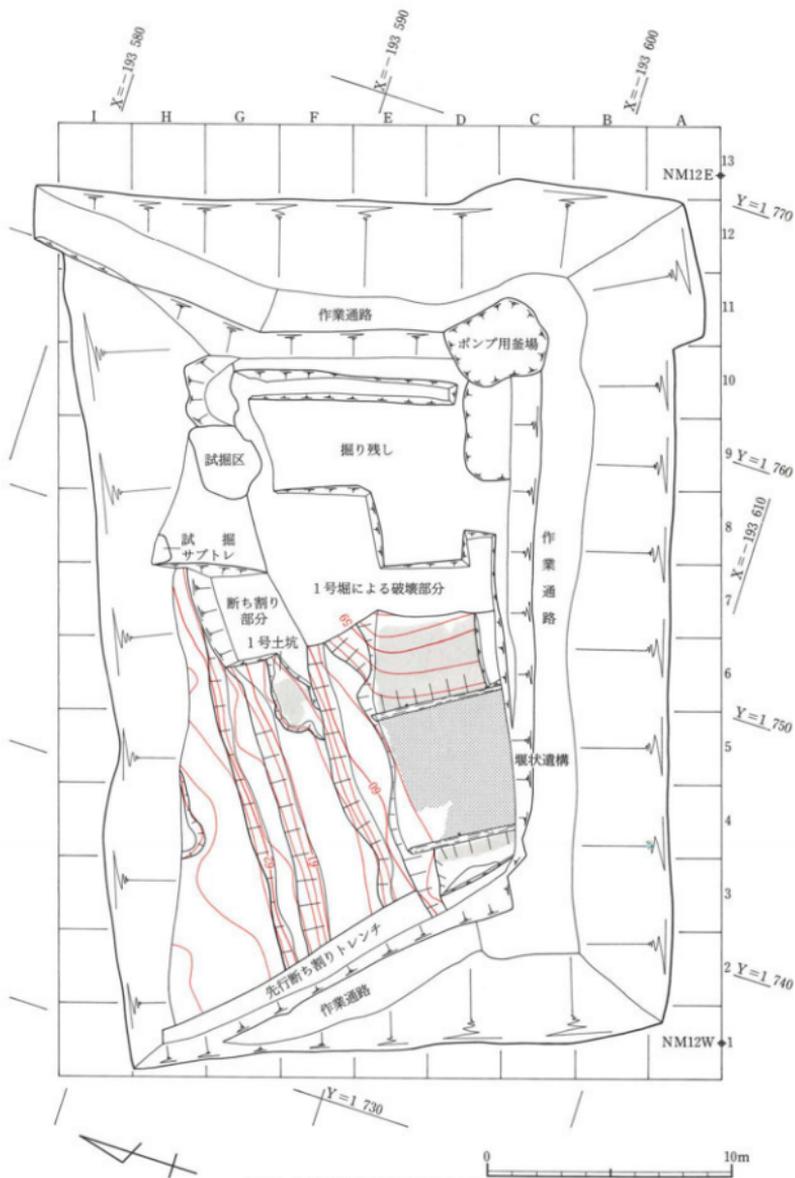


図12 仙台城二の丸跡第12地点I b期検出遺構
Fig.12 Features of phase Ib at NM12



図13 仙台城二の丸跡第12地点部状遺構平面図
Fig.13 Plan of a dam across a moat at NM12

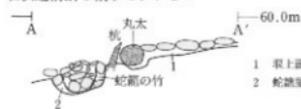
環状遺構構造模式図

■ 蛇籠
● 杭

E

D

環状遺構断ち割りセクション



- 1 最上面敷砂層 10G5/1 緑灰色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱
- 2 蛇籠埋方埋土 5B G5/1 青灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり中

0 5m

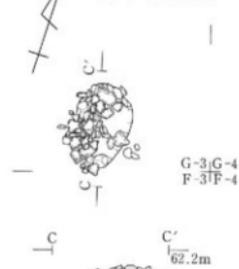
1号土坑 (10・11層上面)



1号土坑埋土 7.5G Y4/1 暗緑灰色 粘土 粘性強・しまり無

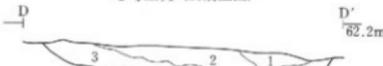
0 2m

ピット7 (11層上面)



ピット7埋土 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂 粘性中・しまり中 7.5Y R5/8 暗褐色砂が混じる

2号土坑 (13層上面)



- 2号土坑埋土
- 1 2.5Y3/2 黒褐色 シルト質粘土 粘性弱・しまり強 5mm未満の小礫含む
 - 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト質粘土 粘性弱・しまり強 2cm未満の小礫含む
 - 3 7.5Y R4/6 褐色 砂 粘性無・しまり中 5mm程度の小礫を少量含む

図14 仙台城二の丸跡第12地点I a・b期検出遺構平面図・断面図
Fig.14 Plans and cross sections of phase I a and I b at NM12

埋土には多量の礫を含み、礎石の根固めの可能性もあるが、確実ではない。遺物は出土していない。

② I b 期 (10層上面) の遺構 (図12~14、図版3~5)

I b 期の遺構は、10層上面で確認されたもので、堀跡と、その底で検出された堰状遺構、岸で検出された1号土坑がある。

【堀跡】

調査区のほぼ全体を占める大規模な堀で、岸の南端で測った方向は、N-58° Eである。7列以東の堀底の部分については、II b 期の1号堀によって破壊されて残っていない。深さは、堰状遺構の上面までで2.4m、堀の西側の底までで2.8m、堀の東側はII b 期の1号堀によって破壊されているため底までの深さは不明であるが、残っている一番深い部分で3.8mを測る。岸の斜面の部分は、4段の階段状に段切りがなされている。岸の上面は、ほぼ平坦で、H-4区に浅い落ち込みがある以外は、特別の施設は検出されていない。

【堰状遺構】

堀の底で、堀に直交する方向に延びており、南側は調査区外へ延びている。方向はN-31° Wである。堰の上面の幅5.8m、西側の斜面の幅約1m、東側は下端が1号堀で破壊されているが、4.1m以上で、堰の下端幅としては10.9m以上となる。上面の最も高い部分から測った深さは、西側で0.4m、東側で1m以上である。検出した長さは、上面に置かれた東側の丸太で5.6m、西側の丸太で4.6mである。堰の上面は、東西両端に丸太を置き、その間に整地した上で、扁平な石を一面に敷き詰めている。上面は、わずかに西側が高く、東側が低く造られている。丸太は、杉と思われ、東西とも根本を北側に向けて据えられている。根本の切断された部分は、楔状になっており、斧で削った痕跡が明瞭に観察された。丸太の傍らには、下流の東側にのみ、杭が打たれている。杭は、東西の丸太で、それぞれ1本づつ、発見された。石敷きの石は、両端では丸太の一部重なるように敷かれている。東西の斜面には、礫を中に詰めた竹製の蛇籠が、溝を掘った中に置かれている。蛇籠は西側で1列、東側で4列確認された。蛇籠の幅は40cm程である。長さについては、検出した長さ全体が一つの蛇籠とは考え難く、いくつかの蛇籠が並べられていたものと推定されるが、個々の蛇籠の境は明確にはできなかった。蛇籠の中に杭が打たれている所もあり、蛇籠を固定するためのものかも知れない。堰状遺構上面からは、木製品などが出土している。蛇籠の内部からは遺物は出土していない。

【1号土坑】

岸の上面から、2段下った所の平坦面で検出された。II層を掘り込んでいるが、この部分には10層が分布せず、10層上面の遺構の可能性もあるため、I b 期に含めた。但し、I b 期の堀に伴うものかどうかは、確証がなく、先行する時期の遺構である可能性も残っている。東西3.9m以上、南北1.6mの不整形を呈し、深さ30cmである。内部には円礫が多量に入っている。遺物は出土していない。

(2) II 期 (近代) の遺構

① II a 期 (6・7層上面) の遺構 (図15、図版5)

【堀跡】

I b 期の堀の、岸の部分を7層でかさ上げして造られた堀跡である。7列以東の堀底は、II b 期の1号溝によって壊されている。方向はI b 期の堀とほぼ同じN-57° Eである。I b 期に堰状遺構があった部分の堀の底は、高まりとなっている。その西側の堀底には、4号溝が掘られている。岸上面からの深さは、堀底の高まりの部分で3.4m、4号溝の底面までで4.4m、高まりの東側は、残存する一番深い所で4.7m程である。岸の上面の縁辺は、下端幅0.8~1.2m、高さ40cm程の土手状の高まりとなっている。この土手状の高まりは、所々で切れており、調査区内では3ヶ所切れている所が検出された。おそらく、岸の上面が道として使われており、その縁辺を画するための施設であろう。

【4号溝】

堀底の高まりの西側で検出されたもので、堀底に堆積した基本層6層と8層を再度掘った形となっている。西側と南側は調査区外へ延びていくため、全体の形状は不明で、溝跡としたが、溝状に延びるのか、幅広い堀状になるのかは判らない。堀底の高まりに接する東側の外縁は、ほぼ真南北方向に延びている。埋土は4層に分けられ、埋土1層は炭化物を多量に含み、人為的に埋められた可能性があるが、埋土2層以下は、水成堆積層である。埋土1層を中心に、近代の遺物が出土している。また、堀に直交する方向で、堀跡の岸斜面から4号溝底面に向けて、13本の杭が列状に並んで検出されている。

【ピット4】

H-2区の岸上面で検出された、浅い不整形な落ち込みである。北側は調査区外へ続く。埋土から磁器・ガラス製品などの遺物が、少量出土している。

【ピット5】

G-1区の、岸上面の土手状の高まりの北側で検出された。一辺0.5m程の隅丸方形を呈し、深さは50cm程である。遺物は出土していない。ピット6とともに、土手状の高まりに沿って造られているため、この高まりに伴う施設の可能性が考えられる。

【ピット6】

H-4区の、岸上面の土手状の高まりの北側で検出された。南北1m、東西0.8mの隅丸方形を呈し、深さは60cmである。遺物は出土していない。

② II b期（5層上面）の遺構（図16、図版5・6）

【堀跡】

II a期の堀のほぼ全体に、5層が盛土された段階の堀跡である。岸上縁が東側で少し南に張り出し、やや不整形となるが、全体の方向は、II a期の堀とほとんど変わらない。岸上面は、西から東へ、緩やかに傾斜している。I b期に堰状施設が存在し、II a期に高まりとなっていた堀底の部分は、再び堰状の施設となっている。ただし、I b期のような護岸施設は設けられず、土がむき出しのままである。堰状の施設の西側の堀底は、II a期に4号溝が存在したのとほぼ同じ場所に3号溝が掘られる。堰状施設の東側は、底全体が大きく掘り直されている。この掘り直された部分は、全体の堀と区別するために1号堀と呼称する。岸上面にも5層が盛土され、その上面には、小円礫が敷かれている。この岸上面の石敷きは、岸の縁辺部では、石が疎らであるが、北側へいくほど密になっている。岸上面が、道路として使われたものと推定される。岸上面からの深さは、堰状施設の上面までで約2.5m、堰状施設の西側では3.5m、3号溝の底面までは約5m、東側の1号堀の底面までは5.3m程である。堰状施設の上面からの高低差は、西側の堀底で1m、3号溝の底面で1.8m、東側の1号堀の底面までは3.5mである。F-5区とF-6区の境の所に、大きな切り株が存在し、この段階以降、岸の斜面に樹木が存在したことが判明する。この切り株は、根本から1m近くの高さの所で切られていた。この切られた高さは、3層の廃棄物層の上面の高さに近い。そのため、この樹木は、3層の廃棄物が捨てられている間も立っており、廃棄物層がほぼ捨て終わる頃になって、切り倒されたものと考えられる。

【1号堀】

6列以東の堀底の部分を、全体的に掘り直したものである。掘り直された部分の深さは、最も深いところで3.3mに及ぶ。底面はほぼ平坦で、緩やかに東に向かって下っている。埋土は場所によって異なっており、6・7列では遺物を、さほど多くはないが含んでいる。一方8列以東では、シルトと砂の互層を主体とする水成堆積層で、遺物はほとんど含まれていない。そのため、調査経でも触れたが、8列以東では、埋土全体を掘り上げることは断念し、トレンチ調査で済ませている。

【3号溝】

II a期に存在した4号溝が埋まった後に、ほぼ同じ場所に掘られた溝である。西側は調査区外へ延びている。

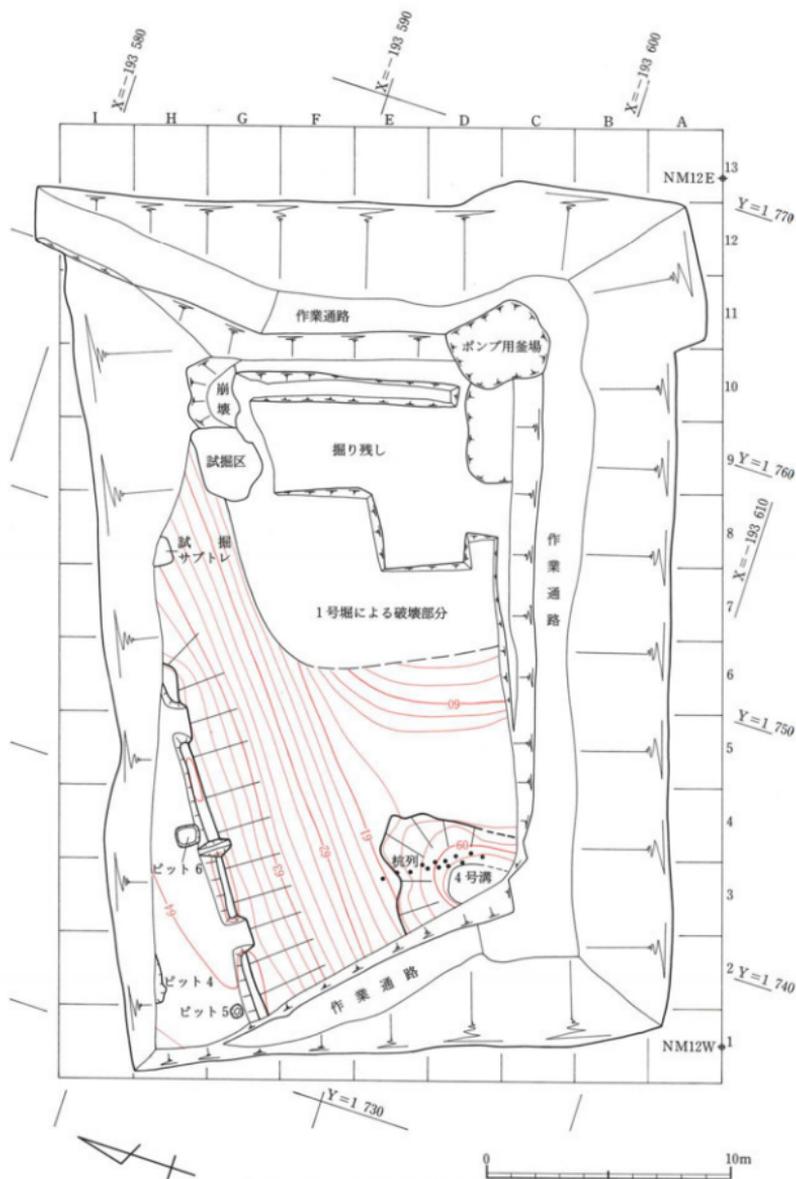


図15 仙台城二の丸跡第12地点II a 期検出遺構
 Fig.15 Features of phase IIa at NM12



図16 仙台城二の丸跡第12地点II b期検出遺構
Fig.16 Features of phase IIb at NM12

西壁沿いの先行トレンチに大部分がかかってしまい、平面精査が行えた部分はごくわずかに留まる。そのため正確な形態・方向は不明である。西壁の断面では、上幅2m、下幅1m、深さ1.8mを測る、断面逆台形の溝である。埋土は2層に分かれ、いずれも遺物を多く含んでいる。特に埋土2層には、円板状木製品をはじめとする木製品が、大量に含まれている。

【ピット3】

E-4区、堀底の堰状施設の上面に掘られたピットである。この部分には基本層4層が分布しないため、5層上面のII b期の遺構か、4層上面のII c期の遺構か判断できない。一辺65cm程の隅丸方形を呈し、深さは最も深いところで15cm程である。埋土から、陶磁器など若干の遺物が出土している。

③ II c期（4層上面）の遺構（図17、図版6・7）

【堀跡】

II b期から変わった点は、堀底の部分だけである。堰状施設には変化が無く、その東西両側のみが異なっている。西側では、3号溝が埋まり、調査区南西隅の、堀底の堰状施設西側の低い部分に、基本層4層が堆積している。東側では1号堀が埋まり、その北と西の縁に沿うような形で、1号溝が掘られ、それに小規模な2号溝が取り付いている。これら以外は、II b期と変化は無い。II b期と異なる点についてのみ、ここで記載する。4層の堆積によって、堰状施設西側が浅くなっており、この部分の岸上面からの深さは3.3m、堰状施設上面との高低差は0.8mである。東側の1号溝の部分では、岸上面からの深さ5.3m程、堰状施設上面との高低差は3.5m程である。

【1号溝】

II b期の1号堀が埋まった後、その北と西縁に沿うような形で掘られた溝である。北側の外縁は、ほとんど1号堀のものと同じである。上幅2.2~3.5m、下幅0.4~1.4m、深さ1.5~3mを測り、断面逆台形を呈する。底面付近に埋土が堆積した後に、3層の廃棄物層が、この1号溝の中で堆積している。遺物で1号溝出土したもののは、この3層堆積以前に堆積した埋土から出土したものである。3層に次いで、多種・多量の遺物が出土している。なお、次のII d期でも、この溝は埋まりきらずに残っており、それは1号溝Bとして区別した。

【2号溝】

E・F-6区で検出された小規模な溝で、1号溝に取り付いている。方向はN-51°-Eである。上端幅0.8m、下端幅0.4m、東端の最も深いところで、深さ50cm程の、断面逆台形の溝である。埋土は、II c期の遺構を覆う廃棄物層である3層と、基本的に共通し、同様に多くの遺物が出土している。

【ピット1】

G-2・3区の、岸上面から斜面に少し下った所で検出されたピットである。3c層上面から掘り込まれており、厳密にはII c期とII d期の間に造られたものである。南北75cm、東西85cm程の隅丸方形で、深さ35cmである。内部には、レンガ、切石、円礫が一面に詰められていた。遺物は少量出土している。

【ピット2】

H-2・3区の、岸上面で検出されたピットである。確認したのは5層上面であるが、特徴がピット1に類似するため、ピット1と対になって、同時に造られたものの可能性が高い。そうであると、このピット2も3c層上面段階の遺構となる。南北80cm、東西75cm程の隅丸方形で、深さ15cmである。内部には、切石、円礫が一面に詰められていた。遺物は少量出土している。

④ II d期（3層上面）の遺構（図18、図版8）

【堀跡】

廃棄物層である3層が堆積した段階である。II b期・II c期に堀底で堰状施設があった場所は、湧水による崩壊のため明確ではないが、わずかな高まり程度となっている。特に、西側の堆積が進んだため、西側はほとんど高低差が無くなっている。岸の上面は、形が大きく崩れ、3~5列付近では、大きく南側まで、岸の端がせり出

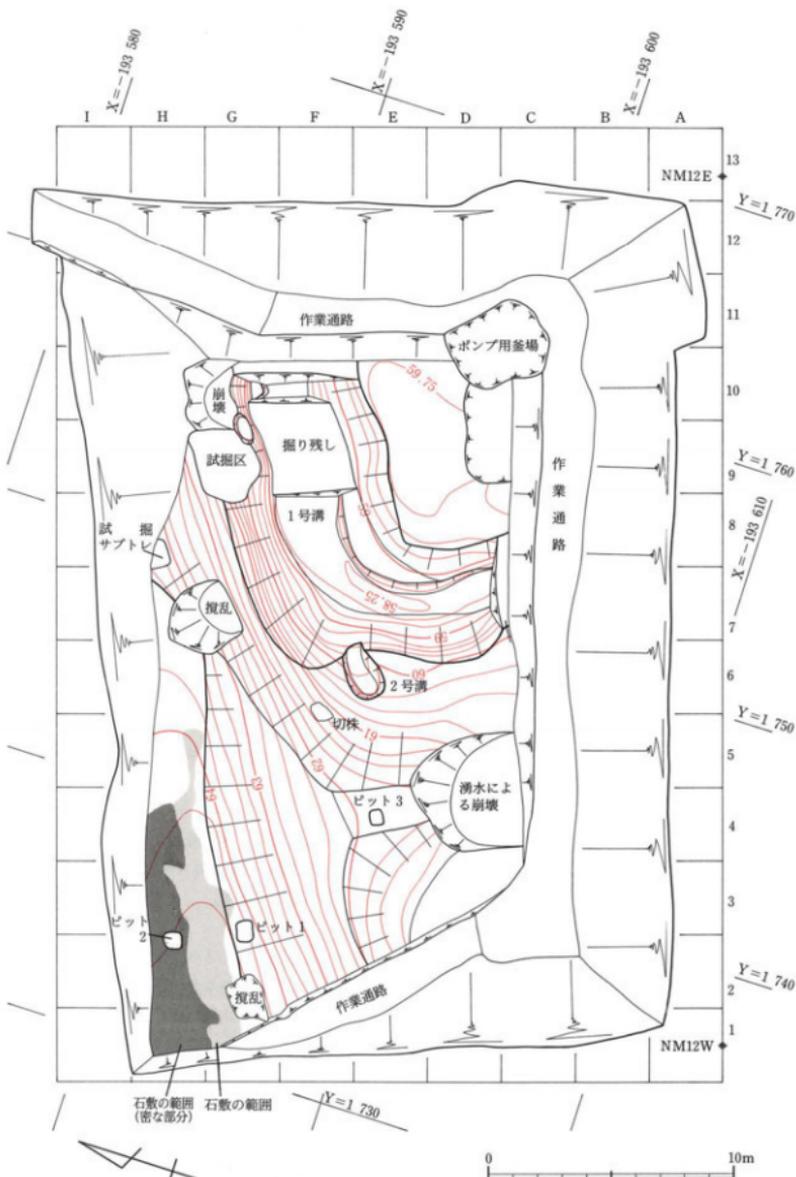


図17 仙台城二の丸跡第12地点IIc期検出遺構
Fig.17 Features of phase IIc at NM12

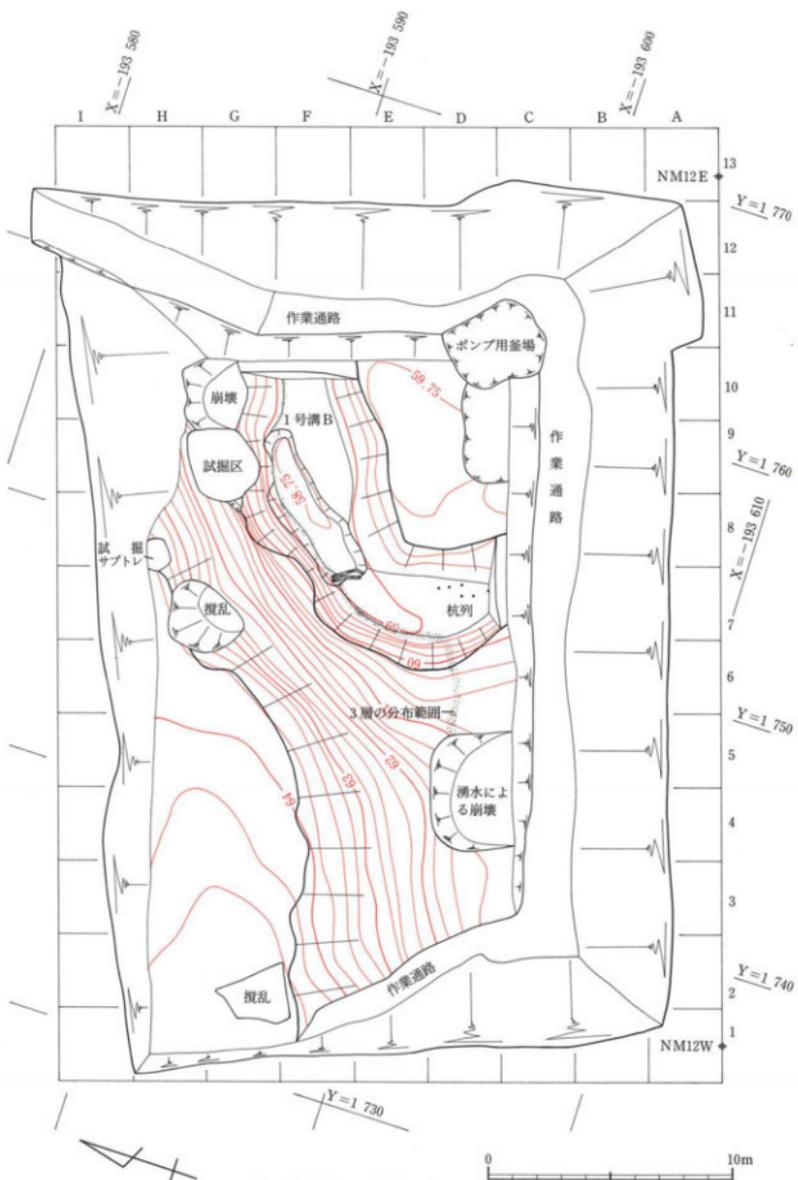


図18 仙台城二の丸跡第12地点IIの期検出遺構
 Fig.18 Features of phase II at NM12

して来ている。岸上面は、IIc期と同様に、西から東へ緩やかに下っていく。1号溝は、想りきらずに残っており、1号溝Bと呼称する。調査区西端での岸上面から堀底までの深さ3.2m、東側での岸上面から1号溝Bの底までの深さ5mである。

【1号溝B】

IIc期の1号溝が埋りきらずに残ったものである。1号溝埋土と3層の堆積によって、全体に規模が縮小している。上幅2.1~3.3m、下幅0.6~1.5m、深さ1.2~2.3mを測る。D-7区で、堀底に6本の杭が打たれている。ほぼ溝の方向に沿っているが、直線的には並ばない。この1号溝Bは、堀跡と同時に、2層の大規模な盛土によって、一気に埋められている。

(3) 時期による遺構の変化と絵図・地図との対比

今回の調査で確認された、時期ごとの遺構の変化を、絵図や地図と対比させて検討してみたい。

江戸時代の仙台城を描いた絵図は、各時期のものが知られているが、仙台城だけを対象にした絵図では、一番広い範囲まで描いたものでも、二の丸北側の堀の南岸までしか描かれていない。そのため、堀の北岸の様子は城下絵図を検討する必要がある。明治以降では、各種の地図が参考になる。図19に、主要な城下絵図と、地図を掲載した。

二の丸の裏門である「台所門」の近くから北側の屋敷地へ延びる道路を境にして、西側が堀、東側は沢という関係は、江戸時代を通じて変化がない。この道路が堀・沢を渡る部分は、土橋になっていたものと思われる。正保二・三年図(図19-1)と寛文二年図(図19-2)では、この道路よりさらに西側にも、平行して道路が走っており、こゝも堀を渡る部分は土橋になっていたものと考えられる。この西側の道路は、元禄四・五年図(図19-3)以降は無くなるが、土橋と思われる施設は、安政三~六年図(図19-5)まで描かれており、明治26年の地図(図19-6)でも、土橋状のものが残っている。

この2つの土橋より西側は、時代によって変化していく。最も古い城下絵図である正保二・三年図では、堀の北岸に沿った道は、真っ直ぐ西側へ延びている。寛文四年図では、この道は途中で北側へ鉤の手状に屈曲し、これは幕末まで、さらには明治38年測量図(図19-7)まで基本的に変わらない。しかし、寛文四年図では、この鉤の手状に曲がった西側では、道路の南側の堀との間に「御小人衆」と書かれた一画があり、小人衆の居住地であったことが判明する。小人衆とは、雑役に従事した者で、侍屋敷の警備などにあたったものである。

一方、元禄四・五年図では、小人衆の屋敷地まで堀が広げられ、鉤の手の場所を境にして、堀の幅が、西側が広く、東側が狭いという形となる。これは、基本的に明治38年測量図まで変わらない。またこれに伴い、元禄四・五年図では、鉤の手の部分のすぐ西側に、南岸から堀に直交して北に延びる、堀かと思われる施設が出現する。ただしこの施設は堀の中程までで止まっており、北岸までは延びていない。これより西側には、堀のような施設は描かれていない。天明六~寛政元年図(図19-4)でも、ほとんど同じ表現がなされている。

安政三~六年図の「安政補正改革仙府絵図」では、この堀の中程まで延びる堰状の施設の更に西側に、堀に直交し、北岸から南岸まで横断する施設が初めて描かれている。位置関係から見て、この安政図に見える堀を横断する施設が、Ib期の堀底で検出された堰状施設であると考えられる。したがってIb期の遺構は、この天明六~寛政元年と安政三~六年の間に、従来の堀を改修して造られたものであることが、絵図の検討から判明する。文献記録に残る、この堀の改修に結びつく可能性のあるできごととしては、次の3つが考えられる。一つは文化元年(1804年)の雷火による二の丸の全焼と、翌文化2年(1805年)から文化6年(1809年)にかけて行われた二の丸再建工事に伴って、堀も併せて改修された可能性である。二つ目は、天保6年(1835年)の本丸城壁が崩壊した地震の際に、堀も何らかの被害を被り、改修が行われた可能性である。もう一つは、大雨などで被害を被り、堀を改修する必要が生じた可能性である。この期間は、特に大雨・洪水の記録が多く、仙台藩領内に被害を



1. 正保二・三年(1645・46年) 奥州仙台城絵図



2. 寛文四年(1664年) 仙台城下絵図



3. 元禄四・五年(1691・92年) 仙台城下五臺掛絵図



4. 天明六〜寛政元年(1786〜89) 仙台城下絵図



5. 安政三〜六年(1856〜59年) 安政補正改築仙台城絵図



6. 明治26年(1893年) 仙台市測量全圖
仙台市役所発行



7. 明治38年(1905年)測量 同40年(1907年)先行
二万分之一地形図 大日本帝國陸地測量部



8. 昭和3年(1928年)測量 昭和5(1930年)年鉄道補入
二万五千分の一地形図 大日本帝國陸地測量部

図19 仙台城二の丸跡第12地点調査区周辺の絵図・地図(1〜6は「絵図・地図で見る仙台」より)

Fig.19 Picture maps around the area of NM12

もたらした大雨・洪水としては、天保6年(1835年)、天保9年(1838年)、天保12年(1841年)、弘化3年(1846年)、弘化4年(1847年)、嘉永2年(1849年)、嘉永3年(1850年)、安政元年(1854年)がある。当然、これらの火災や災害とは関係なく、堀だけが独自に改修された可能性も考えられて良い。今回の調査では、直接I b期の構築年代を示す遺物が出土していないので、このいずれかを決定するのは難しい。今回は可能性を例示し、今後の課題としておきたい。

順序は逆になったが、次にI a期の遺構について検討する。I a期は、遺物が17世紀代のものに限られることから、17世紀代に遡る可能性が考えられた。今回の調査区は、堀の西部部が北側に拡張されて以降の、北岸に相当する。したがって、拡張以前の正保二・三年図では、堀の北側の屋敷地にあたる。同じく堀拡張以前の寛文四年図では、北側に屈曲された道路の部分か、あるいはその南側の堀との間に設けられた「小人衆」の居住地に相当する。I a期の遺構については、その様相が充分には把握できていないため、検討には限界があるが、段差の性格が問題となる。遺構の報告で指摘したように、この段差は、深く掘り込まれた堀とは考え難いことから、むしろ堀が造られる以前の、屋敷地あるいは「小人衆」の居住地、あるいはその脇の道路部分などに相当する可能性を、ここでは考えておきたい。

絵図で見ると、17世紀末の元禄四・五年図以降の堀は、幕末の安政三〜六年図まで、ほぼ同じ範囲に造られていたと考えられる。I b期の堀は、岸の部分のI a期の地層が残っていた所以以外では、全て地山を直接掘り込んでいる。今回の調査で、18世紀代の遺構が確認されなかったのは、I b期の堀が、それ以前の堀を、更に掘り下げる形で改修して造られた結果、前段階の遺構が削平されてしまったものと考えられる。

I期の遺構を埋めている7層の大規模な盛土は、ほぼ岸の上面から斜面の部分に限られ、堀底を埋めるような形ではない。したがって、堀を埋めるのではなく、岸をかき上げる目的で行われた盛り土であると考えられる。明治26年図・明治38年図・昭和3年図の間で、軽重隊の主要な建物の配置は変化がない。したがって7層の盛土による岸のかき上げは、明治26年(1893年)以前に行われていたと考えて良いだろう。出土遺物の検討から、II b期の遺構が埋まっていたのが、1890年代であるという推定と、矛盾しない。

一方、昭和3年(1928年)の地図(図19-8)では、それ以前では堀の形に沿って鉤の手に曲がっていた道路が、真っ直ぐに延び、更に逆に南側に屈曲している。今回の調査で確認された、2層による堀の大規模な埋め立ては、この道路の改変の際に行われた可能性が高いものと考えられる。3 a層の堆積が、1910年代頃で終わっているという点とも矛盾しない。

明治26年図と同38年図を比較すると、後者の方が、堀の西端の位置が東へずれていっている。この時期に対応すると考えられるII期の中での変化は、堀の内部に着目すると、次のような変化として把握することができるであろう。すなわち、II a期からII c期にかけては、堀の底が埋まる度に、部分的な掘り直しをして対応した段階である。ただ、II c期には、掘り直しは東側だけで、西側は埋まったまま放置される。II d期になると、既に埋まった部分を掘り直すことはなされず、次に一挙に埋められていく。このようなII期の遺構の変化は、地図で確認される。堀が徐々に埋まって、その範囲が狭くなっていく過程に対応したものと捉えられるであろう。ただし、II a期からII d期の各段階が、どの地図に対応するかまでは、明らかにし難い。

(4) 江戸時代の堀の復元

上述のように、I b期の堀の底で検出された堰状遺構は、「安政補正改革仙府絵図」に見える堰状の施設に対応することが明らかになった。これを基準に、周辺での調査成果を加えると、幕末頃の仙台城二の丸北側の堀を復元することが可能になった。

今回検出された堀の北岸の続きは、第8地点の調査においても検出されている。この両者をつなぐことで、北岸の延び方については、ほぼ確実に復元ができる。堀の南岸は、1989年度に調査を実施した第5地点の付帯施設

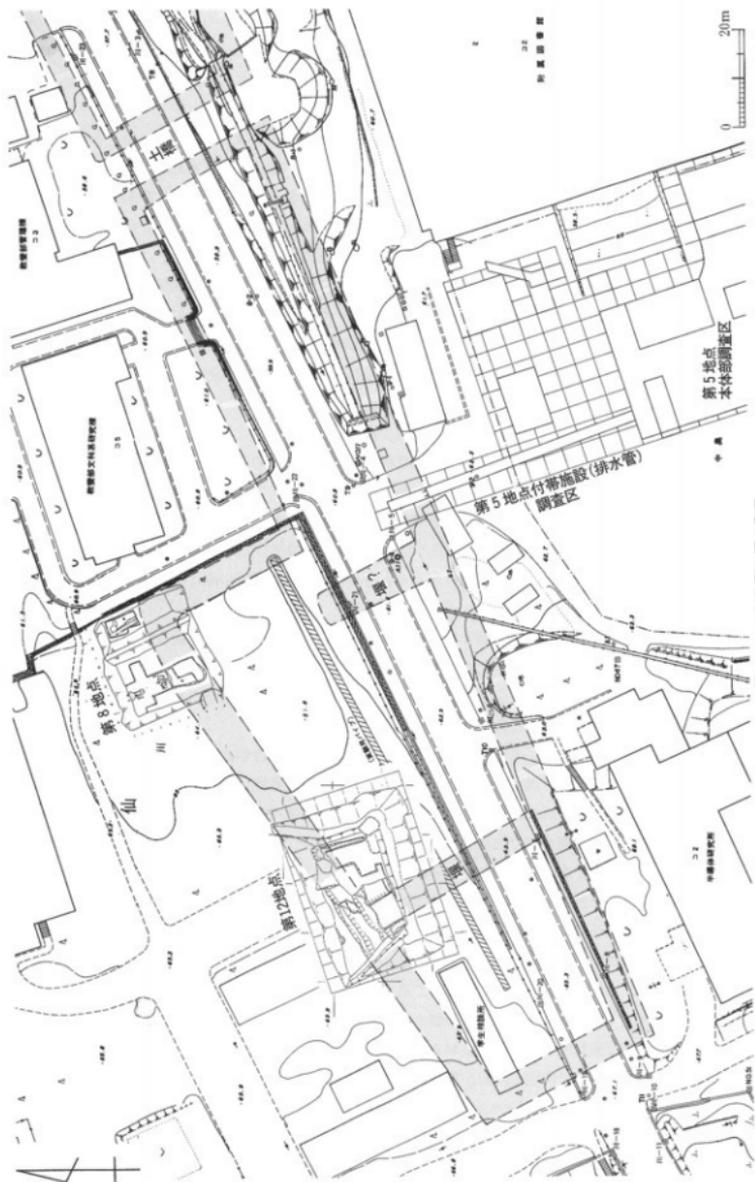


図20 二の丸北側の堀の復元
 Fig.20 A reconstruction plan of a moat on the north side of Ninomaru

(排水管理設)に伴う調査の際に検出されている(年報7)。この調査区北端から約8mの所で、北側へ大きく落ち込む部分が検出されている。付帯施設に伴う調査のため、底までは調査していないが、少なくとも1m以上の深さがあることが判明している。位置から見て、この大きな落ち込みが、二の丸北側の堀の南岸であると考えられる。

今回の調査区の50mほど西側は、大きな段差で高くなっている。段差自身は、近代以降に整えられたと思われるが、もともと、この付近から急に標高が高くなっていくことは間違いないと考えられる。そのため、堀の西端が、そこまで延びることは考え難い。一方、堀の東端の、沢との境に設けられた土橋は、昭和3年図まで同じ位置に存在したと考えられ、それが現在川内南地区を南北に走る道路が、北地区に通じる所に相当すると思われる。ここは現在、両側が沢状となっており、その沢を跨ぐ土橋状となっている所である。このように考えると、堀の東西両端がほぼ確定することになる。これを基準に、絵図に描かれた細部の位置関係を勘案して、図20のような復元図を作成した。この復元では、第8地点の少し東側が、堀の幅が狭くなる所にあたる。この第8地点付近の、堀が最も広がっているところは、その推定幅は約53mとなる。

幕末頃と推定されるI b期の堀では、底に堰状施設が造られていた。遺構の検討の最後に、この堰状遺構の構築手順を整理するとともに、堰状遺構の性格について検討してみたい。

堰状遺構の構築手順を、あらためてまとめたのが図21である。

まず、堀の底の地山を、堰の形に削り出すように掘り残している。今回の調査では、I b期の堀に先行すると考えられる堀は検出されず、岸の上面付近を除くと、全て地山を掘り込んでいた。これは、従来の堀を更に掘り下げ、全体として拡大する方向で、I b期の堀を整備したためと考えられる。江戸時代の絵図に見る堀が、全体に広げる形で変化していることと、それに伴い堰と思われる施設が増加していることは、時期が下るとともに、堀の機能を強化する方向で改修されていったことを示すと考えられる。大雨等の際に被害を被り、より強化する必要が生じた可能性が考えられるであろう。

次の段階以降の構築手順は、上面の平坦面と東西の斜面との間では、厳密な前後関係は判らないが、説明の便宜のため、図21の②~④の3段階を設定したが、ここでは平坦面と斜面に分けて記述する。

上面の平坦面の両端には、丸太を置き、下流側の東側にだけ、杭を打って丸太を止めている。次に、この丸太の間に整地を施す。最後に、整地層の上面に、扁平な石を敷き詰めている。

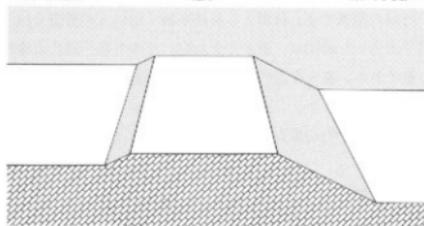
東西の斜面には、丸太に平行して、まず溝を掘っている。次に、この溝の中に、石を詰めた蛇籠を据え付けている。但し、蛇籠の設置方法には、次の2通りが想定できる。一つは、蛇籠に事前に石を詰めてから、この溝の中に据える方法である。もう一つは、溝の中が閉じられていない籠だけを置き、この場所で石を詰めて、しかる後に籠を編んで、開いた上側を塞ぐ方法である。今回の調査では、蛇籠の上の部分が、全て腐って壊れてしまっていたため、このどちらであるかは不明である。

このように、入念な工事を施しているのは、水流で堰状遺構が壊されないための工夫であると考えるのが妥当であろう。現代でも蛇籠工法は、水によって土砂が流出する危険のある場所には、有効な工法であるとされている。調査地点の西側は、50m程の所から、急に標高が高くなり、丘陵へと移行する。地形から考えると、江戸時代の二の丸北側の堀は、本来あった沢を拡張する形で造られたものと推定される。そのため、この堀には、西方の丘陵からの水が流れ込んでいたと考えられる。西側の丘陵が急に高くなるため、そこから流れる水は、大雨などの出水時には、かなり急な流れとなった可能性がある。正保二・三図(図19-1)と寛文四年図(図19-2)に描かれた堀は、西端から東端まで特別の施設が無い。出水時には、西側から流れ込んだ水が、直接東端の土橋に至ることとなる。元禄四・五年図(図19-3)と天明六~寛政元年図(図19-4)では、堀の西半部分が北側に拡張され、その部分に、南岸から堀の中程まで延びる堰状の施設が見られる。この構造であると、西側から流れ込んだ水は、南岸から延びる堰に遮られ、拡張された北側へと、一旦誘導されることとなる。しかる後に、堀の東

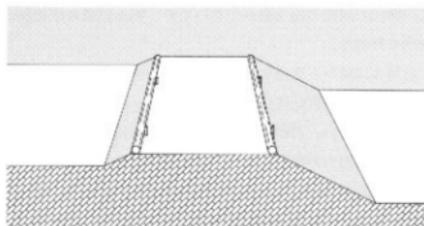
半部へ水が流れ込むこととなり、この過程で水流を弱め、土橋に急激な流れが直接当たらないようにするのが、目的であったと考えられる。安政三～六年間（図19-5）では、更に西側に、堰を横断する堰状の施設が出現し、これがI b期の堰状施設に相当する。前段階の堀の構造を考えると、さらに水流を弱めるための工夫と見るのが自然であろう。すなわち、西側の丘陵から流れ出た水は、まず堀を横断する堰でその勢いを弱められた後、もう一つの堰で遮られ北側へ誘導され、さらに勢いを弱められた上で、東半部へと流れ込む、2段階で水流を弱める工夫と考えて良いだろう。

検出された堰状遺構の上面は、堀の岸より2.4m下に位置する。そのため、出水時にはこの堰状遺構は水中に没する構造であったと思われる。また通常時に、堰を乗り越える形で水を流していたのか、あるいは堰の途中で水を流す施設が造られていたかは、今回の調査では明らかにできなかった。いずれにせよ、水流を意識した、江戸時代の特殊な工事を示す遺構として評価することができるであろう。

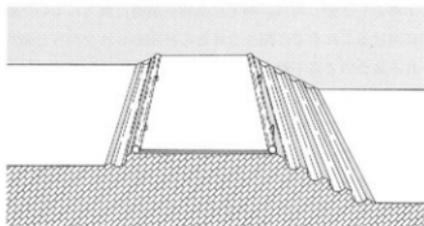
←西（上流） 北岸 東（下流）→



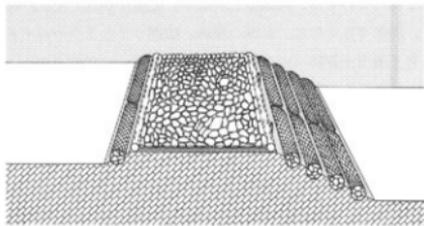
①堀の底の地山を堰の形に掘り残す。



②平坦面の両端に丸太を置き、下流側に杭を打って止める。



③東西の斜面に溝を掘る。
平坦面の丸太の間に整地をする。



④東西の斜面の溝に石を詰めた蛇籠を据える。
平坦面に石を敷く。

図21 堰状遺構の構築方法復元図

Fig.21 A reconstruction of the process building a dam at NM12

4. 出土遺物

今回の調査では、II期とした基本層7層以上の層位で出土した遺物が圧倒的多数を占め、I期の8層以下の層位で出土した遺物は、極めて少ない。そのため、近代の遺物は膨大な量が出土しているが、近世の遺物は微々たる量である。膨大な近代の遺物を、限られた時間の中で整理し資料显示するためには、独自に方法を検討することが必要であった。したがって、おのずから近世の遺物と近代の遺物では、異なった方針で対処することとなった。以下の遺物の報告でも、近世の遺物と近代の遺物とに大別して、記述することとする。

(1) 近世の遺物

① 陶磁器・土器 (図22・23・24、図版9・10・11、表6・7・8)

江戸時代の陶磁器・土器は、8層、10層、11層と、7層より上の明治以降の堆積層から出土している(表2～4)。江戸時代の遺物の出土量が少ないため、明治以降の堆積層に混入していた資料についても、今回は可能な限り資料化に努めた。

11層と10層から出土した陶磁器は、10層から19世紀の焼酎の軟質施釉土器の細片が2点混入している点を除けば、おおよそ17世紀代におさまる。11層・12層出土の陶器には、仙台城から数多く出土する大堀相馬焼は1点も含まれていない。大堀相馬焼の創業年代は元禄年間前半と推定され(年報7・10)、大堀相馬焼を含まないことが、11層・12層出土の陶磁器の年代を17世紀代とすることの傍証になる。8層および7層直下出土の陶磁器は、18世紀代のものが多い。8層以下の堆積層から出土した陶磁器について産地別に見た場合、磁器は瀬戸産のものを含まず、陶器は、10・11層では肥前・瀬戸・美濃・岸窯が、8層には京・信楽と小野相馬焼が認められる(表5)。岸窯製品は、10層から香炉と播鉢が各1点ずつ出土している。

7層より上層の明治以降の堆積層や遺構に混入していた陶磁器では、本地点の南側に隣接する仙台城二の丸地区におけるこれまでの調査でほとんど認められなかった瀬戸産の陶器の瓶掛、徳利、火入が出土しているため、それらについて若干触れる。111は、「呂宋瓶掛」と呼ばれるもので、瀬戸市西茨町勇右衛門窯や岩右衛門窯に類例が認められる。また、伝世品には文化12年(1815年)の紀年銘資料があり(藤沢1998)、19世紀前葉に位置づけられる。115の「貧乏徳利」は、肩部に釘書きを有する。116の「尾呂徳利」は形態的特徴から判断して、瀬戸の藤沢編年の第6小期に位置づけられよう。119の縦筋文を有する火入は、瀬戸村産と考えられ、天明3年(1783年)の浅間山噴火に伴う降灰・泥流層により封印された、群馬県渋川市中村遺跡出土資料のなかに類例が認められる。27の磁器丸鉢は切込産である。これに類似する資料は、宮城県加美郡宮崎町宮崎字切込の中山窯跡窯下平場貯水池埋没直前の遺物投棄層から出土しており、切込焼編年のIII期(1860～70年代)に年代比定されている(佐藤1990)。

土器については、陶磁器と異なり、上層に混入した江戸時代の遺物を全て認識できるわけではない。細片が多く、図化できたのは、瓦質の播鉢、蚊遣り?各1点のみである。瓦質の播鉢(図24-1)は、仙台城三の丸跡6・9号土壇出土資料(仙台市教育委員会1985)に類例が認められることから、17世紀初頭～前葉に位置づけられよう。蚊遣り?としたもの(図24-2)は、仙台城二の丸跡第9地点出土の蚊遣り(年報8・9)に比べ小型で、内面にタール状の付着物も認められないことから、別の用途を考える必要があるかもしれない。年代的には、18世紀末～19世紀中葉の可能性が高い。

② その他の遺物 (図25、図版11、表4・9)

その他とした遺物には、土製品、瓦、漆椀、下駄、箸がある(表4)。

土製品は全て明治時代以降の堆積層中から出土しており、近代に属する可能性もある。いずれも細片のため図化したものはない。

瓦については、明治時代以降の堆積層に江戸時代の瓦が混入していた場合、近代の瓦と識別することが困難な場合も多いため、ここでは、8層以下の層序から出土したもののみを江戸時代の瓦としている。瓦の種類として



図22 仙台城二の丸跡第12地点近世の磁器
 Fig.22 Porcelains belonging to Edo period from NM12

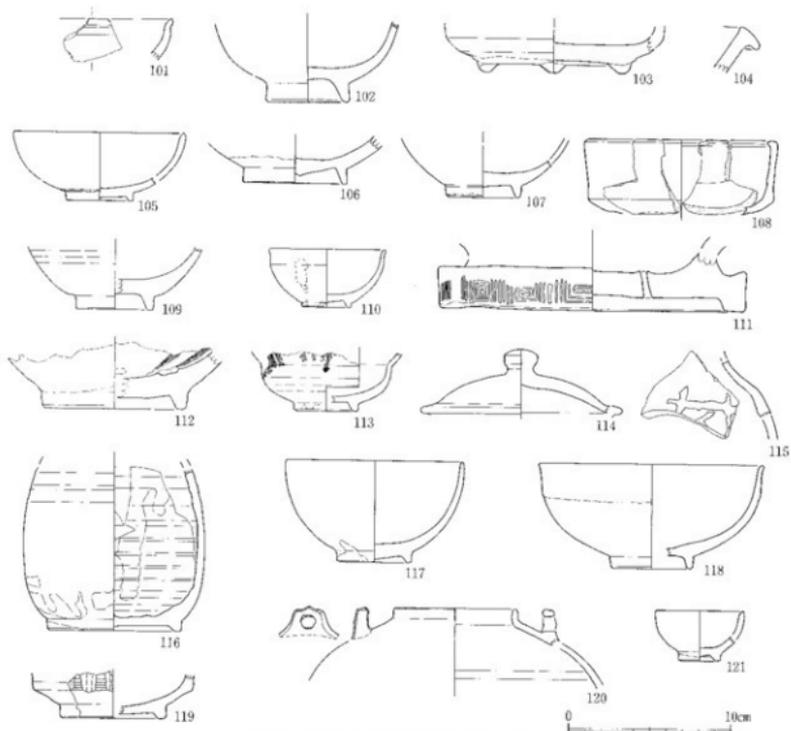


図23 仙台城二の丸跡第12地点近世の陶器
 Fig.23 Glazed ceramics belonging to Edo period from NM12

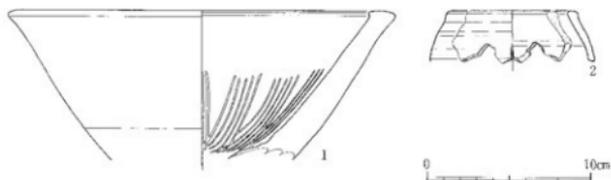


図24 仙台城二の丸跡第12地点近世の瓦質土器
 Fig.24 Fumed ceramics belonging to Edo period from NM12

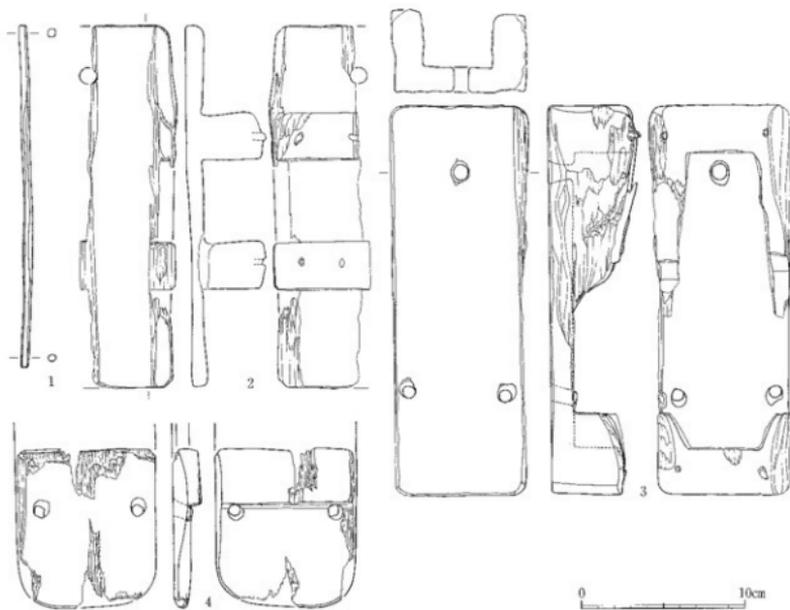


図25 仙台城二の丸跡第12地点近世のその他の遺物
 Fig.25 Various implements belonging to Edo period from NM12

は、緩い彎曲を有する平瓦1類、平坦な同?類、丸瓦のみで、出土量も二の丸地区に比べ非常に少ない。図化したものはない。

漆碗、下駄、箸はいずれも、堰状遺構および堰状遺構東側斜面の直上から出土している。検出遺構の項で述べたとおり、絵図との対比から、今回検出された堰状遺構の構築年代は18世紀末から幕末と考えられる。したがって出土層位からは、これらの木製品は19世紀代の可能性が高いことになる。仙台城出土の下駄については、すでに二の丸跡の調査成果を踏まえた考察が行われている(年報9)。今回の調査で堰状遺構上面から出土した3点の下駄(図25-2~4)は全て角形連歯下駄であるが、そのうちの1点は「コ」の字形の歯が台の両端についている。文献とは、このような形態の下駄は「馬下駄」あるいは「駒下駄」とよばれる。仙台城からは「駒下駄」の出土量は少なく、本資料に類似する資料はこれまでに確認されていない。

表2 仙台城二の丸跡第12地点出土近世磁器集計表

Tab.2 Distribution of porcelains belonging to Edo period at NM12

区・層・遺構	大	中			小			細			小			細			磁器	物	不明	その他	不明
		丸形	筒	磁板	磁板	丸	筒	磁板	丸	筒	磁板	丸	筒	磁板	丸	筒					
層位不明		3								3	1		1				磁物(蓋)1火入or灰吹				
3層上段溝槽	1									9	6						磁物(蓋)1磁物(蓋)2磁物(蓋)3磁物(蓋)4		3		
3層										2	1						磁物(蓋)1		2		
3-4層										2	5						磁物(蓋)1不明蓋1		3		
3-4~3c層										2									2		
3b層上段																					
3b層																					
3c層																	1	1	蓋物(蓋)1	2	
区不明3d層																					
東区3d層										1	3	4	6				蓋物(身)1小4d		6		
西区3d層										4	5	24	1	2			段空(身)2		10		
4層										5	4						1	1	中継(蓋)1香炉1		
5層上段											1										
5層											2	6							1	小杯1磁物1香炉1	
6層																					
7層											7	3								3	
8層																					
9層																					
10層											1										
11層																					
12層																					
堀状遺構土面																					
1号溝	1	4																			
2号溝																					
3号溝																					
4号溝																					
1号堀																					
ピット1																					
ピット2																					
ピット3																					
ピット4																					

表3 仙台城二の丸跡第12地点出土近世陶器集計表

Tab.3 Distribution of glazed ceramics belonging to Edo period at NM12

区・層・遺構	大	中			小			細			小			細			磁器	物	不明	その他	不明
		丸形	筒	その他	不明	丸	筒	その他	丸	筒	その他	丸	筒	その他	丸	筒					
層位不明																					
3層上段溝槽	1	4																			
3層																					
3-4層																					
3-4~3c層																					
3b層上段																					
3b層																					
3c層																					
区不明3d層																					
東区3d層																					
西区3d層																					
4層																					
5層上段																					
5層																					
6層																					
7層																					
8層																					
9層																					
10層																					
11層																					
12層																					
堀状遺構土面																					
1号溝	1	7																			
2号溝																					
3号溝																					
4号溝																					
1号堀																					
ピット1																					
ピット2																					
ピット3																					
ピット4																					

表4 仙台城二の丸跡第12地点出土近世その他の遺物集計表

Tab.4 Distribution of various objects belonging to Edo period at NM12

区・層・遺構	土師質土器	瓦質土器	土製品	瓦	木 製 品
層位不明			不明1		
3層上四層下	皿3	黒鉢1(絞造り?)	人形犬1		
3層	皿1				
3A層					
3A~3C層					
3B層上層					
3B層					
3C層					
区不明3d層					
東区3d層		火鉢1	土鉢1		
西区3d層	皿3				
4層	皿1				
5層上面					
5層	皿1				
6層					
7層	皿2	火鉢1(不明)			
8層				平瓦1組(34#)	
9層					
10層	皿4	火鉢1		平瓦1組(5167#)平瓦2組(339#)丸瓦20(666#)不明2(85#)	
11層	皿1			平瓦1組(820#)平瓦2機(34#)丸瓦4(343#)	
12層					
現状遺構上層					漆桶2 下駄3 釜2 不明1
1号溝	皿1		人形動物?1		
2号溝					
3号溝					
4号溝					
1号塚					
ピット1					
ピット2					
ピット3					
ピット4					

表5 仙台城二の丸跡第12地点出土近世陶磁器産地別出土点数

Tab.5 Distribution of porcelains and glazed ceramics belonging to Edo period by producing district at NM12

	磁 器			陶 器								
	肥前	瀬戸美濃	中国	肥前	瀬戸・美濃	赤・信楽	大船松高	小野松高	丹波式	磁	不明	
8層	4					1		1				1
9層												
10層	33			18	9(志野2・志野織部3・織部1)					3	2	4
11層	8		3	2	2(志野織部1)							
12層												
現状遺構上層												

表6 仙台城二の丸跡第12地点出土近世磁器観察表

Tab.6 Notes on porcelains belonging to Edo period at NM12

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様等	胎土	生産地	製作年代	備考	図録
1	D-4区 11層	鳥居置物?	—	—	—	色絵(赤・黄)	中や粗	肥前	17C後半		22
2	海岸段 16層	小・中皿	—	5.4	—	菊文	中や粗	肥前	17C前半		22
3	海岸段 16層	小・中皿	—	—	—	赤文?	中や粗	肥前	17C前半		22
4	海岸段 16層	小皿	6.6	—	—	青文?	中や粗	肥前	17C前半		22
5	7層下	小・中皿	8.0	3.4	2.0	青文字 口紅 蛇の目高台	粗	肥前	17C前半		22
6	7層下	碗口	7.3	—	—	梅花文	中や粗	肥前	17C後半		22
7	8層上	中票磁張物	9.4	3.2	3.7	松文見込半取り五弁文	普通	肥前	18C後半	前掲	22
8	H-1区 5層	小・中皿	—	1.5	—	見込碗の口輪刺青	普通	肥前	17C末~18C前		22
9	H-1・2区 5層	小皿	4.8	2.0	2.0	色絵(赤)	普通	肥前	18C後半~19C	紅燈籠?	22
10	I-5区 堀土跡下部	小票磁張物	8.2	1.2	5.0	四方刺文	中や粗	不明	18C		22
11	E-3区 1号溝 埋土	小票磁張物	8.1	3.8	4.4	西文 見込華形文	中や粗	肥前	19C前半~中盤		22
12	D-3区 4層	中皿	—	4.3	—	窓松竹梅文	普通	肥前	18C後半~19C前		22
13	D-7区 1号溝 堀土	小・中皿	—	5.2	—	1号溝堀土層内 菊文(部分)	普通	肥前	19C前半		22
14	I-4区 堀土	中皿	10.0	3.0	5.8	上より緑文 見込守刺文?	中や粗	肥前	18C末		22
15	I-5区 堀土	中票磁張物	11.0	3.0	5.1	上より緑文 見込文縁有り	中や粗	肥前	19C中盤		22
16	K-4区 3号溝 埋土	段皿	11.4	9.0	4.3	花唐草文	中や粗	肥前	18C後半~19C前		22
17	E-7区 3号溝	段皿	10.4	6.6	5.0	色絵雲母文(赤・緑)	普通	肥前	19C前半	0010とセット?	22
18	F-4区 3C層	蓋物身	10.0	—	—	窓松竹梅文	普通	肥前	18C後半~19C前		22
19	E-1区 3A層	蓋物身	9.6	—	3.1	花唐草文	普通	肥前	18C後半~19C前		22
20	3層上	段皿	—	7.6	—	色絵雲母文(赤・緑)	普通	肥前	19C前半	0017とセット?	22
21	5層上	蓋物身	7.1	3.6	4.4	熊子文	中や粗	不明	19C中盤	前掲	22
22	2層	山吹網	11.6	3.8	6.7	華文文	普通	肥前	18C末	前掲	22
23	2層	小皿	—	5.2	—	梅竹文	普通	肥前	19C前半		22
24	2層	蓋物	9.7	—	4.3	青磁	普通	肥前	18C		22
25	2層	仏教器	6.8	—	—	藤の葉文	中や粗	肥前	18C		22
26	1層(黄土)	小皿	6.9	2.7	3.4	藍文	普通	肥前	18C中~後		22
27	層位不明(黄土)	鉢	19.4	—	—	藍文	普通	肥前	19C中	前掲	22
28	層位不明(黄土)	蓋物身	9.8	3.8	3.6	藍文	普通	肥前	19C前~中		22

表7 仙台城二の丸跡第12地点出土近世陶器観察表

Tab.7 Notes on glazed ceramics belonging to Edo period at NM12

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様等	胎土	生産地	製作年代	備考	図録	
307	海岸段 16層	茶臼鉢	—	—	—	模印	赤土	尾張	16C中~後	大塚町?	23	
308	海岸段 16層	中や粗皿	—	3.2	—	丸物 雲入網等	中や粗	肥前	17C末~18C前	同層下層?	23	
309	海岸段 16層	碗口	—	9.3	—	丸物	赤土	尾張	12C		23	
310	海岸段 16層	碗口	—	—	—	模印	赤土	尾張	17C~18C		23	
311	D-4区 4層(堀土跡上部)	中票磁張物	10.0	4.0	4.3	丸物 雲入網等	赤土	尾張	18C		23	
312	D-4区 4層(堀土跡上部)	丸物	—	6.3	—	丸物 雲入網等	中や粗	小野村	16C		23	
313	G-11~4区 5層	中票鉢	—	4.6	—	丸物 雲入網等	赤土	小野村	16C		23	
314	G-11~4区 5層	碗口	11.8	—	—	丸物 雲入網等	中や粗	小野村	16C		23	
315	G-11~4区 5層	小皿	—	4.8	—	丸物	赤土	小野村	16C		23	
316	D-E-1区 3層	中皿	7.1	3.0	3.6	丸物 雲入網等	中や粗	大塚町	18C後半		23	
317	E-4区 1号溝 堀土	鉢	—	10.0	—	丸物 雲入網等	中や粗	大塚町	19C前半		23	
318	E-5区 埋土	中票鉢	—	8.9	—	内面染織刺し網の丸物 雲入網等	粗	小野村	19C前半	口輪	23	
319	D-7区 1号溝 堀土	中票鉢	—	4.0	—	外側染織刺し網の丸物 雲入網等	赤土	大塚町	19C前半		23	
320	D-7区 1号溝 堀土	中票鉢	—	—	—	丸物 雲入網等	赤土	大塚町	18C		23	
321	D-7区 埋土	碗口	—	—	—	丸物	赤土	大塚町	19C	前掲	23	
322	D-7区 埋土	碗口	—	8.3	—	ウノガシ模印	丸物	赤土	大塚町	17C末~18C前	口内面染織刺し網	23
323	D-7区 埋土	中票鉢	11.0	4.0	6.3	丸物 雲入網等	赤土	大塚町	18C前~中盤		23	
324	2層	丸物	13.8	5.0	6.4	丸物 雲入網等	赤土	大塚町	18C後半~19C		23	
325	2層	丸物	—	8.6	—	模印文	赤土	大塚町	16C中~後半		23	
326	2層	土碗	7.6	—	—	模印 雲入網等	赤土	大塚町	16C前~中盤		23	
327	2層	碗口	5.3	2.6	3.1	丸物	中や粗	大塚町	19C前半		23	

表8 仙台城二の丸跡第12地点出土近世瓦質土器観察表

Tab.8 Notes on fumed vessels made of tile-clay belonging to Edo period at NM12

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様等	備考	図録
1	区不明 2層上層埋土	磁鉢	23.5	—	—	内面・外面にクワナダ		24
2	区不明 3層上層埋土	磁鉢	9.0	—	—	内面・外面にクワナダ		24

表9 仙台城二の丸跡第12地点出土近世木製品観察表

Tab.9 Notes on various wooden implements belonging to Edo period at NM12

登録番号	出土場所	器種	長さ (cm)	備考	図録
1	D-1区 8層 (堀土跡埋土)	箸	長21.1 横1.0		25-1
2	D-4区 堀土跡埋土上	下駄	長22.4 高4.9	無型埋土 埋土に埋め込まれ1ヶ所より1本残存 埋土に2本残存	25-2
3	C-4区 堀土跡埋土上	下駄	長24.0 幅3.6 高5.6	角型埋土 埋土の窪みに打ってある	25-3
4	D-4区 堀土跡埋土上	下駄	幅5.5 高1.8	角型埋土	11-1
5	E-5区 堀土跡埋土跡埋土上	漆塗板		横・内面・外面 外面に三引文(朱)	11-2

(2) 近代の遺物

① 遺物整理の方法

今回の調査では、近代の遺物が多量に出土しているが、必ずしも、人の手が加わった物を全て採集してはいない。調査現場で採集を断念したものは、レンガ・石炭・石炭ガラ・鉄滓・炭化物である。また瓦については、重量を計量した後、一定の基準で抽出し、それ以外の資料については、現地で廃棄した。このような措置を取ったのは、これらの遺物が特徴に乏しく、整理・分析しても得られるデータが少ないであろうという予想と、現実的に量的に対処できないであろうという観点からの判断の結果である。これは、必ずしも資料の実態を検討した上で、どこまで採集し整理することが必要かを、充分検討した上での判断とは言えない。この種の遺物の取り扱いについては、今後さらに検討していく必要があると考えている。今回は、これら以外の人工品、および動物遺存体と植物遺存体を採集し、ここに報告することとなる。

近代の遺物は、種類も量も膨大であった。近世以前の遺跡の調査では、想定できないようなネタはずれの種類と量である。この近代遺物を、個々の資料の細かな違いについて、逐一別個に分類・集計し、資料表示を行ってあげれば、それだけで膨大な紙幅が必要となる。現実には、そのような余裕は、時間的にも予算的にも望むべくもない状況で、如何に効率的に作業を進め、なおかつ資料の全体像を呈示できるかに苦慮した。以下に資料整理の方法について述べるが、作業の過程で生じた問題点についても、できるだけ指摘しておきたい。最終的に充分解決できていない課題も多く残しており、なお試行錯誤の過程にあると理解いただきたい。

資料整理にあたっては、その材質によって大別して作業を進めた。報告にあたっては、材質別に以下の②～⑩でそれぞれ報告する。しかし、同じ用途の遺物でも、材質の異なる資料が往々にして存在する。例えば、ほぼ同形同大の耳掻きが、金属製と骨製の両者存在している。このような資料については、別個に集計され記載されることとなっている。但し、ボタンについては、複数の材質のものが、それぞれ多量に存在するので、合わせて整理を行い、資料表示も一括した方が作業が行い易いため、材質に関係なくボタンとして独立させた。これは、作業を進める上での便宜であり、本来の方針が貫徹できなかった結果である。

また、複数の材質のものが組み合わせられて作られている遺物も多い。このような場合、主体となる材質に含めることを原則としたが、どの材質に含めるべきか困惑する遺物も少なくない。そのような資料を整理する際、一旦分類を決定してしまうと、大量の遺物を多数の作業員を使って分類・集計していく関係上、作業がある程度進行してしまっていると、途中で変更することが困難になってしまう場合もある。機械検など、本来は検の部分か主体であると見なして、磁器に含めるべきであったかもしれないが、金属製品に含めているように、必ずしも全体を一貫した基準で分類できていない部分がある。

複数の材質からなる遺物を、主体となる材質で集計した結果、それに組み合わせる材質のものは、同じ材質でありながら集計に加えられないという場合も生じる。例えば、繊維製品に含めた布製のゲートルには、円筒形に巻いた上で針金で留めているものが多い。この種のものは、ゲートルとして点数を集計した。それに対して針金は、単独で出土しているものについても、様々な長さのものがあつたり、複数の針金が組み合わつたりからみついていたりする資料があるため、点数で集計しても実態を反映しないと考え、重量で集計した。ゲートルに巻き付けられた針金は、その状態を維持するために、取り外す訳にもいかず、重量を計ることは不可能である。したがって、針金の集計には、ゲートルに巻かれた針金はカウントされていないことになる。その一方で、形状から見て、明らかにゲートルに巻かれていたと考えられるのに、布が失われている資料では、針金として集計することになる。結果として、同じ遺物が、一方では集計され、一方ではその集計に入らないという事態が生じている。今回の出土資料では、このような問題が生じるものは、全体から見ると少なく、出土傾向には大きな影響を与えないと判断して作業を進めたが、その扱いは課題として残っている。

資料の全体像に限られた条件の中で呈示するということは、つまるところ、如何に資料の実態を反映した類型

化を行い、類型ごとにまとめて出土傾向を数量化し、その上で各類型を代表する資料を提示していけるかという問題である。今回の資料の内容は、同種のものが多量存在するものや、逆にバラエティに富むものなど、遺物の種類によって、大きく異なっている。同種のものが多量存在する場合、類型化は比較的容易であるが、個体識別が困難で、どのように個体数を算定するかということが問題となる。本報告で硬質陶器としてまとめた資料などが、それにあたる。一方、バラエティに極めて富んでいる資料では、個体識別は容易であるが、どのように類型にまとめていくかに苦慮することとなる。骨製の歯ブラシなどが、これにあたる。このように、種類による内容の違いを反映して、それぞれの遺物によって、整理方針を工夫する必要があり、具体的な整理方法は遺物の種類で異ならざるを得なかった。その結果、集計の基準も異なるものとなってしまっている。種類を越えて定量的な比較検討を行うためには、本来は一貫した方法で整理し、出土量を算出するのが望ましいが、作業効率を考えると、一貫した方法は採用できなかった。そこで、少なくとも、最小個体数は比較できるように配慮した。

以下の各項目で、具体的な整理方法と資料提示の基準を、それぞれ示すこととする。なお、資料提示にあたっては、実測図を作成することは、時間的な理由から困難であるため、基本的に写真で行うこととした。提示した資料のデータについては、本文中で個々に触れるのは基本的に避け、写真図版に記載した。遺物の実測は、焼きものとガラス瓶について、分類図を作成するのに必要なものだけ、器形のみの実測を行った。

個々の遺物の報告の前に、遺物全体で見たときの出土傾向について、概略を指摘しておく。基本層序では、細分を含めた3層での出土量が、圧倒的に多い。中でも、3a層と3d層に特に多量の遺物が含まれていた。ただし、東区の3a～3c層と東区3d層については、西区の層序との対比に不確実な部分を残している。3層上面清掃としたものは、重機で2層までを除去した後、重機で取りきれなかった2層を除去し、3層上面を清掃する過程で出土した遺物である。したがって厳密には、2層に帰属する遺物が含まれる可能性がある。3層上面としたのは、E・F-2～5区の3b層上面で、敷きつめたように瓦が出土したため、この瓦だけは3層上面として取り上げた。そのため、瓦以外の遺物については、この3層上面として取り上げた遺物はほとんど無い。基本層序の4層・5層出土の遺物は、3層と比べると大きく減る。6・7層については、先行トレンチで遺物がほとんど含まれないことを確認して、重機で除去した。そのため、6・7層出土の遺物は、ほとんど無い。わずかに6・7層出土遺物があるが、壁面で確認されて抜き取った遺物などが存在するためである。遺構では、1号溝・3号溝で比較的多くの遺物が出土しており、1号堀がこれに続く。2号溝・4号溝と、ピットからは、遺物の出土は概して少ない。

② 磁器 (図26～31、図版12～116・127～130、表11～34)

近代の磁器・軟質磁器・陶器・炆器・土師質土器・瓦質土器・軟質施釉土器の整理の方法と資料の提示方法については、煩雑になるのを避けるため共通する部分はここでまとめ、各々で異なる部分のみ各項目で記述する。

本遺跡からは、堀の埋土の上部(3層)を中心として、明治時代後期から大正時代初期にかけ廃棄された、第二師団の用いた近代の焼物が多量に出土した。その数量は、コンテナにして、磁器50箱、陶器10箱、硬質陶器21箱、炆器・土師質土器・瓦質土器1箱、合計82箱にもおよぶ。

同時期の資料は、本調査地点の東側に隣接する、仙台城二の丸跡第8地点においても、今回の調査地点とほぼ同一の層位から出土している(年報4)。しかし、今回の資料は、第8地点に比べ、量的に格段に多く、種類も豊富である。

近代の陶磁器については、稀に担当者の方から報告書で資料紹介されることはあっても、これまで考古資料として本格的に調査・分析の対象となることはなかった。その整理方法についても、これまで行ってきた江戸時代の陶磁器の整理手順を基本としながらも、資料の実態に合わせる形で、今回新たに検討する必要があった。江戸時代の陶磁器と比べ、最も異なる点は、今回の近代陶磁器には同一種類の製品が多数含まれることにある。それは、陶磁器の多くが近代の工業化製品であることに加え、軍隊の使用品という性格上、そのような工業化され

た規格品が特に選ばれたという事情による。こうした本資料の性格は、近世以前の通常の考古資料には見られない特質であり、個体の識別を困難なものとしている原因である。

当初、整理作業のなかで大きな比重を占める破片の接合をできるだけ省力化する方向で整理作業を開始したが、摺絵の中碗等、資料によっては予想以上に多様な変異を有するものが存在することが判り、接合することで文様の全体像を把握しないことには、類型を抽出できないことが明らかとなった。

その結果、同じ近代の陶磁器でも、種類によって、①接合作業を徹底して行い、接合後の破片数から最小個体数を推定したものと、②同じように接合作業は徹底して行ったが、個体数の算定は、完形品を基準に重量法に拠ったもの、そして、③接合作業は類型を認識・抽出可能とする程度にとどめ、完形資料を基準に重量から最小個体数を算定したものの3者が生じた。手描きの磁器や陶器をはじめとして、陶磁器の多くが①に相当するが、摺絵中碗は、全体の類型数が多い上、一つの類型の数量が多いものも存在することから、①と②を併用し、白磁湯呑みや硬質陶器については③の方法に拠った。

近代の陶磁器、磁器、土師質・瓦質土器、軟質施釉土器に関しては、材質別に、形態の変異を、各類型の代表例の外形実測図で示し(図26~31、33~39)、陶磁器の文様等の変異については、同様に、類型毎に代表例の写真を示した(図版12~104、117~126)。また、各類型毎の出土傾向については、文様・技法・法量などの属性項目とともに、写真と観察表を組み合わせた形で示した。基本的に各類型について主体となる文様がわかるように撮影した写真1点のみとし、他面の文様、墨書、文字入れ等については、類型化できるものは類型化してその代表例を、個別的なものは個々に別図版としてまとめて示している(図版105~116、127~130)。

なお、設定した細別類型に分別不可能な細片については、大別器種のレベルで集計に加えた。集計の結果については、磁器は大別器種毎に、装飾技法と出土層位との関係が判るよう示し(表11~34)、磁器以外のものは、各大別器種の出土傾向を示した(表35~40)。

本報告では、全国的に見てもこれまで体系的に検討されることのなかった、近代の軍隊が使用した陶磁器の実態を報告することを旨とし、その種類の示示と、量的関係・時間的変遷の検討を優先させ、個々の製品の産地については、一部のものを除いて言及していない。

磁器は、出土した廃物のなかで量的に最も多く、種類も極めて豊富である。分類に当たっては、器種を抽出した上で、それらを細かな部位の形状の違いにより形態分類し、さらに、装飾技法と文様の組み合わせで、細別類型を設定した。

磁器には、次の34の器種が認められた。

大碗(身・蓋)、中碗(身・蓋)、小碗、鉢(身・蓋)、小环、皿、湯呑み、水瀝、合子(身・蓋)、段重(身・蓋)、蓋物(身・蓋)、土瓶(身・蓋)、急須(身・蓋)、醤油注し(身・蓋)、燗德利、猪口、酒杯、湯まし、仏飯器、香炉、花生、カップ、植木鉢、紅猪口、神像、筆洗器、絵具皿、火鉢、灰吹、キセル、配電器具、戸車、取っ手、衛生陶器

これらの器種は、各々、細かな形状の違いから、図26~31のような器形に分類される。なお、鉢の蓋と大碗の蓋、段重と蓋物については、識別困難な資料が多く存在することから、それぞれ、大碗・鉢蓋、段重・蓋物として分類している。

装飾技法は、下地釉と施文技法により、I手描き(吹墨を含む)、II摺絵、III銅版転写、IV型打ち(IVa:陽刻、IVb:陰刻)、V白磁、VIクロム青磁、VII瑠璃釉、Ⅷこげ茶釉、IX深緑釉・オリーブ釉・黒釉、X不明に大別した。大別に当たっては、下地釉による分類を、施文技法分類より優先させている。なお下地釉が同じ場合、手描きと摺絵、手描きと銅版転写、手描きと型打ち技法を併用したものについては、それぞれ、摺絵、銅版転写、型打ちに含めた。

各類型の分類名称は、「中碗D a II56」の様に、アルファベット(器種毎の形状の細別を示す。Zは細別不明。

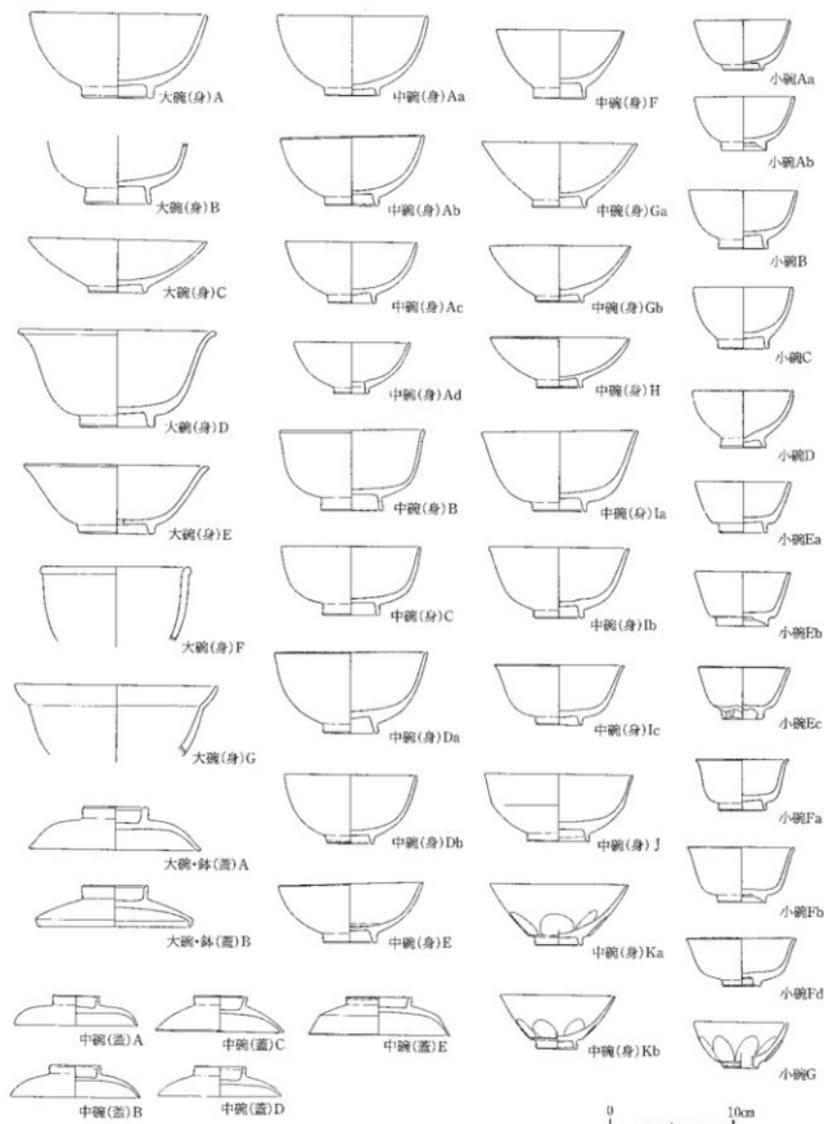


図26 仙台城二の丸跡第12地点近代の磁器器形分類図(1)
 Fig.26 Variations of shapes and proportions of modern porcelains from NM12(1)

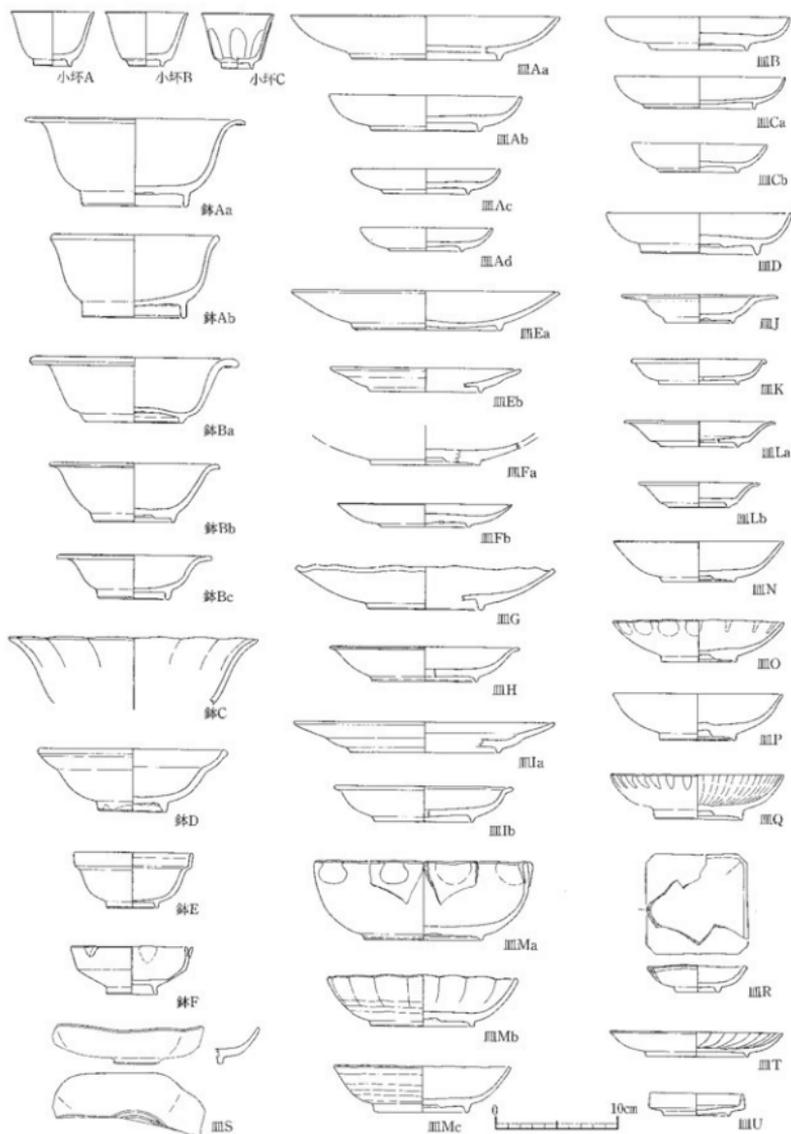


図27 仙台城二の丸跡第12地点近代の磁器器形分類図(2)

Fig.27 Variations of shapes and proportions of modern porcelains from NM12/2)

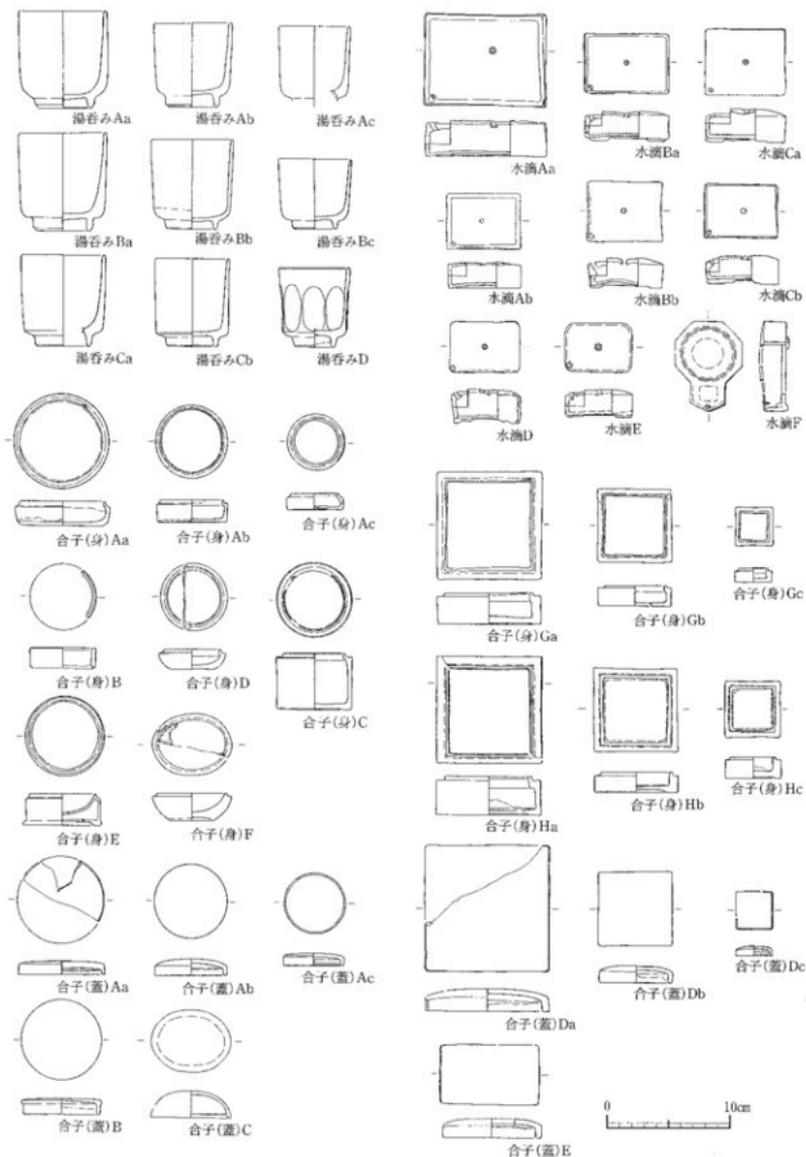


図28 仙台城二の丸跡第12地点近代の磁器器形分類図(3)
 Fig.28 Variations of shapes and proportions of modern porcelains from NM12(3)

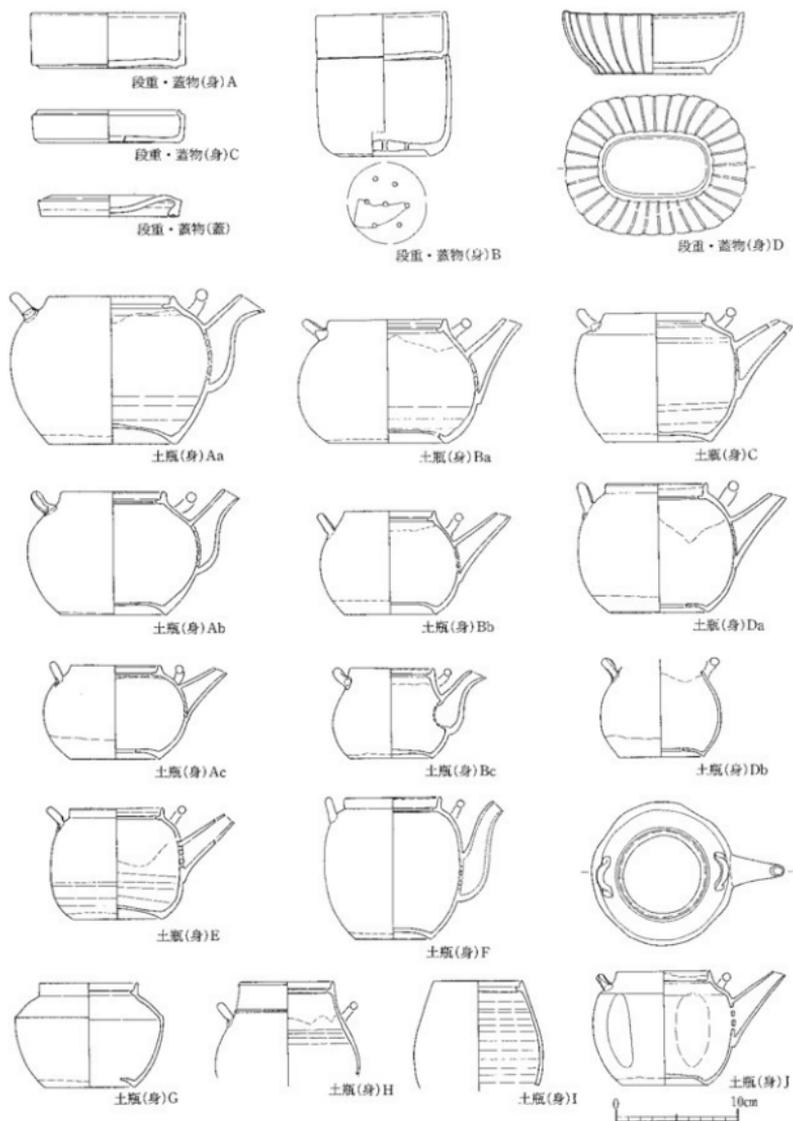


図29 仙台城二の丸跡第12地点近代の磁器器形分類図(4)

Fig.29 Variations of shapes and proportions of modern porcelains from NM12(4)

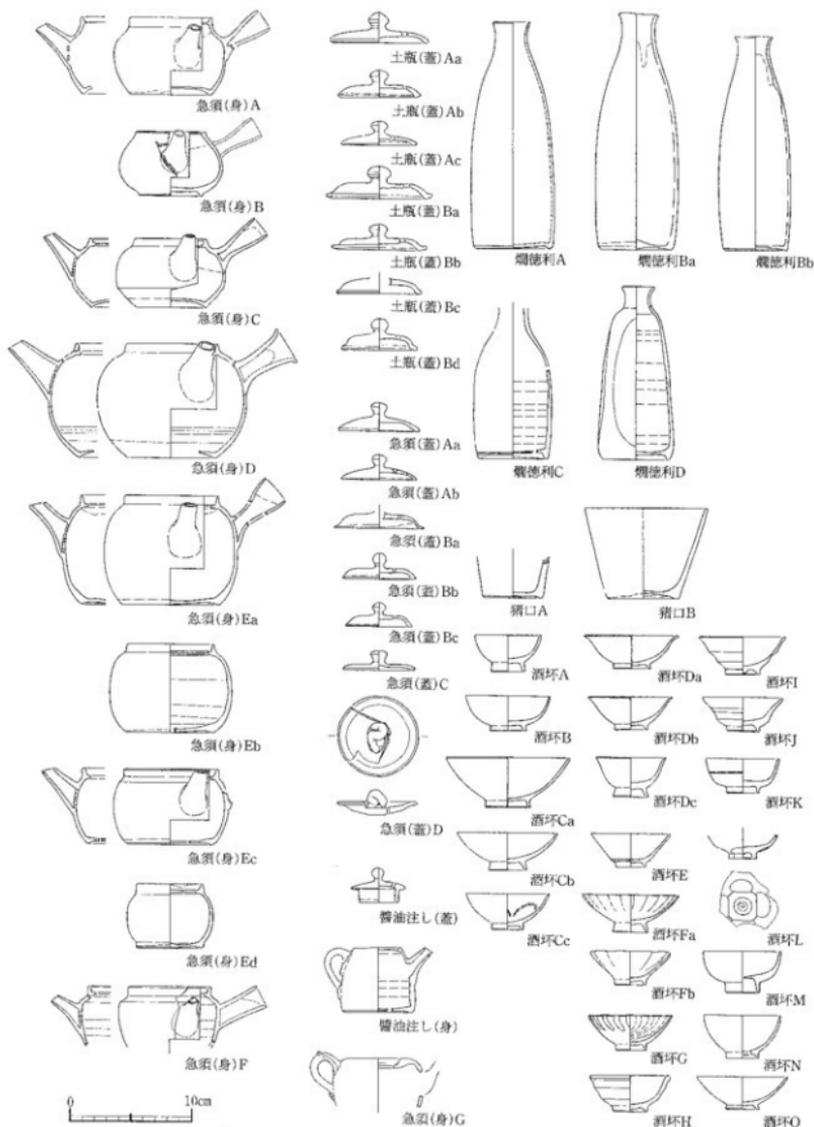


図30 仙台城二の丸跡第12地点近代の磁器器形分類図(5)

Fig.30 Variations of shapes and proportions of modern porcelains from NM12(5)

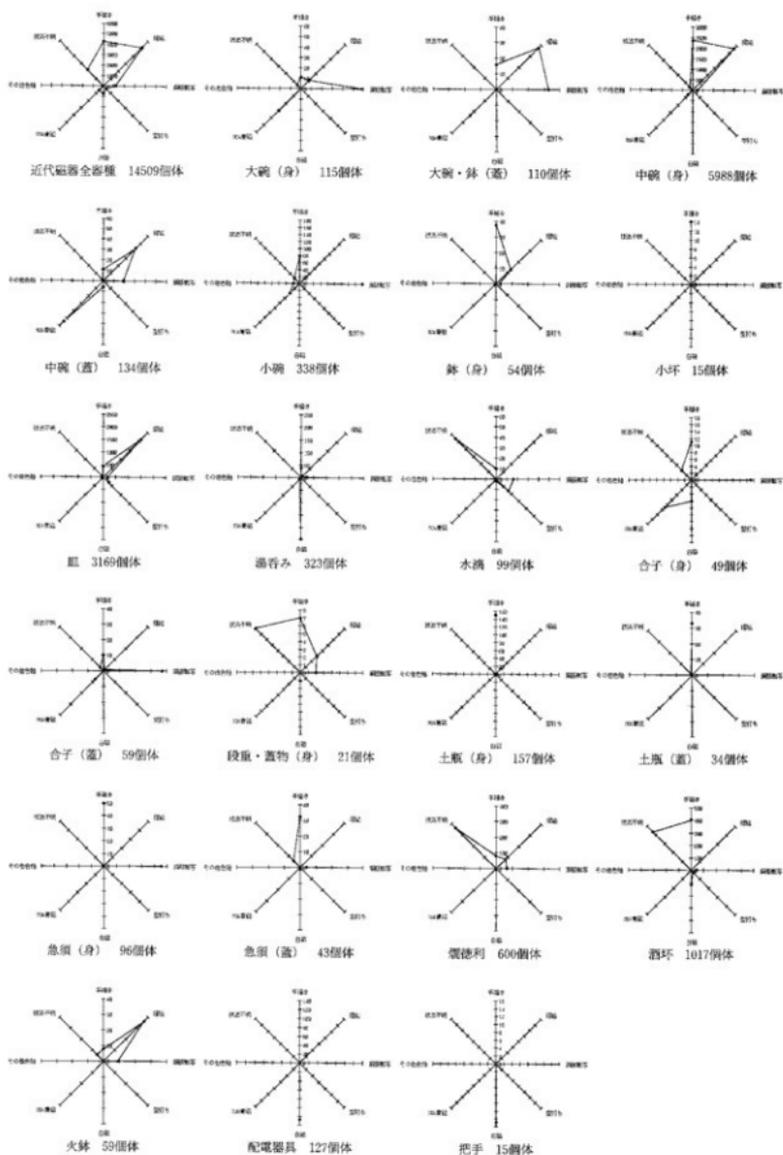


図32 仙台城二の丸跡第12地点近代磁器の裝飾技法
Fig.32 Decoration techniques of modern porcelains from NM12

表10 仙台城二の丸跡第12地点出土近代摺絵磁器文様分類

Tab.10 Design variations of modern stenciled porcelains from NM12

a. 中碗内面文様構成

A類	口縁部に環珞文のみ
B類	口縁部に環珞文+見込みに松竹梅丸文以外の文様
C類	口縁部に環珞文+團縁+見込みに松竹梅丸文
D類	口縁部に環珞文+團縁+見込みに松竹梅丸文以外の文様
E類	口縁部に環珞文+團縁+見込み無文(蛇の目輪割ぎ)
F類	板花文(輪郭線なし)見込み:(1)無文(2)彫3板花(4)松竹梅
G類	板花文(輪郭線なし)團縁+見込み無文(蛇の目輪割ぎ)
H類	板花文(輪郭線あり)見込みに蕊
I類	板花文(輪郭線あり)團縁+見込みに蕊
J類	外面と同文様で全面を埋める
K類	外面と異なる文様で全面を埋める(A~I以外)
L類	見込みにのみ単独文様
M類	外面から連続する文様
N類	口縁部に環珞文ではない文様のみ
O類	無文

b. 皿・M・Mc類外面側面文様

1類	宝尽くし文
2類	経巻文
3類	鳳凰文
4類	菊水文
5類	折枝梅文
6類	折枝菊文A
7類	折枝菊文B
8類	板唐草文
9類	梅?唐草文
10類	牡丹?唐草文
11類	唐草文A
12類	唐草文B
13類	手描き唐草文

このうち小文字は、分量化がある場合に大きい順にa・b・c・dとつけたもので、器形によって各々の示すサイズは異なっている。また、例外として小碗では高台のつくりの違いを示し、各器形に共通する分類となっている。)と、ローマ数字(下地軸・施文技法を示す)、アラビア数字(文様の類型を示す)の組み合わせで示している。図版においては、装飾技法別に各器種を上から列挙した順で配列している。

実際の集計作業は先述の算法により、作業の流れと効率上の都合からグリッド毎・取り上げ毎日に行っており、同一区の一層でも取り上げ日が異なるものは別々に集計し、それらを最終的に層毎にまとめたものが掲載した集計表である。従って多量の遺物が複数日にわたって取り上げられた層の遺物点数は実際よりも多く出ている可能性が高い。観察表に掲載した各細別類型毎の出土個体数についても同様である。

各器種の出土傾向を磁器全体でみると、最も多いのは中碗で41%を占め、次いで皿が22%、酒杯7%、燗徳利4%となり、以下小碗、湯呑み、土瓶が1~2%台で、その他は1%に満たない。

用途別にみれば、おござげに飲食に関わるものとして、食器(大・中碗、皿の大部分、鉢、段重、蓋物)、煎茶器(急須、土瓶、小碗、小杯、湯呑み、湯冷まし)、酒器(燗徳利、酒杯)、洋食器の茶器(カップ、皿の一部)、調味料容器があり、食器が全体の65%、酒器が11%、飲食関係としたもの全体では82%を占めている。その他文房具(合子の多く、水滴、絵具皿、筆洗器)、喫煙具(キセル、灰吹)、暖房具(火鉢)、宗教的用具(神像、仏飯器)、化粧・装身用具(紅猪口、合子の一部)、飾りもの(花生)、園芸用具(植木鉢)、建具(戸車、取っ手、衛生陶器)や配電器具まで多岐にわたっている。

各器種の比率を層位的にみると、3b層段階までは中碗と皿の合計が食器・煎茶器・酒器全体の8~9割を占め、中碗が皿の1.5~2.5倍程度であるが、3a層段階になると中碗+皿が6割を切り、中碗:皿もそれほど差がなくなっている。3a層段階では湯呑み・酒杯の比率が高くなっていることが、3b層以下とは異なった様相である。また、いずれも煎茶器と推定される小碗+小杯と湯呑みの比率をみると、3d層以下では前者が多いのに対し、3c層以上になると逆転して湯呑みが多くなる傾向がある。

図32は推定最小個体数が10個体以上の22の器種に関して、装飾技法別の出現頻度を調べたもので、器種によって用いられる装飾技法に著しい違いが認められることがわかる。鉢、小杯、酒杯、段重・蓋物、土瓶といった器種は、手描きによる文様が卓越する。皿と火鉢は、摺絵による文様が日立つ。大碗、小碗、合子の文様には、銅版転写技法が多用されている。型打ちは、皿と水滴に使われている。湯呑みは白磁が圧倒的に多く、配電器具と

把手は全て白磁である。中碗は手描きと摺絵の両者が目立つが、蓋を伴うものに限ると、摺絵とクロム青磁が多い。合子は、手描きとクロム青磁が多い。

以下では個々の細別器形・文様などについていくつか指摘できる点をまとめておきたい。

大碗Fは全体が不明であるが、内面に星文があることから陸軍のために作られたものである。同様の性格が考えられる後述の硬陶と比較すると、玉縁口縁である、星文が内面に付けられる、星文の影部分の位置が異なるなど、むしろ共通しない点が多い。

中碗は全体で見ると、I cが最も多く、G b、A cと続き、この3者で63%を占める。層別的にみても3者が主体である点は変化がないが、3 d層以下ではI cの比率が高く、3 c層以上ではA cの比率が高い傾向がある。

装飾技法をみるとI cでは手描きが圧倒的多数を占め、I c I 1～53のように似通った意匠のものが多量にある。A cとG bでは摺絵が主体である。各技法が用いられる器形数をみると、摺絵が13類型と最も多様な器形に用いられており、手描き10類型、銅版7類型、クロム青磁はG b 1類型のみに限定されている。

摺絵中碗の外表面文様は多形で、今回掲載しただけでも268類型を数える。腰部に区切りを設け、高台との間に異なる文様を巡らすものが多く、この文様にも図版112-6～12に示したような7種類がある。1～4類は直線あるいは直線と鈎形の組み合わせで構成されるもので、5～7類は全く異なった個別的な文様である。これらについては観察表に腰部文様として欄を設けて記載した。内面文様にも意外と多様性がある。観察表では、記述を簡略にしかつ比較しやすくするため文様構成のパターンからA～Oの15類に大別(表10-a)し、構成要素で細別される場合はアラビア数字を用いて、それらの組み合わせで示している(図版109-2～111-3、O類は無文なので写真は省略)。A～E類は口縁部に環珞文が巡るもので、環珞文には20種類のパターンが認められる(図版111-4～112-5)。1～11類はU・W・X・Y形等と直線・曲線の組み合わせで構成されるもの、12～20類は七宝文様を組み込むものである。A～E類については、用いられている環珞文の類型番号を組み合わせ、A 1類のように記載している。F類は見込みの違いから1～4類に細別している。

外面文様は、小紋で全体を埋めたなかに各種の具象文様を配するものが大部分である。その意匠としては伝統的に好まれてきた吉祥文様的なものが目立つ。松、牡丹、菊、桜、松竹梅などの植物のモチーフか植物と鳥・唐獅子、蝶などが組み合わせられるものが主体で、まれに人物、家紋、文字、故事、軍艦等がみられる。内面の文様構成はA・C類の2タイプが多数を占める。器形によっては用いられる内面文様構成には明らかな傾向があり、器形G類にはA類、器形A類にはC類が主体で、器形B類にはO類、器形E類にはE・G類のみである。口縁部環珞文・腰部文様はともに1類が最も一般的に用いられている。

文様の描線にも精粗の違いがあり、細密な一群が器形B類に目立つ。見込み蛇の目軸刺ぎは器形E類にまともって認められるほかは、ごくまれである。器形E類は、内外面の文様表現においても特徴的で特定の窯か産地に対応できる可能性がある。

皿類全体ではM bが群を抜いて多量に出土している。次いでNが多いが、M bの半分以下である。その他A d、C b、F b、A cといった小型で浅いタイプを合計するとNよりやや少ない程度の量となる。

層別的にみると3 d層以下ではM bとNの差はそれほど大きくないが、3 c層以上ではNが減り、M bが圧倒的多数をしめている。M b・M cは大部分が摺絵で、摺絵のものは外面文様に共通性があり、表10-b、図版113-9～114-7のように分類している。Nは手描きの特定の文様のもの(N 1)が9割を占め、ほとんど同類が見込みのみ摺絵の技法を併用するものがごくわずかに存在している(N II 1・2)。L a・L b・O・P・Q・Rは型打ちのみ、Uは白磁のみである。A c・A d・B・Fも摺絵が多く、C bでは銅版転写が主体である。クロム青磁はAにのみ認められた。

Tは洋食器の受皿、ソーサーで、その他の皿とは異なる性格のものである。今回カップも出土しているが直接組み合わせるものは確認されていない。I aも洋食器であろう。

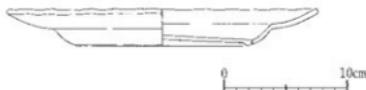


図33 仙台城二の丸跡第12地点近代の軟質磁器器形分類図

Fig.33 Variations of shapes and proportions of modern stone china from NM12

湯呑みのうち、白磁湯呑みにのみ、文字が青色で上絵付けされた例が認められる。内容には個人名（姓のみで階級名がつくものつかないもの、フルネームのものがある）、(幅) 酒保、部屋名がある（図版129）。器のサイズとの対応をみると、「(幅) 酒保」は最も小さいものに限られ、それ以外は大か中のもののみである。

酒坏には酒の商標、貸座敷名、商店名、個人名、連隊名、除隊記念、御大礼記念、会合名、酒保などの文字が上絵付けされたものが目立つ。

上絵付け・墨書の両者を通じて文字と器種の対応をみると、「将校・下士集会所」の類がみられるのは土瓶と白磁湯呑み（大・中型）で、「(幅) 酒保」は酒坏・燗德利と白磁湯呑み（小型）となる。

合子には朱が付着するものがあり、朱肉入れとして使用されたものが多いと考えられる。その他商品名のプリントから鎌倉磨器とわかるものがある。身のBは蓋受けがなく、蓋の方にかえりを有するものと考えられるが、これに対応する蓋は検出されていない。身のGとHは平底か上げ底かの違いで分けたものである。

③ 軟質磁器（図33、図版126-12、表40）

軟質磁器としたものは、Blue and white transfer-printed potteryと呼ばれる、銅版転写技法を用いてヨーロッパで作られた軟質磁器の代表的な作例である、Willow Patternの輪花緑の中皿である。ヨーロッパから輸入された銅版転写磁器は、岡泰正氏によって研究の先鞭が付けられ、幕末から明治初期にかけて、イギリス・オランダ両国から輸入されたものが多いことが指摘されている（岡1988、1993、1995）。本資料は、西区3d層から出土しており、幕末・明治初期に輸入されたものが、炭酸による補修を受け、明治30年代まで使われていた可能性が高い。

④ 陶器（図34～37、図版117～125・128・130、表35～37）

近代の陶器には、次の29の器種が認められた。

中碗（身・蓋）、小碗、小鉢、皿、湯呑み、段重、土瓶（身・蓋）、急須（身・蓋）、德利、酒坏、大壺、中甕、小甕、土鍋（身）、行平鍋（身・蓋）、捏鉢、片口鉢、搦鉢、火鉢、火入、灯明皿、灯明受皿、乗燭、油德利、豆漿、小壺、散蓮華、花生、植木鉢

これらの器種は、各々、細かな形状の違いから、図34～37の様な器形に分類される。

産地別に見た場合、大堀相馬焼が圧倒的に多く、埴焼がこれに次ぐ。それ以外では、万古系、淡路珉平系、瀬戸、相馬馬焼、益子焼があるが、量は少ない。小碗、湯呑み、土瓶といった煎茶器は大部分が大堀相馬焼が占められ、甕、捏鉢、搦鉢、火鉢などの大型の器種は埴焼が多い。

搦鉢A類（図版123-11）と類似するものが、東北歴史資料館で開催された企画展「仙台・埴のやきもの」で、仙台市通町佐藤魚店で蒲鉾製作に使用した搦鉢として紹介されている（東北歴史資料館1995）。

大堀相馬焼の煎茶器は、土瓶も湯呑みも、定型化した数種類の製品が、各々複数出土しており、組で購入された可能性もある。技術的には、いわゆる「青ひび」釉と、水金による走馬文が多用される傾向にある。水金による駒絵は、明治16年（1883年）に、東京の問屋の宮内松五郎の勧めで始まったと伝えられている（大堀相馬焼協同組合1988）。大堀相馬焼の土瓶のなかで最も出土量の多い土瓶（身）C類（図版119-4～7）は、俗に「安心型土瓶」と呼ばれるもので、明治24年（1892年）に井手村（現浪江町井手）の陶工志實定之進により創始されたといわれる（大堀相馬焼協同組合前掲）。土瓶（身）C類は、大きさの違いからC a～C dの4類型に細別され、

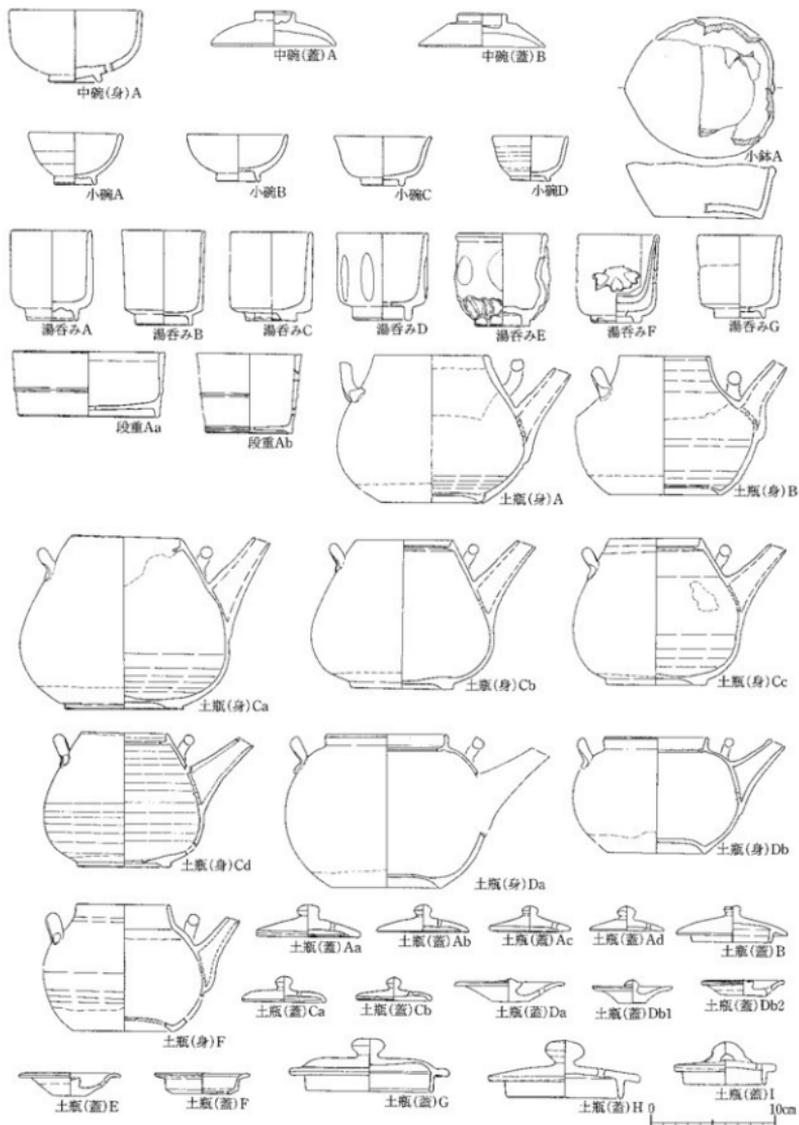


図34 仙台城二の丸跡第12地点近代の陶器器形分類図1)

Fig.34 Variations of shapes and proportions of modern glazed ceramics from NMI2(1)

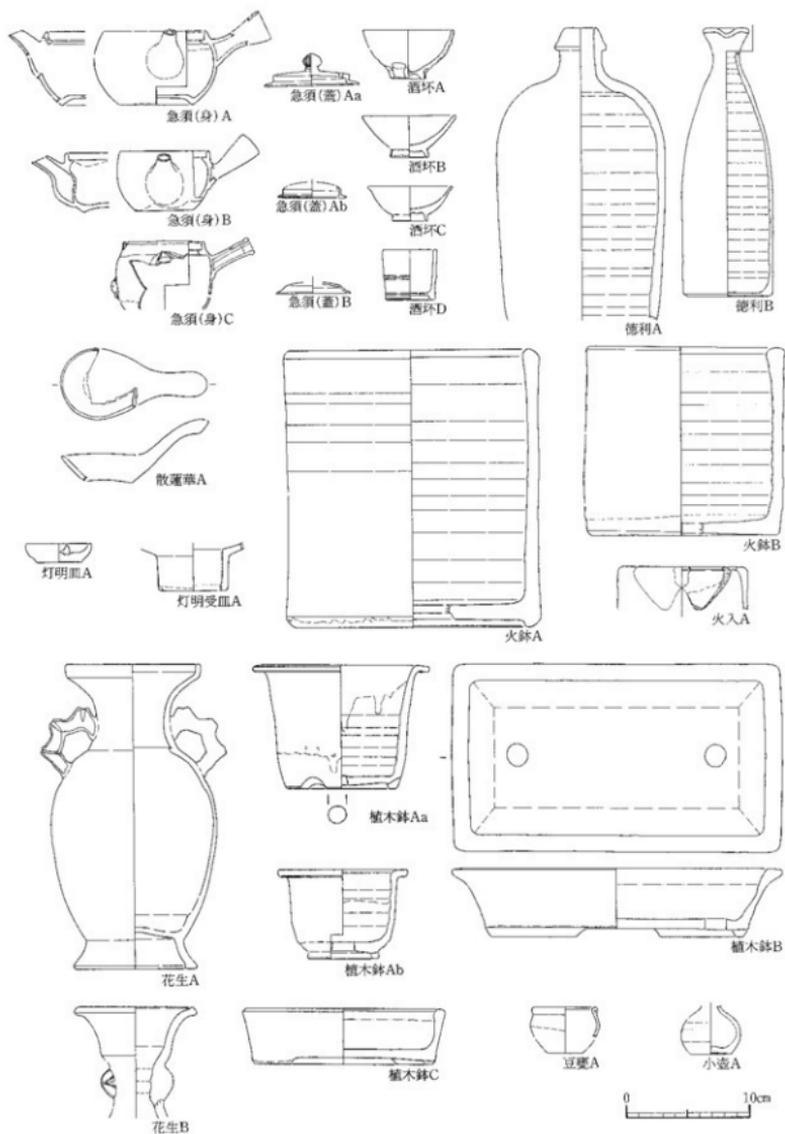


図35 仙台城二の丸跡第12地点近代の陶器器形分類図②

Fig.35 Variations of shapes and proportions of modern glazed ceramics from NM12(2)

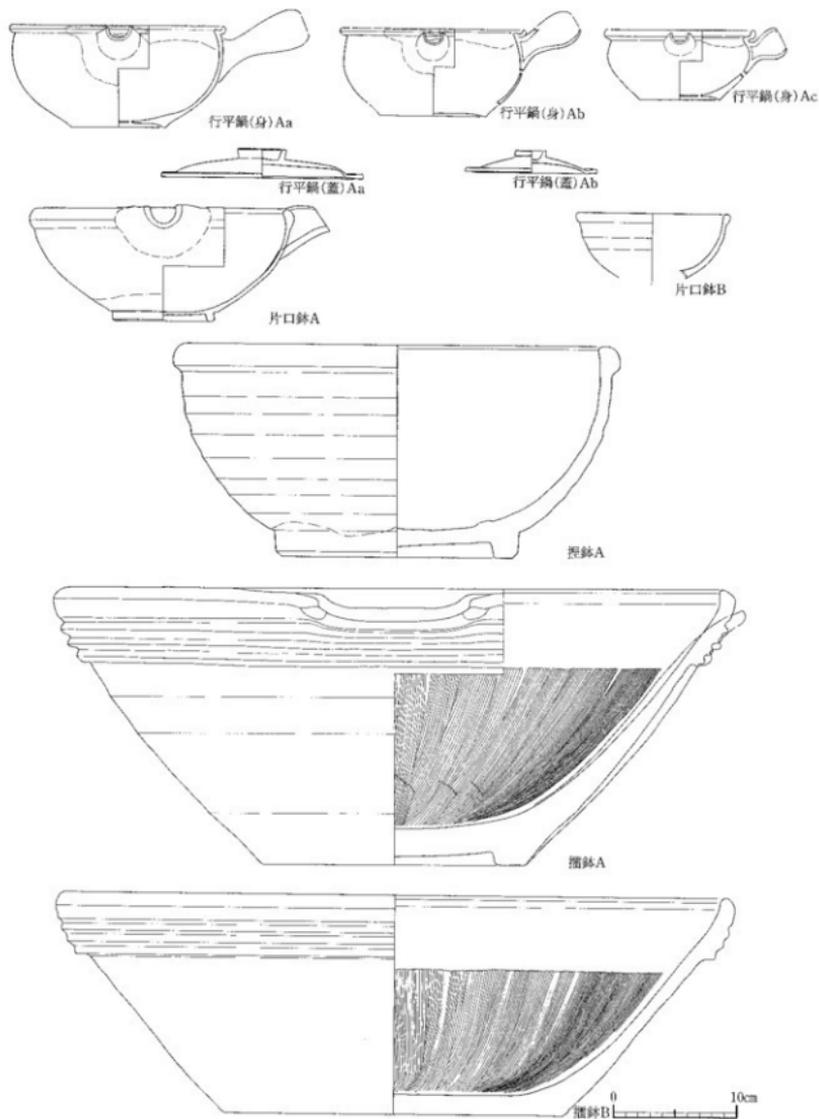


図36 仙台城二の丸跡第12地点近代の陶器器形分類図(3)

Fig.36 Variations of shapes and proportions of modern glazed ceramics from NM12(3)

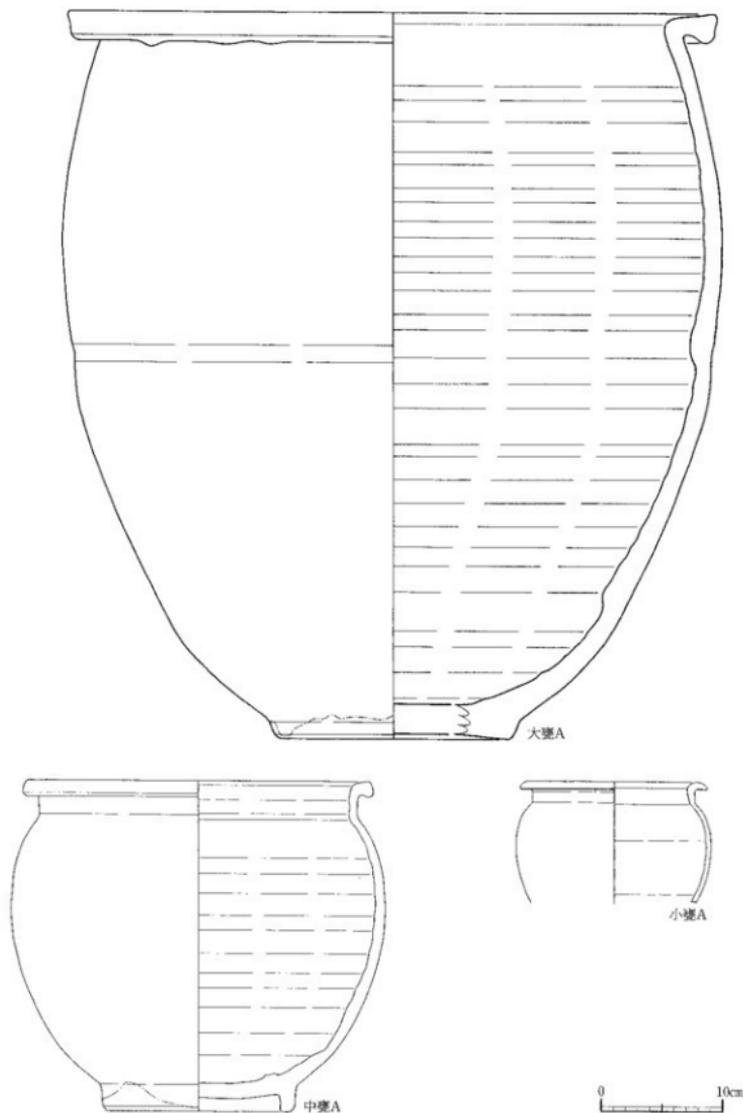


図37 仙台城二の丸跡第12地点近代の陶器器形分類図(4)

Fig.37 Variations of shapes and proportions of modern glazed ceramics from NM12(4)

本地点ではともに西区3d層からの出土量が多い。

益子焼は山水土瓶が出土している（図版119-10、121-3・4）。この土瓶と同種のもは、益子町大西国右衛門窯跡出土資料（大川清編1989）のなかに認められる。

徳利A類（図版122-3）は、瀬戸産のいわゆる通い徳利で、「浅見酒店」・「内ヶ崎」といった、地元仙台の酒造店名が記されている。瀬戸産の陶器としては、他に火鉢（図版123-7）が確認できる。

⑤ 炬器（図38、図版125・126・128、表38）

炬器には、湯呑み、急須（身・蓋）、土瓶（身・蓋）、植木鉢、五徳が認められた。急須と植木鉢は、形状の異なるものが複数存在する。煎茶器の湯呑み、急須は、全て万古系である。湯呑み（図版125-4）の高台内には、「□陶森製」銘が認められ（図版128-28）、森有節によって始められた、伊勢桑名の「有節萬古」の製造元である森家の製品の可能性がある。急須（身）B類には、文様の異なるB1（図版125-7）とB2（図版125-8）が存在するが、どちらも把手の基部に刻印の「萬古」銘が認められる（図版128-29・30）。急須（身）A類（図版125-5・6）には、刻印は認められないが、把手部上面に桜花状の透かしが施される点などにB類との共通性が窺える。

⑥ 土師質土器・瓦質土器・軟質施軸土器（図39、図版126、表39・40）

近代の土師質土器には、植木鉢、焜炉、さなの3器種が認められた。植木鉢（図版126-9～11）は、細かな形状の違いから、A（脚縁桶形）、B（脚反桶形）、C（脚付直立形）の3タイプに細分される。

焜炉（図版126-7）は推定9個体出土したが、形態的には全て同じで、七厘と考えられる。全体形状の判る資料がないため、何個体かの破片から全体像を復元し、実測図を作成した（図39）。いずれも、外見上は、やや上に開く円筒状を呈し、底部は3足となる。体部下半には、灰の取り出し口用に、隅丸長方形の大きな窓が1箇所開けられている。窓のほぼ真上にあたる部分の口縁部は、焙烙・行平鍋などの調理具の柄が架けられるよう、抉られている。内側は、二重構造になっており、入れ子状に漏斗形の内部施設が存在する。内部施設は、口縁部と底部の2箇所でのみ外側と接している。内部施設には、屈曲部より上に風口用の小円窓が5箇所、土瓶や焙烙を架けるための突起が3箇所、屈曲部より下には、灰取り出し口用の方形の窓が1箇所設けられている。風口用の小円窓は、内部施設と外部施設を合体した後に、内側から鋭利な刃物を用いて穿けている。外面は、口縁部横方向、体部縦方向に簞目をほどこすものが一般的であるが、口縁部に雷状のスタンプ文を施したのも認められる。屈曲部のせた土師質の「さな」の上で燃料が焚かれ、灰となった燃えかすはさなの穴を通して下に落ちる構造になっている。そのため、燃料の燃えかす落ちる焜炉の底面は、二次的に被熱を受けた結果、円形に変色している。江戸・東京遺跡から出土する焜炉（七厘）とは、細部に違いが認められることから、地元、おそらく仙台市内の堤で作られた可能性が高いと考えられる。出土層位から、明治30年代前後に製作された可能性が高いと考えられる。

近代の瓦質土器としては、火鉢が7点出土しているが、いずれも細片のため、実測したものはない。

近代の軟質施軸土器には、焙烙と羽釜？が出土している。焙烙は円筒形の把手が1箇所つく「フライパン」形を呈する。羽釜？としたものは、細片のため全体の形は不明であるが、内面全面および外面の体部上半部分に透明の鉛釉が掛けられている。どちらも仙台市内の堤で作られたものであろう。

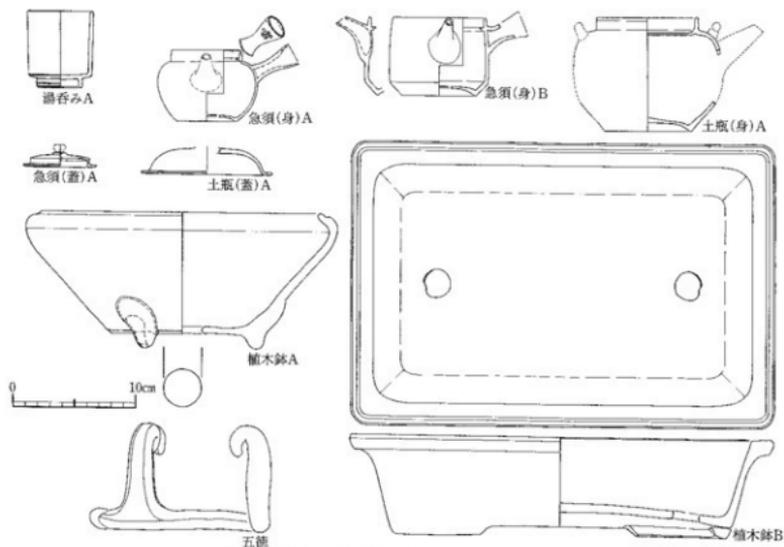


図38 仙台城二の丸跡第12地点近代の炆器器形分類図

Fig.38 Variations of shapes and proportions of modern unglazed hard-fired ceramics from NM12

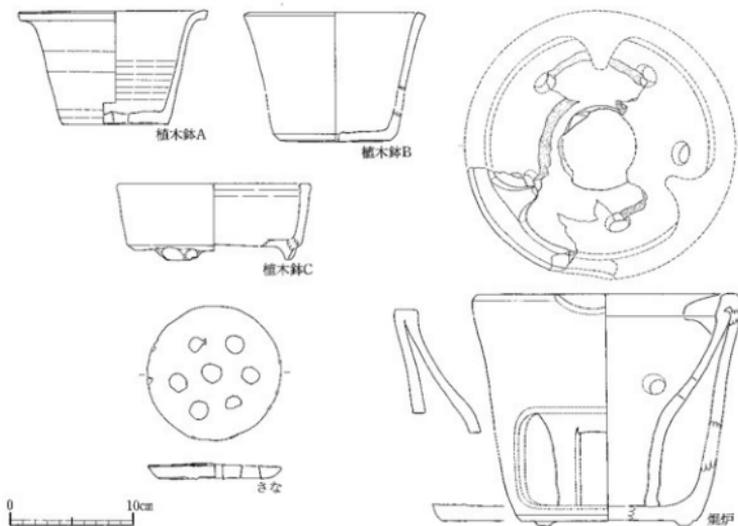


図39 仙台城二の丸跡第12地点近代の土師質土器器形分類図

Fig.39 Variations of shapes and proportions of modern ceramics from NM12

⑦ 硬質陶器 (図40、表41、図版131)

材質としては軟質磁器と同様のものであるが、星文がほとんどに付けられ、軍隊用に製作されたことが明らかであったため、別に取り扱った。銅版転写で「硬質陶器」と記されているものがあり、それを省略したと考えられる「硬陶」と付けられているものもある。そのため、今回の報告にあたっては、この硬質陶器という名称をそのまま使用した。皿の底面に、NとYを組み合わせた模様とともに、「THE IRON STONE CHINA Nippon koshitsutoki co.ltd Kanazawa」との刻印が認められるものがあり、明治41年(1908年)に金沢で設立された、日本硬質陶器株式会社の製品であることが判明する(内藤蓮1936)。同じくNとYを組み合わせた文様をもつものは、同社製品と考えると良いだろう。

層位関係に不確定な所を残している東区を除くと、圧倒的多数が3 a層から出土している。西区3 d層やそれ以下の層序からも出土しているが、ごくわずかで、混入の可能性もある。

形態的には変異に乏しく、しかも多量に出土しており、個体識別は事実上不可能であったため、器種分類後、重量を測定し、個体数算出は重量法によった。したがって、接合は完形資料を確保することを目的とし、主要な資料に留め、完形資料の重量の平均値によって、出土重量を割って個体数を算出した。ただし、大型碗・大型碗蓋・蓋については、出土量が少なく、完形資料が無かったため、個体識別を行って個体数を算定した。不明としたものは、器種分類できない細片で、これは重量のみを示した。出土総重量は183.6kgにものぼる。

確認された器種は、碗・把手付碗・鉢・皿・大型碗・大型碗蓋・蓋の7種類である。それぞれの中での形態・法量の変異は極めて小さく、規格品と考えると良い。ほとんどの資料が、星文を付けており、軍隊専用で作られた規格品の食器である。

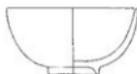
器種ごとの個体数を比較すると、碗・把手付碗・鉢の3器種の数が他より飛び抜けて多い。鉢の個体数がやや少ないが、鉢が1点あたりの重さが最も重く、個体数が少ない目に出ている可能性も考えられる。したがって、この3器種が、1人に1点ずつ使われた食器と考えると良いであろう。それに対して、皿の個体数は4分の1前後の数である。複数人に1点の割合で使われたものであろう。大型碗と大型碗蓋は、大ききから見て組み合わせるものと考えられる。個体数は極めて少なく、ごく少数が使用されたものと考えられる。特別の用途が推定されるであろう。蓋としたものは、大ききから見ると碗に組み合わせると思われるが、文様の様相が異なる上、個体数が大幅に異なることから、今回は確認されなかった別のものに組み合わせるのであろう。

各器種の細分にあたっては、形態・法量での差がほとんど無いため、文様の違いによって区分した。皿と蓋に見られる園線、碗特2類の「飯幼」の字と、鉢特3類の星文が手描きであることと、鉢5類見込みと皿A2類・B2類の底面に施されている刻印以外の文様は、全て銅版転写である。

碗・把手付碗・鉢については、高台内もしくは底面の文様に、無文のものも含めると4種類認められる。一つは、茶書風の「硬陶」との字を、方形の中に入れるものである。もう一つは、NとYの字を組み合わせたマークである。これには、マークの上に「硬質陶器」との字が入るものと、マークだけのものがある。このNとYを組み合わせるモチーフを持つものは、他の銅版転写の文様が青色なのとは異なり、薄緑から緑色、あるいは褐色を呈する。見込の文様には、円の中にII Tとの字を入れるものと、NとYを組み合わせた刻印を施すもの、無文のもの3種類がある。円内に入っているII Tという文字は、使用した部隊を意味する可能性が考えられる。IIは第2師団のことであろうか。Tについては、輜重隊(a transport corps)の頭文字を意味する可能性もある。碗特1類と鉢特1類には、側面に「工二」との文様を付けているものがあり、これは工兵隊を示すものであろう。部隊ごとに入れる文様を変えて、発注していた可能性が考えられるであろう。これら以外に、特殊な文様が3種類ある。その中に、高台内に、星文の上に「飯幼」と書くものがあり、これは大阪幼年学校のことであろう。

皿については、内面に星文を施すものと、星文が無く縁に園線が施されるものに大別し、見込みと底面の文様の違いで細別した。底面の文様は、無文のものを含めて3種類、内面は碗などと同じ円にII Tを入れるものの2

碗



口径: 10.6~11.1cm、平均10.8cm
 底径: 4.0~4.2cm、平均4.1cm
 器高: 5.0~5.7cm、平均5.4cm
 重量: 168~183g、平均174g



碗(特2類以外)、把手付碗、鉢
 (特3類以外・特1類は不明)、
 大型碗の体部外面
 皿A類の内面

	1類	2a類	2b類	3類	4a類	4b類	特1類	特2類
文様	高台内 	高台内 見込無文	高台内 	高台内 見込無文	高台内 見込無文	高台内 見込無文	体部外面 の星印 五三	幼版 星印
底面形状								

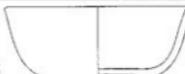
把手付碗



口径: 10.4~10.8cm、平均10.5cm
 底径: 5.5~6.1cm、平均5.8cm
 器高: 5.3~5.6cm、平均5.5cm
 重量: 188~220g、平均203g

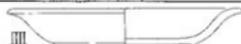
	1類	2a類	2b類	4a類	4b類
文様	底面 	底面 見込無文	底面 	底面 見込無文	底面 見込無文
底面形状					

鉢



口径: 15.2~15.8cm、平均15.5cm
 底径: 7.5~8.4cm、平均8.0cm
 器高: 5.8~6.3cm、平均6.1cm
 重量: 352~456g、平均402g

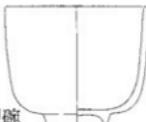
	1類	2a類	2b類	3類	4a類
文様	底面 	底面 見込無文	底面 	底面 見込無文	底面 見込無文
底面形状					
文様	4b類 底面 見込無文	5類 底面 見込無文	特1類 体部外面 の星印 五三	特3類 体部外面 の星印	
底面形状			不明	不明	



口径: 19.0~19.3cm、平均19.1cm
 底径: 10.9~11.5cm、平均11.2cm
 器高: 2.9~3.1cm、平均3.0cm
 重量: 354~378g、平均366g

	A1類	A2類	B2類	B4a類	B4b類
文様	内面 見込無文	内面 見込無文	内面 見込無文	内面 見込無文	内面 見込無文
底面形状					

大型碗



口径: 11.7cm
 底径: 5.1cm
 器高: 9.6cm
 見込無文
 高台内

大型碗蓋



口径: 13.4cm つまみ径: 4.8cm 器高: 2.8cm
 内外面・つまみ内無文



口径: 10.1cm 器高: 2.2cm
 つまみ径: 3.7cm
 内面・つまみ内無文
 外面無文

※器形は縮尺1/4・文様模式図は縮尺1/2

図40 仙台城二の丸跡第12地点硬質陶器分類図

Fig.40 Variations of modern "Iron stone china" from NM12

種類がある。

これらの文様の組合せで、碗は8類型、把手付碗は5類型、鉢は9類型、皿は5類型が認められた。大型碗・大型碗蓋・蓋については、1類型のみが確認された(図40)。把手付碗と鉢については、底部の形状に細かな差があったため、この部分の形態を示した図を、分類図に合わせて掲載した。

文様での細分ごとの出土量は、重量法を取ったこともあって、算出してない。したがって細かな検討はできないが、いずれの器種においても、「硬陶」との字を方形に入れる1類が過半数を占めている。特殊なものは、全て1点ずつの出土で、鉢5類も1点のみ確認された。把手付碗の底面に、線書きが認められるものがあるが、何で書いているか判らない。肉眼観察では、金属のような硬い物で強くこすったように見える。

⑧ ガラス製品(図41、表43・44、図版132~141)

ガラス製品は、破片になると個体識別が極めて困難であった。薄いものでは、細片化が著しい。調査時に壊れてしまった資料も少なくない。とりわけ板ガラス・ビール瓶については、個体識別がほとんど不可能で、しかも膨大な量が出土していたため、接合は行わなかった。それ以外の資料については、可能な限り接合に努めたが、接合し得ず、細かな分類が不可能な破片が多く残る結果となった。そのため、板ガラス・照明具の傘・火屋・栓以外は、色によって大別した。透明のものは、さらにラムネ瓶・酒瓶・小型瓶類・その他の容器・容器以外に分けた。このそれぞれについて、重量を集計した。出土総重量は200kgである。さらに、口縁部と底部を利用して、最小個体数を算出した。但し、ビール瓶や緑色瓶については、王冠栓とコルク栓量比を見るために、底部と口縁部を別々に集計した。

板ガラスは、大多数が透明なもので、磨りガラスはほとんど含まれていない。接合していないこともあり、大きさが判るような資料は無い。

照明具の傘としたものは、ランプや電球の傘として使われたと考えられるものである。乳白色のものがほとんどであるが、透明なもの、透明なもの内側に乳白色のものを貼り合わせたものも少ないが存在する。水色に近い、薄い青色のものも、わずかな量ではあるが、確認できた。形態は、円錐状に開くだけの単純な形態のものと、上半部が半球形で、下半部が大きく開くものが多い。縁の部分を細かく折り曲げて、花弁状にしたものもあり、縁には赤色ガラスが付けられている。また、球形を呈するものが1点だけ認められる。座敷ランプや台ランプという、置く照明具に使われたものであろう。

火屋は全て透明なガラスで作られている。上端の縁近くの内面に、刻印を有するものがある。他のガラスの刻印は、全て型による陽刻であるが、この火屋の刻印は陰刻で、制作時のまだ固まっていない段階に、挟み込むようにして付けられたものとおもわれ、逆字になっているものが多い。

ビール瓶の多数を占めるコルク栓のものは、形態的にはワインボトルとほとんど変わらない。そのため濃い褐色のものをビール瓶として分類した。わずかに緑色がかっているものも少数あり、どちらに含めるか苦慮したが、今回はビール瓶に含めている。法量では大小2大別できる。頸部がくびれて肩がはるものと、頸部のくびれが小さく肩のものがあがるが、全体的特徴が判明する資料が少なく、底部や口縁部形状の分類との対応関係は明確にできなかった。

口縁部だけ残っている資料では、大小の区別がつきがたいので、口縁部はコルク栓と王冠栓に分けて、大小の別なく集計した。コルク栓は3d層で最も多く出土しているのに対して、王冠栓は層位関係が不確かな東区3d層を除くと、3層と3a層からのみ出土している。王冠栓は明治27年(1894年)に、ロンドン・クラウン・コーク会社によって発明された。日本のビール製造会社における王冠栓の使用は、大日本麦酒株式会社で最初で、明治40年(1907年)から使用している(大日本麦酒株式会社1936)。麒麟麦酒株式会社では、明治45年(1912年)から王冠栓へ転換している(麒麟麦酒株式会社1957)。3d層は日露戦争前後と考えられ、それより上の3a層・3b層・3c層は第一次世界大戦前後と考えられることから、このようなコルク栓が少なくなり、王冠栓へ移り変

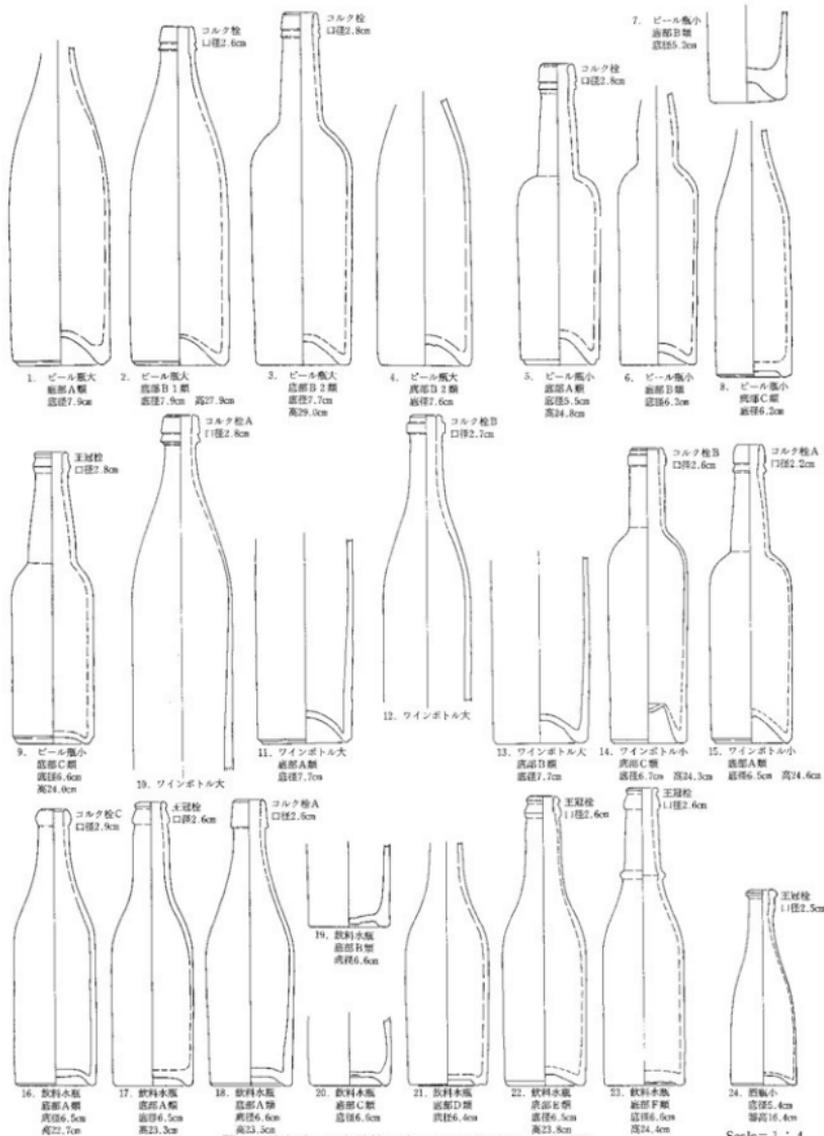


図41 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス瓶分類図

Fig.41 Variations of shapes and proportions of modern glass bottles from NMI2

Scale = 1 : 4

わっていく様子は、王冠栓が採用されて広まっていく経過に対応していると言える。

ビール瓶の底部は、大小それぞれで、形態によって細分した。すなわち、ワインボトル同様の上げ底で、体部の最下端に明確な段が付くものをA類とした。A類同様に上げ底で、体部下端がわずかに窪むか、あるいは段や窪みが無いものをB類とした。本来は、段や窪みのまったく無いものを別に集計すべきであったが、この種のものの数が少なく、当初はその存在に気づかずに、明確な段があるものとそうでないものに分けて作業を進めた結果、区分できなくなってしまった。さらに、A類・B類のような上げ底にならず、底面から少し窪んで、そこが平坦になっているC類がある。C類は小型のものに限られている。

ビール瓶には2点だけであるが、文字が認められるものがある。一つは、3層出土の、型による陽刻で文字を表すもので、キリンビールの瓶である。もう一点は、3層上面清掃で出土した、字の部分を磨りガラス状にして表すもので、大日本麦酒の瓶である。大日本麦酒株式会社は、明治39年(1906年)に、日本麦酒・札幌麦酒・大阪麦酒の3社が合同して設立されたものである。

緑色ガラス瓶としたものには、ワインボトルと飲料水の瓶と思われるものがある。

ワインボトルは、3層で集中して出土している。法量では、大小に分けられる。底部は大小の別で集計したが、小型のものには、底部の上げ底の窪み方で、A～C類に細分できる。口縁部は、ワインボトルと断定できる資料では、全てコルク栓である。しかし、口縁部だけしか残っていない資料については、ワインボトルか飲料水瓶か区別ができな資料も多く、両者を合わせて集計した。コルク栓と王冠栓に大別でき、コルク栓のものは形態からA～C類に細分した。王冠栓のものが、1点IIb期の3号溝から出土しているが、これは混入か誤認の可能性が残る。

飲料水瓶の底部形状は、A～F類に分けた。全体が判明する資料では、同じ底部形状A類のものでも、口縁部はコルク栓A類・同C類・王冠栓のもの3種類があり、底部形状と口縁部形状が対応するわけではない。F類は、底面に商標と「三ツ矢」との文字を表すもので、三ツ矢サイダーの瓶であろう。

透明ガラスとしたものには、若干の色が付いているものも含まれている。原材料中の不純物の量によって、ガラスの発色は変化する。今回の資料のなかにも、薄い緑色から薄い褐色を呈する資料が多く、これは原材料中の鉄分の影響によるものと思われる。一方、鉄分の消色のために入れるマンガンの量が多すぎると、黒っぽくなる。このような薄い色が付いているものでも、本来透明なガラスを志向したと推定できるものは、透明ガラスに含めている。また、ラムネ瓶などでは、薄い水色を呈するものもあるが、これも透明ガラスに含めて集計した。

ラムネ瓶としたものは、形態からそのように推定できるものをここに集計したため、体部破片では認識できなかった資料も多いと推定される。型による陽刻が認められる資料を提示した。図版134-1は、仙台浅見支店との陽刻があり、これは現在の酒造会社である株式会社ノ蔵の前身の一つである、浅見酒造のものとして推定される。図版134-2には「GULASS FACTORY YAMATAME OSAKA JAPAN」とあるが、これは「日本近世産業史第四編硝子工業」にその名前が見える、大阪市北区興力町の瓶製造業者である山元為蔵のことであると思われる(大日本窯業協会編1915)。図版134-3には「MANUFACTURE BY M.KIHARA OSAKA JAPAN」とあり、これは同書に名前が見える大阪市北区興力町の合資会社木原硝子製造所のことであろう。同書によれば、この両者は、「大壺製造業者の大なるもの」とされており、山元為蔵は明治30年前後に操業を開始したという。木原硝子製造所を創業した木原茂平は、清酒及びラムネ用青色壺を、明治初年に製造しだしているときれている。

透明ガラス酒瓶としたものには、一升瓶のような大型のものと、高さ16cmほどの小型のもの、角形の洋酒瓶と思われるものがある。大型の瓶の口縁部には、機械栓を付けるためのくぼみが一對認められるものがある。小型の酒瓶と考えたものには、王冠で最も多く出土している浅見酒店の名前が印刷されたものが、出土数量から見て伴う可能性がある。ただし、この酒瓶小型としたものは、色の変異が比較的大きく、緑色がかっている資料が多い。そのため、破片によっては、緑色ガラス瓶の中に含めて集計してしまっているものが、少なからず存在する

と推定される。

透明ガラスの小型瓶類としたものには、様々な種類が存在する。集計では小型瓶類として一括したが、図版では、インク瓶・薬瓶・角小瓶・小型特殊瓶・広口瓶・蓋物として、細分して示した。この細分に含めたい資料で、文字があるため資料提示をしたものについては、小瓶類と記載した（図版139）。インク瓶は、内容物が残存している例が多く、その点からインク瓶と判断したものと、陽刻の文字からインク瓶と判断したものがある。薬瓶は、目盛りが付いていたたり、陽刻の文字で薬の容器と判断できるものを、ここに一括した。大ききで大・中・小と分けて提示した。小型の薬瓶には、様々な陽刻が見られ、内容物と製造業者が判明する。蓋物としたのは、シャーレを逆にしたようなガラス製の蓋が付くもので、現在でも理学・医学用品として、全く同じものが使われている。

透明ガラスのその他の容器としたものは、コップ類と、それ以外のものに分けた。コップ類には、脚付杯も含めている。図版138—19には「カプトビール」との文字があるが、カプトビールは丸三麦酒株式会社の商標である。盛田善平によって明治20年（1887年）に愛知県で創立された丸三麦酒醸造所は、明治29年（1896年）に丸三麦酒株式会社となった。それまでは丸三麦酒という商標であったが、株式会社設立時にカプトビールと改名している（大日本麦酒株式会社1936、麒麟麦酒株式会社1957）。コップ類以外のその他の容器としては、ミニシャーレ・台子・朱肉入れという浅い容器と、特殊な形状を示す容器がある。ミニシャーレには、底面に「武井龍三」との陽刻があるものが多く、型も何種類かあったと思われ、字体が微妙に異なっている。朱肉入れは、内容物が残っていたことから、用途が判明した。

透明ガラスの容器以外としたものには、種々雑多なものがある。用途が不明な管状・棒状のものなど以外は、各種類の代表資料を提示したので、必要な点のみ触れる。アンプルとペン先については、色の違いを無視して、種類ごとに集計してしまったため、実際には透明以外の色付きガラスも含まれてしまっている。極小円盤としたものは、径1cm程度の円盤の周りに、真鍮と思われる細い帯がめぐめるものである。厚板としたものは、板ガラスとは異なり、削り出しによって板状に仕上げたものと思われる。

青色ガラスでは、「岳陽堂平尾製」「登録商標ダイヤモンド」との文字がある、角形の瓶が3d層で多量に出土していた。これは、東京市馬喰町の平尾賢平が製造していた歯磨粉の容器と考えられ、明治28年（1895年）には存在していたことが、雑誌広告によって確認できる（天野祐吉1992）。このダイヤモンド歯磨粉瓶が多数存在したため、これとそれ以外の瓶に分けて個体数を算出した。その他の瓶類には、高さ20cm前後の比較的大きなもの、薬瓶と考えられる小型の瓶がある。大型の瓶は少なく、ほとんどは小型のものである。

茶色ガラスでは、小型の薬瓶と考えられるものがほとんどで、その他には煙管かと思われるもの（図版140—12）、ミニシャーレ（図版141—12）、漏斗状のもの（図版141—13）などがごく少数認められるだけである。

赤色キャップとしたものは、濃淡のある赤色のガラスがまだらに混じっているもので、異なる色のガラスを練り上げるように混ぜて作られていると思われる。一端が閉じるか、ごく小さな孔が残るもので、形状からキャップ状のものの可能性を考えたが、確証はない。これは、薄いこともあり、かなり細片化して出土しているものも多く、個体識別が困難であったため、破片点数を数えた。そのため、個体数は、この点数より、大幅に減る可能性がある。

赤褐色瓶としたものは、かなり濃い赤色を呈するもので、ごく少数の出土である。瓶類が確認されている。

乳白色ガラスには小瓶類の容器と、それ以外には赤色キャップとしたものに形状が似ているものと管状のものがある。容器の多くは、軟膏のような薬を入れたものであろう。

その他の色付きガラスには、黒色に近い濃い灰色を呈するものがある。いずれも薄い板状で、形態は方形のもの（図版140—17）と円形のものがある。用途は不明である。また、濃い緑色で、貝殻を表現したような特殊な容器が1点ある（図版141—14）。

栓は、特殊な形態を持つ1点(図版139-24)を除くと、全て摺り合わせの共栓である。形態は様々である。ガラスの色は、透明・茶色・緑色が認められる。

⑨ 石製品(表42、図版142)

石製品には、硯・石筆・石盤・砥石・碁石・印籠・庚申碑などがある。薄板状加工としたものは、薄い板状に整えられ、切断痕などが認められるものである。いずれも点数で集計した。硯と石盤については、刻書が認められるもののみを資料呈示した。石筆は肉眼観察でも色調・材質に違いが認められたため、特徴の異なるものを選んで呈示した。今回は自然科学的な分析を行う余裕が無かったが、色調の違いから、異なった石材が使われている可能性も考えられる。

⑩ 骨製品(表45・46、図版143~150)

骨製品としたものは、肉眼観察で骨製であろうと推定したものの、緻密な広葉樹製の木製品との区別が充分できていないかどうか問題が残る。出土資料の圧倒的多数は歯ブラシで、それ以外の資料はごく少数である。

歯ブラシ以外の骨製品としては、箸・耳挿き・柄の飾り・パイプ?・櫛・筆の柄・ブラシがある。箸には、全体が骨で製作されたものと、箸の頭の部分だけ骨で作られたものがある。前者には断面正方形のものと円形のものがある。後者には、金属製の先端部を付けたと思われるものもあり、火箸になる可能性が考えられる。耳挿きには、柄の部分に、塗料のようなもので字を書いたものが認められる。柄の飾りとしたものは、折りたたみナイフの柄の、側面に付けた飾りと思われるものである。

歯ブラシについては、これだけ多数の歯ブラシが出土し報告された例がほとんど無いこと、極めて多様な種類が認められたことから、今回の報告にあたっては、その全体像を提示することに重点を置いた。

分類にあたっては、その機能という点から3大別した。I類は通常の歯ブラシで、特に他の機能を持たない、柄とブラシ部からなるものである。II類は、舌をしごくためと思われる刻みが側面に付けられているもの。III類は、舌をしごくための金属製のヘラが、歯ブラシの柄に折りたたみ式で付けられているものである。柄の部分が残っており、分類できないものはX類とした。

さらに、ブラシの植毛の方法に関連すると思われる、背面の溝の有無によってA類とB類に分けた。頭部分が欠損し、A類かB類か判別不能なものはX類とした。ブラシ部分の植毛の列の数をアラビア数字で示し、これらの組み合わせで分類を示した。ほとんどの資料では、ブラシ部の先端の端面にも植毛のための孔が開いており、その本数は植毛の列の数と同じである。

確認された種類は、IA3類・IA4類・IB2類・IB3類・IB4類・IX類、IIA3類・IIA4類・IIX類・IIIa3類・IIIb3類・XA類の12類型である。それぞれの類型の中で、細かな形態によって細分が可能であり、後ろに小文字のアルファベットで細分を示した。細分された類型が1点のみのもの、あるいは2~3点出土しているも、層位不明や細分されていない3層など、出土傾向を検討し難いものは、その他および不明のものとしてX類としてまとめた。細分は主に形態で行ったので、同じ細分類形の中での法量の違う資料、あるいは刻印の違いやごく微妙な形態差については、小文字のアルファベットの後ろに、さらに数字を付けて示した。

柄の部分に刻印が見られるものも多いが、形態での分類とはほとんど対応しない。また、刻印が浅く、使用による磨耗で、消えかかっているものも多く、現在刻印が認められないものも、本来刻印が無かったとは言えない。刻印の認められるものは、刻印部分のアップの写真を図版149・150にまとめて掲載した。大多数の資料では、毛の部分は腐って無くなっているが、ブラシ部分に黒色の附着物が認められるものがあり、これらは毛の部分まで残っている。おそらく、靴磨きに転用したものと推定される。

細分された類型が極めて多く、それぞれの関係については、充分整理できなかった。ここでは、いくつかの気づいた点を、指摘しておきたい。量的な多寡では、IA類が多数を占め、IB類・II類・III類は少数である。IA3類は、全体的に3a層を中心とした比較的新しい層序からの出土が多い。それに対してIB類は、3d層を

中心に比較的古い層序からの出土が多数を占める。同様に、IA4類の中には、3d層からの出土が多いものがある。IA4s類・IA4t類・IA4u類は、3d層で集中して出土している。この3つは、ブラシ部が方形を呈し、その大きさが特に大きいという特徴で一致する。柄の部分も大きく、しかも、同じ刻印を有している。一方、IA4類でも、ブラシ部が丸みを帯びた平面形態を呈するIA4a～h類は、3d層から出土している資料もあるが、全体としては3a層を中心とする新しい層序からの出土が多い。

④ 金属製品 (表47・48、図版151～153)

金属製品は、鉄製品とそれ以外の金属製品に大別した。鉄以外のものは、真鍮が多数を占めると思われるが、分析などで確認している訳ではないので、銅・合金製品と記載した。鉄製品、銅・合金製品とも、極めて多様な遺物が出土している。そのため、現在でもほとんど変わらずに使われているような遺物では、個々の説明は省略する。このような遺物については、資料呈示もほとんど行っていない。

銭貨については、全点を呈示した。そのため、集計表には記載されていない。寛永通宝も多く出土しているが、江戸時代の遺物の混入か、出土した層序の時期に使われていたものかは判断しがたい。常軌的には、後者の可能性は少ないであろうが、制度的には、昭和28年(1953年)の小額通貨整理法までは、適用可能であった。

銭貨以外の銅・合金製品の中で、容器としたものは、方形を呈するものから円形を呈するものまで様々なものがある。文字のある資料を中心に示した。徽章としたものは、軍服に付けられたと考えられる星印のマークや、勲章と思われるものなどがある。バックルは比較的まとまって出土しているもので、形態からA～F類に分類し、それ以外のごく少量出土しているものについてはX類としてまとめた。連結金具としたものは、針金をねじったものの端に付けられた円筒形のもので、オスねじになっているものと、メスねじになっているものがあり、このネジで連結されるものである。どのような製品になるのか判明しないものは、その形状から、パイプ状・リング状・針金状・棒状・帯金状・板状、そしてこのどれにも入れ難い不明なものに分けた。

鉄製品は、ある程度用途の推定できるもの、釘のたぐい、針金、それ以外の用途不明のものに大別できる。缶としたもののほとんどは、缶詰用の缶である。しかし、総じて保存状態が悪く、残存しているのは縁の部分だけの場合が多い。また、コンビーフの缶と思われる、缶を開けるときに巻き取った部分のみが出土している例もある。王冠については、上面の印刷された文字が残るものを呈示したが、写真で文字をうまく表すことは難しかった。王冠の中の、浅見酒店との記載があるものは、透明ガラス製の酒瓶小としたものに伴う可能性がある。瓶蓋類としたものは、王冠以外の栓や蓋と思われるもので、酒瓶の蓋を更に覆っている薄いキャップ状のものが含まれる。便宜的にここに含めたが、鉄以外の素材の可能性もある。機械栓は、栓の部分の形態に差があり、それぞれの代表的な資料を呈示した。出土点数は全体に少なく、類型ごとの出土傾向を検討できるような量では無い。蹄鉄には、溝の有るものと無いもの存在するが、両者での出土傾向には差が見られなかったため、まとめて集計した。ナイフには、果物ナイフの様な形態のものと、肥後守が認められた。紐先金具としたものは、靴紐の様な細い紐の先に付けて、紐がほぐれるのを防ぐためのものと思われる。

釘のたぐいは、鉄・和釘・洋釘・ボルト・ねじ・折釘に分けて集計した。ボルトにはナットも含めている。折釘としたものは、頭部分が大きく折り曲げられているものである。形態の違いによって、細分される。A類は、折られた頭の部分の断面形が円形を呈するもので、C類はこの部分が方形のものである。

針金は、様々な長さのものがあり、また複数のものが絡み合っているものも多い。そのため重量で集計した。

これら以外の用途不明のものは、形状から、棒状・板状・帯金状・薄板不明と、これらのどれにも入れ難い不明なものに分けた。この内の薄板不明としたものは、全体に保存状態が悪く、細片化している資料が多かったため、点数での集計は出土傾向を反映しないと考え、重量で集計した。

⑤ 皮革製品 (表49・50、図版154・155)

皮革製品については、点数だけでは出土状況を正確に反映しない可能性があるため、点数と重量の両方を集計

した。各時期の順序で出土しているが、特に3 a層から多量に出土しており、どの種類でも3 a層が最も多い。3 a層では、E-4区とE-5区で、皮革製品ばかりで構成されるブロックが検出されており、このようにまとめて捨てられた場合があることを示している。

皮革製品で最も多量に出土しているのは、端切れである。形態は様々であるが、一角が鋭角をなす、細長い三角形のものが多い。できるだけ無駄がないように、截断した結果と思われる。端切れの中には、他の製品の再利用と考えられるものも多い。これは、端部近くに縫い目の跡が存在しながら、それを切る形で截断されているものである。明らかに靴の底が切り欠かれているものもある。別の用途に使われていた皮革が、縫い合わせた部分を外して、再度截断して利用されたものと判断し、再利用端切れとして集計した。

靴は、軍靴と思われる資料がほとんどであるが、保存状態が良く、全体の特徴が判明するような資料は無い。底の部分のみで出土している例が多く、底面に釘が打たれている場合も多い。

ベルト状の製品には、様々な種類のものがあり、そのそれぞれを細かく検討することは困難であったので、比較的多く出土しているもののみを類型化して集計し、それ以外の資料は、ベルト類として一括して集計した。ベルトと断定できず、その可能性のあるものはベルト類としてまとめた。

ベルト類で類型化したものは、4種類ある。ベルト1類としたものは、両端に円孔が開いているもので、片方の孔には切り目が付いている。2類としたものは、中程が少し太くなっており、片方の端近くには切り目のある円孔が1つあり、反対側には3～4個の円孔が並ぶものである。大きさは大小2種類が認められる。この1類・2類は、靴などの付属品の可能性が考えられる。3類としたものは、中程に円形の部分が存在するものである。片方の端近くに孔が1個あるが、反対側の端には孔が見られない。3類としてまとめたものの中には、細かな形態では、異なったものが存在する。4類としたものは、ベルトと考えて良いか問題が残るものである。大きな円孔と隣に小さな円孔が並ぶものである。外径は、この2つの孔の部分にそって、2段に広がっている。2つの円孔の部分は、2重になっており、2枚の革の間に、何かのものを装着したと考えられる。図版154-9は、小さい方の孔に付く部材である。

紐には、革を細く切っただけの断面方形を呈するものと、断面が円形に近く整えられたものがあるが、前者が圧倒的に多い。図版154-15は、集計では不明とした資料であるが、一端は切り取られていないが、紐状に切り刻まれたものである。

名札には、様々な形態のものがあるが、概して小型のもので占められる。刻書には、鋭い刃物で刻まれたものと、刻みの幅が広いものがある。文字が刻まれている資料は、全て表示した。

リング状としたものには、様々な大きさのものがあり、おそらく用途も異なるであろう。最も大きいものと、最小のものとの両者を表示しておいた。

薄手袋状としたものは、他の皮革製品より極めて薄く、袋状を呈すると思われる資料である。方形のものも多く、周囲に縫い目があるものも多い。財布・がま口・小物入れなどになると思われるが、保存状態の悪いものばかりで、全体の特徴が判明するものが無いため、資料呈示は行なわなかった。

補強具としたものは、布製品などの角などに縫い付けて、補強の役割を果たしたと思われるものである。周囲全体に縫い目が残る、孔が認められない。形態には、様々なものがあり、方形を基調とするものを補強具方形、円形を基調とするものを補強具円形、それ以外の三角形などの特殊な形のを補強具その他として、それぞれで集計した。また、縁飾りとしたものは、布などの縁に付けられ、飾りや補強の役割を果たしたと推定されるもので、細長く、縦に折られて縫いつけられているものが多い。

裏布付きとしたものは、裏面に粗い布が一面に付いており、表面には塗料のようなもので、草花の文様が描かれている資料である。出土点数が多いが、ほぼ全てが細片化しているため、個体数はかなり少なくなると思われる。皮革製品と判断したが、他の皮革製品と比べると、これのみが保存状態が非常に悪い。そのため、皮革以

外の材料で作られているものの可能性も残る。

これら以外の用途不明のものは、不明として一括したが、図版154—12—14のように、製品の一部と考えられるものも多い。

⑬ 木・竹製品（表、51・52・55・56、図版156—159）

木製品・竹製品は、各時期の層序から出土しているが、II b期の3号溝埋土から多数出土していることが、他の遺物とは異なる点である。特に、加工木・へぎ板状薄板・円板状木製品が多く出土しており、特徴的である。

木製品・竹製品は、極めて多様な種類の遺物が出土しており、以下で順に説明する。なお、図版156・157で写真に付したデータの内、計測部位を示さず、3つの数値を×記号をはさんで並記したものは、長×幅×厚を示している。また、数値を括弧内に入れたものは、残存値である。加工木とへぎ板状薄板については、重量と点数の両方を集計したが、それ以外の資料は点数のみを集計している。

木製品の中で最も多数出土しているものは、製品とは考え難い加工痕跡を残す加工木である。板材・角材・丸材・小片に細分した。板材と角材の区分は、横断面の短辺と長辺の比率が、おおむね1:2より大きいものを板材、それより小さいものを角材とした。保存状態が悪いと、一つのものが多数の小片に分かれるなどして、点数だけでは出土傾向を示し難い。そのため、点数と重量の両方を集計した。角材や板材の端切れ状のものが極めて多く、軽重隊で木材加工を盛んに行っていたことを窺わせる。各時期の層序から、多量に出土しており、一貫して同様の作業が続けられていたことを示していると考えられる。

へぎ板状薄板としたものは、厚さ1～3mm程度のものである。用途が判明するものは少なく、焼寸箱と箱状製品が確認できる程度である。これらは、焼寸箱・箱状製品の方で集計されている。それ以外の用途不明のものを、へぎ板状薄板として、重量と点数の両方を集計した。3号溝埋土で最も多く出土している。

円板状木製品としたものは、曲物の天板か底板、あるいは提灯の上下両端の板になると思われるものであるが、いずれであるかは決定し難い。側面に木や竹の釘が打たれている場合も多いが、今回の出土資料では確認できなかった。ほとんどの資料では、その中心に、円形に切り出すときに使われた、引きまわしのような道具の心棒を刺した跡と思われる小孔が認められる。

直径8cm前後のものが圧倒的多数を占めるため、これらを中型とし、それより大きいものを大型、小さいものを小型として分類した。更に細かな法量の違いによって、次の7類に細分された。

大L：大Mより大きいものをまとめたが、遺存状態が良好なものは少ない。

大M：直径14.3cm前後のもの。

大S：径11.3～11.5cmのもの。

中L：径8.3～8.6cmのものであるが、残存状態が良好で直径を厳密に計測できるものでは、8.3cmと8.6cmのものに限られ、その間の大きさのものは認められない。

中S：径7.3～7.6cmのものであるが、中Lと同様に、直径を厳密に計測できるものでは、7.3cmと7.6cmのものに限られ、その間の大きさのものは認められない。

小L：径6.6cm前後のもの。

小S：径5.2～5.4cmのもの。

これ以外に、小型ということは判明するが、保存状態の悪く直径が確実にないものは、小型不明とした。大型と小型は、いずれもごく少数の出土である。

圧倒的多数を占める中型のものは、3号溝と3a層からまとめて出土している。特に、3a層出土の資料では、中型のLサイズがほとんど無く、Sサイズで占められているという顕著な特徴が見られる。また、層位不明から多数出土しているが、これは調査区西端に先行トレンチを入れた際、一部を重機で掘ったことによる。ちょうど、この先行トレンチの場所に3号溝が存在し、多数の木製品が含まれていることが現地で判明したため、目

に付いたものを排土から拾ったことによって、層位不明からの出土量がこの円板状木製品のみ、特に多くなったのであろう。中型の円板状木製品は、S・Lの高サイズとも、直径が3mm違うものが存在し、確実な資料ではその間の大きさのものは認められなかった。このことは、3mm大きいものが曲物の蓋の天板で、小さいものが身の底板である可能性を示している。

資料呈示は、墨書のあるものや、印刷された紙が付着しているものに限った。一部を除き、赤外線写真を呈示した。記入あるいは印刷された文字に、「鋼味噌」「萬歳味噌」と読めるものがあり、これらは曲物の蓋の天板であろう。

桶・樽類については、天板あるいは底板と考えられるものと、側板に分けて点数を集計した。側板の点数は、一枚ごとに集計している。資料呈示は、焼印の認められるものに限った。

栓は、白木のものでコルク製のものと分けて集計した。但し、ガラス瓶に付いたままのコルク栓については、ここの集計には入っていない。白木のもので、焼印が認められるものを呈示した。

把手類としたものは、把手と思われるもの、あるいは把手に付けられた部材と考えられるものなどを含んでいる。後者には、薬缶などの把手に付けられた握りの部分と考えられる資料があり、それを示した。

下駄は6点しか出土していないが、層位不明の1点を除くと、3d層より下の層序で出土している。保存状態の悪いものを除いて、全て資料呈示した。

金隠板は、大便器の前に立てられていた板と考えられるものである。代表的な資料を呈示したが、使用を物語るように、片面一面に黄褐色の付着物が残っている。

集計表で名札としたものは、名札と荷札の両者を合わせた数である。荷札としたものには、第二師団に所属する兵士へ、故郷の家族から送られた荷物に付けられていたと考えられるものが多い。また破片であっても、墨書に住所などが認められ、荷札として使われた可能性の高いものも、荷札に含めた。この荷札以外の札類は、名札として一括した。名札の記載は、軍隊内で使用されたことを示すものがほとんどである。荷札・名札ともに、形態・法量には変異が大きく、細分は行わず、文字の認められる資料は、全て呈示することとした。この荷札・名札以外にも、へぎ板状薄板・加工木材で、墨書や焼印で文字のある資料については、図版158・159に全て呈示した。内容は表55・56にまとめて示している。墨書の残るものは、赤外線写真を撮影し検討した。赤外線写真は、仙台市博物館において、同館所有の機材を使用させていただいて撮影した。文字の読解にあたっては、東北大学百年史編さん室の中川学氏と東北大学記念資料室の永田英明氏に御教示いただいた。資料呈示にあたっては、これらの文字のある資料が、全て板状の単純な形態のものであるため、資料の形状より文字の内容を重視して、赤外線写真を掲載した。

箱状製品には、全体の形状が判明するものは無く、全て部材である。形態や釘・釘穴の存在から、箱状の製品の部材と考えられるものである。通常の板材からなるものと、へぎ板状の薄板から作られているものもある。墨書や焼印の認められるものを呈示した。

糸巻きには、現在でも使われている、両端が突出する小型のものと、断面杏仁形の大型のものがある。後者は、褐色の付着物が認められ、その付着物の状況から、糸が巻かれていた可能性を考えた。両者の代表的な資料を呈示した。

刷毛には、平面形が長方形で厚みが薄いものと、柄の部分が細くなり厚いものが認められる。両者の代表的な資料を呈示した。

鉛筆およびペン軸は、3d層より上の層序でのみ出土している。鉛筆には、黒色だけでなく、色鉛筆も認められた。ペン軸で、刻印や刻書が認められるものを呈示した。

ブラシは、平面長方形で全体に植毛されているものを柄無しとし、植毛部分が略円形で細長い柄が付くものを柄有として集計した。

箸は白木のもの、漆塗りのものに分けて集計した。白木のは、断面正方形で、頃の部分が太く、先端に向かって細くなっていくものである。3d層で集中して出土しているのが注目される。漆塗りとしたものは、断面円形で朱塗りのものと、断面方形で褐色の漆と思われる樹脂が塗られているものがある。前者は、竹製のものに漆を塗った可能性が高い。白木のものとは対照的に、3a層で多く出土している。

その他の木製品には、椀・皿・匙・玉杓子・しゃもじ・櫛・印籠・燗す箱・卒塔婆・小刀の柄・台や折敷の脚と思われるものなどがある。皿は、食器の皿ではなく、湯呑みの下に置いたりするような、小型のものが多い。燗す箱は、へぎ状の薄い板の上に、商標などを印刷した紙を貼っている。これらの木製品では、特徴的な資料のみを呈示した。

漆塗製品は、製品の部材と考えられる板状のものがほとんどで、それ以外の製品は少ない。漆塗碗で保存状態の良い資料と、墨書のある漆塗り板を示し得ただけである。

調査の際には、多量の樹皮が出土し採集していたが、自然の樹木から剥がれ落ちただけで、とうてい利用不可能と思われる資料も多く含まれていた。そこで、桜材など、利用可能と思われる樹皮に限って集計した。

竹製品は保存状態が悪いものが多く、用途が判明せず不明とせざるを得なかった資料が大部分である。用途を推定できたものには、柄・縫針・籠・へら状製品・扇子の骨・柄の付いたブラシなどがあるが、出土点数は少ない。縫針としたものは、網のような目の粗いものに使われたのではないかと考えられる資料で、一方が尖っており、他方には小孔、あるいは鈎状の切り込みが認められ、ここに糸をかけたものと推定した。両者の代表的な資料を呈示した。縫針以外の竹製品は、刻書のあるものを呈示した。

⑭ 繊維製品 (表42・図版160)

繊維製品は、織物である布製品と、麻のような植物繊維で作られたものに大別できる。全て点数で集計した。

布製品は、概して保存状態が悪く、本来の用途が判明するものが少なく、不明とせざるを得なかったものが多い。種類が判明するものとしては、ゲートル・布製ベルト・雑巾がある。

この中では、ゲートルが最も多く出土している。特に3a層から集中的に出土している。ただし、このことは、もともと3a層に多かったのか、あるいは地中で条件の違いによって、3a層で多く遺存したのかは判らない。ゲートルには、円筒形に巻かれたものが多い。この巻かれたものは比較的保存状態が良いが、伸びているものは保存状態が悪く、不明とした断片にもゲートルが多く含まれていたと思われる。幅が9cm程度のものと、6cm程度の狭いものがある。この巻かれたものには、針金で留めたものも多い。巻かれたもの以外は保存状態が悪く、長さが判明するものは無いが、最も長く残っているもので、27.6cmであった。

布製品以外の、繊維製品には、縄・むしろ・タワシが認められた。いずれも資料呈示したものは無い。縄には、様々な燃り方のあるものがある。3a層と東区3d層で多く出土している。むしろとしたものは、麻のような繊維で編まれたものである。保存状態が悪く確実ではないが、形状から、建物の入口で靴の汚れを落とすための、玄関マットの可能性が考えられる。

⑮ ボタン (表53、図版160)

ボタンには、プレスガラス製と思われるもの、骨製と思われるもの、金属製のものがある。他の遺物が、材質ごとに分類しているのに対して、ボタンだけ、複数の材質のものをまとめて示したのは、前述したように、整理作業上の便宜による。いずれも、点数を集計した。

ガラス製ボタンには、乳白色から白色を呈するものと、それ以外のオレンジ色などの色が付けられているものがある。前者が圧倒的多数を占め、後者はごく僅かである。いずれも、穴の数が4個のもの2個のものが認められる。穴の大きさや位置などの微細な変化が多くあり、しかもそれらの違いが漸移的であり、明確に分類することは困難であった。そのため、大ききで分けて集計し、形態の細かな違いについては、それぞれの代表的な資料を呈示することで、変異の内容を示すこととした。

ガラス製ボタンは、直径では概ね11mmを境に分けることができ、さらにごく少数直径12mm以上のものが認められた。そこで、11mm以下をS、11mmから12mmのものをM、12mm以上のものをLとして分類した。ただし、SサイズとMサイズの中間的な大きさのものもあり、かならずしも明確に区分できる訳ではない。

骨製ボタンとしたものは、歯ブラシと同様、肉眼観察で骨製と推定しているものである。穴の数が4穴のものと5穴のものがあるが、5穴の中央の穴は、ボタンを円形に削り出す際の心棒を通すための穴と思われ、縫じ付ける際に糸を通すための穴ではないと思われる。4穴のものの中に、同様に削り出す際の心棒を受けるとと思われる窪みを持つものがある。4穴で中心の窪みの無いものを4穴、4穴で中心に窪みを持つものを4穴+、5穴のものを5穴と大別した。

形態では、周縁が少し高くなっているものをA類、周縁の高い部分の幅が広く、全体の半分以上におよぶものをB類、穴の周囲に溝めぐり、その内側と外側の高さがほとんど変わらないものをC類とした。確認された類型は、4穴A・4穴+・A・4穴+C・5穴A・5穴Bの5種類である。さらに、4穴+Aでは、直径からSMLの3サイズに細分可能で、5穴BではSMの2サイズに細分できた。

金属製ボタンは、形態と重量からAからKの11種類が確認された。いずれも合金製で、真鍮製の可能性が高いものと思われる。留め具としたものは、A～D類の裏側に付いている、糸で縫じ付けるための、針金を半円形に曲げた部材である。A類が非常に多く、C類がそれに次ぐ。他のものは、ごく少量しか出土していない。

ガラス製・骨製・金属製のそれぞれのボタンの出土傾向を見ると、どれか一つの種類のボタンのみが多く出土している層位は無く、ガラス製ボタンが多数出土している層では、骨製も金属製のボタンも多数出土している。したがって、今回の調査成果からは、ガラス製・骨製・金属製の3種類のボタンの中で、時期的に変化している様子は認められない。この3種類のボタンでは、使われる衣類の種類が異なっていた可能性が考えられよう。

⑩ 瓦 (表54、図版161・162)

瓦は全体の出土傾向を把握するために、現地で重量を計測した。その後、軒瓦の瓦当面のあるもの、一辺の長さが判明するもの、通常の平瓦・椀瓦とは明らかに異なる特殊な瓦、刻印のある瓦を抽出して、それ以外のものは廃棄した。総出土量は2.6トンに達する。各層から出土しているが、3b層上面が最も多い。これは、3b層上面に、瓦がまとめて廃棄された部分が検出されていることを反映したものである。4層より下の層序では、1号溝埋土がやや多い以外は、総じて少ない。集計にあたっては、重量によって全体の出土傾向を示すとともに、軒瓦・特殊な瓦・刻印のある瓦を分類し、それぞれの点数を呈示した。

軒瓦は軒椀瓦で占められており、確実に軒丸瓦・軒平瓦と考えられる資料は無い。そのため、平部だけの破片も、全て軒椀瓦として扱った。軒椀瓦の瓦当面は、無文のものが圧倒的多数を占める。それ以外のものは、小巴部に巴文が入るものが2点出土しているだけである。巴文のものを1類、無文のものを2類と大別した。無文のものは、小巴部も平部も、平坦なもので占められ、小巴部が球状に膨らむものは出土していない。平部を見ると、全体がほぼ同じ幅のものと、右端に向かって幅が狭くなっていくものの、両者が認められた。前者を2A類、後者をB類とした。2B類は3点のみの出土で、2A類が多数を占める。小巴部と平部の両方が残る資料で、平部の細分が判明するものは、全て2A類であった。

一辺の長さが判明する資料を抽出したが、確実に平瓦と考えられる資料は無く、全て椀瓦と思われる。椀瓦の大きさには、あまり大きな差は認められず、全長29～30cm前後のもので占められていた。そのため、代表的な資料のみを呈示した。この椀瓦の中で、引掛椀瓦2類としたものは、掛ける部分の下端が平坦となっているものである。これまでの調査で出土していた引掛椀瓦は、2つの尖った突起が行くものであったため、それと区別するために2類とした。

特殊な瓦として抽出されたものには、椀瓦・椀先瓦・鬘斗瓦・袖瓦・板塀瓦・T字瓦・その他の特殊なものがある。

棟瓦は、緩い弯曲を持つ1類と、断面半円形の2類に分けた。棟先瓦としたものは、この棟瓦2類の先端の部分に使われたと考えられるもので、円形で平坦な瓦当面を持つ。長方形を呈する平坦なものを、熨斗瓦とした。大きさから1～3類に細別できる。袖瓦は、側縁に垂れを付けた、屋根の両端部分に使われたと考えられるもので、2点のみ確認された。板懸瓦は、比較的古い時期の層序から多く出土する傾向がある。T字瓦としたものは、長い長方形の板に断面がT字形を呈するように突起を付けたもので、二の丸跡では多く出土している。IIa期の4号溝だけで出土しており、江戸時代の資料が入り込んだものの可能性がある。

その他の特殊な瓦としたものは、いずれもごく少量出土しているだけである。布目を有する瓦は、江戸時代の資料が混じり込んだものと考えられ、いずれも小片である。鬼瓦かと思われるもの、突起を有するものも確認されたが、いずれも小片のため、詳細は不明である。特殊な沈線や筋目が見られるものは、沈線あるものとしてカウントした。棧瓦によく見られる、筋目をいれたものは、廃棄しているため、集計点数には入っていない。厚手平坦としたものは、通常の瓦の倍前後の厚さを持ち、平坦なものである。なまこ瓦になる可能性がある。

刻印のある瓦は、51種類、172点出土している。各類の代表的な資料を、関連するデータとともに図版162にまとめて示した。刻印の内容から、カナ・漢字・記号・その他に大別した。その他5類としたもののみ陽刻で、他は全て陰刻である。その他5類としたものは、棧瓦の下面側に「宮〇〇」という形をとるもので、〇に数字が入る。これまでの調査でも多く出土している。これ以外の刻印は、端面が軒棧瓦の平部瓦当面に打たれている。特に、頭側端面右端に刻印される場合が多い。

⑭ その他の遺物 (表42、図版160)

これまでに取り上げたもの以外の人工遺物を、その他の遺物とした。ゴム製品・合成樹脂製品・樟脳・蠟燭・新聞紙が確認された。

ゴム製品としたものには、ゴム引きの布やゴム引きの布を利用した地下足袋が含まれている。リング状としたものは、外径2cm前後、厚さ0.4cm前後のリング状のもので、形状と大きさから見て、ラムネ瓶の口の内側の溝にはめ込み、栓となるガラス玉を受けるためのものであると推定される。他に用途が推定できるものは少なく、スポイトの頭に着ける部分などがあるにすぎない。また、消しゴムが1点出土しているが、現代のものの混入の可能性もある。

合成樹脂は、分析などを行っていないため、どういう材質のものかは不明であるが、肉眼観察では、多くはセルロイド製と思われる。資料呈示したものは無い。ゴム製品と合成樹脂製品は、3d層より上層でのみ出土している。

樟脳は、消滅してしまっており、現在存在していない。調査後の1993年度から1994年度にかけて、水洗と大まかな分類を行った。この際には、外見の様子とにおいから樟脳と判断し、別にチャック付きポリ袋に入れて収納しておいた。1997年度になって整理作業を本格的に開始したが、この間の3年余の間に、全てが昇華してしまったものと思われ、中身の無いポリ袋が残されていた。今回の報告に際しては、ある程度は出土傾向を示すものと考え、やむなく袋の数をカウントして集計した。当然一袋に複数が入っていた場合もあり、この数は最低限の出土量である。

新聞紙は、印刷された文字から、そのように推定したものである(図版157-40)。集計表には記載もれであるが、3層上面清掃から1点出土した。

表11 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(1)

Tab.11 Distribution of modern porcelains at NM12(1)

大甕(身)

出土部位・装飾技法	手 柄	模 範	網 眼 貼 写	磨 打 ち	白 磁	クロム黄磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
部位不明				2			2		4
3層上蓋横線	1								6
3層				3			1		4
3A層	7			2			1	1	11
2A~3C層	2			6			2		10
3b層上蓋									
3b層				3					3
3c層			1	4			1	3	9
区不明3d層									
東区3d層	1	3		24			9	1	28
西区3d層			7	6			14		27
4層									
5層上蓋				1					1
5層									
6層									
7層									
1号溝(4層上蓋)				1					1
2号溝(4層上蓋)									
3号溝(5層上蓋)									
4号溝(6・7層上蓋)									
1号線(5層上蓋)				1					1
ピット1(3C層上蓋)									
ピット2(3C層上蓋)									
ピット3(4・5層上蓋)									
ピット4(6層上蓋)									
合 計	11	11	28			30		5	115

表12 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(2)

Tab.12 Distribution of modern porcelains at NM12(2)

大甕・鉢(蓋)

出土部位・装飾技法	手 柄	模 範	網 眼 貼 写	磨 打 ち	白 磁	クロム黄磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
部位不明			1	2			1		4
3層上蓋横線	2		1	1					4
3層			8	2			2		12
3A層	6	3	3	3					15
2A~3C層	3			8			1		12
3b層上蓋									
3b層									
3c層	1	3		2			1		7
区不明3d層									
東区3d層	2	6		9			6		23
西区3d層	2	12		6			11		31
4層									
5層上蓋									
5層									
6層									
7層									
1号溝(4層上蓋)			1						1
2号溝(4層上蓋)									
3号溝(5層上蓋)									
4号溝(6・7層上蓋)									
1号線(5層上蓋)				1			1		2
ピット1(3C層上蓋)									
ピット2(3C層上蓋)									
ピット3(4・5層上蓋)									
ピット4(6層上蓋)									
合 計	35	28	33			23			119

表13 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表③

Tab.13 Distribution of modern porcelains at NM12(3)

中欄(身)

出土層位・裝飾技法	手摺き	罫	結	網	転写	型打	ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合計
層位不明	27	104			8					6			148
3層上(網罫)	52	195			26					7			290
3層	96	234			22					23			383
3a層	42	97			38					1			199
3a~3c層	47	152			11					24			249
3b層上面		1											1
3b層	23	63			4					1			98
3c層	61	126			18					24			379
区不明3d層		14											14
東区3d層	499	642			68					37			1181
西区3d層	1379	824			24					221			2501
4層	28	39			2					5			74
5層上面	43	64			2					8			127
5層	5	2											8
6層													
7層													
1号溝(4層上面)	23	92			23					2	1		154
2号溝(4層上面)	13	33			0					4			56
3号溝(5層上面)	89	65			3					7			196
4号溝(6・7層上面)													
1号堀(5層上面)	6	14			1						1		22
ビット1(3c層上面)	9												11
ビット2(3c層上面)													
ビット3(4・5層上面)	1	9											10
ビット4(6層上面)	1												1
合計	2370	2810			238					370	2	198	5988

表14 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表④

Tab.14 Distribution of modern porcelains at NM12(4)

中欄(蓋)

出土層位・裝飾技法	手摺き	罫	結	網	転写	型打	ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合計
層位不明		1								1			2
3層上面(網罫)		2			1								3
3層	2	3			1					2			8
3a層		2								3	2		7
3a~3c層		1								3			6
3b層上面													
3b層													
3c層		2			3					4			9
区不明3d層													
東区3d層	4	11			8					2	19		36
西区3d層	2	17			4					23			46
4層										2			2
5層上面													
5層													
6層													
7層													
1号溝(4層上面)	3	1			1					1	1		7
2号溝(4層上面)		1			1					1			3
3号溝(5層上面)		2								3			5
4号溝(6・7層上面)													
1号堀(5層上面)													
ビット1(3c層上面)													
ビット2(3c層上面)													
ビット3(4・5層上面)													
ビット4(6層上面)													
合計	11	43			19					6	34	1	134

表15 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(5)

Tab.15 Distribution of modern porcelains at NM12(5)

小碗

出土層位・採取技法	手 掻 き	篩	篩 網 紙 取 写	型 打 ち	白 磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明			3					1	6
2層上面露得	5		8			1		3	17
3層	4		7				1	2	14
3a層	2		8			3	1	3	17
3a～3c層	2		8			1			11
3b層上面			1						1
3b層			2						2
3c層			24			4			28
区不明3d層									
東区3d層	19		48			11		4	80
西区3d層	35		49			16	14	5	119
4層	1		1						2
5層上面							2		2
5層									
6層									
7層									
1号溝 (1層上面)	7		12			2		2	23
2号溝 (4層上面)			1						1
3号溝 (6層上面)	2		2			1			5
4号溝 (6・7層上面)								1	1
1号網 (8層上面)	1		5			1		1	8
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (8層上面)			1						1
合 計	78		180			40	18	22	338

表16 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(6)

Tab.16 Distribution of modern porcelains at NM12(6)

鉢 (身)

出土層位・採取技法	手 掻 き	篩	篩 網 紙 取 写	型 打 ち	白 磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明									
3層上面露得				1					1
3層			1						3
3a層	2								6
3a～3c層	3								3
3b層上面									
3b層									
3c層	3								3
区不明3d層									
東区3d層	2					1			3
西区3d層	14		9						23
4層									
5層上面									
5層									
6層									
7層									
1号溝 (4層上面)	4		1						7
2号溝 (4層上面)									
3号溝 (5層上面)	2		3						5
4号溝 (6・7層上面)									
1号網 (8層上面)									
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (8層上面)									
合 計	36		13	2		1			54

表17 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(7)

Tab.17 Distribution of modern porcelains at NM12(7)

小環

出土層位・発掘技法	手	箱	蓋	鉢	煎	飯	取	茶	碗	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
層位不明																
3層上面遺構		1														1
3層							1									1
3a層																
3a~3c層		1														1
3b層上面																
3b層																
3c層																
式不明d層																
東区c d層			5													5
西区c d層			6													6
4層																
5層上面																
5層																
6層																
7層																
1号溝 (4層上面)																
2号溝 (4層上面)																
3号溝 (5層上面)																
4号溝 (6・7層上面)																
1号堀 (5層上面)		1														1
ピット1 (3c層上面)																
ピット2 (3c層上面)																
ピット3 (4・5層上面)																
ピット4 (6層上面)																
合計		14					1									15

表18 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(8)

Tab.18 Distribution of modern porcelains at NM12(8)

皿

出土層位・発掘技法	手	箱	蓋	鉢	煎	飯	取	茶	碗	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
層位不明	4	89	3												1	104
3層上面遺構	13	82	16									1		3	122	
3層	32	79	18									2		10	163	
3a層	31	97	29									1		5	174	
3a~3c層	12	136	11									2		5	176	
3b層上面																
3b層	2	59	2									2			67	
3c層	7	187	9									5		3	226	
式不明d層	1	1													2	
東区c d層	43	719	37									11		6	825	
西区c d層	267	489	27									18		18	954	
4層		22												1	40	
5層上面	3	35	1									1			48	
5層	3	1													6	
6層																
7層																
1号溝 (4層上面)	11	72	16									1		3	109	
2号溝 (4層上面)	9	5	1									1		2	21	
3号溝 (5層上面)	15	24	54									4		4	101	
4号溝 (6・7層上面)																
1号堀 (5層上面)	1	18													28	
ピット1 (3c層上面)	2														2	
ピット2 (3c層上面)																
ピット3 (4・5層上面)																
ピット4 (6層上面)																
合計	463	2092	179									52		61	3169	

表19 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(9)

Tab.19 Distribution of modern porcelains at NM12(9)

湯呑み

出土層位・採取技法	手 磨 き	磨	絵	刷 取 紙 写	型 打 ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明	3			1			9	1			14
3層上面露焼	3			1			11				15
3層	1			1			19	1			22
3a層	4						96				70
3a~3c層	3						21				24
3b層上面											
3b層							5				5
3c層			1	6			21	1			32
松平町3d層											
東区3d層	11		2	6			52	1			73
西区3d層	10			7			35	5			57
4層				1							1
5層上面	1										1
5層											
6層											
7層											
1号溝 (4層上面)							5				5
2号溝 (4層上面)				1							1
3号溝 (5層上面)							2				2
4号溝 (6・7層上面)											
1号堀 (5層上面)							2				2
ピット1 (3c層上面)											
ピット2 (3c層上面)											
ピット3 (4・5層上面)											
ピット4 (6層上面)											
合 計	30		3	24			248	9			323

表20 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(10)

Tab.20 Distribution of modern porcelains at NM12(10)

水筒

出土層位・採取技法	手 磨 き	磨	絵	刷 取 紙 写	型 打 ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明	1				1						2
3層上面露焼				1							1
3層				2						2	4
3a層				4	1					6	11
3a~3c層				1						2	3
3b層上面											
3b層				2						3	5
3c層										3	3
松平町3d層											
東区3d層	1			1	3			1			6
西区3d層	9			3	10	2				25	49
4層											
5層上面										1	1
5層										1	1
6層											
7層											
1号溝 (4層上面)											
2号溝 (4層上面)										1	1
3号溝 (5層上面)										1	1
4号溝 (6・7層上面)											
1号堀 (5層上面)											
ピット1 (3c層上面)											
ピット2 (3c層上面)											
ピット3 (4・5層上面)				1	1					1	3
ピット4 (6層上面)											
合 計	10			16	16	2		1		54	99

表21 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表①

Tab.21 Distribution of modern porcelains at NM12①

合子(身)

出土層位\裝飾技法	手掻き	藍	絵	銅版転写	型打ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合計
層位不明											
3層上層直線							1			1	2
3層	1						1			1	3
3a層				1					2		4
3a~3c層											
3b層上面											
3b層							1				1
3c層	1			1				1		1	4
区不明3d層											
東区3d層	2			4			1	2			9
西区3d層	4			9			2	5			20
4層											
5層上面											
5層											
6層											
7層											
1号溝(4層上面)	1										1
2号溝(4層上面)	1			1							2
3号溝(5層上面)	1							1			2
4号溝(6・7層上面)											
1号堀(5層上面)				1							1
ビット1(3c層上面)											
ビット2(3c層上面)											
ビット3(4・5層上面)											
ビット4(6層上面)											
合計	11			17			6	11		4	49

表22 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②

Tab.22 Distribution of modern porcelains at NM12②

合子(蓋)

出土層位\裝飾技法	手掻き	藍	絵	銅版転写	型打ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合計
層位不明	1										1
3層上層直線				2							2
3層	1			1					2	1	5
3a層			1	3							4
3a~3c層	1			4				1			6
3b層上面											
3b層											
3c層											
区不明3d層											
東区3d層	3			9				2			14
西区3d層	3			18				3		2	26
4層											
5層上面	1										1
5層											
6層											
7層											
1号溝(4層上面)											
2号溝(4層上面)											
3号溝(5層上面)											
4号溝(6・7層上面)											
1号堀(5層上面)											
ビット1(3c層上面)											
ビット2(3c層上面)											
ビット3(4・5層上面)											
ビット4(6層上面)											
合計	10		1	37				8		3	59

表23 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表03

Tab. 23 Distribution of modern porcelains at NM1203

段重・蓋物(身)

出土層位\器物技法	手 柄 き	型 絵	刷 取 転 写	相 打 り	白 磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明									
3層上面滑焼	2								2
3層	1								1
3a層			1						1
3a~3c層	1							1	2
3b層上面									1
3b層									
3c層	1								1
比不明3d層									
東区3d層								1	1
西区3d層	2	2	2			1		2	9
4層									
5層上面									
5層									
6層									
7層									
1号溝 (4層上面)								4	4
2号溝 (4層上面)									
3号溝 (5層上面)									
4号溝 (6・7層上面)									
1号溝 (5層上面)									
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (6層上面)									
合 計	7	3	2			1		6	23

表24 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表04

Tab. 24 Distribution of modern porcelains at NM1204

段重・蓋物(蓋)

出土層位\器物技法	手 柄 き	型 絵	刷 取 転 写	相 打 り	白 磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合 計
層位不明									
3層上面滑焼									
3層									
3a層									
3a~3c層									
3b層上面									
3b層									
3c層									
比不明3d層									
東区3d層				1					1
西区3d層									
4層									
5層上面									
5層									
6層									
7層									
1号溝 (4層上面)									
2号溝 (4層上面)									
3号溝 (4層上面)									
4号溝 (6・7層上面)									
1号溝 (5層上面)									
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (6層上面)									
合 計				1					1

表25 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(5)

Tab.25 Distribution of modern porcelains at NM1205

土瓶(身)

出土層位・発掘技法	手描き	磨	絵	刷	転	写	形	打	ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
層位不明	1															1
3層上層磁器	8															8
3層	7															7
3a層	18															18
3a~3c層	8															8
3b層上面																
3b層	2															2
3c層	5															5
区不明3d層																
東区3d層	37					4										41
西区3d層	43					1				1			1			46
4層	8															8
5層上面	1															1
6層																
7層																
1号溝(4層上面)	4															4
2号溝(4層上面)																
3号溝(5層上面)	5															5
4号溝(6・7層上面)																
1号堀(5層上面)	2															2
ピット1(3c層上面)																
ピット2(3c層上面)																
ピット3(4・5層上面)																
ピット4(6層上面)																
合計	120					5				1			1			127

表26 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表(6)

Tab.26 Distribution of modern porcelains at NM1206

土瓶(蓋)

出土層位・発掘技法	手描き	磨	絵	刷	転	写	形	打	ち	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
層位不明																
3層上面磁器																
3層	1															1
3a層	4															4
3a~3c層	4															4
3b層上面																
3b層																
3c層	1															1
区不明3d層																
東区3d層	6															6
西区3d層	14													1		15
4層																
5層上面	1															1
6層																
7層																
1号溝(4層上面)																
2号溝(4層上面)	2															2
3号溝(5層上面)																
4号溝(6・7層上面)																
1号堀(5層上面)																
ピット1(3c層上面)																
ピット2(3c層上面)																
ピット3(4・5層上面)																
ピット4(6層上面)																
合計	33													1		34

表27 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表①

Tab.27 Distribution of modern porcelains at NM12①

急須(身)

出土層位\調査技法	手 摺	キ	型	絵	刷	転	写	型	打	ち	白	磁	タロム青磁	ソノ他色物	技法不明	合	計
層位不明			1														1
3層上山南側			2														2
3層			1														1
3A層			2														2
3A~3C層			1														1
3b層上面																	
3b層			1														1
3C層			4														4
区不明3d層																	
東区3d層			17														17
西区3d層			14											1			15
4層																	1
5層上面			1														1
5層																	
6層																	
7層																	
1号溝(4層上面)			4														4
2号溝(4層上面)																	
3号溝(5層上面)			1														1
4号溝(6・7層上面)																	
1号堀(5層上面)			1														1
ピット1(3C層上面)																	
ピット2(3C層上面)																	
ピット3(4・5層上面)																	
ピット4(6層上面)																	
合 計			60											1			61

表28 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②

Tab.28 Distribution of modern porcelains at NM12②

急須(蓋)

出土層位\調査技法	手 摺	キ	型	絵	刷	転	写	型	打	ち	白	磁	タロム青磁	ソノ他色物	技法不明	合	計
層位不明															1		1
3層上山南側																	
3層			5														5
3A層			3														3
3A~3C層			2														2
3b層上面																	
3b層																	
3C層			2														2
区不明3d層																	
東区3d層			9										1				10
西区3d層			9												1		10
4層																	
5層上面																	
5層																	
6層																	
7層																	
1号溝(3層上面)			2														2
2号溝(4層上面)																	
3号溝(5層上面)																	
4号溝(6・7層上面)																	
1号堀(5層上面)																	
ピット1(3C層上面)																	
ピット2(3C層上面)																	
ピット3(4・5層上面)																	
ピット4(6層上面)																	
合 計			32									1			6		38

表29 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表19

Tab.29 Distribution of modern porcelains at NM12跡

櫻井利

出土部位・装飾技法	手廻き	磨	給	銅彩転写	型打ち	白磁	クロム青磁	ソノ色釉	技法不明	合計
部位不明	3		4	4						11
3層上(面磨)	9	2	10							21
3層	6	2	3							11
3a層	6	1	4			1				12
3a~3c層	4	1	2							7
3b層上画										
3b層		1								1
3c層		5	6							11
区不明3d層										
東区3d層	6	23	33			1				63
西区3d層	36	38	12			1				87
4層	2					1				3
5層上画	3		1			1				5
5層										
6層										
7層										
1号溝 (4層上画)	2	2	3			3				10
2号溝 (4層上画)	1									1
3号溝 (5層上画)	1	8	1							10
4号溝 (6・7層上画)										
1号罫 (5層上画)	1									1
ピット1 (3c層上画)										
ピット2 (3c層上画)										
ピット3 (4・5層上画)			1							1
ピット4 (6層上画)										
合計	80	80	69			6				235

表30 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表20

Tab.30 Distribution of modern porcelains at NM12跡

酒井

出土部位・装飾技法	手廻き	磨	給	銅彩転写	型打ち	白磁	クロム青磁	ソノ色釉	技法不明	合計
部位不明	7									7
3層上(面磨)	28			3	1	6				38
3層	17			4	1	10				32
3a層	59			9	1	28				97
3a~3c層	16			1	1	10				28
3b層上画										
3b層	7			1		1				9
3c層	14			3		6				23
区不明3d層				1						1
東区3d層	87			10	7	20				124
西区3d層	143			9	8	24				184
4層						1				1
5層上画	3				1					4
5層	1									1
6層										
7層										
1号溝 (4層上画)	9					1				10
2号溝 (4層上画)	2					2				4
3号溝 (5層上画)	8					6				14
4号溝 (6・7層上画)										
1号罫 (5層上画)						1				1
ピット1 (3c層上画)										
ピット2 (3c層上画)										
ピット3 (4・5層上画)				1						1
ピット4 (6層上画)										
合計	490			42	20	119				671

表31 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②
 Tab.31 Distribution of modern porcelains at NM12②

火鉢

出土層位\装飾技法	手摺	器 鉢	煎 飯 碗	型 打 ち	白 磁	タタム青磁	ソノ柄凸輪	技法不明	合 計
層位不明			1	1				1	3
3層上面浮線			3	4					7
3層	1	2	2						6
3a層		7						1	8
3a~3c層	1	1							2
3b層上面									
3b層		1						1	2
3c層		4						1	5
区不明3d層									
東区3d層	3	8	2					1	14
西区3d層	2	3							5
4層		1							1
5層上面									
5層									
6層									
7層									
1号溝 (4層上面)	1	3						1	5
2号溝 (4層上面)									
3号溝 (5層上面)									
4号溝 (6・7層上面)									
1号椀 (5層上面)	1								1
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (6層上面)									
合 計	8	36	9					6	59

表32 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②
 Tab.32 Distribution of modern porcelains at NM12②

その他の磁種

出土層位\装飾技法	手摺	器 鉢	煎 飯 碗	型 打 ち	白 磁	タタム青磁	ソノ柄凸輪	技法不明	合 計
層位不明					磁1				1
3層上面浮線	磁1G1				磁1 紅1器1給1磁1透2	花金1	磁1植1	磁1	16
3層					神樂1FG4				5
3a層	磁1 11				磁1把手4磁25		磁1		33
3a~3c層	磁1	透111	磁1キ1		磁1子1磁24+1				9
3b層上面									
3b層	赤1				磁1子1磁26				38
3c層	磁1				キ1把手磁23				28
区不明3d層									
東区3d層	磁1赤1ホ1		磁1		磁1キ2把手透27P2				39
西区3d層	磁1カ2		磁1赤1透1透1紅1	赤1	磁1植2キ2把手1磁25P1				22
4層									
5層上面				赤1	把手2				3
5層									
6層									
7層									
1号溝 (4層上面)					磁1				1
2号溝 (4層上面)	赤1								2
3号溝 (5層上面)	磁1		赤1						1
4号溝 (6・7層上面)									
1号椀 (5層上面)	赤1								1
ピット1 (3c層上面)									
ピット2 (3c層上面)									
ピット3 (4・5層上面)									
ピット4 (6層上面)									
合 計	17	1	10	2	163	1	3	1	198

[赤1] 赤号 磁赤；磁赤仕し身 神楽；豊田成し透 透；透透まし 赤；磁赤透 赤；赤号 カ；カップ 磁；磁赤鉢 紅；紅磁口
 赤；赤赤透 磁；磁赤鉢 灰；灰灰 キ；キセル 磁；磁赤透鉢 P；P号 赤；把手 赤；赤赤透

表33 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②

Tab.33 Distribution of modern porcelains at NM12②

器種不明

出土部位・器種技法	手廻り	茶	結	刷	転	写	型	打	も	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
器底不明	19									10		2			51	87
3層上蓋陶器	29									7					33	77
3層	20	5								8	3				103	169
3a層	44	3								19					98	177
3a~3c層	20									14	2				48	93
3b層上蓋																
3b層	8	1								1					12	23
3c層	17	6								15	1				82	151
区不明3d層																
東区3d層	41	8								38	1				188	336
西区3d層	147	19								48	10				269	492
4層	7									2					7	17
5層上蓋	7	1								2					29	43
6層															1	1
7層																
1号溝 (4層上蓋)	34	4								5	1				48	98
2号溝 (4層上蓋)	5									1					6	12
3号溝 (5層上蓋)	8	1								4					33	50
4号溝 (6・7層上蓋)															1	1
1号溝 (5層上蓋)	5														2	7
ピット1 (3c層上蓋)	1															1
ピット2 (3c層上蓋)																
ピット3 (4・5層上蓋)										1					2	3
ピット4 (6層上蓋)										1					1	2
合 計	402	49								171	26				1008	1830

表34 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表②

Tab.34 Distribution of modern porcelains at NM12②

全器種

出土部位・器種技法	手廻り	茶	結	刷	転	写	型	打	も	白	磁	クロム青磁	ソノ他色釉	技法不明	合	計
器底不明	57	197								23		11			84	424
3層上蓋陶器	159	190								32		11	7		94	580
3層	217	333								44	36		1		199	925
3a層	235	212								148	10	2			216	941
3a~3c層	132	292								59	38				121	710
3b層上蓋																
3b層	48	116								11	45	3			35	273
3c層	122	463								35	89	42			162	882
区不明3d層	1	13													1	17
東区3d層	730	1413								28	152	92			381	3112
西区3d層	2104	1423								154	124	326	16		638	5014
4層	51	82								11	4	8			18	180
5層上蓋	71	100								8	5	9	2		48	253
6層	9	2								2					3	17
7層																
1号溝 (4層上蓋)	107	175								6	13	7	1		88	461
2号溝 (4層上蓋)	41	39								3	3	6			21	119
3号溝 (5層上蓋)	133	183								12	54	12	16		61	301
4号溝 (6・7層上蓋)															2	2
1号溝 (5層上蓋)	19	32								9	9	2	1		5	81
ピット1 (3c層上蓋)	12														2	14
ピット2 (3c層上蓋)																
ピット3 (4・5層上蓋)	1	10								1					3	18
ピット4 (6層上蓋)	1	1								1					1	4
合 計	4251	5196								364	727	620	25		2173	14509

表37 仙台城二の丸跡第12地点出土近代陶器集計表3
Tab. 37 Distribution of modern glazed ceramics at NM12(3)

出土層位・器種	重量g (最小個体数)					合計
	豆	鉢	小	数調茶	花生	
層位不明						9600
3層上面附縁	521			19620	48120	25941
3層				7200	13700	20900
3a層				4000	4300	8300
3a～3c層					120	2630
3b層上面						
3b層					1250	12600
3c層					3920	8640
区不明3d層						
東区3d層				4000	2800	7500
西区3d層				3300	6300	24200
4層					3650	13900
5層上面					0	2760
5層				2400		3680
6層						
7層						
1号溝(4層上面)				600	3000	21600
2号溝(4層上面)					50	7900
3号溝(5層上面)					30	7320
4号溝(6・7層上面)						720
1号堀(5層上面)	440					404
ピット1(3c層上面)						
ピット2(3c層上面)						300
ピット3(4・5層上面)						1080
ピット4(6層上面)						120
合計	521	440	330	12760	3960	36540

表38 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器集計表
Tab. 38 Distribution of modern unglazed fired ceramics at NM12

出土層位・器種	重量g (最小個体数)					
	湯のみ	急須	茶碗	土瓶	土瓶蓋	土瓶蓋
層位不明						
3層上面附縁	3000	300				
3層						4600
3a層						4300
3a～3c層	440	300				18000
3b層上面						
3b層						700
3c層						8400
区不明3d層						
東区3d層				1500	340	600
西区3d層				830	430	470
4層						
5層上面						
5層						
6層						
7層						
1号溝(4層上面)						180
2号溝(4層上面)						0
3号溝(5層上面)						40
4号溝(6・7層上面)						
1号堀(5層上面)						
ピット1(3c層上面)						
ピット2(3c層上面)						
ピット3(4・5層上面)						
ピット4(6層上面)						
合計	440	440	1000	530	280	20620

表39 仙台城二の丸跡第12地点出土近代土師土器集計表
Tab.39 Distribution of modern ceramics at NM12

出土層位・器種	重量g (最小個体数)				
	鉢	伊	鉢木	井	な
層位不明	640				
3層上面附縁					1266
3層					2830
3a層					1020
3a～3c層					5220
3b層上面					
3b層					
3c層					1920
区不明3d層					
東区3d層					876
西区3d層					3960
4層					
5層上面					200
5層					180
6層					
7層					
1号溝(4層上面)					430
2号溝(4層上面)					30
3号溝(5層上面)					120
4号溝(6・7層上面)					
1号堀(5層上面)					1920
ピット1(3c層上面)					200
ピット2(3c層上面)					
ピット3(4・5層上面)					
ピット4(6層上面)					
合計	19620	8740	4320	5964	6360

表40 仙台城二の丸跡第12地点出土近代瓦質・軟質磁器土器集計表
Tab.40 Distribution of various modern ceramics at NM12

出土層位・器種	重量g (最小個体数)			
	瓦質土器(火土)	軟質磁器(赤)	軟質磁器(白)	軟質磁器(青)
層位不明				160
3層上面附縁				2920
3層				120
3a層				90
3a～3c層				
3b層上面				
3b層				
3c層				
区不明3d層				
東区3d層				40
西区3d層				420
4層				
5層上面				
5層				
6層				
7層				
1号溝(4層上面)				330
2号溝(4層上面)				30
3号溝(5層上面)				720
4号溝(6・7層上面)				
1号堀(5層上面)				40
ピット1(3c層上面)				
ピット2(3c層上面)				
ピット3(4・5層上面)				
ピット4(6層上面)				
合計	8920	1000	934	480

表41 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁質陶器集計表
Tab.41 Distribution of modern "Iron stone china" at NM12

出土層位	器種		磁器		磁		漆		大型碗		大形碗		蓋		不明	
	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数
掘位不明	1,045	5	999	5	2,443	7	943	3			24	1				62
3層上段焼締	4,559	27	5,686	26	8,011	20	2,025	6	63	1	2	1				264
3層	4,384	26	4,483	24	8,536	22	1,962	5	103	2	49	1	6	1	437	
3a層	19,193	111	19,511	97	27,360	69	5,787	16	72	1	243	2	19	1	1,331	
3a~3c層	6,774	39	6,942	35	11,848	30	1,237	4	354	3	89	1			374	
3b層上面																
3b層	992	6	899	4	1,598	4	389	2	13	1	31	1			74	
3c層	1,289	8	1,309	6	2,776	7	1,596	5			18	1			168	
区不明3d層																
第13d層	3,002	29	4,736	24	8,030	29	2,897	8	112	1			34	1	336	
西区3d層	271	2	405	2	295	1	163	1							68	
4層	6	1	3	1	8	1	168	1							8	
5層上面											6	1			3	
6層																
7層																
1号溝(4層上面)	711	5	587	3	1,067	3	376	2							40	
2号溝(4層上面)																
3号溝(5層上面)	113	1	185	1	233	1	164	1							24	
4号溝(5層上面)																
1号溝(5層上面)	76	1			83	1	45	1							1	
ピット1(3c層上面)																
ピット2(3c層上面)																
ピット3(4・5層上面)																
ピット4(6層上面)	19	1			28	1									5	
合計	44,382	263	44,966	228	72,315	187	17,302	53	719	9	453	9	59	3	3,275	

表42 仙台城二の丸跡第12地点出土近代石製品・その他の遺物集計表
Tab.42 Distribution of modern various implements at NM12

出土層位	石製品				織物製品				布製品				ゴム製品				合成樹脂		その他	
	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数	数量	個体数		
掘位不明	2						1				2	1	2						2	
3層上段焼締	4	2	2		板状	8	1	2	2	1	16	1	2			地下足袋	5		2	
3層	1	2	1				9	1	1	1	19	7				スボイト	1		2	
3a層	13	1	5	1	袋帯	1	1	2	34		41	2	18	3		押しゴム	1			
3a~3c層	3	1			方巾	1	1	4	1	15		4	5						3	
3b層上面																				
3b層	1	1	1				3		1	1	9									
3c層	2	1	1	1	袋帯	1	1	1	1	11	1								2	
区不明3d層																				
第13d層	13	2					24	1	2	1	12	4					1	不明	1	
西区3d層	25	17	31		2	2	自給チップ	板状	1		2	3	1	22	7		5	不明	6	
4層	1	1	1	5																
5層上面																			1	
5層			1																2	
6層																				
7層																				
1号溝(4層上面)	3	2					2	1			3									
2号溝(4層上面)			1	1																
3号溝(5層上面)	2	2					2	1	1		1									
4号溝(5層上面)																				
1号溝(5層上面)																				
ピット1(3c層上面)																				
ピット2(3c層上面)																				
ピット3(4・5層上面)																				
ピット4(6層上面)																				
合計	72	27	19	17	4	4	6	117	3	8	45	5	1	142	3	44	16	9	2	19

表43 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品集計表1)
Tab.43 Distribution of modern glass implements at NM12(1)

出土層位	明子 重量 (g)	明子 容積 (cc)	点 数	ビニール瓶							総重量 (g)	総容積 (cc)	硝子瓶										透明の ガラス瓶 重量 (g)	点 数							
				口縁部 コップ ルタ	瓶				不 明	A			B	C	D	E	F	不明	口縁部 コップルタ			重量			点 数						
					大	中	小	不明											A	B	C										
層位不明	376	112	81	3	2037	8	3	3	1	878	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	120	1									
3層上層部	67	27	5		1794	3				1417											3	11									
3層	584	89	292	7	4635	6	3	3	6	3											1	1	126	2							
3層	4248	136	27		4664	12	7	4	4	3											14	27	14	199	4						
3層~3層	1314	173	1		2172	8	1	3													1	1	7	238	3						
3層上層																															
3層	951	12			1415	5	3	2	2	1																					
3層	1179	196	6	1	11413	42	13	8	2												4	2	3	69	2						
区不明3層	33				860	3																									
東区3層	6853	773	307	5	23577	41	5	39	22	14	1	4	11	5410	1	5	3	1			2	3	2	4	1	2	838	4			
西区3層	6922	1250	719	24	50990	87	26	58	14	3	10	14	13023	11	21	12	1														
4層	74	23	19	2	652									875																	
5層上層	240	9			286									30																	
5層	4	1	1		22																										
6層																															
7層																															
1号溝(4層上層)	136	27	11	8	2679	2								287																	
2号溝(4層上層)	35	6			1720	1								812																	
3号溝(5層上層)	429	4	87	3	2295	5	3	3						1473	2																
4号溝(6・7層上層)																															
1号溝(5層上層)	51	3	48	1	506	1								46																	
ビット1(3層上層)	3																														
ビット2(3層上層)																															
ビット3(4・5層上層)	19	1			441																										
ビット4(6層上層)	33				60																										
合計	21636	2875	1244	45	113990	224	15	139	121	41	7	15	33	38919	16	29	28	2	2	1	8	27	20	12	6	34	2004	28			

表44 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品集計表2)
Tab.44 Distribution of modern glass implements at NM12(2)

出土層位	透明ガラス										硝子ガラス										その他 硝子ガラス	重量 (g)	点 数									
	筒	瓶	丸	小	丸	丸	点	重量	コップ	その他	厚板	その他	総重量	ガラス	小	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶				瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶
層位不明	73	2			191	3	174	1	4	2																						
3層上層部	24	1			279	11	366	5	5	2																						
3層	41	2			357	13	412	4	12	28																						
3層	645	2	14	7	1637	53	1911	7	33	291	6	28	196	6	584	21																
3層~3層	172	3	2		602	17	276			8	101	2	11	34	1	64	9	4	2													
3層上層																																
3層	29				839	19	183			2	58	1	1	6	1	52	2															
3層	432	7	2		864	37	918	3	33	23	1	3	84	3	36	2																
区不明3層	91	1	1																													
東区3層	422	4	1		1088	33	1539	5	48	78	4	10	889	14	1	85	4															
西区3層	2120	16	17		1748	47	2598	12	61	246	8	10	1205	23	8	61	7	4	277	170												
4層					37	2	38	1																								
5層上層					10		117	1	1	1	1																					
5層																																
6層																																
7層																																
1号溝(4層上層)	26				34	3	173	1						14		23	2	1	3													
2号溝(4層上層)					21	2	70							1																		
3号溝(5層上層)					12	1	190	3						9		2	87	1	1													
4号溝(6・7層上層)																																
1号溝(3層上層)	10				70	1	38							7																		
ビット1(3層上層)																																
ビット2(3層上層)																																
ビット3(4・5層上層)																																
ビット4(6層上層)																																
合計	4282	3	54	25	7789	244	3012	53	189	810	25	63	2281	43	25	929	52	5	341	236	172	5	297	13	82							

表49 仙台城二の丸跡第12地点出土近代皮革製品集計表(1)

Tab.49 Distribution of modern leather articles at NM12(1)

出土層位	層切		階切再利用		靴		ベルト1		ベルト2		ベルト3		ベルト4		ベルト類		ベルト状		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
層位不明	77	167.9	30	123	31	960	7	26	2	29			3	11	14	35	3	6	
3層上層部	324	591	161	420	88	1588	29	118	15	127	3	4	2	10	24	149			
3層	360	871	172	497	105	1432	47	196	25	142			5	18	39	142	6	47	
3層	6814	6291.3	1713	5512	498	3691.2	127	510	73	497	2	2	9	27	158	498	13	33	
3層~3層	81	261	23	424	59	1396	55	224	54	389	6	9	4	11	43	218.1	1	3	
3層上部																			
3層	33	48	17	70	18	364				2	13			1	1	18	48		
3層	64	136	33	150	58	959	6	23	3	35			2	7	29	48			
民平明3層																			
東区3層	79	332	97	681	136	2296	36	150	23	174	1	4	1	2	38	195	3	10	
西区3層	192	361	43	225	111	1921	3	13	3	22			1	1	24	193			
4層	3	3	2	6	12	390	1	5	1	4					6	19			
5層上部	1	9																	
5層	3	19																	
6層																			
7層																			
1号溝(4層上部)	17	120	4	22	5	132									1	10			
2号溝(4層上部)	5	11	2	37	3	13													
3号溝(5層上部)	16	37.1	23	205	18	778	6	20	8	28					7	80			
4号溝(5層上部)																			
1号溝(5層上部)	4	113																	
ピット1(3層上部)																			
ピット2(3層上部)																			
ピット3(4・5層上部)	19	43			2	119													
ピット4(6層上部)																			
合計	7933	9844.3	2252	8272	1144	15264.2	317	1285	215	1452	12	22	28	88	392	1676.1	26	99	

表50 仙台城二の丸跡第12地点出土近代皮革製品集計表(2)

Tab.50 Distribution of modern leather articles at NM12(2)

出土層位	紐		夾		札		リング状		海軍袋状		縞袋状		不明												
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)			
層位不明	9	6.2	1	2																	12	4	258	138	
3層上層部	8	22	5	14					6	32	3	5	2	2	3	11	1	1	12	5	29	77			
3層	36	56.6	12	26.3	3	31	12	25	2	19	1	1	6	52	1	8	1	2	53	97.5					
3層	176	162	48	98.2					28	78	19	39	32	34	41	149	3	6	262	64	681	422			
3層~3層	19	36.4	29	42	2	13	13	33	1	4				4	11					2	3	12	28.1		
3層上部																									
3層	5	1.3																					14	25	
3層	7	5.3	1	0.2	1	3	3	5															23	73	
民平明3層																									
東区3層	13	13	81	13	2	9	6	15						1	2	1	15	24	10	38	77.5				
西区3層	9	6	1	1					1	7													35	118	
4層																								1	5
5層上部																									
5層																									
6層																									
7層																									
1号溝(4層上部)	1	0.1												1	3								2	10	
2号溝(4層上部)	1	0.3																							
3号溝(5層上部)	9	7							2	33				1	4								2	10	
4号溝(5層上部)																									
1号溝(5層上部)																									
ピット1(3層上部)																									
ピット2(3層上部)																									
ピット3(4・5層上部)																							2	7	
ピット4(6層上部)																									
合計	293	316.4	99	106.9	8	56	71	228	16	58	35	37	57	223	6	30	313	88	1149	1088.1					

表55 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の名札類観察表(1)
Tab.55 Notes on modern wooden tablets from NM12(1)

図録 番号	類別	出土場所	法長()は推定 長×幅×厚(mm)	記 載 文 字	加工など
158-1	筒札	部位不明	15.8×(2.9)×0.6	(表)陸軍輸重輸卒 田々次郎部 (裏)----日々若 又次郎	一部炭化
158-2	筒札	3層上面漆剥	14.5×(4.7)×0.9	(表)仙台河内糧重兵衛第二次隊第一中隊ノ四 (裏)----平小四郎	上部に穴1
158-3	筒札	3層上面漆剥	15.1×4.5×0.5	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第四班内 伊藤武蔵殿 (裏)北藤近----西中川郎---- 伊藤口上三少	上部に穴1
158-4	筒札	3層上面漆剥	13.5×(5.9)×0.3	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第一中隊 菅原幸助様行 (裏)なし	上・下部各穴1
158-5	筒札	3層上面漆剥	15.2×5.2×0.9	(表)仙台糧重兵衛----兵 小上上三郎部 (裏)白形----	上部に穴1
158-6	筒札	3層	13.6×(1.5)×0.3	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第二中隊 (裏)泉岡----	
158-7	筒札	3層	18.9×(3.4)×0.6	(表)仙臺糧重兵衛第二次隊第一中隊 (裏)仙臺糧重兵衛----中隊 飯島福太郎部陸立 二太郎部者出	一部炭化
158-8	筒札	3層	(11.3)×(2.7)×0.4	(表)仙台糧重兵衛第二次隊---- (裏)西部	
158-9	筒札	3層	(6.9)×(2.0)×0.3	(表)芳治部 (裏)-----	
158-10	筒札	3層~3層	15.8×5.5×0.7	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第二中隊西藤田 戸村芳波 (裏)仙臺糧重兵衛内藤村直美第二次中隊 戸村直美	上・下部各穴1
158-11	筒札	2層~2層	13.5×5.5×0.7	(表)仙台糧重兵衛第一大隊第一中隊 三 石川義雄様行々 (裏)安達部小沢町丁小川誠二様行々 石川上三郎様行々	上・下部各穴1
158-12	筒札	3層~3層	19.9×5.5×0.6	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第二中隊五十嵐茂義様行々 五十嵐久米殿 (裏)----茂作----	上・下部各穴1 再加工
158-13	筒札	3層~3層	(9.6)×(2.7)×0.5	(表)----直徳様行 (裏)不明	
158-14	筒札	3層~3層	6.5×5.8×0.5	(表)仙台糧重兵衛第二次隊第一中隊一班 山科金藏様行 (裏)山形縣上郡萩野村字赤坂 山科存吉殿	上部に穴1
158-15	筒札	3層~3層	(5.6)×(3.2)×0.6	(表)仙台糧重兵衛上郡萩野村大字角川郎----藤田---- (裏)不明	
158-16	筒札	東区3層	(16.6)×(4.7)×0.7	(表)第二中隊---- 寺嶋政道殿 (裏)山形縣東村山郡山辺町小町?	上・下部各穴1
158-17	筒札	東区3層	18.8×6.2×0.7	(表)福島縣山形郡長 高橋子之松様行々 (裏)なし	上・下部各穴1
158-18	筒札	3号焼埋土	22.8×(4.4)×0.2	(表)福島県山形郡宮寺村大字二ツ山新田 厂工 吉 (裏)不明	一部炭化
158-19	筒札	3号焼埋土	9.9×(3.6)×0.9	(表)仙台市八幡町三八 (裏)なし	下半に釘
158-20	名札	部位不明	15.0×2.8×0.6	(表)櫻井部 (裏)櫻	上部に穴1
158-21	名札	部位不明	(4.1)×1.8×0.4	(表)不明 (裏)不明	上部に穴1
158-22	名札	3層上面漆剥	6.9×1.7×0.2	(表)新田口部 (裏)櫻等	上部に穴1
158-23	名札	3層上面漆剥	(7.3)×4.9×0.3	(表)糧重兵衛----上---- (裏)なし	上部に穴1
158-24	名札	3層上面漆剥	7.0×3.3×0.3	(表)第二内隊 小泉保 (裏)第二内隊 小泉保	上部に穴1
158-25	名札	3層上面漆剥	9.0×5.2×0.8	(表)森路用 (裏)第一中隊	上部に穴1
158-26	名札	3層上面漆剥	12.3×(1.3)×0.4	(表)第二内隊班 (裏)小泉保	
158-27	名札	3層上面漆剥	(7.6)×(2.6)×0.4	(表)不明 (裏)不明	上部に穴1
158-28	名札	3層	5.1×1.6×0.3	(表)佐久間製菓 (裏)櫻等	上部に穴1
158-29	名札	3層	5.2×1.6×0.3	(表)山口工厂 (裏)不明	上部に穴1
158-30	名札	3層	3.3×2.4×0.3	(表)阿部千重 (裏)なし	上部に穴1
158-31	名札	3層	11.9×6.7×1.0	(表)不明 (裏)不明	
158-32	名札	3層	5.2×1.7×0.3	(表)竹田口 (裏)櫻等	上部に穴1
158-33	名札	3層	5.7×2.9×0.6	(表)ワセリン (裏)ワセリン	上部に穴1
158-34	名札	3層	17.4×(6.1)×0.6	(表)編 第三内務---- (裏)不明	

表56 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の名札類観察表(2)
Tab.56 Notes on modern wooden tablets from NM12(2)

図版番号	種類	出土場所	法量()は現存寸法×幅×厚(mm)	記 録 文 字	加工など
159-33	名札	3a~3c層	5.4×(1.4)×0.3	(表)和倉谷 (裏)なし	上部に穴1
159-36	名札	3a~3c層	5.2×1.6×0.4	(表)不明 (裏)なし	上部に穴1
159-37	名札	3a~3c層	12.1×7.4×0.9	(表)海二内藤屋 阿部屋 (裏)第二内藤屋 阿部屋	上・中部各穴1
159-38	名札	3a~3c層	13.2×5.2×0.8	(表)丁内野 甲二札 (裏)補助兵	上部に穴1
159-39	名札	3a~3c層	12.4×(1.1)×0.3	(表)一内藤屋 (裏)なし	
159-40	名札	3a~3c層	8.9×5.5×1.1	(表)秋津中 (裏)秋二	
159-41	名札	3a~3c層	1.9×6.6×0.6	(表)19 (裏)なし	中部に穴1
159-42	名札	東区3d層	4.3×3.0×0.3	(表)大正二一 分数一一品 (裏)なし	上部に穴1
159-43	名札	東区3d層	6.8×2.4×0.8	(表)不明 (裏)不明	上部に穴1
159-44	名札	東区3d層	19.0×(2.3)×0.5	(表)一〇二夜丁 (裏)不明	上部に穴1
159-45	名札	4層	8.7×1.5×0.5	(表)一太郎 (裏)なし	上部に穴1
159-46	名札	4層	16.7×(2.7)×0.7	(表)藤原徳吉 佐藤七郎 (裏)不明	上部に穴1
159-47	名札	4層	16.6×4.7×0.7	(表)藤原徳吉 佐藤七郎 (裏)藤原徳吉 佐藤七郎	上部に穴1
159-48	名札	1号溝	12.1×7.1×0.7	(表)第三班 早坂新太郎 (裏)なし	上・中部各穴1
159-49	名札	3号溝	6.0×(2.3)×0.6	(表)小上太郎 (裏)不明	上部に複数の穴
159-50	名札	3号溝	4.5×2.4×0.5	(表)廿五年製作中 (裏)なし	上部に穴1
159-51	名札	3号溝	19.7×3.1×0.6	(表)歩兵第十七聯隊第三中隊 田中元久 (裏)歩兵第十七聯隊第二中隊 田中元久	上部に穴1
159-52	名札	3号溝	(16.2)×1.4×0.8	(表)一〇二中隊二番用 (裏)なし	
159-53	名札	3号溝	16.5×4.1×0.7	(表)陸軍砲臺一〇一 (裏)陸軍一〇一 (裏)東北百番	上部に穴1
159-54	名札	3号溝	16.3×4.2×0.6	(表)陸軍砲臺第一等卒 八島今朝治 (裏)陸軍砲臺二等卒 賀野和彦	上部に穴1
159-55	名札	3号溝	7.6×(3.1)×1.0	(表)二十五年製作中 (裏)なし	上部に穴1
159-56	名札	3号溝	5.3×2.9×0.2	(表)森田山(焼印) (裏)不明	上部に穴1
159-57	名札	3号溝	5.4×3.0×0.3	(表)森田山(焼印) (裏)不明	
159-58	名札	3号溝	7.4×2.1×5.3	(表)森田山(焼印) (裏)森田山	
159-59	名札	3号溝	15.3×3.2×0.9	(表)森田山(焼印) (裏)なし	上部に穴1
159-60	へび	3a~3c層	(7.6)×(1.3)×0.1	(表)不明 (裏)不明	
159-61	へび	3号溝埋土	22.7×(3.0)×0.2	(表)口匠命 (裏)口匠命	
159-62	へび	3号溝埋土	23.7×(3.2)×0.2	(表)不明 (裏)不明	
159-63	へび	3号溝埋土	23.7×(3.8)×0.3	(表)家 (裏)なし	
159-64	へび	3号溝埋土	22.8×(5.3)×0.2	(表)不明 (裏)なし	
159-65	へび	3号溝埋土	(14.3)×(2.4)×0.4	(表)不明 (裏)なし	
159-66	へび	3号溝埋土	(14.9)×(2.7)×0.2	(表)不明 (裏)不明	
159-67	へび	3号溝埋土	(14.4)×(3.3)×0.2	(表)一〇一 (裏)なし	
159-68	へび	3号溝埋土	7.8×(3.1)×0.1	(表)山に上 (裏)なし	一部焼化
159-69	板材	3a層	(29.3)×(6.7)×0.8	(表)宮一 奥津 閣下へ (裏)なし	
159-70	板材	3a層	18.0×(1.7)×0.5	(表)伏見門(裏)不明	
159-71	板材	3a層	17.3×(3.8)×0.6	(表)不明 (裏)不明	
159-72	板材	3a~3c層	(24.3)×(1.2)×0.7	(表)不明 (裏)不明	
159-73	板材	3号溝埋土	22.6×(6.2)×0.5	(表)三上二共拾六口 (裏)なし	

⑬ 動物遺存体 (表57~66、図版163~166)

水見淳哉・川口貴史 (東北大学文学部考古学研究室)

仙台城二の丸跡第12地点においては、明治から大正年間にかけての動物遺存体が出土した。この期間、仙台城二の丸跡地にあった陸軍第二師団で廃棄された食物残滓である。動物遺存体は、3号溝の埋土、3d層、3a~3c層から出土している。また、E-3区、F-4区、F-5区の3a層の土壌を採集し、5mm目と1mm目のフルイで水洗を行った結果、サヨリやサバ属、マイワシなどの魚骨が検出された。

出土した種名は表57に記載した。貝殻はカルシウム分の溶脱が進行し、脆弱である。魚類、鳥類、哺乳類の骨は茶褐色に変色している。

【貝類】

貝類の出土量は少ない。マガキ、シジミガイ科、ハマグリ、ミミガイ科 (アワビ類) など2綱、5科、5種が確認されている。出土量は表58に記した。シジミガイ科としたものは淡水域に生息するマシジミと河口などの汽水域に生息するヤマトシジミの可能性があるが、この2種を区別することは困難であった。

貝類は3d層から比較的多く出土し、3a~3c層では少ない。岩礁に生息するミミガイ科 (アワビ類) が最も多く、次いでマガキ、ハマグリ、シジミガイ科が出土している。熱を受けて変色した貝殻は認められなかった。

【魚類】

1綱、15科、9種の出土が確認されている。発掘時に取り上げた資料は表59~62に、5mmフルイ上資料は表63に、1mmフルイ上資料は表64に記した。3a層、3d層から多く出土している。

マダイ、ヒラメ、カレイ類、サバ属が多く、他にマグロ、カツオ、ズズキ、サヨリ、ホウボウ科、コチ科、マイワシ、カタクチイワシなどが出土している。大型のマグロ属の椎骨が連結した状態で出土しており、胴体が丸ごと運び込まれ、調理された可能性が高い。

3d層と3a~3c層では、出土する魚類の内容が異なる。3d層では土壌の水洗フルイを実施していないので微細な魚骨について検討することはできない。3d層では大型のマグロ属の椎骨などが比較的多く出土するが、3a~3c層ではみられず、また、ヒラメも3a~3c層では少なくなる。一方、3d層では全く出土しなかったサバ属が、3a~3c層で多く出土するようになる。

3a層で実施した水洗フルイの内容を合わせて検討すると、特にサヨリが土壌サンプル (サンプルNo3) の水洗を実施したF-5区3a層の5mmフルイ上で非常に多く検出されている。5mmフルイ上同定資料7727点中、7684点(99%)がサヨリであり、最小個体数は147個体にのぼる。一方、他の区では水洗フルイを行っている場合でも、サヨリは出土していない。サヨリが一地点に集中的に廃棄されたのであろう。5mmフルイ上資料では、次いでサバ属が多く、タイ科、カレイ類、ヒラメが出土している。また、1mmフルイ上からはマイワシ、カタクチイワシ、サヨリが出土している。

淡水魚は、コイ科とタイワンドジョウ科の出土が確認された。タイワンドジョウ科は東南アジアを原産とし、明治時代以降に日本国内に入ってきた帰化動物である。国内ではタイワンドジョウとカムルチーの2種がみられ、東北地方にはカムルチーが生息している。カムルチーは、1923年頃、韓国から初めて奈良県郡山に移入されたという(益田ほか1984)。タイワンドジョウ科が出土している3a層の時期は第一次世界大戦前後と推定されており、カムルチーが日本に移入された時期とほぼ一致している。この時期には、カムルチーが宮城県内にも移入され、食用にされることもあったと考えられる。

【鳥類】

ニワトリとハトが出土している。出土量は表65に記した。ニワトリが68点、ハトが2点出土している。3d層で多く出土し、3a~3c層ではほとんど出土していない。骨の形態がニワトリと類似しているキジ、ヤマドリは確認されなかった。

ニフトリと同定された資料には、シャモ程度の大型のものからチャボ程度の小型のものまで大きさにバラエティが認められ、複数の品種が含まれているものと推定される。出土する部位は上腕骨、尺骨、大腿骨、脛骨、中足骨が多く、肩甲骨、鳥口骨、胸骨、寛骨は少ない。椎骨は出土していない。主に前肢、後肢部分の廃棄が認められる。

【哺乳類】

ノウサギ、イタチ、ウマなどの出土が確認された。出土量は表66に記載した。哺乳類遺存体の出土量は少なく、また、主に3d層から出土し、3a～3c層ではほとんど出土していない。

今回扱った資料では、魚類の出土量が多く、哺乳類の出土量は少ない。また、3d層と3a～3c層とでは、動物遺存体の内容に変化がみられる。3d層は日露戦争前後、3a～3c層は第一次世界大戦前後と推定されている。魚類は、3d層ではマグロ属やヒラメ、タイ科などが多く出土し、3a～3c層では特にサヨリが多く、サバ属、タイ科などが出土している。ニフトリは、主に3d層から出土している。

表57 仙台城二の丸跡第12地点出土動物遺存種名表

Tab.57 List of animal remains from NM12

軟体動物門 MOLLUSCA	ナハ漢 Scomber sp. indet
腹足綱 GASTROPODA	カクイ <i>Katsunanus jaluani</i> (Limaean)
原始腹足目 Archæogastropoda	マガキ属 <i>Turris</i> sp. indet
ミミガイ科 Ilaeidae gen. et sp. indet	タダ目 Gadiformes
中腹足目 Mesogastropoda	タウ科 <i>Gadidae</i> gen. et sp. indet
ムカゲガイ科 Vermetidae	カサゴ目 Scorpaeniformes
キオヘビガイ科 <i>Serpulidae (Chalogaia) imbricata</i> (Dunker)	フナカサゴ科 <i>Scorpaenidae</i> gen. et sp. indet
二枚貝綱 PELECYPODA	アユメ科 <i>Hexagrammidae</i>
ハマグリ目 Heterodonta	アヲメ <i>Hexagrammus obtusil</i> Jordan et Starck
マルスダレガイ科 Yeneridae	コナ科 <i>Platycephalidae</i> gen. et sp. indet
ハマグリ <i>Meretrix laurita</i> (Röding)	カウボウ科 <i>Trigidae</i> gen. et sp. indet
チョウセンハマグリ <i>Meretrix kamachi</i> Deshayes	カレイ目 Pleuronectiformes
シジミガイ科 <i>Corbiculidae</i> gen. et sp. indet	カレイ科 <i>Pleuronectidae</i> gen. et sp. indet
ウダシガイ目 <i>Parisotrophia</i>	ヒラメ科 <i>Paralichthyidae</i>
イタダコ科 <i>Ostridae</i>	ヒラメ <i>Paralichthys olivacea</i> (Temminck et Schlegel)
マガキ <i>Crassostrea aiga</i> (Thunberg)	タツ目 <i>Belontiiformes</i>
イタダコ科 <i>Pectinidae</i>	サヨリ科 <i>Heurramphidae</i>
ホタテガイ <i>Pinctopecten (Minahopecten) semonis</i> (Jay)	サヨリ <i>Heurramphus sajori</i> (Temminck et Schlegel)
節足動物門 ARTHROPODA	コイ目 <i>Cypriniformes</i>
甲殻綱 CRUSTACEA	コイ科 <i>Cyprinidae</i> gen. et sp. indet
足類目 Thoracica	タイワンフジョウ科 <i>Channidae</i>
フジワボ科 <i>Halamys</i> gen. et sp. indet	カムルチー <i>Chama argus</i> (Cantor)
脊椎動物門 VERTEBRATA	
魚上綱 PISCES	鳥綱 AVES
硬骨魚綱 OSTEOCITHYS	カヅ目 <i>Galliformes</i>
コシロ目 <i>Chirocentridae</i>	キジ科 <i>Phasianidae</i>
ニシロ目 <i>Clupeidae</i>	ニワトリ <i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i>
マイワシ <i>Sardinops melanostictus</i> (Temminck et Schlegel)	ハト目 <i>Columbiformes</i>
カタクナイワシ科 <i>Engraulidae</i>	ハト科 <i>Columbidae</i> gen. et sp. indet
カタクナイワシ <i>Engraulis japonicus</i> (Houttuyn)	
サケ目 <i>Salmoniformes</i>	哺乳綱 MAMMALIA
サケ科 <i>Salmonidae</i> gen. et sp. indet	ウサギ目 <i>Lagomorpha</i>
ズキ科 <i>Perciformes</i>	ウサギ科 <i>Leporidae</i>
ズキ科 <i>Serranidae</i>	ノウサギ <i>Lepus brachyurus</i> (Temminck et Schlegel)
ズキ <i>Lateolabrax japonicus</i> (Cuvier)	ネコ目 <i>Carnivora</i>
アジ科 <i>Carangidae</i>	イタチ科 <i>Mastelidae</i>
アジ <i>Seriola</i> sp. indet	イタチ <i>Mastela itata</i> Temminck
タイ科 <i>Scombridae</i>	ネズミ目 <i>Rodentia</i>
マダイ <i>Pagrus major</i> (Temminck et Schlegel)	ネズミ科 <i>Muridae</i> gen. et sp. indet
サバ科 <i>Scombridae</i>	ウマ目 <i>Perissodactyla</i>
	ウマ科 <i>Equidae</i>
	ウマ <i>Equus caballus</i> Linné

表58 仙台城二の丸跡第12地点出土貝類出土量表

Tab.58 List of Mollusca from NM12

地区	層位	種	個数	重量	地区	層位	種	個数	重量
CD 2	3号溝埋土	ミミガイ科	無	0.06	F 1	3 d	二枚貝不明	無	0.30
CD 3	3号溝埋土	ミミガイ科	無	11.33			ミミガイ科	無	0.83
D2	4	マガキ	無	0.74	F 3	3 d	ハマグリ	無	0.34
		マガキ	無	1.95			不明二枚貝	無	0.07
D3	4	ハマグリ	無	4.70	F 4	3 c	ホタテガイ	無	4.69
		ミミガイ科	1	4.20			マガキ	R1 L1	18.24
E1	3 d	無	1.21	F 5	3 d	マガキ	R1 L2	25.69	
		マルスダレガイ科	無			17.16	マガキ	L1	0.62
E2	3 d	不明	0.99	F 6	3 c	不明	無	17.56	
		ミミガイ科	無			4.03	マガキ	R1	0.80
E3	3 d	シジミガイ科	不明	2.43	F 7	3 d	不明	無	4.50
		ハマグリ	無	5.26			マガキ	R1 L2	0.63
E4	4	マガキ	無	7.23	F 8	3 d	マガキ	R2 L1	0.35
		ミミガイ科	無	6.81			不明	無	18.23
E5	3 c	不明	無	0.96	F 9	3 d	不明	無	0.44
		ハマグリ	無	1.53			二枚貝不明	無	11.10
E6	3 d	マガキ	R1 L1	40.98	G 5	2 d	マガキ	L1	2.92
		マガキ	無	10.60			マガキ	R1	1.42
E7	3 d	マガキ	無	7.73	G 7	3	マガキ	R1	1.41
		不明	無	0.29			ハマグリ	R1	1.43
E8	3 d	不明	R1	6.38	H 5	3 d	ホタテガイ	無	1.86
		不明	無	15.99			ミミガイ科	無	
E9	3 d	ハマグリ	無	4.95					
		マガキ	R1	4.85					
		ミミガイ科	無	3.90					

表61 仙台城二の丸跡第12地点出土魚類3(発掘時取り上行資料)
Tab61 List of Pisces(fish)recovered in excavation from NM12

区	層位	種名	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	計		
F4	3a	タイ科																					
		マダイ																					6
		ヒラメ																					11
F4	3b	カレイ																					27
		アサギカギ科																					2
		カレイ																					3
		カレイ																					3
		アサギ																					3
		ヒラメ																					3
		サケ科																					
F5	3	カレイ																					1
		カレイ																					2
F6	3a-3c	カツネ																					1
		ヒラメ																					1
		タイ科																					2
		マダイ																					30
F5	3d	ヒラメ																					4
		カレイ																					2
		カレイ																					1
		カレイ																					1
F6	3a-3c	カレイ																					1
		アサギカギ科																					1
F5	3d	マダイ																					3
		アサギ																					3
		ヒラメ																					3
		カレイ																					2
		カレイ																					2
F5	3d	アサギ																					3
		ヒラメ																					1
		カレイ																					1
G5	3d	ヒラメ																					1
		カレイ																					1
		カレイ																					1
		コウモリ																					4
		アサギカギ科																					1
G6	3a-3c	カツネ																					1
		アサギ																					3
		カツネ																					1

表62 仙台城二の丸跡第12地点出土魚類出土量表(4) (発掘時取り上げ資料)
 Tab.62 List of Pisces (fish) recovered in excavation from NM12

区	扉	扉位置	土				口				骨				頭				骨				頭				魚の種	計									
			L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R											
Gs	3d	小骨籠	1																																		
		ワギイ																																			
		タノ科																																			
		ヒタメ																																			
		カレイ																																			
G7	3E	カツキ																																			
		タノ科																																			
G8	3a-3c	ヒツメ																																			
		ヒツメ																																			
H9	3E	ヒツメ																																			
		ヒツメ																																			
G10(不明)	3d	カツキ																																			
		ヒツメ																																			
		カツキ																																			
		ワギイ																																			
総計			1	1																																	
			5	4	5	6	4	6	2	2	4	3	3	0	2	1	1	1	1	3	1	2	4	3	3	5	3	3	1	3	1	1	1	1	1	1	6

表63 仙台城二の丸跡第12地点出土魚類出土量表5 (5mmフルイ)
Tab.63 List of Pisces (fish) caught on the 5mm screen from NM12

種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録	種別	品名	重量	目録															
F4	3	ウツリ	102.98	102.98	102.98	01	35	180	25	38	41	35	99	101	103	107	89	55	25	32	125	119	62	23	80	59	75	2	61	65	32	79	206	118	71	133	164	127	185			
	3	ウツリ	102.98	09	94	70	84	66	92	01	35	180	25	38	41	35																										
	3	ウツリ	102.98	11	3																																					
	3	ウツリ	102.98	12	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	13	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	14	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	15	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	16	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	17	2	1																																				
F5	3	ウツリ	102.98	18	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	19	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	20	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	21	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	22	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	23	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	24	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	25	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	26	2	1																																				
F6	3	ウツリ	102.98	27	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	28	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	29	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	30	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	31	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	32	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	33	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	34	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	35	2	1																																				
F7	3	ウツリ	102.98	36	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	37	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	38	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	39	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	40	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	41	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	42	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	43	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	44	2	1																																				
F8	3	ウツリ	102.98	45	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	46	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	47	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	48	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	49	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	50	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	51	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	52	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	53	2	1																																				
F9	3	ウツリ	102.98	54	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	55	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	56	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	57	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	58	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	59	2	1																																				
	3	ウツリ	102.98	60	2	1																																				

表65 仙台城二の丸跡第12地点出土鳥類出土量表
Tab.65 List of Aves from NMI2

種	区	量	兵口跡		陣中跡		上園跡		尺耆		徳倉		中平井		新井		新倉		中込		その他	
			1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2		
ムナドリ	CE2	3																				
	D3	3C																				
	E3	3A	1																			
	E4	3B																				
	E5	3D																				
	F1	3E																				
	F3	3A	1																			
	F4	3C																				
	3E	3E																				
	F5	3E																				
	G4	3A																				
	F6	3A																				
	G6	3A-3C																				
	不明	3E																				
	F5	3E																				
	G5	3A																				
	H4	3A																				
	F5	3C																				
	F1	3E																				
	F4	3A																				
	F5	3A																				
	F6	3A	1																			
	G5	3E																				
計			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表66 仙台城二の丸跡第12地点出土哺乳類出土量表
Tab.66 List of Mammalia from NMI2

区	種名	部	位
F3E	クマ	胎骨 (右, 骨化済)	
F3E	イタチ	上顎骨 (右, 未化済)	
F3E	3D	骨盤 (右, 未化済)	
F3E	3D	クマ骨科	骨盤 (右, 未化済)

⑬ 植物遺存体

内藤俊彦 (東北大学理学部附属植物園)

出土した種子類は、カボチャ、ウリ科の一種、モモ、ウメ、アンズ?、セイヨウミザクラ、オニグルミ、カナムグラ?の8種類であった。

ウメには普通の大きさの核のものや小型の核のものがあり、大きい核のほうはいわゆる大ウメで、小型の核のものは小ウメである。ウメに似た核で平たいものはアンズであろう。サクラ類としたものは在来種のサクラで、種類については同定できなかった。カナムグラは窒素分の多いやや湿った所に生育する蔓性の植物で、道ばたや林縁などに見られる。この場所が沢に面した所であり、いわゆる雑草として生育していたものであろう。

セイヨウミザクラとしたものはサクラの核としては大きく、在来のサクラとは異なるので、セイヨウミザクラとしておいた。

ここに出土した種子類は、食べ滓として捨てられたものであろう。

表67 仙台城二の丸跡第12地点出土植物遺存体
Tab.67 List of plants from NM12

地区・層位	出土植物遺存体
E-4区 3B層(皮の層)	オモ ウメ コウメ カボチャ ウリ科 枝不明 不明
E-4区 3A層	モモ ウリ科
D-4区 3B層(骨の層)	サクラ類 セイヨウミザクラ? 不明
F-4区 3A層	アンズ
E-5区 3B層(皮の層)	モモ カボチャ ウリ科 オニグルミ 不明
E 5区 3A層	カボチャ?
F-5区 3B層(骨の層)	ウメ コウメ アンズ サクラ類 セイヨウミザクラ カナムグラ? 不明
E 6区 3B-3C層	カボチャ ウリ科
E-6区 3C層最下部	オニグルミ カナムグラ?

㊟ 小結

近代の遺物の報告の最後に、材質は異なるが、用途が共通すると考えられる遺物間での比較検討を行い、いくつかの気づいた点を指摘しておきたい。層位的な検討にあたっては、3層については、東区の層位の認識には不確定な部分が残っているため、西区の3a層・3b層・3c層・3d層を利用する。以下では、特に記さない限り、3d層とは西区の3d層を示すこととする。

異なる材質に、最も多くまたがっているものは、食器である。今回出土した近代の遺物は、軍隊が使用していたことが確実であり、食器も軍隊が使われたものと考えて良い。軍隊という性格上、多人数が同時に同じものを食べた想定され、将校用など少数の例外を除けば、個人で使われる食器の種類と量が異なることは想定し難い。したがって、主体的に出土した食器は、軍隊の日常的な食事に使われた食器の、種類と量の割合を反映している可能性が高いと考えられる。

食器として使われたと考えられる遺物は、磁器・軟質磁器・陶器・炆器・硬質陶器・金属製品・木製品に認められる。なお、箸・スプーン・フォークなどの容器以外のものは、ここでは取り上げない。この内、軟質磁器と炆器については、ごく少数の出土で、全体の傾向には影響が無いと考えられる。金属製品については、把手付碗・琺瑯引きの皿などが認められているが、出土量はごく少ない。これらの金属製の食器は、かなり薄い金属板で作られており、腐食が進みやすいと考えられ、これが本来の出土量を反映していない可能性もあるが、縁の重ねられた部分などは確認されても良いのに、それも認められない。もともとの数量が僅少であったと考えて良いだろう。したがって、金属製品も、食器の中では主体的な位置を占めない。木製品では、白木の碗、漆器の碗があるが、いずれもごく少量の出土で、全体の傾向に影響を及ぼすほどのものではない。

磁器の中での各器種の比率では、㊟で指摘したように、3b層以下では中碗と皿の合計が、食器・酒器全体の8～9割を占めている。中碗・皿とも、手描きと描絵で文様が付けられたものが主体を占めている。これに対して、3a層では中碗と皿の合計が6割を切る。個体数でも、中碗が3d層で2501点出土しているのに対して、3a層が199点と激減している。皿は、3d層が954点に対して、3a層が174点と、これも大きく数が減少する。この磁器の中碗と皿の減少と正反対に、3a層段階で突如として大量に出土するようになるのが、硬質陶器である。硬質陶器では、全出土量の4～5割が、3a層で出土しており、3b層以下の層序での出土は、ごく少数に留まる。陶器の碗・皿類はごく少量で、炆器には碗・皿類は認められない。したがって、磁器の中碗と皿が、硬質陶器の碗・把手付碗・鉢に転換していった可能性が考えられるであろう。

硬質陶器の碗・把手付碗・鉢は、出土点数がほぼ近い数であるため、これら3器種は一人につき1点ずつ使用された食器であると推定された。碗は、飯碗として使われたものであろう。把手付碗は、その形態から味噌汁やスープ状の液状のものを飲むための食器であろう。鉢は、おかず類を盛る食器であると推定できる。このような推定をもとに、さらに類推を重ねるならば、磁器の中碗が硬質陶器の碗と把手付碗に、磁器の皿が硬質陶器の鉢に相当する可能性が考えられる。3b層以下での磁器の中碗と皿の比率は、1.5:1～2.5:1であり、ほぼ中碗の数が、皿の倍前後である。硬質陶器では、碗と把手付碗を合わせると、鉢との比率がほぼ2:1となる。このことは、磁器の中碗が、硬質陶器の碗と把手付碗に対応する可能性を示唆する。そう考えると、磁器の中碗には、飯碗と味噌汁などの液体を飲むための食器の両方が含まれることになる。東北地方でも漆器生産が盛んでない山形県や新潟県では、最近まで磁器碗で味噌汁を飲む風習が残っている地域があった。したがって、磁器碗で味噌汁などの汁物を飲んでいた可能性は、考慮されて良い。今回の調査では、白木碗や漆器碗がほとんど出土しておらず、汁物用の食器が他に見出せないことも、磁器の中碗に汁物用の食器が含まれていたと推定する傍証となる。

煎茶器では、小碗+小杯と湯呑みの比率が、3d層以下では前者が多く、3c層以上では逆転して湯呑みが多くなる。陶器の小碗も、全体の数は多くないが、3d層以下が多く、それより上層では減少する。磁器の湯呑みでは、その中で白磁のもの占める割合が、3d層で50.0%、3c層61.8%、3b層71.4%、3a層では90.4%

と、上層へいくほど増加し、特に3 a層では大多数を占める。陶器にも湯呑みが、さほど多くはないが存在しているが、こちらは3 d層で最も多く、3 c層以上では減少していく。したがって3 d層段階では、磁器の小碗・小杯が主体であるが、湯呑みも存在し、しかも磁器・陶器の両方があったのが、上層へいくほど白磁の湯呑みに統一されていくと捉えることが可能であろう。

以上のような検討をもとに、軍隊での食事風景を想定すると興味深い。3 b層より下層の時期には、食卓に並ぶ食器は、1人あたり中碗2点と皿1点。中碗の片方にはご飯が盛られ、もう片方には味噌汁などの汁物が入り、皿におかずが盛られる。お茶は小碗に注がれる。これらの食器は、大きさや形はほぼ似通っているが、手描きや摺絵で、にぎにぎしく様々な文様が描かれていた。軍隊という、一般に想定しやすい画一化されたイメージとはほど遠い風景が、食卓には展開されたであろう。これが3 a層段階には一変する。規格化された硬質陶器が、食卓に並ぶ。碗でご飯を食べ、汁物は専用の把手付碗で飲み、おかずは鉢に盛られる。お茶を飲むのは白磁の湯呑みである。食器に見える文様は、軍隊を象徴する星印か、部隊名を示す文字だけである。そこには、画一化された近代的軍隊としての姿が窺われる。このような変化は、日露戦争を前後する時期に起こったものであった。

もう一つ、異なる多数の材質にまたがって出土しているものとしては、筆記具が上げられる。筆記具としては、次のような遺物があげられる。

磁器：水滴、ガラス製品：インク瓶・ガラス製ペン先、石製品：硯・石筆・石盤、骨製品：筆筒、金属製品：ペン軸、木製品：鉛筆・ペン軸。

さらに、鉛筆などに用いられたと思われるキャップが金属製品にあるのと、同様のキャップの可能性のあるものがガラス製品に認められるが、いずれも確証が無いので、ここでは取り上げない。上記した遺物を用途別に分けると、次のようになる。毛筆での墨書に関わる資料としては、水滴・硯・筆柄が挙げられる。インクでのペン書きに関わる遺物は、インク瓶・ガラス製ペン先・金属製ペン軸・木製ペン軸がある。その他は、鉛筆は鉛筆書き、石筆と石盤は対になって使われるものである。

磁器の水滴は全体で99点出土しており、ほぼ半数の49点が3 d層に集中する。3 a層の出土点数は11点に留まる。硯は72点出土しており、その内の35%の25点が3 d層出土で、3 a層出土のものは13点で18%である。また、1号溝埋土からも5点出土している。骨製品の筆柄は、1点のみであるため、出土傾向は検討できない。

インク瓶は、集計表では小瓶類とまとめて示しているの、主要な層序からの出土点数をここで示しておく。インク瓶は合計36点出土している。3 a層12点、3 b層7点、3 c層5点、西区3 d層1点、1号溝埋土1点である。3 a層に集中し、3分の一がここから出土している。ガラス製ペン先は、4点が3 a層で、1点が東区の3 d層からの出土である。金属製のペン軸は3 a層から3点出土しているだけである。木製ペン軸は、27点出土しており、3 a層が12点で44%を占める。3 b層は2点、3 d層も2点だけの出土である。このように、インクでのペン書きに関わる遺物は、先に見た毛筆での墨書に関わる遺物と、出土傾向が全く逆になっていることが明確である。

鉛筆は、154点中、40%の62点が3 a層出土で、3 b層は3点、3 c層4点と少なく、西区3 d層では18点出土しているが、全体から見ると12%に留まる。この鉛筆も、毛筆による墨書に関わる遺物とは、出土傾向が反対である。

石筆は、27点出土している内、3 d層が17点と63%を占める。石盤は19点出土している内、58%の11点が3 d層で出土している。この石筆と石盤は、毛筆の墨書に関わる資料と同様な出土傾向であると言える。

以上のように、3 d層から3 a層へと移る過程で、毛筆による墨書に関わる遺物と、石筆・石盤が減少し、それに取って変わる形で、インクによるペン書きに関わる遺物と、鉛筆が増加しており、筆記具が毛筆・石筆から、ペン・鉛筆へと移り変わっていくことが見て取れる。

5. まとめ

今回の調査で検出された遺構は、明治時代と推定される大規模な整地層をはきんで、2時期に大別できる。

江戸時代と考えられる1期は、I a期とI b期に細分された。

I a期では、土坑・ピットや性格不明の段差が検出された。後の時期の遺構に削平された部分が多く、遺構の性格は充分明らかにはできなかった。出土遺物には、陶磁器などがあるが、出土量は極めて少ない。出土遺物は17世紀代のもので占められており、I a期は17世紀まで遡るものと考えられる。調査地点に堀が拡張されるのが17世紀末であるため、それ以前に二の丸北方の堀の外側に置かれた、武家屋敷などの地域に相当すると推定される。

I b期では、二の丸北側の堀と、その底面から環状の遺構が検出された。環状の遺構は、堀に直交し、両岸を石を詰めた竹製の蛇籠で護岸し、上面に石敷を施している。この環状の遺構は、幕末の絵図に、これに相当すると考えられる施設が描かれている。それ以前の、18世紀末までの絵図には、この施設は描かれなことから、I b期は、幕末を中心とする、19世紀代の遺構と考えられる。環状の遺構は、西側の沢から流れ込む水流の勢いを、弱めるための施設と推定される。また、これまでの周辺での調査成果を併せて、絵図と対比することによって、二の丸北側の堀の位置を、ほぼ復元することができるようになった。I b期の出土遺物は、下駄などの木製品が、ごく少量出土しているだけで、廃棄物が捨てられたいすることなく、堀がきれいに維持されていたことを示している。18世紀代の遺構は、このI b期の堀が、それ以前の堀を掘り下げる形で作られていることから、削平されて残っていない可能性が考えられた。

このように、今回発見された堀跡は、幕末を中心とする時期のものではあったが、初めて二の丸北側の堀跡の全体像が明らかになったことは大きな成果であった。また、堀の中に作られた環状遺構は、江戸時代の特徴的な土木工事の実態を示すものとして、重要な発見と言える。

明治時代以降に相当するII期は、II a～II dの、4段階に細分された。岸のかさ上げなどが行われているが、江戸時代から存在する堀が、ほぼ同じ位置に存在する。このII期では、堀が堆積した土砂で埋まり出しても、全体を掘り直して改修することはせず、部分的な改修で済ませており、次第に堀の機能が失われていったことが判明した。II期の遺構からは、膨大な量の近代の遺物が出土している。特に、II c期の遺構は、厚い場所では1.5mもの厚さに及ぶ廃棄物で埋められている。これらの遺物は、堀の北側に存在した、陸軍第二師団の輜重隊が捨てたものと考えられる。年代が明確な遺物の検討から、このII期の出土遺物は、おおよそ日清戦争前後から第一次大戦前後の20年間余りの間に捨てられたものである。したがって、II期の存続期間も、ほぼ同じ年代が想定される。II期の出土遺物には、近代の工業製品が多数含まれており、近世以前の遺物では見られない、極めて豊富な種類の遺物があり、その量もケタはずれに膨大であった。本報告では、可能な限り出土遺物の全体像を呈示することに重点を置いた。そのため、多種多様な遺物を類型化し、それを踏まえた定量化を行うとともに、代表的な資料を呈示することに努めた。

必ずしも全ての資料を検討できた訳ではないが、食器や筆記具では、3 d層より下層の出土遺物と、それより上層の出土遺物の間で、大きな変化が認められた。食器では画一化が急激に進んでおり、筆記具では毛筆に代わりペンや鉛筆が普及していく。このような変化は、近代化ととらえることが可能である。日露戦争頃から第一次世界大戦にかけての時期に、真に近代的な軍隊へと変化していく過程を示すものであろう。また、軍隊生活については、戦場での生活については語られることも多いが、平時の内での生活については、充分関心が払われてきたとは言えない。今回の調査は、平時の軍隊生活を復元するための良好な資料となるだろう。近代の遺物は、まとめて体系的に報告された例が少なく、限られた条件の中で、効率的に作業を行うためには、様々な試行錯誤が必要であった。今回の報告で、それを充分に果たしきれた訳ではないが、一つの実践例として今後の参考にできれば幸いである。

第三章 仙台城二の丸跡第14地点（NM14）の調査

1. 調査地点の位置と調査経緯

今回の調査は、川内地区一帯の屋外環境整備に伴う調査である。同時期に工事が実施されることとなった、他のいくつかの宮縮工事についても、対象地域がほぼ重なることから、一連の調査で対処することとした。工事対象範囲は、仙台城二の丸跡に相当する川内南地区と、武家屋敷跡に相当する川内北地区の両方にまたがるが、別に調査名称を付けることも煩雑で、また遺構が検出されたのが、二の丸跡に相当する区域だけであったこともあり、全体を二の丸跡第14地点として呼称することとした。それぞれの調査地区の名称は、工区の名称をそのまま使用し、I工区というように呼称することとする。川内北地区の工区はI工区とV工区で(図42)、川内南地区の工区はII工区、III工区、IV工区、VI工区である(図43)。各工区のかなでの個々の調査地点については、I工区名称の次に番号あるいはアルファベットで略号を付けて、II-7区やI-E区というように呼称した。

対象範囲が広く、なおかつ工事内容も多岐に渡り、調査の際の対処方法もそれぞれに応じて変える必要があった。ここでは、各工区の位置と、調査の方法および経過について述べることにする。

(1) I工区 (図42)

I工区は川内北地区の講義棟と厚生会館にはさまれた区域、および、そこから北側の、体育館西側の区域である。現在の川内南地区から北地区へ通じる道路は、二の丸の裏門付近から北に延びる道路にほぼ相当する位置にあると考えられる。この道路は、江戸時代には、更に北に延び、その両側には武家屋敷が置かれていた。本工区の工事対象範囲は、この二の丸の裏門付近から北へ延びる道路と、その両側の武家屋敷に相当する地域である。

工事の内容は、緑地の整備と舗装改修、外灯の設置と、外灯用の電気ケーブル埋設、そして掲示板の設置である。また、工事としては別であったが、講義棟C棟の東側に、身障者用エレベーターを設置する工事も併行して行われることになったため、これについてもI工区の調査に含めて対処した。

基本的に、工事実施時に立ち会い、江戸時代の層位にまで掘削がおよぶことが明らかになった段階で、手掘りによる本調査へ移行するという方針で対処した。

講義棟B棟とC棟の東側の緑地整備と、この区域の外灯設置部分では、ほとんどが掘乱されており、江戸時代の遺構・遺物は発見されなかった。この場所は、以前に教養部図書館として使われていた建物があった場所であり、その基礎によってかなり破壊されている可能性が高いためであろうと思われる。この緑地部分から、さらに北側へ延びる外灯設置とそのためケーブル埋設部分では、江戸時代の陶磁器など、若干の遺物が確認されたが、いずれも近・現代の盛土や擾乱からの出土で、江戸時代の遺構は確認されなかった。

厚生会館北側から、体育館西側へ延びる外灯設置とそのためケーブル埋設部分では、体育館南西隅付近で、現地表下10cm程で、江戸時代の遺物を含む整地層が確認された。遺構は確認されなかったため、遺物を向取して掘削を進めたが、調査範囲が狭いため、確実に江戸時代の整地層であるか、後世の整地層に江戸時代の遺物が混じっているのかは、確定できなかった。この整地層が確認されたのは、この体育館南西隅付近だけで、その南北両側は、後世の擾乱によって破壊されていた。

厚生会館南西側の舗装改修と外灯設置が行われる区域、および2ヶ所の掲示板設置場所では、江戸時代の遺構・遺物は発見されなかった。講義棟A棟の南側の、掲示板脇の外灯設置場所では、堤産の甕の破片が出土したが、これは明治時代以降のものであった。

講義棟C棟のエレベーターを設置する場所（I-E区）では、工事の工程との関係で、重機での掘削が浅れるため、当初より手掘りで調査を行った。表土下50cm程で、人頭大以上の大きさの川原石が1m程の厚さで積み重ねるように埋められているのが検出されたが、これは明治以降の整地に伴うものであった。その川原石層の下層

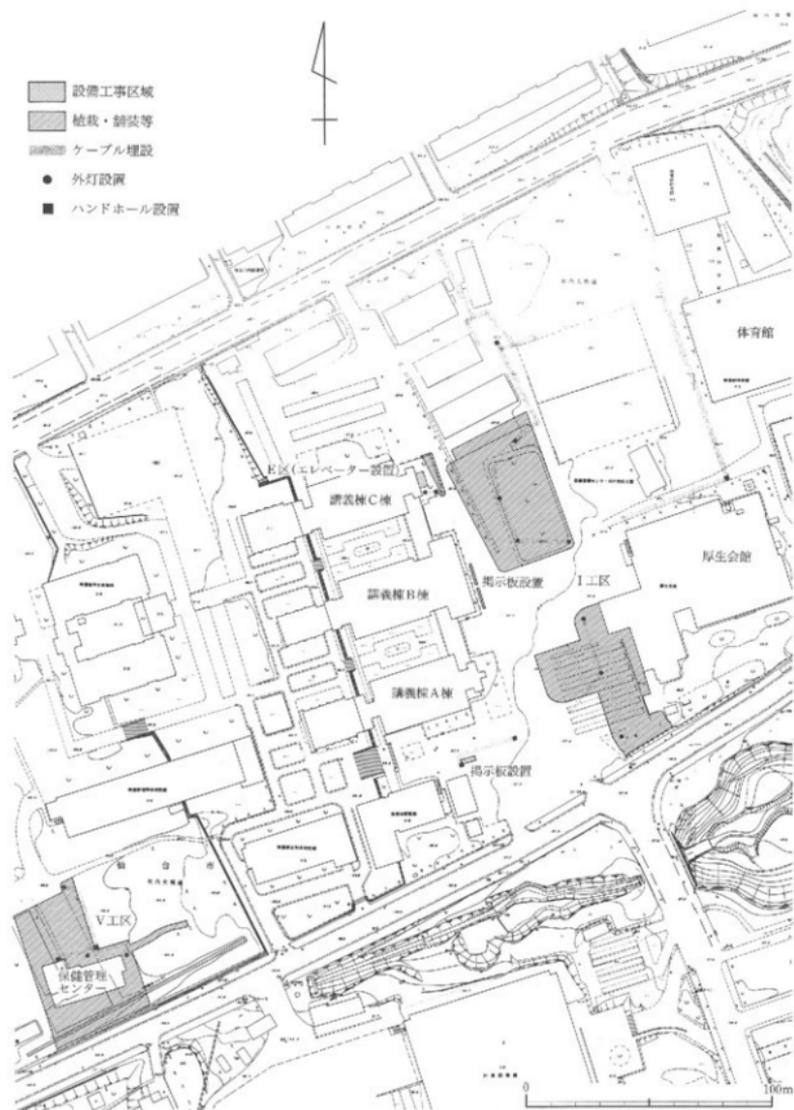


図42 仙台城二の丸跡第14地点調査地点の位置 (川内北地区)

Fig.42 Distribution of excavations at NM14(1)

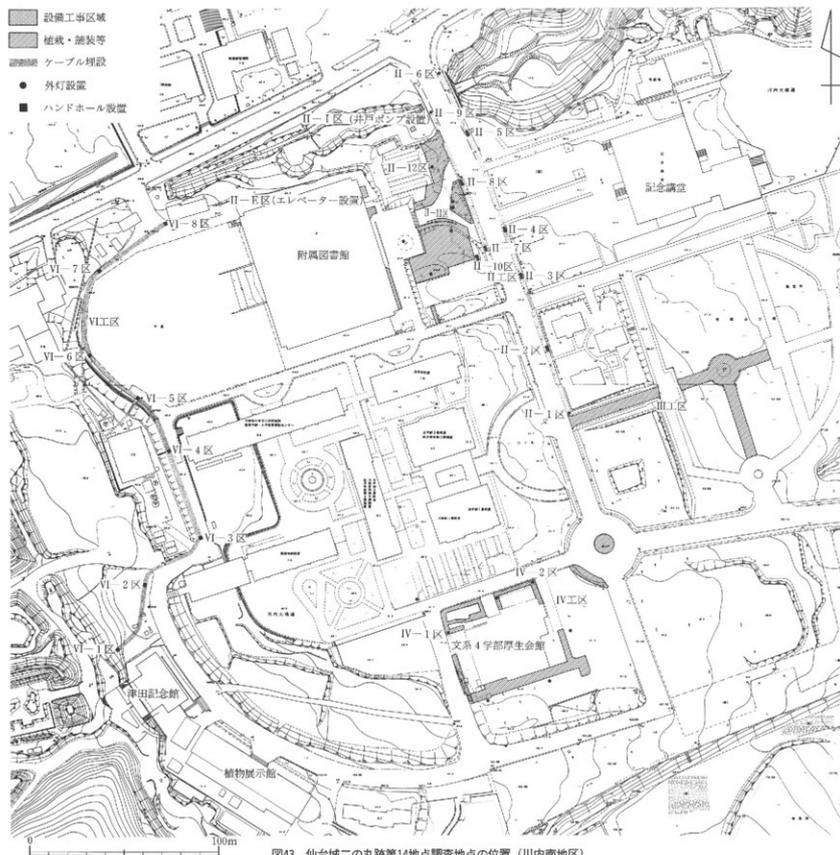


図43 仙台城二の丸跡第14地点調査地点の位置 (川内南地区)
 Fig.43 Distribution of excavations at NMI42)

から30cm程の厚さの整地層が確認されたが、出土した遺物から、これも明治時代の整地層であると考えられる。その下は地山となっており、明治時代に一旦削平を行ったあと、整地を行ったものと考えられ、江戸時代の遺構面は完全に削平されていた。出土遺物も少なく、ほとんどは明治時代のものであった。

(2) II工区 (図43)

II工区は、付属図書館の東側から川内南地区を南北に通る道路(通称「中善道路」)にかけての区域である。この中善道路に附属図書館南側の道路が交わるあたりに、二の丸の裏門である「台所門」が存在したことが、これまでの調査成果から推定されている(年報9)。「台所門」から北側へ延びていた道路は、ほぼ現在の中善道路と同じ場所であったと推定される。したがってII工区は、「台所門」周辺から北へ延びる道路部分、およびその西側の二の丸中奥の区域に相当すると考えられる。

工事の内容は、中善道路沿いに外灯を設置する工事と、図書館東側の通路などの整備に大きく分けられる。

中善道路沿いの外灯は、1992年度に南側の工事が行われており、その際には今回の調査地点に近い場所でも江戸時代の層位が良好に保存されていることが判明している(二の丸跡第10地点1区、年報9、位置は図3参照)。また、中善道路に沿った排水管設置に伴う第4地点の調査の際にも、江戸時代の遺構面が検出されている(年報5、図3)。今回の工事にあたっては、ケーブル埋設部分は掘削深度が浅いため、大きな問題は無いが、掘削深度が深い外灯基礎部分とハンドホール設置部分については、江戸時代の遺構面に達する可能性が高いものと判断し、全てに1~13区の名称を事前に付し、機械での掘削で江戸時代の遺構面に達したらすぐに手掘りの精査へ移る体制をもって臨んだ。結果的には、近現代の攪乱によって破壊されている場合がほとんどで、江戸時代の遺構面が検出されたのは、II-7区とII-8区だけであった。この両区については精査を行ったので、次節で詳述する。これ以外では、II-1・2・4・5・10・11・12区で遺物が少量出土したが、いずれも近現代以降の整地層や攪乱からの出土であった。

図書館東側の通路などの改修では、ほとんど掘削深度が浅い工事のため問題は少なかったが、身障者用スロープの改修部分は、比較的掘削深度が深くなる予定であった。そのため、予定地に2m四方の試験区を事前に設定し、層位関係を確認した。その結果、現地表下1.2mまでは、明治以降の整地層であることが判明したため、工事にあっても立会調査で対処することとした。明治以降の整地層の範囲で掘削は終わっており、そこに含まれる遺物を回収するだけで、調査を終えている。

図書館の北東側の、沢に近い所での井戸ポンプ設置工事は、環境整備工事は別の工事であったが、並行して工事が行われることから、II工区に含めて対処した(II-1区)。後世の盛土は薄いと推定し、当初より手掘りで調査を行った。しかし、現表土下90cmまで、近現代の整地層で、その下層は硬くしまった砂からなる地山で、江戸時代の遺構・遺物は発見されなかった。

図書館東側のエレベーターを設置するのに伴うII-E区も、環境整備工事は別の工事であったが、II-I区と同様に、II工区に含めて対処した。附属図書館には、地下に大規模な書庫が造られており、その工事の際に、既にかなり深くまで破壊されてしまっている可能性があったため、立会調査とした。予想通り、今回の工事範囲は全て図書館建設によって攪乱されてしまっていた。

(3) III工区 (図43)

III工区は、中善道路の東側の、記念講堂の南側に広がる緑地となっている区域である。二の丸正門である「詰ノ門」の前あたり、江戸時代には蔵などが置かれていた区域である。この場所では、小規模ながら過去に、第7地点と第13地点の、2回の調査が行われている(年報4・10)。いずれにおいても、江戸時代の遺構面が残存しているのが確認されており、特に浅いところでは、現地表から15cm程で、江戸時代の遺構面に達することが判明

している。

工事は、緑地内の通路の舗装とベンチの設置である。いずれも掘削深度が浅いため立会調査としたが、この地点の江戸時代の遺構面が極めて浅いところにあるため、慎重に対処した。舗装については、江戸時代の遺構面に達しない範囲であった。ベンチの設置では、舗装工事より少し深く掘削がなされ、現地表下20cm程であったが、江戸時代の地層の可能性のある褐色土層まで達し、遺物も細片が1点だけではあるが出土した。ただし、掘削の範囲が30cm四方以下という極めて狭いものであったため、詳細は明らかにできなかった。

(4) IV工区 (図43)

IV工区は、川内南地区の文系厚生会館周辺から中普通のロータリーにかけての区域である。文系厚生会館とロータリーの間は、二の丸の中心施設である「小広間」が存在した場所である。今回の対象区域は、この「小広間」とその周辺にあたり、二の丸の中でも、中心となる区域である。

工事内容は、歩道の整備、植栽、外灯の設置と外灯用の電気ケーブル埋設である。外灯設置以外の工事は、掘削深度が浅いため、立会調査で対処した。いずれも近現代の盛土の範囲内で取まっていた。外灯設置の内3ヶ所は、既存の外灯の更新で、既存外灯設置の際に破壊されてしまっている部分であったため、立会調査で対処した。遺構・遺物は発見されなかった。残る2ヶ所の外灯設置場所では、江戸時代の遺構面まで掘削がおよぶ危険性が高いと判断して、当初より手掘りによって調査を行った。IV-1区では、米軍が設置した共同溝の掘り方にあたっていたため、精査は行わなかった。IV-2区では江戸時代の遺構面が確認され、ビットが検出された。これについては次節で詳述する。

(5) V工区 (図42)

V工区は保健管理センターの周辺の区域である。本年報の第II章で報告した通り、保健管理センターの新築に伴う調査においては、二の丸北側の堀の北岸付近の遺構が検出されている(仙台城二の丸跡第12地点)。

歩道の設置、舗装や芝張り・植栽や、外灯設置とそれに伴うケーブル埋設などである。保健管理センターの建物本体部分の第12地点の調査では、近代以降の盛土が厚いことが判明していたことから、全て立会調査で対処することとした。江戸時代の層位まで掘削がおよんだ部分は無く、遺物も擾乱から磁器が1点発見されただけであった。

(6) VI工区 (図43)

VI工区は、理学部付属植物園津田記念館の脇から、川内南地区の西端の道路に沿って、付属図書館の北西側に至る区域である。西側は丘陵が迫っており、その裾に近い部分で、二の丸の西端に近い場所である。

工事は、図書館東側に設置されるエレベーター用の電源を引き込むための、電気ケーブルの埋設とそれに付随するハンドホールの設置である。ハンドホール設置部分にVI-1～8区と名称を付した。当初は盛土が深いと推定し、あまり問題は無いと考えていたが、各所で二の丸に関連する地層が確認された。VI-1区では、二の丸西端の堀の基礎に使われた石垣と思われる遺構が検出された。幸い、その端にかかっただけで済んだので、写真で記録を行うに留めた。VI-4区では、石組の溝が発見された。またVI-4区の南側からVI-5区の北側にかけての範囲、VI-7区からVI-8区にかけての範囲で、炭化物や遺物を多量に含む、黒色土層が発見された。これは、二の丸建物群が最後に焼失した、明治15年(1882年)の火災に伴う層と考えられるものであった。VI-7区からVI-8区にかけては、幸いにも、掘削予定深さの底面で黒色土層が確認されたため、それ以上は破壊されないため問題とはならなかった。VI-4区付近では、掘削予定深さが、石組溝や黒色土層の検出レベルよりも深くなるため、壊されてしまうこととなった。施設部の担当者と現地で対策を協議し、工法を変更して、ケーブル埋設深

度を浅くする対応をとることとし、それ以上の掘削がなされないようにした。そのため、この区域では精査は行わず、写真で記録するに留めた。

2. 検出遺構と出土遺物 (図44~47、表68~74、図版167~169)

ここでは、本調査を実施した地点の検出遺構・出土遺物を報告するとともに、それ以外の立会調査で出土した遺物について、合わせて各工区ごとに報告する。近現代の整地層や攪乱から出土した遺物については、17世紀代と18世紀代の重要な遺物に限って資料見示することとし、二の丸跡で多量に出土する、幕末前後の資料については、基本的に省略した。

(1) I工区

本調査を実施して、江戸時代の遺構が検出された場所は無い。出土遺物もごくわずかである。図示したのは、17世紀中頃の肥前産と考えられる磁器皿1点だけである(図46-3、図版169-C3)。

(2) II工区 (図44、表68・69、図版167・168)

II工区で精査を実施したのは、II-7区とII-8区の2ヶ所である。

【II-7区】

外灯基礎と、それに並んでハンドホールを設置する部分の調査であり、1.4×1.9mという狭い範囲の調査区である。

1層と2層は近現代の整地層と考えられる。3層は地山層である。地山層の直上が近現代の整地層となっており、江戸時代の遺構面が、一旦削平を受けたのちに2層の整地がなされたものと思われる。

遺構は、地山の3層上面でピットが2基検出された。ピット1は径45cm程のやや不整な円形を呈し、深さは55cm程である。内部にやや大きめの扁平な礫が入っていた。ピット2は一辺25cm程の隅丸方形を呈し、深さ50cm程である。このピット2は、全体が西側に傾いて、斜めに掘られている。底面近くに、やや大きめの礫が入っていた。今回の調査区の東隣に隣接する第4地点の調査において検出された3号柱列も、同様に斜めに傾いていた(年報5)。どのような上屋構造になるかは、不明である。今回検出されたピット2は、位置関係から見ると、第4地点の3号柱列とはずれるため、組み合うものではないと考えられる。

出土遺物は少なく、しかも2層からの出土がほとんどである。ピット1から土師質土器の皿と焼塩壺が各1点出土しているが、小片で、図示しなかった。

【II-8区】

II-7区同様に、外灯基礎と、それに並んでハンドホールを設置する部分の調査であり、1.2×2.4mという狭い範囲の調査区である。

3層が、炭化物を多く含むことから、明治15年(1882年)の火災層と考えられる。したがって、1層・2層は近現代の整地層と考えられる。調査区の底面で、地山層が見えており、4層は、二の丸跡かそれ以前の整地層と考えられる。

検出遺構は、4層上面でピットが1基発見された(ピット1)。長軸80cm、短軸50cmほどのやや不整な隅丸長方形を呈し、深さは30cm程である。ピットの中には、円礫と瓦が入っていた。

出土遺物は2~4層から陶磁器と瓦などが出土しているが、小片がほとんどで、図示し得たものは無い。ピット1の埋土からは、九曜文の軒丸瓦が出土している(図47-2、図版169-T2)。また、2層から鉄剣が出土しており、旧陸軍のものと思われる(図版169-M2)。

このII-7区・II-8区以外の調査区からは、II-1・2・4・5・10・11・12区と身障者用スロープ設置部分

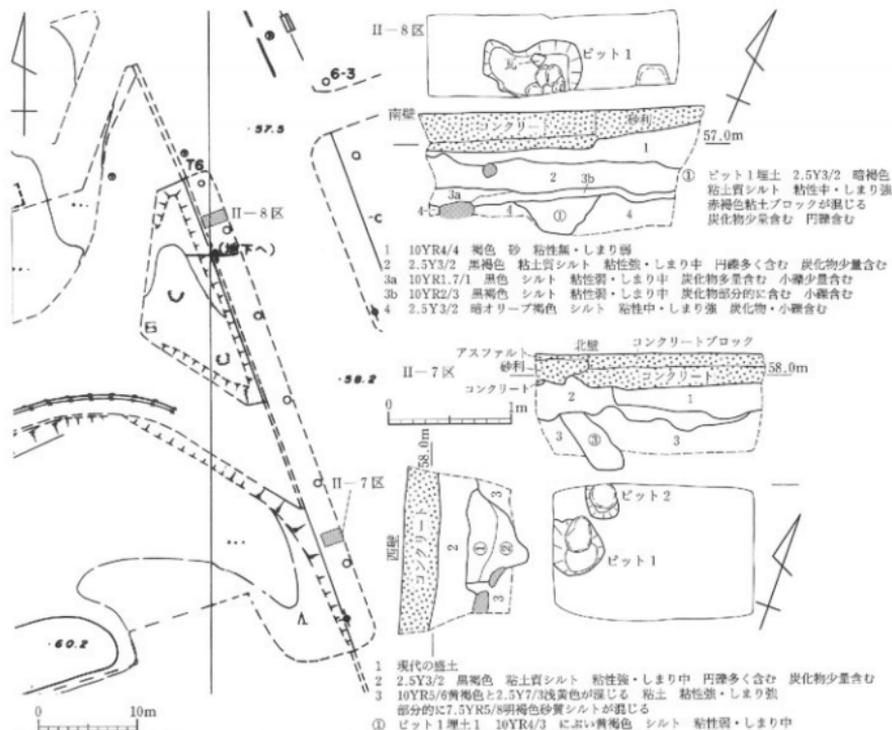


図44 仙台城二の丸跡第14地点II区平面図・断面図
 Fig.44 Plans and cross sections of Grid II-7 and II-8 at NM14

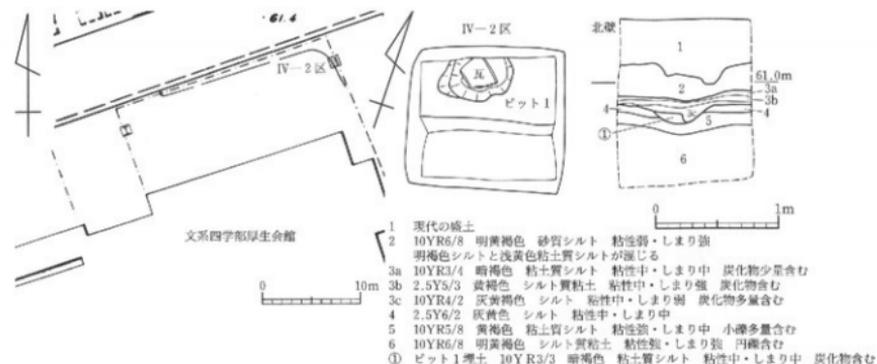


図45 仙台城二の丸跡第14地点IV区平面図・断面図
 Fig.45 Plan and cross section of Grid IV-2 at NM14

で遺物が出土している。陶磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦などがあるが、小片が多く、数も少ない。図47-4は、II-2区の近現代の整地層出土の軒平瓦で、唐草文の部分である。図47-5に示したのは、同じくII-2区出土の近現代の整地層から出土した面戸瓦かと思われるもので、短辺の湾曲が強い点で、これまでの二の丸跡出土資料にはあまり見られないものである。

(3) III工区

III工区で精査を実施した場所は無い。遺物は、江戸時代の整地層の可能性のある褐色土層から、磁器碗が1点出土しているだけで、細片のため図示していない。

(4) IV工区 (図45、表68・69、図版168)

【IV-2区】

IV工区で精査を実施したのはIV-2区だけである。外灯の基礎に相当する部分で、1.2m四方というきわめて狭い範囲の調査区である。

基本層序の3層には、炭化物が含まれ、特に3c層には多量に含まれている。これは、明治15年(1882年)の二の丸建物が全焼した火災の際の炭化物層と考えられ、3a層・3b層は、3c層と一連の層で、火災の後片付けに関連する整地層の可能性が高い。したがって、1層と2層は、この明治15年以降の盛土と考えられる。調査した範囲が狭く、十分な検討はできなかったが、4層は整地層の可能性があり、二の丸期かそれ以前にさかのぼる整地層であろう。5層・6層は地山と思われる。調査区の南半分は、現代の掘削によって破壊されていた。

検出遺物は、4層上面でピットが1基発見されている(ピット1)。長軸65cm程のやや不整形を呈し、深さは20cm程の浅いものである。ピットの中には比較的大きな瓦が1枚入っていた。

出土遺物は、陶磁器類・瓦があるが、ほとんどは1層と2層からの出土である。ピット1からは、陶器行平鍋の蓋と土師質土器が各1点出土しているが、いずれも細片である。ピット1の中から出土した瓦は、大型の棟瓦で、角椀伏間瓦である(図47-6、図版169-T6)。長さが34.0cmを計るもので、同様の大型の棟瓦は、今回の調査地点に近い、第10地点2区においてまとまって出土している(年報9)。この周辺で、このような大型の棟瓦を使用する建物が存在した可能性を示すものと言えよう。

このIV-2区以外では、IV-1区で若干の遺物が出土しているだけである。いずれも表土か掘削から出土したものである。このIV-1区では、米軍が構築した共同溝の掘り方埋土から、拳銃が1点出土している(図版169-M1)。銃身には「FA・…(途中不明)・…ON「LE DARMES DE GUFRE HERSTAL-BELGIQUE BROWN-ING'S PATENT DEPOSE」との刻印が認められ、米軍が使用したものと思われる。

(5) V工区

V工区では、工事での掘削が、全て近代以降の盛土に取まっており、掘削から磁器の小片が1点出土しているだけである。17世紀前半の肥前産と考えられるものである(図46-1、図版169-C1)。

(6) VI工区 (図版168)

VI工区では、工法の変更などの措置を取ったため、精査を行った所はないが、各所で二の丸に関わる遺構・遺物が検出された。

VI-1区では、石垣状の施設が検出された(図版168-7)。河原石を積み上げたもので、同様のものが理学部附属植物園の津田記念館新築に伴う調査の際に検出されており、二の丸最西端を区画する塀の、基礎となる施設と考えられている(年報3)。今回検出された石垣状の施設も、これと一連となる施設であろう。このVI-1区か

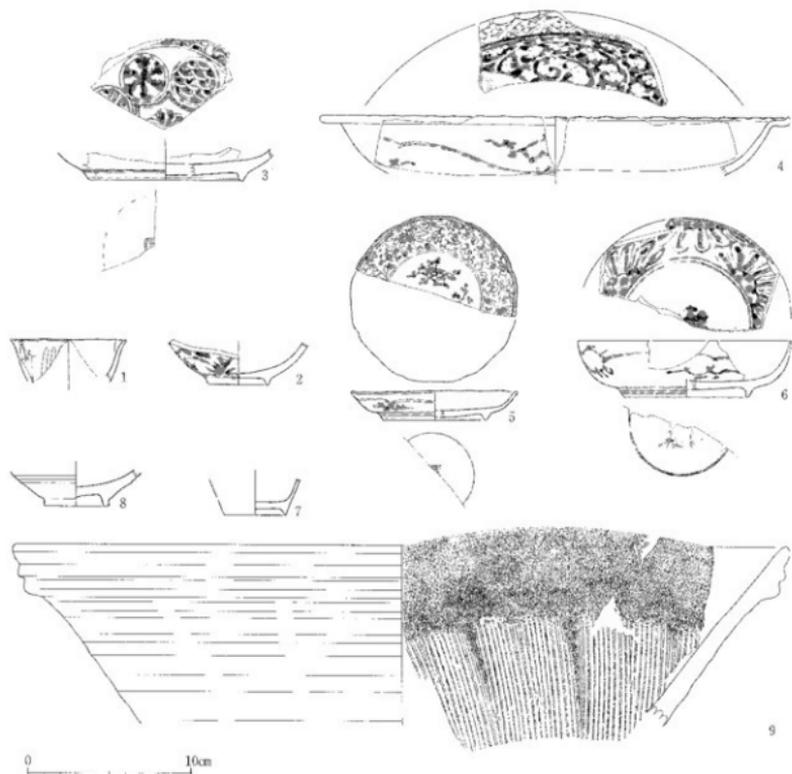


図46 仙台城二の丸跡第14地点出土陶磁器
Fig.46 Porcelains and glazed ceramics from NM14

らは遺物は検出されていない。

VI-4区では、石組溝が検出された(図版168-6)。一列の石列を検出しただけなので、溝になるかどうかは確実ではないが、一応溝跡と考えておきたい。精査を行っていないので、詳細については不明で、確実に江戸時代の遺構かどうか確認できていない。溝の埋土から陶磁器が少量出土しているが、いずれも細片であった。

VI-4区を中心に、VI-8区にかけての各所で、明治15年(1882年)の火災に関連すると推定される黒色土層が検出されている。特にVI-4区の周辺で、良好な状態で検出されている(図版168-5)。いずれにおいても、上面を検出しただけで、掘り下げを行っておらず、上面に露出した遺物のみを採集した。そのため、全体の出土傾向は云々できないが、陶磁器・土師質土器・瓦が出土しており、主要な資料を図46・47に呈示した。陶磁器は、18~19世紀代のものが出土しているが、18世紀代の資料を呈示した(図46-2・4~9、図版169-C2・C4~9)。17世紀代の資料は出土していない。瓦は、軒瓦と刻印のある瓦を呈示した。三引両文の軒丸瓦(図47-1、図版169-T1)、笹文に唐草文を組み合わせた軒平瓦(図47-3、図版169-T3)、四角内に漢字の六を入れた刻印

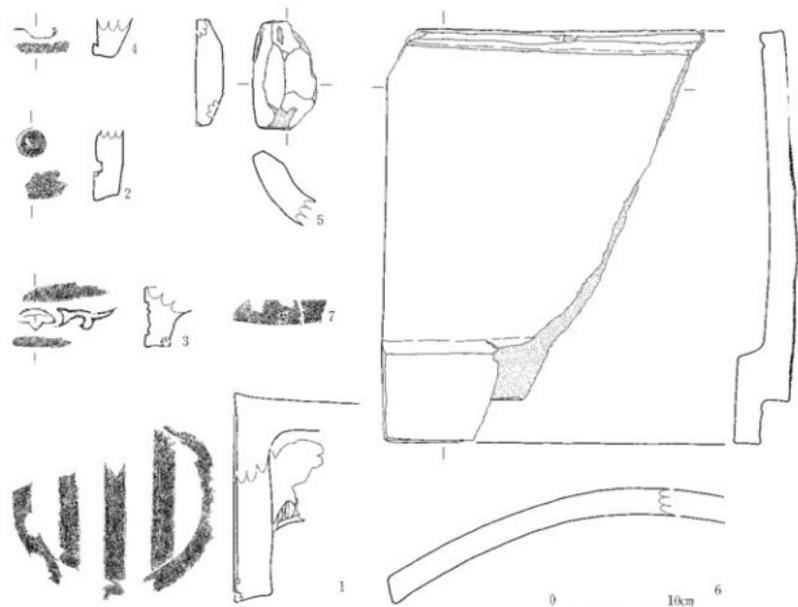


図47 仙台城二の丸跡第14地点出土瓦
Fig.47 Roof tiles from NM14

のある瓦(図47-7、図版169-T7)がある。これまでの二の丸跡の調査で出土した瓦の検討結果では、図47-3の軒平瓦は、三枚葺2a類と唐草1a類が組むもので、軒棧瓦に認められているものである(年報9)。組み合わせる小巴部の文様は、左巻の三巴文が知られている。

3. まとめ

今回の調査は、屋外環境整備という工事の性格上、小規模な掘削がほとんどで、立会調査で済ませた範囲が多く、結果的には、江戸時代の遺構・遺物が検出された場所は、全体の中では少数であった。それでも、二の丸中心部付近や、二の丸裏門周辺、二の丸西端付近では、良好に江戸時代の遺構面が保存されていることが再確認された。これらの区域では、今後も慎重な対応が必要である。今回は、調査範囲が極めて限られたものにならざるを得なかったため、検出した個々の遺構の性格については検討できなかった。また、出土遺物も少なく、主要な資料を呈するに留まっている。

今次調査のように、立会調査と精査を組み合わせ、工事の進行に合わせて対応していくことは、現実には煩雑で、作業員の配置も非効率的にならざるを得ない。しかしながら、当センターのように、限られた範囲の同一の遺跡を調査対象としている場合、対象地域の詳細な状況を把握しておくことは、今後の開発行為への対応を考えた場合には、重要なことであると認識している。既に大学として利用している関係上、様々な営繕工事が実施されることは避け難い。今回のような小規模な工事であっても、少しずつ確実に遺跡は破壊されていく。たとえ個々の破壊部分は小さくとも、遺跡全体の評価にとっては、看過できない問題である。これまでに広い範囲を調査し

表68 仙台城二の丸跡第14地点出土陶磁器・土器・土製品集計表

Tab.68 Distribution of porcelains, glazed ceramics, and clay object at NM14

地区・部位・遺構	磁器										陶器			土器		土・漆		
	大	中	小	小	小	中	小	小	小	小	白	赤	黒	茶	灰		土	土
II-7区 不詳																		
2層			1															
Py1 埋3層																		
II-8区 2層				3														
3層			2	1														
4層																		
Py1																		
IV-2区 1層			3	2														
2層			1	1														
3層																		
Py1																		

表69 仙台城二の丸跡第14地点出土その他の遺物集計表

Tab.69 Distribution of various implements at NM14

地区・部位・遺構	瓦・瓦器・土器・瓦片数										金銅製品		ガラス製品		その他
	平瓦1層	平瓦2層	丸瓦	瓦片	瓦片	瓦片	瓦片								
II-7区 不詳															
2層															
Py1 埋3層															
II-8区 2層															
3層															
4層															
Py1															
IV-2区 1層															
2層															
3層															
Py1															

*印は、出発時の記録を辿りする平瓦で、第4地点出土例(写真5の図74-9)と同様と考えられるもの。

表70 仙台城二の丸跡第14地点出土磁器観察表

Tab.70 Notes on porcelains at NM14

表録番号	出土場所	形状	口径	高さ	文様	備考	形状	口径	高さ	備考
C001	V区 飲食管理センター内蔵貯蔵庫跡	丸瓦	7.1	—	「魯」字文 破紋文		丸瓦	17.0	13.8	1層
C002	II-4区 不詳	中筒	—	3.7	—	破紋文	筒	—	—	1層
C003	I区 2層	小口筒	—	0.5	—	丸文の裏に「高」の印有り	筒	—	—	1層
C004	II-5区 2層	丸瓦	29.0	—	—	「京」文 破紋文	筒	—	—	1層
C005	VI-4区 褐色土器	小中筒	10.2	6.3	1.8	破紋文 破紋文	筒	—	—	1層
C006	VI-4区 褐色土器	小中筒	13.2	7.5	3.3	破紋文 破紋文	筒	—	—	1層
C007	VI-1区 褐色土器	筒	—	3.8	—	筒	—	—	—	1層

表71 仙台城二の丸跡第14地点出土陶器観察表

Tab.71 Notes on glazed ceramics at NM14

表録番号	出土場所	形状	口径	高さ	文様	備考	形状	口径	高さ	備考
C008	VI-4区 褐色土器	中筒	—	4.0	—	破紋文	筒	—	—	1層
C009	VI-5区 褐色土器	筒	—	4.2	—	筒	—	—	—	1層

表72 仙台城二の丸跡第14地点出土軒瓦類観察表

Tab.72 Notes on round eaves tiles at NM14

表録番号	出土場所	瓦片形状	瓦片口径	瓦片内径	厚さ	備考	形状	口径	高さ	備考
T001	VI-5区 褐色土器	二平瓦	17.0	13.8	1.6	丸瓦形跡に「高」の印有り	二平瓦	—	—	1層
T002	II-8区 Py1	丸瓦	—	—	2.3	—	丸瓦	—	—	1層

表73 仙台城二の丸跡第14地点出土軒平瓦類観察表

Tab.73 Notes on flat eaves tiles at NM14

表録番号	出土場所	瓦片形状	瓦片口径	瓦片内径	厚さ	備考	形状	口径	高さ	備考
T003	VI-4区 褐色土器	一平瓦	—	—	—	—	一平瓦	—	—	1層
T004	II-2区 2層	一平瓦	—	—	—	—	一平瓦	—	—	1層

表74 仙台城二の丸跡第14地点出土その他の瓦類観察表

Tab.74 Notes on various roof tiles at NM14

表録番号	出土場所	形状	口径	高さ	備考	形状	口径	高さ	備考
T005	II-2区 2層	平瓦	—	—	—	平瓦	—	—	—
T006	II-2区 Py1	平瓦	—	—	—	平瓦	—	—	—
T007	VI 2層 褐色土器	平瓦	—	—	—	平瓦	—	—	—

た際に、それ以前の小規模な破壊のため、検出遺構の評価が困難になってしまっている例も多い。地下の状態を詳細に把握することが可能であれば、できるだけ攪乱部分を利用するなどして、破壊を最小限に食い止めることができるはずであり、そのような対応を追求していくべきであろう。したがって、小規模な掘削であっても、綿密な対応を行い、攪乱の有無、江戸時代の層位の深さなどのデータを集積していくことが、今後必要であろう。そういう観点では、特に今回、川内北地区について、貴重なデータが得られた。

二の丸北方の武家屋敷地区にあたる川内北地区では、江戸時代の遺構面が確認されたのは、ごくわずかに留まった。特に、講義棟から厚生会館の間では、ほとんどの範囲が、既に削平されたり、攪乱を被っていた。川内北地区は、現在いくつかの5 m前後の段差があり、それぞれの段差の上がほぼ平坦な地形となっている。講義棟の西端近くにも、現在大きな段差が存在する。これは、もともと西から東へ向かって、緩やかに傾斜していた場所を、高い側を削平し、低い所へ盛土する形で、平坦面が広げられてきた結果と思われる。そのため、段差のすぐ上では、本年報の第II章で報告した第12地点のように、盛土が極めて厚いが、段差の下では削平が著しいという結果となっているのであろう。そして、さらに東へ行った体育館付近では、削平は少なく、江戸時代の地層が保存されているものと考えられる。川内北地区では、まだ調査を実施した範囲が少なく、遺跡の保存状態は、あまり良く判っていなかった。今次調査によって、現状の地形と保存状態との関係を、ある程度推定できる端緒が得られたことは、今後の開発行為への対処を考える上での成果であったと言えるであろう。

第IV章 青葉山遺跡E地点第2次調査

1. 調査経緯

(1) 青葉山地区の立地とこれまでの調査

東北大学の理学部・工学部・薬学部が所在する青葉山地区は、標高145～155mの、青葉山段丘のⅢ面に位置する。青葉山段丘は、高位よりⅠ～Ⅳ面に分けられており、各面を覆う火山灰層の関係から、Ⅰ・Ⅱ面とⅢ・Ⅳ面は形成時期の異なる段丘とされる(大月義徳1987)。すなわち、より低位のⅢ・Ⅳ面には坪沼第1～4軽石層が見られず、愛島軽石層より上位の示標テフラのみが見られる。

青葉山一帯に旧石器時代の遺跡が存在することが明らかになったのは、1968年以降のことで、1984年までに青葉山遺跡A～D地点が知られていた(図1)。

A地点は、青葉山でも最も標高の高い青葉台上に所在し、3点の石器が表採されている。内訳はナイフ形石器・スクレイパー・石刃が各々1点である。B地点は東北大学の理学部・薬学部厚生会館の北側にあたり、道路沿いの露頭から、4点の石器が断面採集されている。スクレイパー1点、二次加工ある剝片1点、剝片2点である。C地点では、青葉台へ上る道路脇の露頭の崩壊土中から剝片2点と、局部磨製石斧1点が採集されている。

青葉山地区での遺跡の発掘調査は、東北大学埋蔵文化財調査委員会によって、1983年～1984年にかけて行われたB地点・B地点第2次調査地点(旧称F地点)・E地点の調査が初めての調査である(年報2、図4)。この3ヶ所の調査は、いずれも理学部構内で行われた調査である。これ以降、東北大学構内では、埋蔵文化財調査委員会が組織的に調査にあっている。

B地点の調査では、合計4面の旧石器時代の文化層が確認された。青葉山Ⅲ面では、2枚の示標テフラが知られている。一つは葦王起源の川崎スコリア層で、26,000～32,000年前とされている。もう一つは、愛島軽石層で、54,000～80,000年前という年代が推定されている(年報2)。B地点で石器が発見されたのは、3層上面・4層・5層上面・11d層上面で、川崎スコリアは5層上面でブロック状に点在しており、愛島軽石層は8層である。そのため、20点の石器がまとめて出土した5層上面は、川崎スコリアの降下年代に近い年代のものと考えられ、それより上の3層上面出土石器は晩期旧石器時代、4層出土石器は後期旧石器時代のものと考えられている。但し、3層上面出土石器は、剝片と二次加工ある剝片が1点ずつ出土しただけで、4層からは剝片が1点出土しただけである。11d層出土石器は、愛島軽石層よりも下層で出土しており、10万年前以上に遡る可能性のある、前期旧石器時代のものである。11d層上面では3点の石器が出土しており、剝片・スクレイパー・叩き石が各1点ずつ出土している。

このB地点では、旧石器時代以外に、縄文時代のフラスコ状土坑1基が検出されている他、縄文時代前期と晩期の土器、縄文時代と思われる石鏃、弥生時代後期と思われるアメリカ式石鏃、平安時代のロクロ土器器が出土している。但し、縄文時代以降の時期は、遺構も少なく、遺物も単独で少量出土しているだけであり、中心的な生活の場ではなかったと推定されている。

B地点第2次調査地点では、3枚の文化層から、旧石器時代の石器が、合計6点出土している。いずれも剝片か破片である。出土層位は、いずれも川崎スコリア層より上位の層位からの出土である。

E地点の調査では、遺物は検出されなかったが、層位関係から、旧石器時代に遡ると考えられる、陥し穴状土坑が4基検出されている。

1986年～1991年にかけては、工学部構内での調査が多く行われるようになった。工学部は、理学部から沢をばさんで南側に位置する。工学部構内では、5ヶ所で試掘調査を行っている。しかしこれらの調査では、遺構・遺物は発見されなかった(年報4・5・7・8・9)。

工学部での試掘調査の結果、青葉山構内における遺跡の分布状況が、必ずしも密でないことが明らかになると

ともに、場所によって火山灰層の保存状態が大きく異なっていることも明確になってきた。そこで1992年度には、青葉山構内全域で分布調査を実施し、遺跡の有無や火山灰層の保存状態を、あらためて把握した。この分布調査の際には、新たな遺跡の発見は無かったが、火山灰層の保存状態などに基づいて、構内での開発行為に対する対処基準を策定した(年報10)。

(2) 調査地点の位置

今回の調査は、青葉山地区基幹整備に伴う調査で、共同溝を設置することに伴う調査である。理学部の南側を、北東から南西に走る道路に沿って、共同溝が造られることになった。この道路は、理学部と工学部の間に入る沢に沿って造られた道路であり、今回の調査地点は、段丘上の平坦面の縁に近く、沢へ落ち込んでいく急斜面の少し上の部分にあたる。青葉山遺跡E地点の第1次調査地点からは南へ約150m、B地点第2次調査地点からは南西に300m程の場所にあたる。

(3) 調査の方法と経過

今回の調査地点では、かつてこの付近で削片が採集されたという話は伝えられていたが、遺物が残されておらず、詳細は不明であった。そのため、遺跡が存在するかどうか確認が無く、周知の遺跡の範囲内には入っていなかった。また、1992年度に実施した分布調査に基づく区域分けでも、周知の遺跡の隣接地として、試掘調査を行う区域に含まれていた。そのため当初は、試掘調査との位置づけで、調査にのぞんだ。

調査地点は、南西側の10m程の範囲が高くっており、道路に面した側がカッティングとなっていた。最初に、このカッティングの面を清掃し、基本的な層序関係を把握した。この南西側の高いところを西区とし、間をあけて中央区・東区を設定し、その3ヶ所を調査する予定で、調査を開始した。ところが、調査開始から2日目に、西区で弥生土器の出土を見、急遽本調査へ移行することを決定した。南西側から北東側へ、調査区を次々と拡張する形で調査を進め、結果的に西区と中央区は連続して調査する結果となった。中央区の北東端では、大きな擾乱が確認されたため、ここで一旦拡張を止め、13m程の間をあけて東区の調査を行った。東区では、遺物包含層である2層がほとんど分布せず、遺物も発見されなかったため、これ以上の拡張は行わなかった。

本調査へ移行したことから、3mのグリッドを組んで、記録を行うこととした。グリッドは、横の道路に合わせて方向を定めて設定した。グリッドの方向は、N-34°Eとなっている。出土遺物は、全て出土位置を記録して取り上げた。

また、旧石器時代の遺構・遺物が存在する可能性を考慮して、A・B-1~3区、A・B-7区、A・B-11区において深掘り調査を行った。北区では、調査区の東西両端の所で深掘り調査を行った。いずれにおいても、旧石器時代の遺構・遺物は発見されなかった。

なお、今回の調査において各時期の遺物が発見されたことを受けて、青葉山遺跡E地点の周知の遺跡の範囲は、年度末の平成6年3月31日付けで、仙台市教育委員会によって変更の措置がとられている。図1に示した遺跡の範囲は、この変更後の範囲を示している。

2. 基本層序

基本層序は1~10層まで確認された。

1層は現在の表土である。1a層と1b層に細分される。2層は、今回の調査で出土した遺物のほとんどが出土した、遺物包含層である。場所によっては、更に2a層と2b層に細別できた。2a層は暗褐色を呈する層で、2b層は漸移層である。3層はいわゆるローム層である。4層は示標テフラである川崎スコリア層である。調査区西端のA・B-1区では、窪みに溜まったような形で、良好に確認できたが、それ以外の場所では、小さなブ

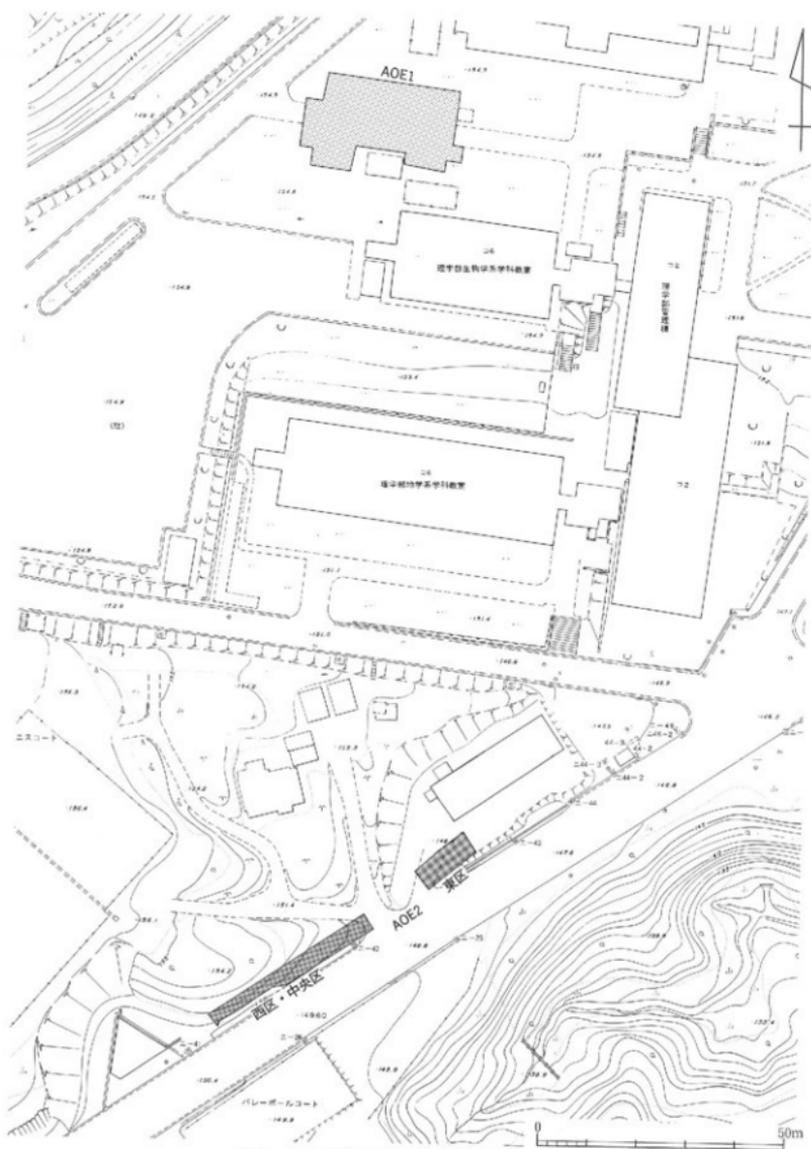


図48 青葉山遺跡E地点第2次調査調査区的位置

Fig.48 Location of AOE2

AOE2 i.e. second excavation of Aobayama site Loc.E

AOE1 i.e. first excavation of Aobayama site Loc.E

ロック状のものが、わずかに確認できる程度であった。5～8層には、パミス粒が含まれ、愛島軽石層が起源のパミスの可能性がある。この5層以下の層序は、これまでの青葉山地区の調査で確認されてきた基本層序とうまく対比できない。愛島軽石も、層としては確認できなかった。今回の調査地点が、斜面に近い部分で、5層以下の層位は、斜面に2次的に再堆積したものの可能性が考えられるであろう。そのため、深掘り調査は、5層上部まで掘り下げることを基本として行っている。9層は段丘礫層直上の、腐れ礫を多量に含む層である。10層は、基盤の段丘礫層である。

3. 検出遺構 (図49、図版170・171)

検出された遺構は、土坑2基、ピット7基である。また、人工的な遺構ではないが、地滑りの跡が検出されたので、ここで合わせて報告する。

【1号土坑】

B-2区の3層上面で検出された。平面形は不整形を呈し、長軸2.8m、深さは深いところで40cm程である。底面も凹凸が激しく、人為的に掘られた遺構であるかどうか、確認は無い。遺物は、縄文時代早期の土器が、埋土から3点出土している。

【2号土坑】

B-2区の2層上面で検出された。掘り込み面から見て、1号土坑を切っていると考えられるが、誤認して先に1号土坑を掘ってしまったため、一部は推定に留まる。やや不整形の平面形を呈し、北壁で確認できた長さは1.8m程である。深さは30cmである。遺物は出土していない。

【ピット】

ピットは合計7基検出されたが、その内のピット3～7については、不整形の浅い落ち込みであり、人為的な遺構であるかどうか確実ではない。

ピット1は、B-2・3区の3層上面で検出された、径80cmのほぼ円形を呈するもので、深さ20cmである。遺物は出土していない。

ピット2はB-3区の3層上面で検出されたもので、径40cmのほぼ円形を呈し、深さ50cmである。遺物は出土していない。このピット2は、他の遺構と比べて壁も明確で、楕円が異なっている。確認したのは3層上面であるが、掘り込み面は更に上の、新しい遺構である可能性も残る。

【地滑り跡】

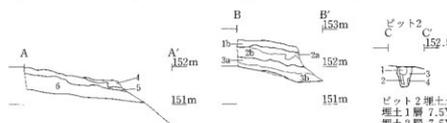
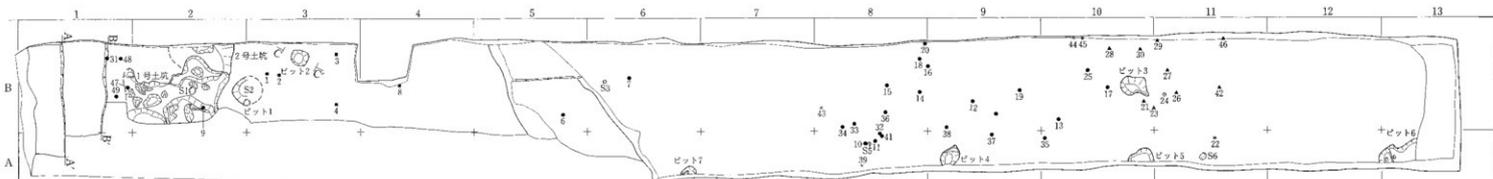
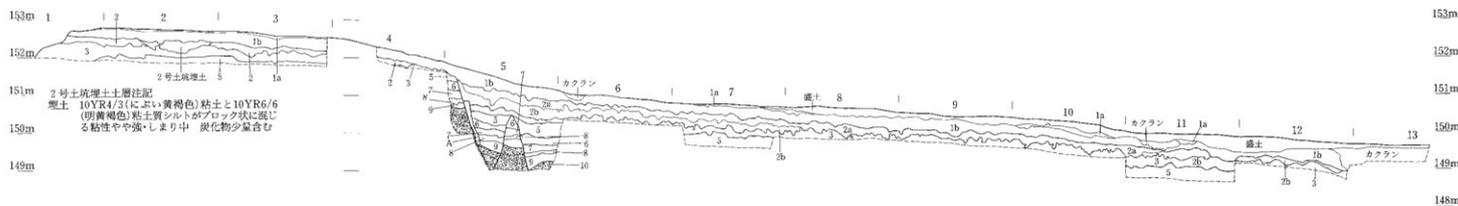
A・B-5・6区で、西北西から東南東方向に、層序が連続しない場所が認められた。そのため、ここで断ち割りを行って見たところ、東西で地層がずれているのが確認された。このずれを境に、大きいところでは1m程の段差が付いて、層位の対比関係が認められた。そこで、本学理学部の松本秀明助教授に現地で行っていただいたところ、地滑りの跡であるとの御教示を頂いた。この地滑りでは、3層以下は、完全に切られており、3層堆積後におこった地滑りであることが確実である。

4. 出土遺物 (図50、表75、図版171)

今回の調査での出土遺物は49点で、内訳は、縄文土器41点、石器1点、弥生土器5点、土師器2点である。いずれも、2層あるいは1層からの出土で、遺物の種類によって出土層位が異なることはなかった。また、1号土坑の埋土からは、縄文時代早期の土器が3点出土している。

縄文土器には、早期の土器29点、中期の土器9点、風化により詳細不明のもの3点がある。

早期の土器としたものは、全て内外面に貝殻炭を施したもので、早期後葉のものであろう。A・B-8～10区でややまとまって出土しているほか、B-1・2区とB-5・6区でも少数出土している。図50-1は、口縁



基本層序土層注記
 埋土1層 7.5YR5/6(明褐色)シルトと10YR4/6(褐色)砂質シルトが混じる 粘性弱・しまり強
 埋土2層 7.5YR4/4(褐色)シルトと7.5YR4/3(褐色)シルトが混じる 粘性弱・しまり弱
 埋土3層 7.5YR5/6(明褐色)シルト 粘性弱・しまり中
 埋土4層 7.5YR6/8(明黄褐色)砂質シルト 粘性中・しまり弱

ピット2埋土土層注記
 埋土1層 7.5YR5/6(明褐色)シルトと10YR4/6(褐色)砂質シルトが混じる 粘性弱・しまり強
 埋土2層 7.5YR4/4(褐色)シルトと7.5YR4/3(褐色)シルトが混じる 粘性弱・しまり弱
 埋土3層 7.5YR5/6(明褐色)シルト 粘性弱・しまり中
 埋土4層 7.5YR6/8(明黄褐色)砂質シルト 粘性中・しまり弱

基本層序土層注記
 1a層 10YR3/3(暗褐色)粘土質シルト 粘性中・しまり弱 炭化物少量・1cm程度の小礫少量含む
 1b層 7.5YR4/6(褐色)粘土質シルト 粘性中・しまり中 炭化物少量含む
 2a層 7.5YR3/4(暗褐色)シルト 粘性弱・しまり弱 炭化物少量含む・粘土ブロックがランダムに入る
 2b層 10YR4/4(褐色)シルト 粘性中・しまり中 炭化物少量含む・粘土ブロック含む
 3a層 10YR5/6(黄褐色)シルト 粘性中・しまり中
 3b層 10YR4/6(褐色)粘土質シルト 粘性中・しまり中
 4層 川崎スコリア層
 5層 10YR5/6(黄褐色)シルト 粘性中・しまり強 パミス・石英粒多量含む
 6層 10YR6/8(明黄褐色)シルト 粘性中・しまり中 パミス・石英粒含む
 7層 10YR5/6(黄褐色)粘土質シルト 粘性強・しまり強 パミス・石英粒多量含む
 8層 10YR4/4(褐色)シルト 粘性中・しまり強 パミス・腐れ礫(5cm以下)多量含む
 9層 10YR4/6(褐色)砂質シルト 粘性中・しまり強 5cm以下の腐れ礫多量含む
 10層 10YR6/6(明黄褐色)砂質シルト 粘性弱・しまり強 腐れ礫を多量含む基礎礫層
 A層 10YR6/6(明黄褐色)から10YR5/4(灰い黄褐色)の色調が混じる 粘土質シルト 粘性強・しまり中

- 縄文土器(早期)
- 縄文土器(中期)
- 弥生土器
- 土師器
- 時期不明の土器
- 石器
- 礫

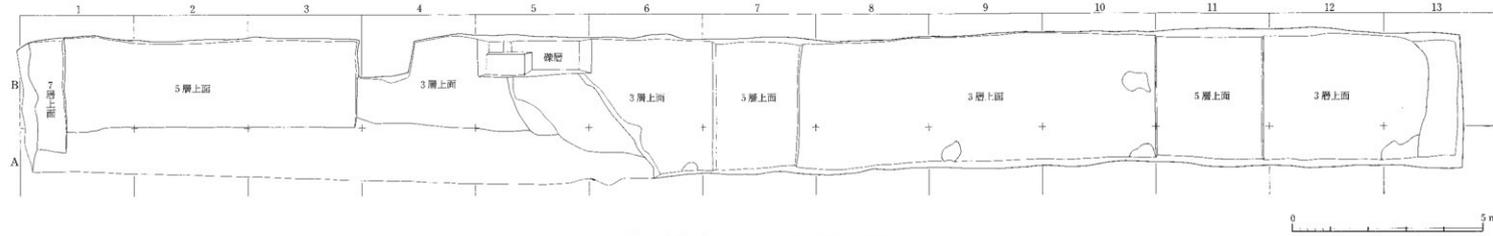


図49 青葉山遺跡E地点第2次調査平面図・断面図
 Fig.49 Plans and cross sections of AOE2

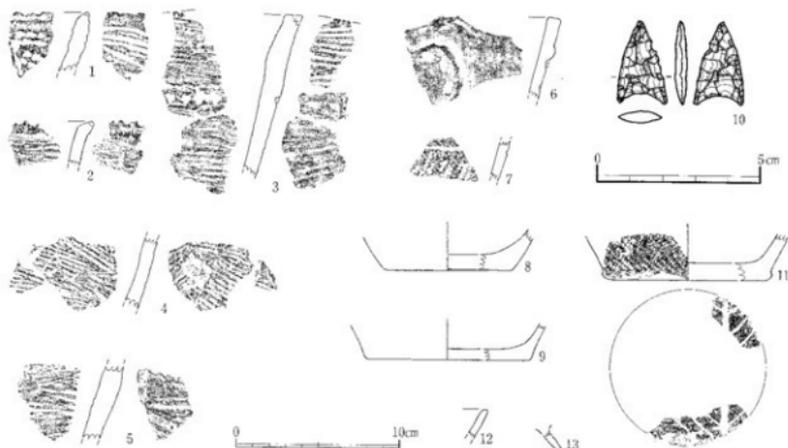


図50 青葉山遺跡E地点第2次調査出土遺物
Fig.50 Various implements from AOE2

部の破片で、口縁端部には刻みが施されている。外面には、連続した刺突が、横方向に2列、やや傾いた方向に2列認められる。2も口縁部で、端部には刻みが認められる。内外面とも貝殻条痕である。3は口縁部から体部上半の破片で、口縁部は波状を呈する可能性がある。口縁部から6cm程下のところに、下から上向きに施した刺突が、横方向に並んでいる。4・5は体部破片で、内外面とも貝殻条痕が認められる。図示しなかった残りの資料は、体部の小破片で、基本的に内外面とも貝殻条痕が認められる。なお早期の土器は、翌年度に今回の調査地点の北側で調査を実施した第3次調査において、同様の資料が多量に出土しており、詳細な型式内容については、この第3次調査の報告を行う、次の年報12において検討したい。

中期の土器と考えられるものは、B-10・11区の、ピット3の周辺で9点がまとめて出土している。図50-6は、突起の下に、隆帯で囲まれた文様があり、その隆帯の内側に沿って刺突がめぐる深鉢である。中期末の大木10式と考えられる。図50-7～9は、確証は無いが、同じく中期の土器の可能性が考えられる。図示しなかった5点は、図50-7と類似した地文のみの破片などである。

石器は、B-11区から石鏃が1点出土している。無茎の門基のものである。良質な頁岩製で、両面全体に2次加工がおよんでいる。縄文中期の土器がまとめて出土している範囲の中から出土しており、この出土状況からは、縄文時代中期のものである可能性が考えられる。

弥生土器はB-3・4区で出土している。5点出土しているが、全て同一個体と考えられる。図示した図50-11は、底面に木葉痕を残し、底面の膝の体部下端に無文の部分が存在せず、地文が底面との境まで施されている点から見て、弥生時代後期の可能性を考えた。

土師器はB-10区とB-11区でそれぞれ1点出土した。ロクロ土師器の坏で、図50-12は口縁部で、内面は黒色処理されている。図50-13は、高台付坏の高台部分の破片である。いずれも細片のため、詳細な検討は困難であるが、平安時代のもと考えられる。

表75 青葉山遺跡E地点第2次調査出土遺物観察表
Tab.75 Notes on various implements from AOE2

No	出土場所	種類	特徴等	図	図版
1	B 3区 1b層	弥生土器	底部 木槌造 縄文土器系文	50-11	171-11
2	B 3区 1b層	弥生土器	底部 木槌造 縄文土器系文 (1と同一個体)	—	—
3	B 3区 1b層	弥生土器	1と同一個体か	—	—
4	B 3区 1b層	弥生土器	底部付 縄文土器系文 1と同一個体	—	—
5	1号1坑 埋土	縄文土器	貝殻系縄文 11層部 外周削削	50-3	171-5
6	B 4区	縄文土器	貝殻系縄文	50-1	171-1
7	B 4区	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
8	B 4区 1b層	弥生土器	1と同一個体か	—	—
9	1号土坑 埋土	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
10	B 6区 2層上	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
11	B 8区 2層上	縄文土器	貝殻系縄文	50-4	171-4
12	B 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
13	B 10区 2層上	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
14	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文 口縁部 小波状	50-2	171-2
15	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
16	B 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
17	B 10区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
18	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
19	B 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
20	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
21	B 10区 2層	縄文土器	中閉? 底部 28と同一個体	—	—
22	B 11区 2層	土師器	ロウソク燭台 高台部小片	50-13	171-13
23	B 10-11区 2層	縄文土器	中閉? 30と同一個体	—	—
24	B 11区 2層	土師器	貫首 径2.6cm・幅1.5cm・厚さ0.4cm・重量1.8g	50-10	171-10
25	B 10区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
26	B 11区 2層	縄文土器	中閉? 風化・詳細不明	—	—
27	B 11区 2層	縄文土器	大口10cm 口縁部 突起	50-6	171-6
28	B 10区 2層	縄文土器	中閉? 底部	50-9	171-9
29	B 11区 2層	縄文土器	中閉? 30と同一個体	—	—
30	B 10区 2層	縄文土器	中閉? 底部 縄文土器系文	50-7	171-7
31	B 1区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
32	A 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文か 底部(平盤)破片	—	—
33	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
34	A 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文 口縁部破片	—	—
35	A 10区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
36	B 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
37	A 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
38	B 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
39	A 8区 2層	縄文土器	風化・詳細不明	—	—
40	B 9区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—
41	A 8区 2層	縄文土器	貝殻系縄文 11区に類似	—	—
42	B 11区 2層	縄文土器	中閉? 風化・詳細不明	—	—
43	B 8区 2層	縄文土器?	風化・詳細不明	—	—
44	B 10区 2層	縄文土器	風化・詳細不明	—	—
45	B 10区 1b層	土師器	ロウソク燭台 杯 口縁部小片	50-12	171-12
46	B 11区 1b層	縄文土器	中閉? 底部	50-8	171-8
47	1号土坑 埋土	縄文土器	貝殻系縄文 48に類似	—	—
48	B 1区 2層	縄文土器	貝殻系縄文 口縁部 外周削削	50-3	171-3
49	B 1区 2層	縄文土器	貝殻系縄文	—	—

5. まとめ

今回の調査は、面積も小さく、明確な遺構もほとんど検出できなかった。しかし、縄文時代から古代にかけての4時代の遺物が、青葉山地区で確認された意義は、小さくないものと考えられる。特に、縄文時代早期の遺物は、今回が初めての発見である。早期の資料は、宮城県内では良好な資料が少なく、不明な点が多い。今回の調査地点の北側で、翌1994年度に実施した調査では、この時期の遺物が多量に出土しており、今後の基準資料となるだけの内容を持っている。詳細は、次の年報12にゆずるが、今回の調査が、このような発見への端緒となったという点で、重要な調査であったと言える。

また、縄文時代早期以外にも、縄文時代中期・弥生時代後期・平安時代の遺物が出土した。先述したように、青葉山地区では、1984年度に調査が行われたB地点において、縄文時代・弥生時代・古代の遺物が出土していた。B地点の調査でも、今回の調査でも、出土した遺物の量は少なく、恒常的に利用された場所とは考え難い。ただし、弥生時代後期と平安時代の遺物は、両地点でほぼ同じ時期のものが出土している。遺跡の性格の解明は、今後の課題として残っているが、これらの時期の遺物の分布域が、思いの外、広い範囲に渡っている可能性が出て

きたと言えるだろう。

旧石器時代の遺構・遺物は、今回は発見されなかった。調査地点が、沢に落ち込む斜面に近い部分であり、火山灰層の堆積状況があまり良くない場所であったことも関係しているだろう。今後も、意識的に、旧石器時代の遺物の有無を追究していく必要がある。

今回の調査区では、地滑りの跡が発見された。1984年に調査された青葉山遺跡E地点の第1次調査地点においても、南北方向に延びる細かな地層のずれが検出されており、地滑りの亀裂によるものと指摘されている。位置関係から見て、今回発見された地滑りと、一連の同じ地滑り痕跡の可能性が考えられる。この地区での、細かな地形変化・環境変化を検討する上で、興味深いデータが得られたと言えよう。

引用・参考文献

- 朝倉治彦・安藤菊二・樋口秀雄・丸山信編 1970 『事物起源辞典一衣食住編』 東京堂出版
- 阿刀田令造 1936 『仙台城下絵図の研究』 斎藤報恩会博物館図書部研究報告第四
- 安部定構編 1906 『歳事便覧』 仙台印刷社
- 天野祐吉 1990 『嘘八百ノ』 文春文庫
- 天野祐吉 1992 『また、嘘八百ノノ一明治篇一』 文春文庫
- 天野祐吉 1993 『またまた、嘘八百ノノ一大正篇一』 文春文庫
- 板垣直俊・豊島正幸・寺戸恒夫 1981 『仙台およびその周辺地域に分布する洪積世末期のスコリア層』
『東北地理』第33巻第1号 48～53頁
- 江戸遺跡研究会 1993 『遺跡にみる幕末から明治』 江戸遺跡研究会第6回大会発表要旨
- 大川清編 1989 『葦子の近代陶業遺跡』 考古学研究室報告乙種第6冊 国士館大学文学部考古学研究室
- 大月義徳 1987 『宮城県中南部の中期更新世示標テフラ』 『東北地理』第39巻第4号 268～282頁
- 大船相馬焼協同組合 1988 『大船相馬焼創業三百年記念誌』
- 岡泰正 1988 『美しい磁器のある風景』 『ヨーロッパ名窯図鑑』 132～144頁 講談社
- 岡泰正 1993 『オランダ・マーストリヒトにおけるレグワット窯の陶器について』
『出島の食文化』 親和文庫第17号 123～141頁 親和銀行ふるさと振興基金
- 岡泰正 1995 『平安京左京六条三坊七町出土のヨーロッパ製転写磁器について』
『平安京左京六条三坊七町』 京都文化博物館調査研究報告第11集 141～152頁
- 岡泰正他 1987 『明治のガラス展—びいどろからガラスへ—』 神戸市立博物館
- 小野寺正策 1901 『仙台市名家及実業家一覽図』
(高倉淳ほか編 1994 今野印刷機創業八十五周年記念出版『絵図・地図で見る仙台』 所収復刻版)
- 木村礎・藤野保・村上直編 1988 『藩史大事典』 第1巻北海道・東北編 雄山閣出版
- 麒麟麦酒株式会社編 1957 『麒麟麦酒株式会社五十年史』
- 佐藤広史 1990 『切込窓跡』 宮崎町文化財調査報告書第3集
- 佐藤雅也 1998 『戦争の民俗』 『足元からみる民俗(7)—失われた伝承・変容する伝承・新たなる伝承—』
仙台市歴史民俗資料館調査報告書第17集 89～106頁
- 汐留遺跡調査会 1996 『汐留遺跡—汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 柴田量平 1944 『東一番丁物語』 高山書店
- 仙台郷土研究会 1991 『仙台郷土研究』 復刊第16巻第1号 (特集仙台藩歴史用語辞典)
- 仙台市教育委員会 1967 『仙台北』
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台北三の丸跡』 仙台市文化財調査報告書第76集
- 仙台市史編さん委員会編 1994 『仙台市史』 特別編1 自然
- 仙台市史編さん委員会編 1997 『仙台市史』 特別編4 市民生活
- 仙台のしにせ編纂委員会 1992 『創業百年以上:仙台のしにせ』 仙台商工会議所
- 大日本窯業協会編 1915 『日本近世窯業史第四編硝子工業』 大日本窯業協会雑誌号外
- 高橋雅夫 1997 『化粧ものがたり—赤・白・黒の世界—』 雄山閣出版
- 高橋洋二編 1994 『明治・大正のガラス』 別冊太陽骨董をたのしむ2 平凡社
- 地学団体研究会仙台支部編 1980 『新編仙台の地学』 きた出版
- 坪井利弘 1976 『日本の瓦屋根』 理工学社

- 坪井利弘 1977 『図鑑瓦屋根』 理工学社
- 東京都埋蔵文化財センター 1997 『汐留遺跡Ⅰ—旧汐留貨物駅跡地内の調査—』
東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 1
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1986 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 2
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1990 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 3
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 4・5
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 6
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 7
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 8
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 9
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 10
- 東北歴史資料館 1995 『仙台・堤のやきもの』
- 内藤潤 1936 『日本陶器年表』『陶器講座』第八巻 雄山閣
- 濱田徳太郎編 1936 『大日本麦酒株式会社三十年史』 大日本麦酒株式会社
- 藤沢良祐 1998 『瀬戸市史』陶磁史篇 6
- 益田 一 1984 『日本産魚類大図鑑』 東海大学出版会
- 宮城県教育委員会 1993 『宮城県遺跡地図』宮城県文化財調査報告書第152集

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY

vol. 11 February 1999

The Archaeological Research Center
on the Campus, Tohoku University
Katahiracho, Aoba ward, Sendai 980-8577 JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University, a lot of archaeological sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. Aobayama campus includes remarkable Paleolithic sites, and locality B is dated to more than 100,000 years ago.

In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out.

According to legal procedures, the commission for research, which was organized in 1983, carried out many salvage excavations for 11 years. It was reorganized into the Center in 1994 to improve conditions of research. The Center mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on the campus, analyzes those records and remains, and publishes excavation reports. Conservation and exhibition of archaeological heritage, studies about structure of sites, artifacts, techniques of excavation and preservation are also important duties.

This volume carries reports of salvage excavations at NM12, and NM14 on Kawauchi campus, AOE2 on Aobayama campus, which were carried out by the Commission of Buried Cultural Properties on Campus in 1993.

NM12 site (Loc. 12 of *Ninomaru*, i.e. the secondary citadel of Sendai Castle)

NM12 area corresponds to the north bank of a moat which was located on the north of *Ninomaru*. This site was excavated prior to the construction of Health Administration Center.

Two major phases are recognized, under and over layer 7 respectively, which was heaped during Meiji period. Phase I corresponds to Edo period and is subdivided into two phases, that is, Ia and Ib. Phase II corresponds to Meiji period and is subdivided into four phases, IIa-IId.

Phase Ia

There were several pits, and a step of unknown purpose. Only a few artifacts such as ceramics were found. They all belong to the 17th century. So this phase probably corresponds to the 17th century. According to historical picture maps, there were samurai residences in the 17th century before widening of the moat. Features of this phase is probably related to samurai residences.

Phase Ib

A moat was found. And there was a dam at the bottom of it. The dam crosses the moat, and has stone

pavements bordered with logs on the top, and its embankments are covered with bamboo baskets filled with pebbles. It is considered to be the facilities for weakening the power of current flows from the valley of west side. It was probably built in the 19th century, near the end of Edo period, because we can see the dam drawn only on the picture maps of the end of Edo period. So this phase almost corresponds to the 19th century, near the end of Edo period.

It is possible to reconstruct almost exactly, the location of the moat on the north of *Ninomaru* by comparing picture maps and results of investigations at other places.

Only a few wooden implements were found at this phase, indicating that the moat was constantly maintained clean during this phase.

Phase II

The moat existed almost at the same place as phase I. It is recognized that during phase II the maintenance of the moat was practiced partially, so gradually earth and sand accumulated, leading to the loss of the function of the moat. From features of phase II, a great quantity of artifacts belonging to modern times were found. The accumulation which covered the features of phase IIc has a thickness of 1.5m by the place. These are rubbish of a logistic transport corps of the Imperial Army, which was located on the north of the moat. These had been thrown for about 20 years around the Sino-Japanese War (1894-5) and World War I (1914-8). So this phase corresponds to almost the same time period.

These artifacts include many industrial products of modern times, and they are extremely abundant in variation and found in huge quantity. This is a very different point from pre-modern times. We present the entire body of these artifacts in this report by providing representative samples, based on thorough classification and counting of all artifacts.

NM14 site (Loc.14 of *Ninomaru*)

A few small areas were excavated prior to small construction works for improvement of environment at Kawauchi campus. It became clear that the features belonging to Edo period remain well at loc.IV corresponding to the center area of *Ninomaru*, and loc.II corresponding to north side of *Daidokoro mon* (north gate of *Ninomaru*). There found small quantity of artifacts such as porcelain, glazed ceramics, and roof tiles.

It is recognized that close investigations at places of small construction work are also very useful for collecting the information underground without excavation.

AOE2 site (the second excavation of Aobayama site Loc.E)

A small area was excavated prior to construction of a utility tunnel on Aobayama campus. Artifacts of Initial and Middle Jomon period, Late Yayoi period and Heian period were found. There were several pits, but we cannot define which period these belong to. This is the first time that we find artifacts of Initial Jomon period on Aobayama campus. With the results, it became clear that there is an archaeological site of this period on Aobayama campus. The main site area is considered to be the flat ground part located to the west of this point. It is the most important result of this excavation.

A trace of landslide is also found. It will give us interesting data about changes of local topography and environment.

写 真 图 版



1. 調査前全景 (東から)



2. 試掘調査区全景 (南から)



3. 試掘調査区全景 (東から)



4. 試掘調査サブトレンチ全景 (東から)



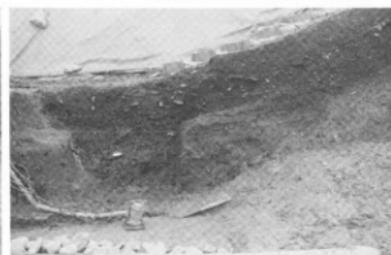
5. 調査区西壁セクション (東から)



6. F~H-1・2区 調査区西壁セクション (東から)



7. E・F-2区 調査区西壁セクション (東から)



8. C・D-2区 調査区西壁セクション (東から)

図版1 仙台城二の丸跡第12地点試掘・外周壁セクション
Pl.1 Views of test trenches and cross sections at NM12



1. 調査区南壁セクション (北から)



2. D-7・8区 調査区南壁セクション (北から)



3. D-6・7区 調査区南壁セクション (北から)



4. C・D-3・4区 調査区南壁セクション (北から)



5. 1a期全景 (東から)



6. 1a期全貌 (西から)



7. 1a期全景 (東から)



8. 13層上面2号土坑確認状況 (北西から)

図版2 仙台城二の丸跡第12地点外周壁セクション・1a期の遺構

Pl.2 Cross sections and features of phase 1a at NM12



1. 13層上面2号土坑セクション (南から)



2. 11層上面ピット7確認状況 (北から)



3. 11層上面ピット7セクション (東から)



4. 10・11層上面1号土坑 (西から)



5. 1b期全景 (東から)



6. 1b期全景 (東から)



7. 1b期全景 (西から)



8. 基状遺構全景 (北から)

図版3 仙台城二の丸跡第12地点1a期・1b期の遺構
Pl.3 Views and features of phase 1a and 1b at NM12



1. 堰状遺構全景（西から）



2. 堰状遺構西側斜面（西から）



3. 堰状遺構西側丸太の北端（北から）



4. 堰状遺構西側丸太の脇の杭（東から）



5. 堰状遺構西側斜面の蛇籠（東から）



6. 堰状遺構西側斜面の蛇籠の中に打たれた杭（北から）



7. 堰状遺構東側斜面（南から）



8. 堰状遺構東側丸太の北端（東から）

図版4 仙台城二の丸跡第12地点I b期の遺構

Pl.4 Features of phase 1 b at NM12



1. 壘状遺構東側丸太の脇の杭（北東から）



2. 壘状遺構東側斜面の蛇籠セクション（北から）



3. 壘状遺構東側斜面の蛇籠（西から）



4. 壘状遺構東側丸太付近の柵ら割り状況（北から）



5. II a期の岸上面の状況（西から）



6. 6・7層上面4号溝と枕列（南西から）



7. 6・7層上面4号溝と枕列（南西から）



8. II b期全貌（東から）

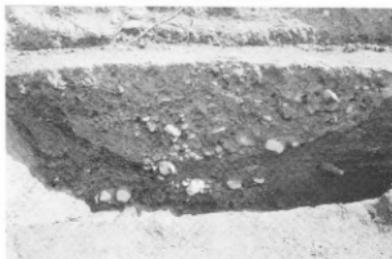
図版5 仙台城二の丸跡第12地点 I b期・II a期・II b期の遺構
Pl.5 Views and features of phase I b, II a and II b at NMI2



1. II b期全景 (南から)



2. 1号堀全景 (南から)



3. E~G-8区東壁セクション (西から)



4. D~G-10区東壁セクション (北西から)



5. II c期全景 (東から)



6. II c期全景 (南から)



7. II c期全景 (西から)



8. 1号堀全景 (南から)

図版 6 仙台城二の丸跡第12地点II b期・II c期の遺構
Pl.6 Views and features of phase II b and II c at NM12



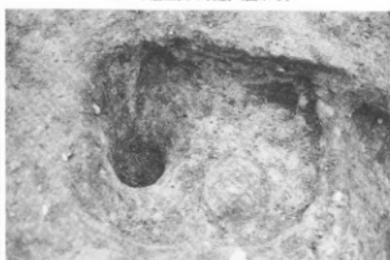
1. 2号溝全景 (南東から)



2. 5層上面の石敷 (西から)



3. 4・5層上面ピット3断面 (東から)



4. 4・5層上面ピット3完掘状況 (南から)



5. 3c層上面ピット1確認状況 (東から)



6. 3c層上面ピット1完掘状況 (東から)



7. 3c層上面ピット2確認状況 (東から)



8. 3c層上面ピット2完掘状況 (東から)

図版7 仙台城二の丸跡第12地点IIc期の遺構

Pl.7 Features of phase IIc at NM12



1. II d期全景 (東から)



2. II d期全景 (南から)



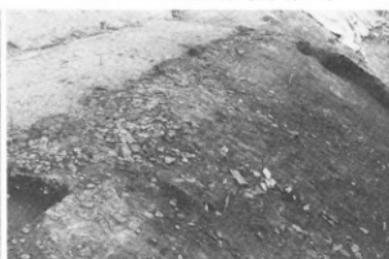
3. 1号溝B全景 (東から)



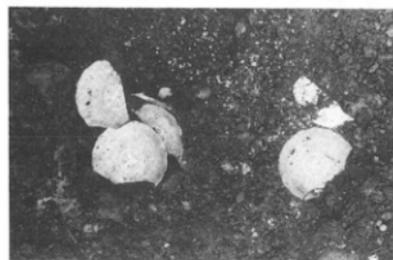
4. D-7区 1号溝B内の杭列 (東から)



5. E・F-6・7区 3層上面の遺物出土状況 (東から)



6. E・F-2~5区 3b層上面瓦出土状況 (西から)



7. E-6区 3d層遺物出土状況 (南から)



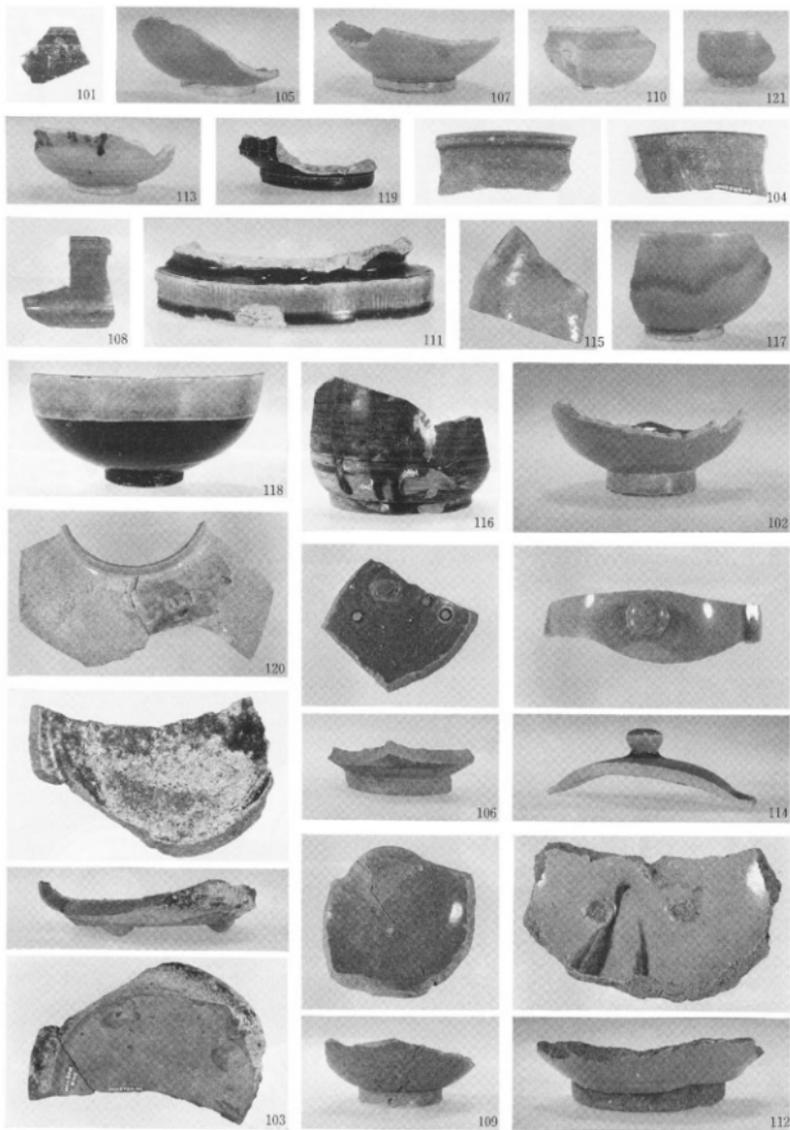
8. E-5区 3d層魚骨出土状況 (南から)

図版8 仙台城二の丸跡第12地点II d期の遺構
PL.8 Views and features of phase II d at NM12



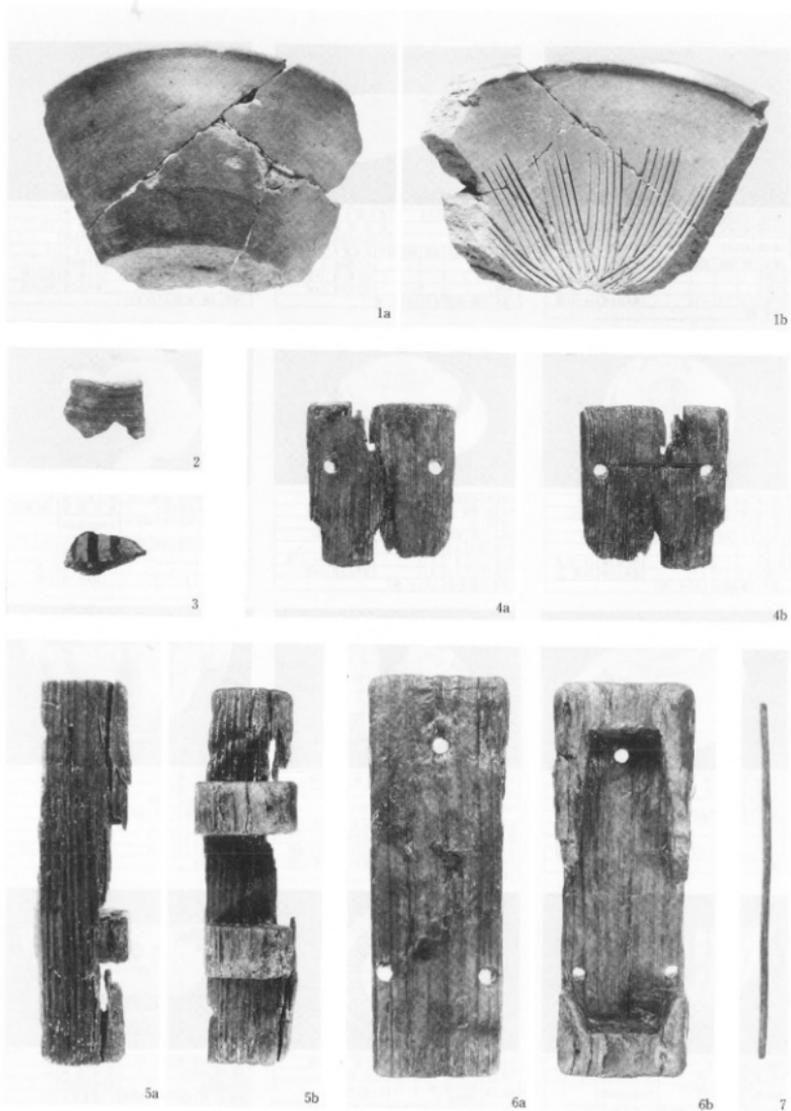
図版9 仙台城二の丸跡第12地点出土近世の磁器
 Pl.9 Porcelains belonging to Edo period from NM12

S = 1 : 3



図版10 仙台城二の丸跡第12地点出土近世の陶器
 Pl.10 Glazed ceramics belonging to Edo period from NM12

S = 1 : 3



図版11 仙台城二の丸跡第12地点出土近世のその他の遺物
 Pl.11 Various implements belonging to Edo period from NM12



分類名称	磁器大甕(類)A1	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕(類)B1	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



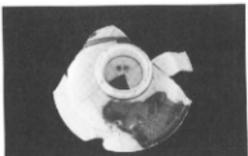
分類名称	磁器大甕(類)C1	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)A11	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)A12	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)A13	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)A14	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)B1	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕・鉢(類)C1	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕(類)A17	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕(類)A18	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		



分類名称	磁器大甕(類)A19	属分類	文様なし
外装文様	磁器文様	属分類	高台・内面・外面
内装文様	磁器文様	属分類	その他(内面等)
品名	口徑	高さ	胴体重量
最大径	11.4	3.5	6.8
最大径	11.4	3.5	6.8
重量	11.4	3.5	6.8
出所	仙台東二	年代	18世紀
備考	＜撮影＞		

図版12 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(1)
Pl.12 Modern porcelains from NM12(1)

手書き磁器(1)



分類名称	磁器(中国産)A C 15	高台 磁文 文様 なし
外装文様	鳥類 動物(鳥・獣)	高台 内 高 なし
内装文様	動物 二次文様文字	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.7	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 16	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.7	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 17	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.4	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 18	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.8	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 19	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.8	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 20	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 6.4	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 21	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.7	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 22	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	動物(鳥・獣)	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.7	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 23	高台 磁文 文様 なし
外装文様	動物(鳥・獣)	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.8	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 24	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.8	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 25	高台 磁文 文様 なし
外装文様	動物(鳥・獣)	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.5	最大径 7.5 約100g
重量		約50g



分類名称	磁器(中国産)A C 26	高台 磁文 文様 鳥類
外装文様	鳥文様	高台 内 高 なし
内装文様	なし	その他の記号等
出所	二宮 蔵持	調査年度
器種	口縁 形状 材質 器体形状	高さ 重さ 寸法
最大径		7.5 約100g
最小径		5.5 約70g
平均径	径 4.3 5.5	最大径 7.5 約100g
重量		約50g

図版13 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(2)

手書き磁器(2)

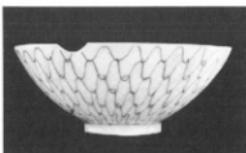
PL13 Modern porcelains from NM12(2)



分類名称	仙台市(南)G117	高台 磁文 施	
外装文様	2方向文	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	13.7	4.3	3.7
器底径	11.7	4.3	4.3
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G113	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様(高台・器底)	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.8	4.1	4.7
器底径	11.8	4.1	4.7
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G114	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.4	4.1	4.4
器底径	11.4	4.1	4.4
口径	11.4	4.1	4.4
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G111	高台 磁文 施	
外装文様	口縁部高文(器底・器高)	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.7	4.3	4.3
器底径	11.7	4.3	4.3
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G111	高台 磁文 施	
外装文様	口縁部高文(器底・器高)	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	12.1	4.2	4.6
器底径	12.1	4.2	4.6
口径	12.1	4.2	4.6
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G112	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.7	4.3	4.3
器底径	11.7	4.3	4.3
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G111	高台 磁文 施	
外装文様	口縁部高文(器底・器高)	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.8	4.3	4.3
器底径	11.8	4.3	4.3
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G112	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.6	4.2	4.6
器底径	11.6	4.2	4.6
口径	12.1	4.2	4.6
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G113	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.7	4.3	4.3
器底径	11.7	4.3	4.3
口径	12.2	4.3	4.7
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G114	高台 磁文 施	
外装文様	口縁部高文(器底・器高)	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	10.4	3.7	3.2
器底径	10.4	3.7	3.2
口径	11.4	3.7	4.1
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G111	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.4	4.1	4.7
器底径	11.4	4.1	4.7
口径	12.1	4.2	4.6
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			



分類名称	仙台市(南)G111	高台 磁文 施	
外装文様	無装文様	高台 竹 蔭 文	
内装文様	なし	その他の特徴	
器種	口沿 器底 器高	器底径×器高×口径	
器高	11.4	4.1	4.7
器底径	11.4	4.1	4.7
口径	12.1	4.2	4.6
出土層	15	基本土層	掘削14層
＜備考＞手描き			

図版14 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(3)
PL14 Modern porcelains from NM12(3)

手描き磁器(3)



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁文	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.5	磁器(陶器)
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC18	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.5	磁器(陶器)
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC19	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.5	磁器(陶器)
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.5	磁器(陶器)
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.4	磁器(陶器)
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	4.0	5.0
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	4.1	3.8
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.0	3.6
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC11	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	4.1	3.6
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC18	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	5.1	
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC17	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.4	3.2
＜備考＞	手描き		



分類名称	磁器(陶器)IC18	高台 磁文 文様	陶器
外部文様	磁器四方文様 陶器	高台 文様	なし
内部文様	磁器四方文様 陶器	その他(磁器等)	陶器
図案	1705	磁器	磁器(陶器)
器大径		器大径	なし
器小径		器小径	なし
器高		器高	なし
平均値	11.0	3.4	3.2
＜備考＞	手描き		

図版15 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(4)
 PL15 Modern porcelains from NM12(4)

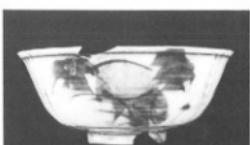
手描き磁器(4)



品名	磁器(白磁)1C132	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径	11.5	9.1	5.3	見立重量 g	100
底径	12.5	3.5	5.3	見立重量 g	100
高さ	1.8	4.1	5.2	見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C132	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	11.0	4.1	5.0	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C135	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径	11.5	9.1	5.0	見立重量 g	100
底径	12.5	3.5	5.0	見立重量 g	100
高さ	1.8	4.1	5.0	見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	11.0	4.1	5.0	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C135	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	11.3	4.1	5.1	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C135	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	11.2	4.1	5.1	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C136	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.4	3.4	5.5	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C137	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.6	3.8	5.4	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C138	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.6	3.5	5.4	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C139	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.6	4.0	4.7	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C140	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	11.5	3.8	5.3	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C140	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.6	3.4	5.7	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				



品名	磁器(白磁)1C141	高台 磁文 碗			
所属文庫	華文	高台 白 碗 文			
内閣文庫	日本経済学術文 西蔵 見込(見立)200(96-1)	その他の物品等			
品名	口径 底径 高さ 脚径	総重量 g			
口径				見立重量 g	100
底径				見立重量 g	100
高さ				見立重量 g	100
脚径				見立重量 g	100
平均値	10.8	3.8	5.3	見立重量 g	100
標準偏差	0.5	0.4	0.5	見立重量 g	100
備考	＜備考＞				

図版17 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(6)
Pl.17 Modern porcelains from NM12(6)

手描き磁器(6)



分類名称	磁器(手描)	1 c 143	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 144	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 145	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 146	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 147	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 148	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 149	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 150	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 151	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 152	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 153	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				



分類名称	磁器(手描)	1 c 154	品名	磁文 碗	種類
外観文様	植物(花文)		底径	9.0	高さ
内観文様	無地		重量	134g	
出所	不明		出土層	不明	
調査	1979	11.3	調査	1979	5.9
保存	国史院蔵		所在地	西宮市	
備考	手描の植物文様				

図版18 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(7)
PL18 Modern porcelains from NM12(7)

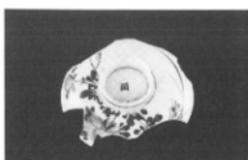
手描き磁器(7)



分類名称	磁器(白磁)K10	考古学分類	不明
外部文様	文字(行・センリ)	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>中継器(表)11.2センチ			



分類名称	磁器(白磁)E11	考古学分類	不明
外部文様	文字	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>中継器(表)12センチ			



分類名称	磁器(白磁)品711	考古学分類	磁器
外部文様	文字	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>中継器(表)11.2センチ			



分類名称	磁器(白磁)品112	考古学分類	不明
外部文様	無文	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>中継器(表)11.2センチ			



分類名称	磁器(白磁)E12	考古学分類	なし
外部文様	無文(文・エンパ・E1)	高古内装	なし
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法	12.4 4.2 2.8	出土物上層	10層
<備考>			



分類名称	磁器(黒磁)F1	考古学分類	なし
外部文様	一文字(高古内装)	高古内装	なし
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法	11.1 5.3 3.1	出土物上層	10層
<備考>中継器(表)11.2センチ			



分類名称	磁器(白磁)品711	考古学分類	不明
外部文様	文字(行・センリ)	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>中継器(表)11.2センチ			



分類名称	磁器(白磁)E11	考古学分類	なし
外部文様	無文(高古内装)	高古内装	なし
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法	3.5 1.6	出土物上層	10層
<備考>			



分類名称	磁器(白磁)品711	考古学分類	磁器
外部文様	無文(高古内装)	高古内装	なし
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法	6.0 4.9	出土物上層	10層
<備考>			



分類名称	磁器(白磁)E11	考古学分類	なし
外部文様	無文(高古内装)	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法	8.9 4.1 3.8	出土物上層	10層
<備考>			



分類名称	磁器(白磁)E12	考古学分類	不明
外部文様	無文(高古内装)	高古内装	不明
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>			



分類名称	磁器(白磁)品711	考古学分類	なし
外部文様	無文(高古内装)	高古内装	なし
内部文様	なし	その他(磁器等)	
出所	二河 経理 調査 御体取戻等 (総重量 6.1)	出所時期	1
最大径		出土層階	1
最小径		出土物下層	10層
寸法		出土物上層	10層
<備考>			

図版19 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(8)

手描き磁器(8)

PL19 Modern porcelains from NM12(8)



分類名称	仙台小鉢#13	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	7.7	3.7	4.2
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径			
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径			
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#13	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	7.7	3.7	4.2
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#14	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	8.3	3.8	4.3
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#15	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径			
最小径			
平均径			
＜備考＞			



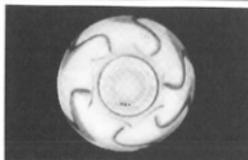
分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	8.8	3.9	4.7
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#12	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	8.3	4.0	4.5
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	7.7	3.7	4.3
最小径			
平均径			
＜備考＞			



分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	7.4	2.8	3.3
最小径			
平均径			
＜備考＞			



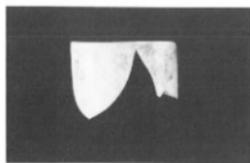
分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	11.8	5.5	6.3
最小径			
平均径			
＜備考＞			



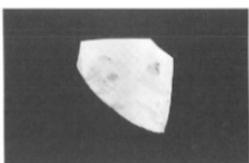
分類名称	仙台小鉢#11	高台 磁文 磁	なし
外装文様	花文	高台 内面	なし
内装文様	なし	中央の凹部	高台の彫物
出典	1月 2月 3月 4月	仙台 仙台	仙台 仙台
最大径	11.7	5.9	5.5
最小径			
平均径			
＜備考＞			

図版20 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(9)
Pl.20 Modern porcelains from NM12(9)

手描き磁器(9)



分類名称	磁器片破片①	高台系文様	不明
形状文様	高台系文様(水鳥・木)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	不明
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代	3.0	4.7	2.8
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



分類名称	磁器片破片①	高台系文様	不明
形状文様	高台系文様(高・木・鳥)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	不明
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



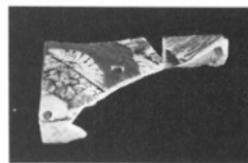
分類名称	磁器片破片①	高台系文様	不明
形状文様	高台系文様(高・木・鳥)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	不明
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



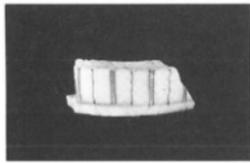
分類名称	磁器片破片①	高台系文様	なし
形状文様	高台系文様(高・木)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代	3.0	4.7	2.8
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



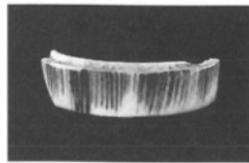
分類名称	磁器片破片①	高台系文様	なし
形状文様	なし	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代	3.0	4.7	2.8
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



分類名称	磁器片破片①	高台系文様	なし
形状文様	高台系文様(高・木・鳥)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



分類名称	磁器片破片(物A)①	高台系文様	なし
形状文様	なし	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



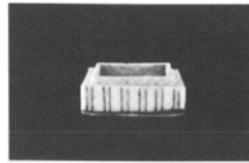
分類名称	磁器片破片(物A)①	高台系文様	なし
形状文様	なし	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



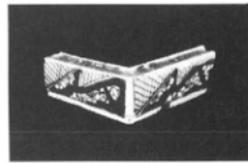
分類名称	磁器片破片(物B)①	高台系文様	なし
形状文様	高台系文様(高・木)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



分類名称	磁器片破片(物C)①	高台系文様	なし
形状文様	なし	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代	3.0	6.8	4.6
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			



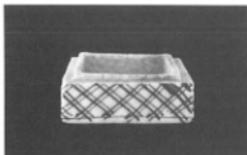
分類名称	磁器片破片(物C)①	高台系文様	なし
形状文様	なし	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代	2.1	2.9	3.0
出土層		4.8	跡多土層
＜備考＞			



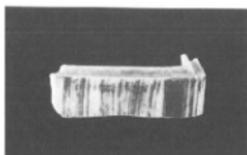
分類名称	磁器片破片(物D)①	高台系文様	なし
形状文様	高台系文様(高・木)	高台系	なし
内面文様	なし	その他の形状等	なし
出所	山形 新庄 築山 御伊達墓所	磁器片破片	①
最大径		以上(縦横)	
最小径		以上(縦横)	
重量		以上(縦横)	
年代			
出土層		跡多土層	19区①層
＜備考＞			

図版24 仙台城二の丸跡12地点出土近代の磁器⑬
Pl.24 Modern porcelains from NM120⑬

手描き磁器⑬



分類名称	磁器合子(箱)D11C1	高台 磁文 文様	なし
外装文様	磁器合子文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	3.4	3.5	4.4
重量	1.7		
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



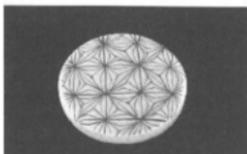
分類名称	磁器合子(箱)G1111A	高台 磁文 文様	なし
外装文様	磁器合子文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径			
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



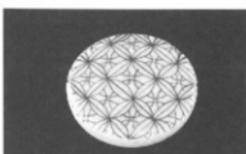
分類名称	磁器合子(蓋)A311	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	2.6	3.1	
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(蓋)A112	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	2.2	1.6	
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(蓋)A11	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	4.9	1.9	
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



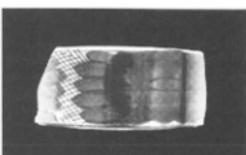
分類名称	磁器合子(蓋)A113	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	4.3	1.1	
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	3.3	3.9	6.8
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111A	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径			
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111B	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	4.4	4.1	
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111C	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	11.6	11.5	4.3
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111D	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径			
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			



分類名称	磁器合子(箱)D111E	高台 磁文 文様	なし
外装文様	花鳥文	高台 竹 蔦	なし
内装文様	なし	その他(伊達)	なし
出所	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階	1階 1階 1階 1階 1階 1階
最大径			
最小径			
平均径	10.8		
重量			
備考	種多(1) 1階 2階		
<備考>			

図版25 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器04
Pl.25 Modern porcelains from NM1204

手描き磁器04



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1307	図録	器類	図録番号	器番号	307
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	10.7	容積	12.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1308	図録	器類	図録番号	器番号	308
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	11.1	容積	12.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1309	図録	器類	図録番号	器番号	309
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	9.3	容積	12.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1310	図録	器類	図録番号	器番号	310
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	8.5	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1311	図録	器類	図録番号	器番号	311
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	11.1	容積	12.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1312	図録	器類	図録番号	器番号	312
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	10.3	容積	12.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1313	図録	器類	図録番号	器番号	313
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	7.3	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1314	図録	器類	図録番号	器番号	314
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	8.1	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1315	図録	器類	図録番号	器番号	315
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	7.8	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1316	図録	器類	図録番号	器番号	316
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	7.3	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1317	図録	器類	図録番号	器番号	317
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	8.0	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						



図録名	仙台城二の丸跡第12地点	品名	高台蓋文種	なし		
外装文様	蘭文	高台	高台蓋	なし		
内装文様	なし	中の物の形状				
図録No	1318	図録	器類	図録番号	器番号	318
最大径		高さ	10.0	cm		
最大高		口径	10.0	cm		
重量	8.0	容積	10.4	cc	製作地	西沢35番
年代		出土層	第15土層	西沢35番		
＜備考＞高台蓋(高台)11土層						

図版26 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器①
PL26 Modern porcelains from NM1205

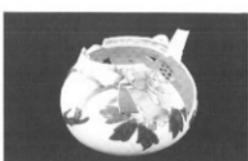
手描き磁器③



中略名称	仙台12跡(丸)A c 17	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	17跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値		出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)A c 18	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	18跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値		出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)B a	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	3.1	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)B c 1	高台 扁文 横	なし
外形文様	人物文	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	2.5	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)B c 2	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	2.0	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)C 11	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	2.5	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)C 12	高台 扁文 横	なし
外形文様	人物文	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	11.5	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)C 13	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	7.0	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)D 11	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	7.0	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)D 12	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	5.4	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)D 13	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	5.4	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			



中略名称	仙台12跡(丸)E 1	高台 扁文 横	なし
外形文様	植物・風景	高台 内 横	なし
内面文様	なし	その他の形状等	
品名	12跡 煎茶 茶筒	製作年代	昭和 20年代
最大径		高さ	17
最大容		出土層	第14層
平均値	5.4	出土層	第14層
写真		撮影方法	撮影14層
＜備考＞			

図版27 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑥
Pl.27 Modern porcelains from NM1206

手拵磁器⑥



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	菊文	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	菊文	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	菊文	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			



分類名称	磁器(丸)A11	高古属文様	なし
外部文様	なし	高古属文	なし
内部文様	なし	中心部菊文	なし
寸法	口径 110mm 高さ 45mm	容積	約 1,500cc
製法		山土製	なし
製時期		山土製	西300年
出所	8.4	発掘品	西300年
＜備考＞山土製(丸)A11にセット			

図版28 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(7)

手摘み磁器(7)

PL28 Modern porcelains from NM1207



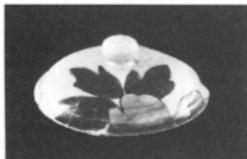
分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	高 台 高 文	なし	
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	2.3	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	2.1	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と 台付本底				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	牡丹文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	2.6	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と 台付本底				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	2	
発掘地		出土層下層	134～135号	
年代	6.3	2.3	西暦土層	134～135号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と 台付本底				



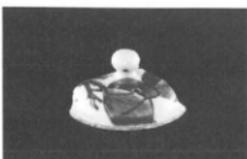
分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	2.1	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	牡丹文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	4	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	3.2	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と 台付本底				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	2.3	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	134～135号	
年代	6.3	2.3	西暦土層	134～135号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	牡丹文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	6.3	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	1	
発掘地		出土層下層	135号	
年代	6.3	6.3	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	2	
発掘地		出土層下層	135号	
年代	6.3	6.3	西暦土層	135号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と				



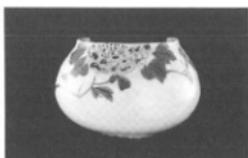
分類名称	仙台十戸窯(天目)	高台 高文 類	なし	
高文文様	無文	高 台 高 文	なし	
高文文様	なし	その他記号		
内文文様	なし	その他記号		
通高	110	口径	100	
口径		底径	70	
最大径		出土層数	6	
発掘地		出土層下層	西522号	
年代	6.3	6.3	西暦土層	西522号
＜番号＞(発掘)目(1)と(2)と 台付本底				

図版29 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑧
PI.29 Modern porcelains from NMI208

手描き磁器⑧



分類名称	磁器製茶器A15	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	25
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.9	2.9	4.4
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器B1	高台 高文様	なし
外周文様	土師器文様・高台・高	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	5.8	3.3	3.3
寸法		最大径	10.0
＜備考＞			



分類名称	磁器製茶器C1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文 空閑文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	20
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	7.0	3.9	5.7
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器D1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文 空閑文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.9	3.2	5.0
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器E1	高台 高文様	なし
外周文様	土師器文様 高文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量		最大径	10.0
＜備考＞			



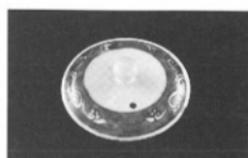
分類名称	磁器製茶器E2	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	20
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.3		
寸法		最大径	10.0
＜備考＞			



分類名称	磁器製茶器F1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.9	3.1	3.6
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器G1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	5.3		
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



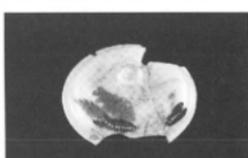
分類名称	磁器製茶器H1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.9	3.8	1.8
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器I1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.1	2.1	3.6
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			



分類名称	磁器製茶器J1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.3		
寸法		最大径	10.0
＜備考＞ 高台は、高台のみの出土品			

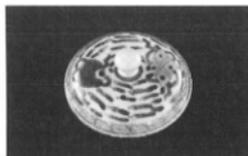


分類名称	磁器製茶器K1	高台 高文様	なし
外周文様	幾何文 空閑文・口沿	高台 内 高	なし
内周文様	なし	その他の法山	
品名	口沿 煎茶 器高 銅体茶器A	高さ	18
最大径		口沿幅	1
最大厚		口沿下厚	10.0
重量	6.0	2.0	
寸法		最大径	10.0
＜備考＞			

図版30 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器19

手描き磁器の

Pl.30 Modern porcelains from NM1209



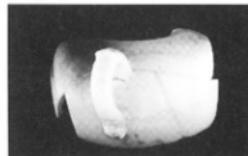
分類名称	磁器(白磁)皿C	高古磁文様	なし
内蔵文様	写しなし	高古丹波	なし
内蔵文様	写しなし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	5.4	2.0	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(黒磁)鉢C	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	5.9	1.5	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢D	高古磁文様	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	5.4	2.0	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢E	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	5.4	2.0	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢F	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	6.2	1.5	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢G	高古磁文様	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	5.4	2.0	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢H	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	6.8	1.5	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢I	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	10.7	2.6	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢J	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	10.7	2.6	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢K	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	7.7	1.6	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



分類名称	磁器(白磁)鉢L	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	10.7	2.6	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		



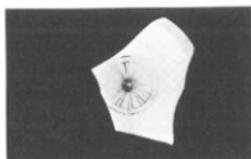
分類名称	磁器(白磁)鉢M	高古磁文様	なし
内蔵文様	この高古・オウ・フ屋敷けけけ	高古丹波	なし
内蔵文様	なし	高古丹波	なし
出所	「山」萩原 伊萬 伊藤屋敷	伊藤屋敷	14
品名		伊藤屋敷	14
製時期		伊藤屋敷	14
平均値	2.8	1.6	14
＜備考＞	伊藤屋敷 伊藤屋敷 伊藤屋敷		

図版31 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(20)
Pl.31 Modern porcelains from NM1200

手描き磁器類



分類名称	磁器器種C17	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	8.2 3.4 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C18	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	8.0 3.2 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C13	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.0 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C10	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.7 3.4	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



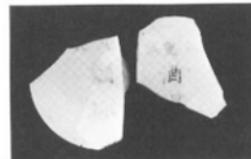
分類名称	磁器器種C11	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.0 3.2 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



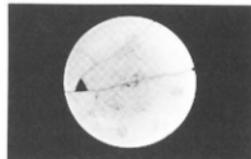
分類名称	磁器器種C12	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.0 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C15	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.9	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



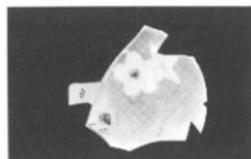
分類名称	磁器器種C14	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.4 3.5 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C16	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	8.7 3.7 3.1	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C19	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.1 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



分類名称	磁器器種C17	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	3.1 3.3	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		



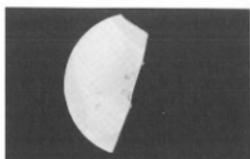
分類名称	磁器器種C18	高古磁文様なし
外装文様	なし	高古西縁なし
内装文様	上段横文・[菊]文 (赤)	その他の磁器等
器高	口徑 横径 高さ 軸径	総重量 容積
最大径	口徑 横径	当手径
最大厚	口徑 横径	当手厚
平均値	2.1 2.2 2.9	最多径 1.8 1.8 1.7
<備考>		

図版33 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器②
PL.33 Modern porcelains from NM12②

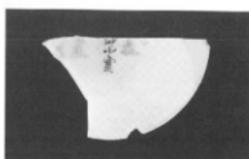
手描き磁器②



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	白磁(足平中切)の印(1) 磁器	高台 内径	なし	
内底文様	なし	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



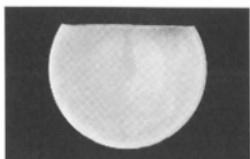
分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「足平中切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 14	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



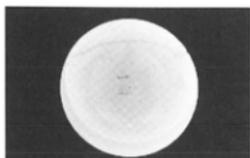
分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「足平中切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	なし	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



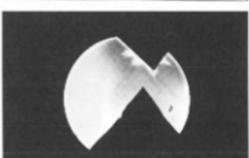
分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし(印なし)	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし(印なし)	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	なし	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			



分類名称	磁器(白磁) 11	高台 幅文	なし	
外底文様	なし	高台 内径	なし	
内底文様	「上切」の印(1) 磁器	その他の形状	なし	
口径	11.0	口径	幅文	なし
高さ	5.0	口径	幅文	なし
最大径	11.0	口径	幅文	なし
重量	1.0	口径	幅文	なし
備考	高台なし 3.0			
分類	<磁器>			

図版34 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器23

手書き磁器23

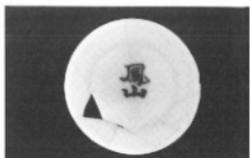
Pl.34 Modern porcelains from NM12(2)



図録番号	磁器番号	11	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	11	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



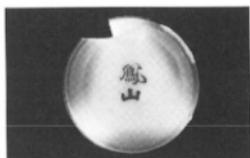
図録番号	磁器番号	11	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



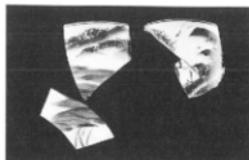
図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			



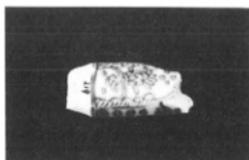
図録番号	磁器番号	12	高台皿文様	なし
内径	外径	2.1	2.4	
高さ	重量	2.3	2.4	
年代	出所	不明	不明	
備考	高台皿文様			

図版35 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器20
Pl.35 Modern porcelains from NM12②

手描き磁器②



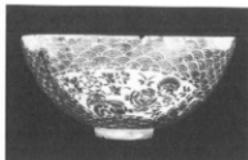
分類名称	磁器(磁器C)	真子編文様(4)
内装文様	山水文	真子西遊(4)
外装文様	なし	その他(磁器C)
出来年	二河	肥後
器大略		磁器(磁器C)
器小略		磁器(磁器C)
出土層		磁器(磁器C)
備考		



分類名称	磁器(磁器C)	真子編文様(4)
内装文様	山水文	真子西遊(4)
外装文様	なし	その他(磁器C)
出来年	二河	肥後
器大略		磁器(磁器C)
器小略		磁器(磁器C)
出土層		磁器(磁器C)
備考		

図版38 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(7)
Pl.38 Modern porcelains from NM12(7)

手描き磁器(7)



品名	磁器(中)丸A012	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A011	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A014	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A013	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



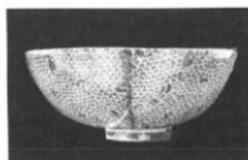
品名	磁器(中)丸A016	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A017	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A018	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A019	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A020	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A021	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A022	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					



品名	磁器(中)丸A024	種別	文様	なし	
外周文様	菊文様	内周文様	菊文様	なし	
内周文様	C10	その他記号			
品名	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
最大径	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
重量	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
平均値	11.7	口径	10.0	高さ	3.5
標準偏差					

図版40 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器29
Pl.40 Modern porcelains from NM12(29)

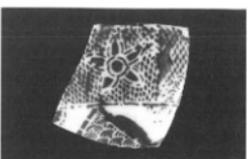
稿拾磁器(2)



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 119	歴史文様	15
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 120	歴史文様	16
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 121	歴史文様	17
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



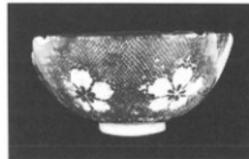
分類名称	磁器(瀬戸物)A C 122	歴史文様	18
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 123	歴史文様	19
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 124	歴史文様	20
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 125	歴史文様	21
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



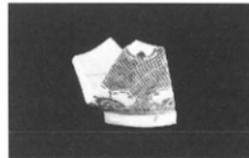
分類名称	磁器(瀬戸物)A C 126	歴史文様	22
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 127	歴史文様	23
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 128	歴史文様	24
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 129	歴史文様	25
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3



分類名称	磁器(瀬戸物)A C 130	歴史文様	26
外部文様	牡丹文	内文	高台内筋なし
内面文様	C15	その他の技法等	
総高	7.0	口径	11.5
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3
口径	11.5	高さ	5.3

図版42 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(3)

図録磁器(4)

Pl.42 Modern porcelains from NM1230



出土地名	福岡県糟屋郡A C 343	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



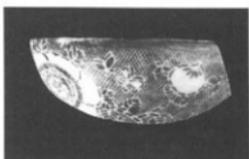
出土地名	福岡県糟屋郡A C 344	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 345	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 346	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 347	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 348	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 349	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 350	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



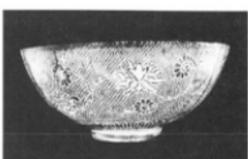
出土地名	福岡県糟屋郡A C 351	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 352	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 353	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3



出土地名	福岡県糟屋郡A C 354	種	唐文様1種
外周文様	唐文様 牡丹(開)7文	高	高台内縁なし
内周文様	C1種	その他の内周文様	
品名	C1種	器種	唐文様 唐文様 唐文様
最大径	11.1	3.3	5.3
最大厚	11.1	3.3	5.3
平均径	11.1	3.3	5.3

図版44 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器33

摺輪磁器(6)

Pl.44 Modern porcelains from NM12(3)



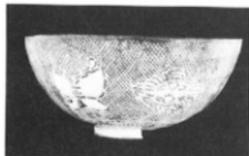
分類名称	昭和中期(約)A C 1150	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣華文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	牡丹文	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	4.0	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.4	4.8	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1151	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	4.0	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.8	4.8	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1152	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣華文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	4.0	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.8	4.8	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1153	器 種 文 様 工 種	
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別	
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし	
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15
平均径	11.4	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>			



分類名称	昭和中期(約)A C 1154	器 種 文 様 工 種	
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別	
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし	
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15
平均径	11.8	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>			



分類名称	昭和中期(約)A C 1155	器 種 文 様 工 種	
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別	
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし	
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15
平均径	11.8	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>			



分類名称	昭和中期(約)A C 1156	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.9	4.1	5.1	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1157	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.1	3.7	4.8	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1157.5	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	4.2	5.4	昭和中期(約) 11
最大径	11.9	3.3	4.9	昭和中期(約) 15
平均径	11.0	3.9	5.2	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1158	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.0	4.0	5.1	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



分類名称	昭和中期(約)A C 1159	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.2	3.7	5.1	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				



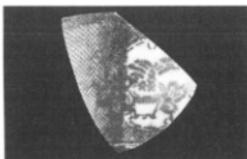
分類名称	昭和中期(約)A C 1160	器 種 文 様 工 種		
内装文様	牡丹文 電掣文 雲	高 台 内 装 不 別		
内装文様	C 1150	牡丹文の透かし		
器高φ	二桁	器径φ	昭和中期(約) 120	
最大径	11.2	5.2	昭和中期(約) 11	
最大径	11.9	5.2	昭和中期(約) 15	
平均径	11.0	4.0	5.1	昭和中期(約) 昭和14年
<備考>				

図版45 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器36
Pl.45 Modern porcelains from NM1204

櫻川磁器(7)



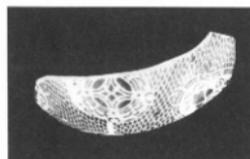
分類名称	仙台中継(舟)A-C E61	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母文 雲母 縁線ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	4.3	最大径	4.3
最小径	3.3	最小径	3.3
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E62	産 産 文 種	不明
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	4.3	最大径	4.3
最小径	3.3	最小径	3.3
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E63	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母文 雲母 縁線ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E64	産 産 文 種	不明
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	4.3	最大径	4.3
最小径	3.3	最小径	3.3
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E65	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E66	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E67	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	4.3	最大径	4.3
最小径	3.3	最小径	3.3
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			



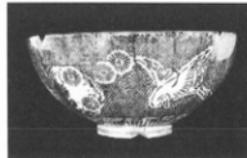
分類名称	仙台中継(舟)A-C E68	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E69	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E70	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.1	最大径	11.1
最小径	11.1	最小径	11.1
平均径	11.1	平均径	11.1
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E71	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	なし
内装文様	C:雲子	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.0	最大径	11.0
最小径	11.0	最小径	11.0
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			



分類名称	仙台中継(舟)A-C E72	産 産 文 種	1類
外観文様	丸文 雲母縁ノツツテ	高 台 内 装	不明
内装文様	C:雲子(見込不明)	その他の技法等	
品名	1類	品名	縁線ノツツテ
最大径	11.0	最大径	11.0
最小径	11.0	最小径	11.0
平均径	11.0	平均径	11.0
＜備考＞			

図版46 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器39

Pl.46 Modern porcelains from NM1203

撰松磁器図



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.3	4.2	3.5
品小径	10.5	3.9	4.9
品高	11.1	4.1	5.1
品重	11.1	4.1	5.1



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.8	5.1	5.1
品小径	11.8	5.1	5.1
品高	11.9	4.3	5.8
品重	11.9	4.3	5.8



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.1	3.9	5.1
品小径	10.5	3.7	4.9
品高	12.0	3.9	5.9
品重	12.0	3.9	5.9



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.3	4.2	3.4
品小径	10.7	4.0	4.9
品高	10.4	4.1	5.2
品重	10.4	4.1	5.2



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.8	5.1	5.1
品小径	11.8	5.1	5.1
品高	11.2	4.8	5.8
品重	11.2	4.8	5.8



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.2	3.9	5.5
品小径	11.0	3.8	5.1
品高	11.1	3.8	5.1
品重	11.1	3.8	5.1



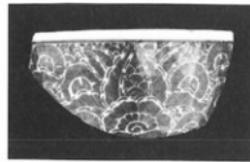
品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.3	4.2	3.4
品小径	10.7	4.0	4.9
品高	11.1	4.0	5.1
品重	11.1	4.0	5.1



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.8	5.1	5.1
品小径	11.8	5.1	5.1
品高	11.2	4.8	5.8
品重	11.2	4.8	5.8



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.2	3.9	5.5
品小径	11.0	3.8	5.1
品高	11.1	3.8	5.1
品重	11.1	3.8	5.1



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.3	4.2	3.4
品小径	10.7	4.0	4.9
品高	11.1	4.0	5.1
品重	11.1	4.0	5.1



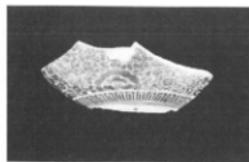
品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.8	5.1	5.1
品小径	11.8	5.1	5.1
品高	11.2	4.8	5.8
品重	11.2	4.8	5.8



品名名称	磁器(中国)の丸鉢	展示文庫	1階
所属文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
内閣文庫	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品名	丸鉢(丸鉢) 磁器(中国)	展示文庫	1階
品大径	11.2	3.9	5.5
品小径	11.0	3.8	5.1
品高	11.1	3.8	5.1
品重	11.1	3.8	5.1

図版48 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(3)
Pl.48 Modern porcelains from NM12(3)

図録磁器(3)



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	4種
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
内周文様	O型	花鳥・花文	花鳥文様・花文
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	不明
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	4
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	4種
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	4種
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	4種
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	4種
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	不明
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	不明
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



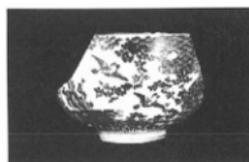
分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	なし
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	なし
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	不明
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』



分類名称	磁器(現代)D・115	製 作 文 様	O型
外周文様	花鳥文様・花文文様	高 台 内 飾	なし
内周文様	O型	その他の内周文様	
器高	12.4	器径	6.7
器口径		器底径	5.1
器容量		器重	18
出土層		出土時期	1層
発掘地		所在地	仙台東部地区
年代		1460	戦国時代
参考			『仙臺』

図版49 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器30

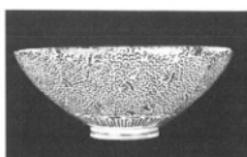
Pl.49 Modern porcelains from NM1200



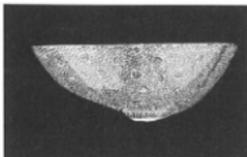
分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	C1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



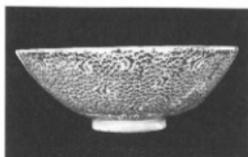
分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	C1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A1類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



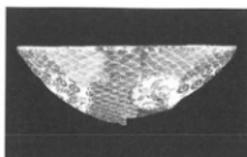
分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			



分類名称	磁器(中国)下皿	輸出文種	中国
外部文種	中国(中国製)文種不明	高台	内製
内部文種	A15類	その他の物品名	
品名	二匹 龍図 磁器	制作年代	1900年代
製法	手製	寸法	口径φ 13.0
最大径	13.6	3.3	4.3
容積	0.60	容積(1/3)	0.20
重量	10.6	3.7	5.3
平均			
備考			

図版51 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器④
Pl.51 Modern porcelains from NM12④

資料館蔵



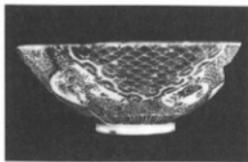
分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ11a	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	なし
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	12.2	4.5	17.9
器小径	11.8	4.2	17.9
平均厚	11.6	4.3	4.4
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



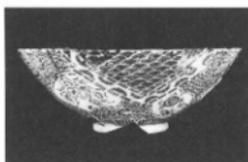
分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ11b	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.9		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.3	3.8	4.5
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ12a	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	12.1	4.1	4.7
器小径	11.2	3.5	4.3
平均厚	11.4	3.7	4.6
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ12b	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.6	4.1	4.4
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



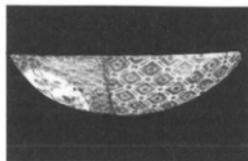
分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ12c	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	なし
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.3	4.0	4.5
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



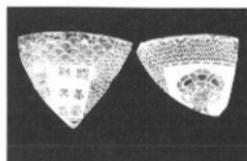
分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ13	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	なし
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	12.4	4.3	4.8
器小径	11.3	3.7	4.3
平均厚	11.1	3.9	4.6
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ14	器 種 文 様	なし
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	なし
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.2	4.1	4.3
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ15	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.4	4.0	4.5
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ16	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	なし
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	12.4	4.3	4.8
器小径	11.3	3.7	4.3
平均厚	11.1	3.9	4.6
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ17	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.4	4.1	4.3
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ18	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.4	4.1	4.3
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			



分類名称	磁器(瀬戸焼)G1bJ19	器 種 文 様	10
外観文様	高台・内縁文様 雲散花	高台内縁	不明
内縁文様	A15b	その他の器法等	
器高	17.9	口径	56.9
器大径	11.8		17.9
器小径	11.6		17.9
平均厚	11.4	4.1	4.3
	(143)	瀬戸焼土質	西沢14層
<備考>			

図版52 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(4)

撰録磁器00

P1.15 Modern porcelains from NM12(4)



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 239			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	3.7	4.3	底径	5.0
平均径	11.6	4.0	4.7	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 300			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	4.1	4.9	底径	5.0
平均径	11.6	4.2	5.0	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 176			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	4.3	5.1	底径	5.0
平均径	11.6	4.3	4.7	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



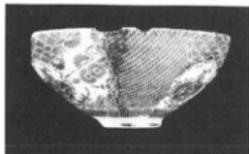
分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 52			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	3.7	4.3	底径	5.0
平均径	11.6	3.9	4.8	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 539			
最大径	11.9	3.9	4.6	脚付脚高	22
最小径	11.6	3.7	4.5	底径	5.0
平均径	11.6	3.9	4.8	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 66			
最大径	11.9	4.3	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.4	4.3	4.3	底径	5.0
平均径	11.7	4.3	4.3	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 334			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	3.7	4.3	底径	5.0
平均径	11.6	4.0	4.6	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 292			
最大径	11.9	4.1	4.6	脚付脚高	22
最小径	11.6	3.7	4.5	底径	5.0
平均径	11.7	4.0	4.6	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 77			
最大径	11.9	4.3	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.4	4.3	4.3	底径	5.0
平均径	11.7	4.3	4.3	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 313			
最大径	11.9	4.1	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.3	3.7	4.3	底径	5.0
平均径	11.7	4.0	4.6	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 421			
最大径	11.9	4.1	4.7	脚付脚高	22
最小径	11.3	3.7	4.5	底径	5.0
平均径	11.7	3.9	4.5	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文



分類名称	磁器(中国産)白磁花鳥文	標 本 文 様 1類			
内蔵文様	白磁花鳥文(花鳥文)	高台内縁なし			
内蔵文様 A1種	その物の出所等				
品名	口径 底径 高さ 脚付高さ	総重量 g 316			
最大径	11.9	4.3	4.4	脚付脚高	22
最小径	11.7	4.3	4.6	底径	5.0
平均径	11.7	4.3	4.6	110度	磁器(中国産)白磁花鳥文

図版55 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器40

描繪磁器07

P1.55 Modern porcelains from NM1284



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53615	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.3	4.7	出土層階級	4	
最大径	11.7	3.9	4.3	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	4.1	4.5	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53616	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.2	4.8	出土層階級	15	
最大径	11.5	3.9	4.3	出土層階級	10033層	
平均径	11.6	4.1	4.6	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53617	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	3.9	4.7	出土層階級	7	
最大径	11.5	3.8	4.7	出土層階級	10033層	
平均径	11.7	3.9	4.7	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



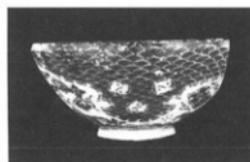
分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53618	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.3	4.7	出土層階級	9	
最大径	11.7	3.9	4.3	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	3.8	4.7	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



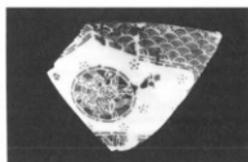
分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53619	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	3.8	4.3	出土層階級	10033層	
最大径	11.5	3.4	4.3	出土層階級	10033層	
平均径	11.3	3.4	4.3	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53620	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	3.9	4.7	出土層階級	1	
最大径	11.5	3.8	4.7	出土層階級	10033層	
平均径	11.7	3.9	4.7	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53621	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.1	4.5	出土層階級	3	
最大径	11.5	4.1	4.5	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	3.4	4.5	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53622	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾不明			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.1	4.5	出土層階級	11	
最大径	11.5	3.9	4.5	出土層階級	10033層	
平均径	11.3	3.4	4.5	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53623	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.3	4.8	出土層階級	48	
最大径	11.5	4.1	4.8	出土層階級	1	
平均径	11.5	4.0	4.8	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53624	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.2	4.7	出土層階級	10	
最大径	11.5	4.1	4.8	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	4.1	4.8	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53625	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾不明			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.1	4.5	出土層階級	48	
最大径	11.5	4.1	4.5	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	4.0	4.5	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						



分類名称	磁器(白磁・刷毛)G53626	種別	文様1類			
外観文様	刷毛文様・花文	器台	内 飾なし			
内観文様	なし	4の他の記号				
寸法	口径 12.0 底径 7.0 体高 4.5	材質	白磁			
最大径	11.9	4.1	4.5	出土層階級	5	
最大径	11.7	3.8	4.4	出土層階級	10033層	
平均径	11.5	4.0	4.4	143	最多出土層	10033層
＜備考＞						

図版56 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器45
PL56 Modern porcelains from NM12④



分類名称	磁器(白磁)	G155a	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.5	3.5	12.5	172
口径	11.9	4.2	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G155b	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.8	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G156	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.8	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G157	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.5	3.5	12.5	172
口径	11.9	4.2	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172



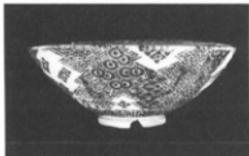
分類名称	磁器(白磁)	G158a	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.4	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G158b	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.4	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G159a	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.5	3.5	12.5	172
口径	11.9	4.2	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G159b	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.4	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



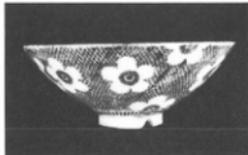
分類名称	磁器(白磁)	G159c	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.5	3.5	12.5	172
口径	11.9	4.2	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172



分類名称	磁器(白磁)	G160a	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.4	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



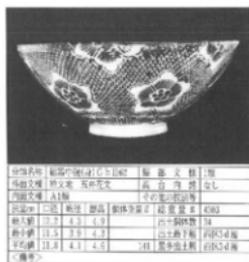
分類名称	磁器(白磁)	G160b	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.7	4.3	3.6	12.5	172
口径	11.4	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172
口径	11.5	3.9	12.5	172



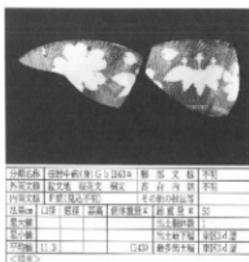
分類名称	磁器(白磁)	G161	鎌 原 文 様	198
外観文様	花文(文様)	花文(文様)	高 台 内 縁	なし
内縁文様	A19		その他の図案	
器高	口径	底径	胴体長さ	総重量
11.9	4.5	3.5	12.5	172
口径	11.9	4.2	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172
口径	11.2	4.1	12.5	172

図版57 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(6)
P157 Modern porcelains from NM12(6)

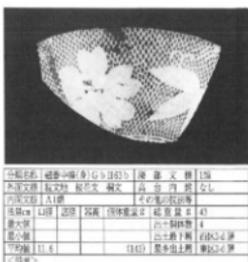
掛絵磁器類



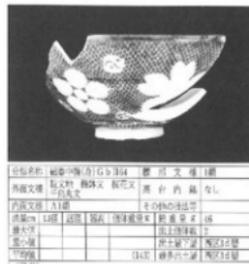
分類名称	磁器(陶器)G15182	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15183	器 器 文 様 不明
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



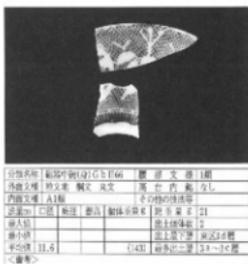
分類名称	磁器(陶器)G15185	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



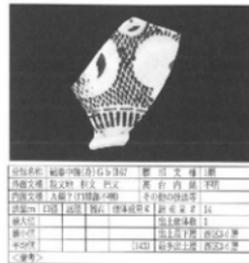
分類名称	磁器(陶器)G15184	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



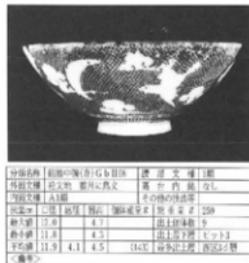
分類名称	磁器(陶器)G15186	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15186	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



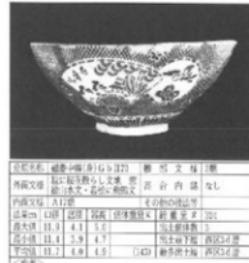
分類名称	磁器(陶器)G15187	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15188	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



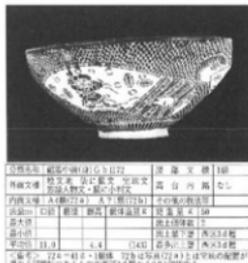
分類名称	磁器(陶器)G15189	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15189	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15191	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1



分類名称	磁器(陶器)G15192	器 器 文 様 1項
所属文庫	邦文庫 邦文庫 邦文	高 台 内 縁 なし
付属文庫	なし	その他付随品
測定値	口径 11.8	底径 5.0
高さ	4.1	4.1
容積	11.5	3.9
容積率	11.5	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1
口径率	11.8	4.1

図版58 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(47)

摺輪磁器08

P1.58 Modern porcelains from NM1267



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	11.2	4.3	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-311a	施 翠 文 様	2組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	11.8	4.2	5.1
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-311a	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-311b	施 翠 文 様	なし
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	11.0	4.3	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-311b	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	4.3	4.5	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



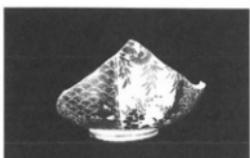
分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	11.7	4.3	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	4.3	4.5	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	なし
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	13.4	4.6	6.7
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	4.3	4.5	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	1組
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	13.4	4.6	6.7
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	不明
外周文様	1組	高 台 内 縁	不明
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	不明
高台	なし	高 台 内 縁	不明
高台文様	なし	高 台 内 縁	不明
高台径	13.4	4.6	6.7
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	不明
外周文様	1組	高 台 内 縁	不明
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	不明
高台	なし	高 台 内 縁	不明
高台文様	なし	高 台 内 縁	不明
高台径	4.3	4.5	5.0
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			



分類名称	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様	なし
外周文様	1組	高 台 内 縁	なし
内周文様	1組	その他の母文等	
内径文様	1組	高 台 内 縁	なし
高台	なし	高 台 内 縁	なし
高台文様	なし	高 台 内 縁	なし
高台径	13.4	4.6	6.7
口径	14.0	磁器(中)碗(1) G-312	施 翠 文 様
口径径			

図版59 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器48

滑石磁器48

PI.59 Modern porcelains from NM1268



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	不明
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.5)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.5	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	不明
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.7)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.7	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 8.1)
高さ	12.0	口径	10.0
最大径	13.0	底径	8.0
重量	8.1	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



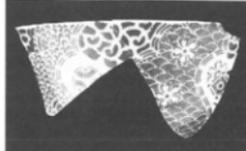
分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



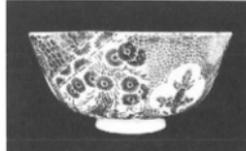
分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.7)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.7	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	不明
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.7)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.7	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



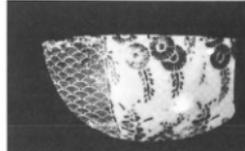
分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	不明
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	なし
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.7)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.7	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			



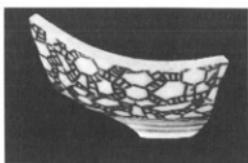
分類名称	磁器(中世)15131	解 説 文 類	不明
外観文様	花文(牡丹・芙蓉・文様)	高 台 内 飾	不明
内観文様	C19(9)7(足元不明)	その他の技法等	
品名	白磁	器種	鉢(重量 5.2)
高さ	11.6	口径	10.0
最大径	12.6	底径	8.0
重量	5.2	出土層	第10層
年代	11世紀	出所	仙台北土1号(1964)
参考書			
コメント			

図版60 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器49
Pl.60 Modern porcelains from NM12loc

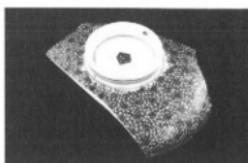
帯松磁器02



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



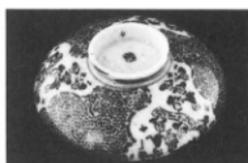
分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



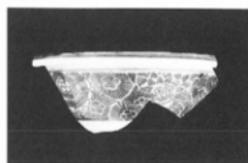
分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		



分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		

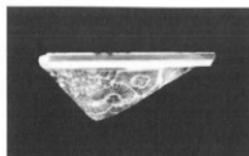


分類名称	磁器(磁器)2B1	高台盤文様	なし
外観文様	高台盤文様	高台盤文様	なし
内観文様	白釉(白磁)平肉	その他の技法等	
図法	口縁	底足	脚付(脚付)
図高	10.6	4.2	2.5
図径	9.3	3.9	2.3
平肉	11.3	4.5	2.2
<備考>	高台盤土器(高台盤)		

図版62 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器5D

清純磁器04

Pl.62 Modern porcelains from NM125D



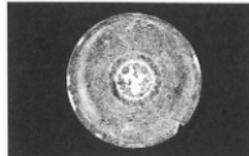
分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	不明
外題文様	牡丹文 花鳥文	高台 丸口 飾	不明
内題文様	内題無文(外題牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.5	12.5	12.5
器小径		12.5	12.5
器高			1.9
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



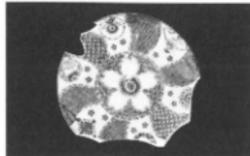
分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	不明
外題文様	牡丹文 花鳥文 花鳥文(牡丹文)	高台 丸口 飾	不明
内題文様	内題無文(外題牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.4	6.3	4.5
器小径		12.4	6.3
器高			1.9
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



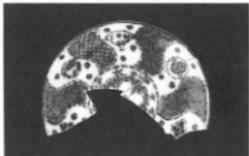
分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	高台 丸口 飾	不明
内題文様	内題無文(外題牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径			12.5
器小径			12.5
器高			1.9
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.5	7.3	2.2
器小径		12.5	7.3
器高			2.2
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文 花鳥文(牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.0	7.2	1.8
器小径		12.0	7.2
器高			1.8
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.0	7.3	2.1
器小径		12.0	7.3
器高			2.1
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



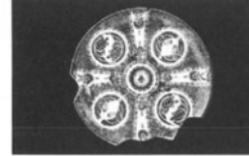
分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.4	7.4	1.9
器小径		12.4	7.4
器高			1.9
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文 花鳥文(牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.7	7.1	2.5
器小径		12.7	7.1
器高			2.5
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.3	7.8	2.0
器小径		12.3	7.8
器高			2.0
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.5	7.8	1.9
器小径		12.5	7.8
器高			1.9
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	不明
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.7	7.1	2.5
器小径		12.7	7.1
器高			2.5
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>



分類名称	磁器鉢(丸口)	高台 無文 飾	なし
外題文様	なし	高台 丸口 飾	なし
内題文様	牡丹文(牡丹文・牡丹文)	その他の技法等	
図案名	口縁 器底 器身 脚体(底足)	器身 器底	110
器大径	12.3	7.8	2.0
器小径		12.3	7.8
器高			2.0
平均値			器身径(器底)径(器高)
標準差			<標準差>

図版63 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器52
Pl.63 Modern porcelains from NM1252

摺組磁器52



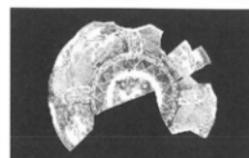
分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



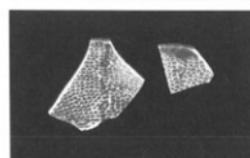
分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



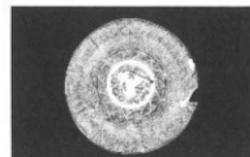
分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



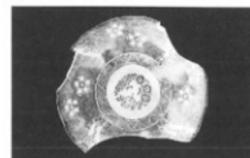
分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		



分類名称	磁器(M)13	高古類文種	なし
外周文様	手取(下層文)	高古内筋	なし
内周文様	菊文様(菊文)	菊文	その他の技法等
器高	13.1	口径	8.6
器径	8.6	器厚	0.4
年代	15.5	8.4	4.1
出所	仙台大塚	西沢3号	
備考	＜備考＞		

図版67 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器56
Pl.67 Modern porcelains from NM1256

図録磁器09



分類名称	磁器(白磁)	白台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	白台皿文様	なし
所属文様	なし	白台皿文様	なし
用途	口部	瓶口	御供焼成
最大径		瓶口径	4
最小径		瓶口径	4
中心径	5.7	瓶口径	4
重量		瓶口径	4



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.2	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.8	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.7	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.3	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.3	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.4	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.6	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.3	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.8	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし



分類名称	磁器(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	白磁(白磁)	高台皿文様	なし
所属文様	なし	高台皿文様	なし
用途	口部	御供焼成	なし
最大径		御供焼成	なし
最小径		御供焼成	なし
中心径	5.4	御供焼成	なし
重量		御供焼成	なし

図版69 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器60
PL.69 Modern porcelains from NM1260

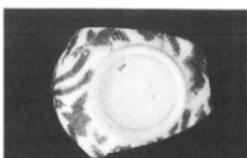
摺絵磁器00



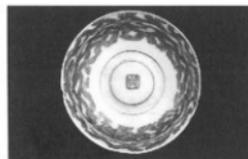
分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



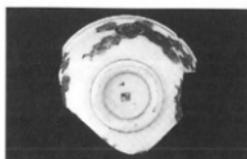
分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



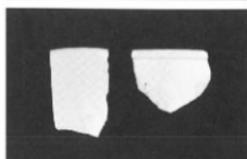
分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0



分類名称	磁器(陶器)A品	高台 磁文 施
外部文様	磁文	高台 河 菊
内部文様	磁文	菊 河 菊
内径	11.0	11.0
口径	11.0	11.0
底径	6.0	6.0
高さ	3.6	3.6
重量	11.9	11.9
平均値	11.9	11.9
標準偏差	0.0	0.0

図版70 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器59
Pl.10 Modern porcelains from NM1260

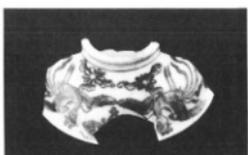
銅板転写磁器(1)



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)14			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	14.1	5.5	3.7	出上重量 2
最大径	14.0	5.4	3.5	出上重量 2
平均径	13.1	5.4	3.6	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)15			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	14.0	5.7	4.3	出上重量 2
平均径	13.0	5.7	4.3	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)17			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	14.0	5.7	4.3	出上重量 2
平均径	13.0	5.7	4.3	出上重量 2
＜備考＞				



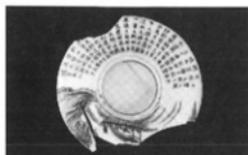
分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)18			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	14.0	5.5	4.0	出上重量 2
平均径	13.0	5.5	4.0	出上重量 2
＜備考＞				



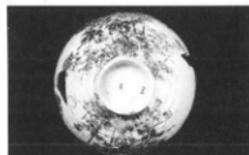
分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)19			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
最大径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
平均径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)20			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
最大径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
平均径	13.0	5.6	3.5	出上重量 2
＜備考＞				



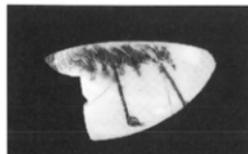
分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)21			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.5	3.4	出上重量 2
平均径	12.7	5.5	3.4	出上重量 2
＜備考＞				



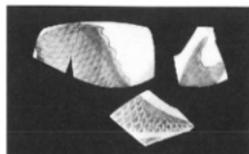
分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)22			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	4.5	4.4	出上重量 2
最大径	12.9	4.5	4.3	出上重量 2
平均径	13.0	4.5	4.3	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)23			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
平均径	12.7	5.2	5.1	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)24			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
平均径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
＜備考＞				



分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)25			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
平均径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
＜備考＞				



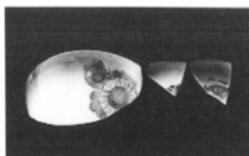
分類名称	磁器大甌・鉢(器人器)	高台盤	文様	なし
外装文様	唐文	高台	内	なし
内装文様	一様彫り唐文(器人器)26			
寸法mm	口径	口径	高さ	重量
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
最大径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
平均径	13.0	5.2	5.1	出上重量 2
＜備考＞				

図版71 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器60
Pl.71 Modern porcelains from NM1260

複製転写磁器(2)



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹・ピンク)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.2	4.3	5.3	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.2	4.3	5.3	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	不明
外周文様	鳥文(丹・黒)	高台	内周	不明
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.7		5.1	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.7		5.1	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



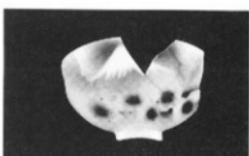
分類名称	磁器(中級)A-C017	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.2	4.5	5.6	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.2	4.5	5.6	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	4.1	3.3		
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	4.1	3.3		
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.1	4.1	5.4	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.1	4.1	5.4	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.2		5.2	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.2		5.2	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.2	4.3	5.3	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.2	4.3	5.3	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.1	4.1	5.4	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.1	4.1	5.4	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.4		5.2	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.4		5.2	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	4.1			
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	4.1			
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.8		5.8	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.8		5.8	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				



分類名称	磁器(中級)A-C018	高台系	文様	なし
外周文様	鳥文(丹)	高台	内周	なし
内周文様	なし	その他の記号等		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
品名	口沿	器高	器体重量	器重量
最大径			器体径線	1
最大厚			器体径線	1
最大径	11.2		5.3	100
平均径			器体径線	1
平均厚			器体径線	1
平均径	11.2		5.3	100
平均厚			器体径線	1
<備考>				

図版72 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(5)

PL72 Modern porcelains from NM12(5)

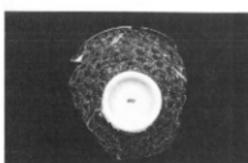
銅版転写磁器(3)



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	不明			
外周文様	牡丹文	高台 内周	不明			
内周文様	牡丹文	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	不明			
外周文様	牡丹文	高台 内周	不明			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	不明			
外周文様	牡丹文	高台 内周	不明			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



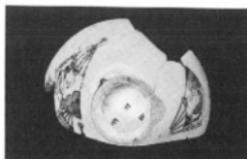
分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	不明			
外周文様	牡丹文	高台 内周	不明			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						



分類名称	磁器(新井)G1001	高台 磁文様	なし			
外周文様	牡丹文	高台 内周	なし			
内周文様	牡丹文(200111-30)	その他の技法等				
口径cm	17.0	口径	幅高	18		
最大径		口上縁部径	4			
最大高		口上縁部	4.4			
平均値	17.0	4.3	幅高	18	口径	4.4
<備考>						

図版73 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(4)
Pl.73 Modern porcelains from NM12(2)

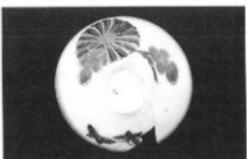
銅版転写磁器(4)



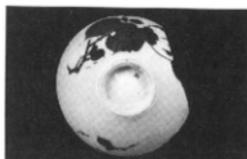
分類名称	磁器中継(丸)G61003	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.3	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.3	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G51014	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.3	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.3	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G51015	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.2	3.9	4.3
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.2	3.9	4.3
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G51016	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.3	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.3	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G61017	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.1	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.1	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G61018	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.1	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.1	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G51019	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.8	4.3	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.8	4.3	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G61020	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.4	4.0	4.8
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.4	4.0	4.8
中径			磁器土質
中径			磁器土質



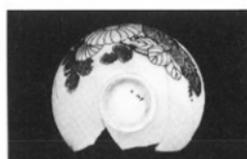
分類名称	磁器中継(丸)G61021	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	11.4	4.1	4.8
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	11.4	4.1	4.8
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G51022	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	12.3	4.5	5.3
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	12.3	4.5	5.3
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G61023	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	12.3	4.5	5.3
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	12.3	4.5	5.3
中径			磁器土質
中径			磁器土質



分類名称	磁器中継(丸)G61024	高台盆文様	なし
外装文様	磁器(文様・顔)	高台盆	なし
内装文様	なし	その他の技法等	
用途	口取	器用	御体積測定
口径	12.1	4.4	5.2
最大径			出上御体積
最大厚			出上御体積
平均厚	12.1	4.4	5.2
中径			磁器土質
中径			磁器土質

図版74 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器63
PL74 Modern porcelains from NM12(63)

銅版転写磁器(5)



分類名称	磁器中継(身)G5020	高台盆文様	陶器
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	12.1	3.5	4.5
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5020	高台盆文様	陶器
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	12.1	3.5	4.5
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5027	高台盆文様	不明
外国文様	透心散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



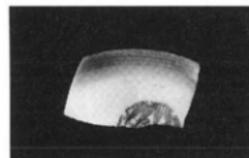
分類名称	磁器中継(身)G5029	高台盆文様	陶器
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	12.1	3.5	4.5
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5030	高台盆文様	不明
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



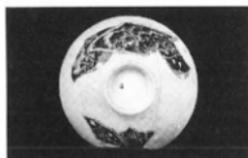
分類名称	磁器中継(身)G5030	高台盆文様	なし
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5031	高台盆文様	不明
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



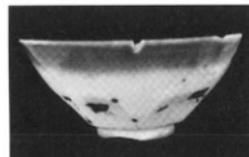
分類名称	磁器中継(身)G5032	高台盆文様	なし
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5033	高台盆文様	なし
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4		
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5034	高台盆文様	陶器
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	4.0		
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5035	高台盆文様	なし
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4	4.1	5.1
<備考>			



分類名称	磁器中継(身)G5036	高台盆文様	不明
外国文様	丸文散らし	高台盆	なし
内面文様	なし	その他の付帯等	
用途等	口沿	底面	縁面
最大径			
最小径			
平均径	11.4	4.1	5.1
<備考>			

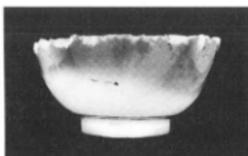
図版75 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(6)

Pl.75 Modern porcelains from NM1264

銅版転写磁器(6)



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	3.5	4.8	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径			高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径			高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	3.8	4.6	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



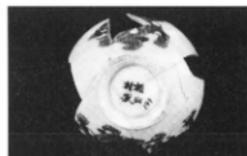
分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				



分類名称	磁器小鉢(丸底)	高台盤	文様	なし
外観文様	黒文字	高台	西	なし
内観文様	なし	その他の装飾等		
内径	口径	底径	高さ	重量
口径	4.1	5.2	高さ	1.4
底径			高さ	1.4
高さ			高さ	1.4
重量			高さ	1.4
＜備考＞				

図版71 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器60
PL77 Modern porcelains from NM1260

複製転写磁器(8)



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.9	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.1	4.0	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.9	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	4.0	4.5	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.4	3.7	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.9	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	4.0	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.7	4.0	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	4.0	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	4.0	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.9	4.3	磁器(土質) 10g
<備考>			



分類名称	磁器(磁器)10	高古磁文様	なし
外国文様	東洋文様(一)	高古磁文様	なし
内面文様	なし	その他(磁器)	高古磁文様
用途	17	器種	飯碗(茶碗)
体高		口径	10
最大径		口径	10
最大径		口径	10
重量	3.7	4.1	磁器(土質) 10g
<備考>			

図版78 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(1)
Pl.78 Modern porcelains from NM12(1)

複製転写磁器(9)



分類名称	磁器小鉢P・B16	高台 髷文様	陶種
外装文様	牡丹・文鳥・翠鳥・草子文 唐・刺繍	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	265
最大径	8.4	4.1	4.7
最小径	5.7	4.0	4.4
平均径	6.7	4.1	4.6
<備考>		萩市出土品	萩市5号



分類名称	磁器小鉢P・B15	高台 髷文様	陶種
外装文様	牡丹文様・唐刺繍	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	31
最大径			11
最小径			19
平均径	7.8	4.3	
<備考>		萩市出土品	19号



分類名称	磁器小鉢P・B16	高台 髷文様	陶種
外装文様	獅子文様	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	110
最大径			13
最小径			19
平均径	8.0	4.6	
<備考>		萩市出土品	19号



分類名称	磁器小鉢P・B17	高台 髷文様	なし
外装文様	唐・刺繍	高台 内装 唐・刺繍	山口19号
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	211
最大径	7.5	4.0	4.4
最小径	5.5	3.9	4.1
平均径	6.5	4.0	4.3
<備考>		萩市出土品	萩市2号



分類名称	磁器小鉢P・B18	高台 髷文様	陶種
外装文様	唐刺繍	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	31
最大径			15
最小径			19
平均径	7.8	4.3	
<備考>		萩市出土品	萩市2号



分類名称	磁器小鉢P・B19	高台 髷文様	陶種
外装文様	唐・刺繍	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	170
最大径			12
最小径			19
平均径	6.1	4.1	4.2
<備考>		萩市出土品	19号



分類名称	磁器小鉢P・B110	高台 髷文様	陶種
外装文様	花鳥文	高台 内装 唐・刺繍	山口19号
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	215
最大径	7.9	4.3	4.6
最小径	5.5	3.9	4.3
平均径	7.7	3.9	4.4
<備考>		萩市出土品	萩市10号



分類名称	磁器小鉢P・B111	高台 髷文様	陶種
外装文様	交心文	高台 内装 なし	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	116
最大径			11
最小径			19
平均径	8.4	4.5	4.6
<備考>		萩市出土品	萩市10号



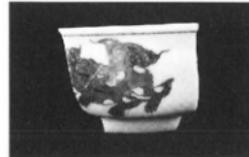
分類名称	磁器小鉢P・B112	高台 髷文様	陶種
外装文様	交心文	高台 内装 唐・刺繍	山口19号
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	113
最大径			15
最小径			19
平均径	8.3	4.1	4.2
<備考>		萩市出土品	萩市10号



分類名称	磁器小鉢P・B113	高台 髷文様	陶種
外装文様	唐・刺繍	高台 内装 唐・刺繍	山口19号
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	116
最大径			11
最小径			19
平均径	8.0	4.3	
<備考>		萩市出土品	萩市10号



分類名称	磁器小鉢P・B114	高台 髷文様	なし
外装文様	唐・刺繍	高台 内装 不明	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	46
最大径			11
最小径			19
平均径	8.0	4.3	
<備考>		萩市出土品	萩市10号



分類名称	磁器小鉢P・B115	高台 髷文様	なし
外装文様	唐・刺繍	高台 内装 不明	
内装文様	なし	その他の装飾等	
出所等	山口 萩市 萩高 萩御所蔵等	紀元番号	33
最大径			12
最小径			19
平均径	8.0	4.3	
<備考>		萩市出土品	萩市10号

図版79 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器50
Pl.79 Modern porcelains from NM12loc

阪東版写磁器00



品名名称	磁器小鉢A1116	高台盤文様	陶製
外観文様	花散り文	高台	白河泥
内観文様	花散り文	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢C1118	高台盤文様	不備
外観文様	龍文	高台	白河泥
内観文様	龍文	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1117	高台盤文様	陶製
外観文様	龍文	高台	白河泥
内観文様	龍文	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1115	高台盤文様	陶製
外観文様	花散り文	高台	白河泥
内観文様	花散り文	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



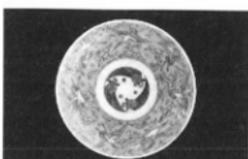
品名名称	磁器鉢A1119	高台盤文様	陶製
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1113	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



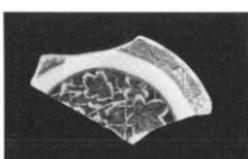
品名名称	磁器鉢A1114	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1121	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1120	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1122	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1123	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			



品名名称	磁器鉢A1124	高台盤文様	なし
外観文様	なし	高台	白河泥
内観文様	なし	高台	白河泥
内径	11.0	口径	11.0
高さ	7.8	底径	4.0
容積	2.7	重量	4.0
平均値	7.8	2.7	4.1
<備考>			

図版80 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(9)

銅版転写磁器(9)

Pl.80 Modern porcelains from NM12跡



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	動物
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	動物
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	136
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	5.7	出土層階級	20001層
平均厚		出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	植物文
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	植物
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	120
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	4.4	出土層階級	20001層
平均厚	5.9	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	動物・植物文
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	動物
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	25
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	5.6	出土層階級	20001層
平均厚	7.2	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	10
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	4.7	出土層階級	20001層
平均厚	5.2	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	44
最大径		出土層階級	2
最大厚		出土層階級	3
平均径	3.4	出土層階級	20001層
平均厚	3.9	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	50
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	5.6	出土層階級	20001層
平均厚	6.6	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	66
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	4.7	出土層階級	20001層
平均厚	4.4	出土層階級	20001層
<備考>			



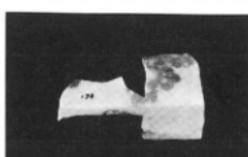
分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	53
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	3.9	出土層階級	20001層
平均厚	4.5	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	70
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	5.2	出土層階級	20001層
平均厚	4.8	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	26
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	4.2	出土層階級	20001層
平均厚	2.2	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	13
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	2.8	出土層階級	20001層
平均厚	2.8	出土層階級	20001層
<備考>			



分類名称	磁器類その他	高台皿文種	なし
所属文種	動物・人物・文・花鳥文	高台皿類	なし
所属文様	なし	その他の付添物	なし
出所	仁保 須賀 須賀 須賀	総重量g	8
最大径		出土層階級	1
最大厚		出土層階級	3
平均径	4.2	出土層階級	20001層
平均厚	2.2	出土層階級	20001層
<備考>			

図版83 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器70
PL83 Modern porcelains from NM1207

複製転写磁器04



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし
外周文様	花文	高台	内	なし
内周文様	なし	その他	何れもなし	
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 19
最大径			出土時期	1
最大厚			出土層	西524層
平均径	5.4	1.5	発見土層	西524層
<備考>内面に黒染あり地味不明				



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし	
外周文様	花の乱文	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 21	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	6.4	0.5	1.3	発見土層	西524層
<備考>					



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし	
外周文様	花の乱文	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 21	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	6.1	0.3	1.7	発見土層	西524層
<備考>					



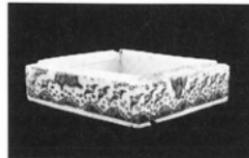
分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし	
外周文様	なし	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 15	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	4.6	4.6	1.4	発見土層	西524層
<備考>内周縁部の高台(粉)A101とセット。底面に黒染あり手取穴。素焼は白焼					



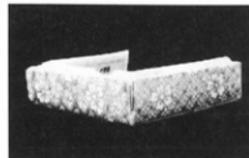
分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし	
外周文様	なし	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 19	
最大径			出土時期	5	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	4.5	4.5	2.7	発見土層	西524層
<備考>手取縁部の高台(粉)A101とセット。底面に黒染あり手取穴。素焼は白焼					



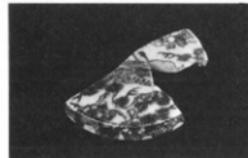
分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし		
外周文様	なし	高台	内	なし		
内周文様	なし	その他	何れもなし			
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 16		
最大径			出土時期	1		
最大厚			出土層	西524層		
平均径			4.3	1.4	発見土層	西524層
<備考>手取縁部の高台(粉)A101とセット。底面に黒染あり手取穴。素焼は白焼						



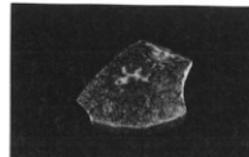
分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし	
外周文様	花の乱文	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 21	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	4.8	3.1	1.9	発見土層	西524層
<備考>					



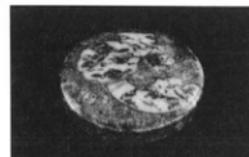
分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし	
外周文様	花の乱文	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 26	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	4.1	1.4	1.4	発見土層	西524層
<備考>内面に黒染あり手取穴あり					



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし		
外周文様	花の乱文	高台	内	なし		
内周文様	なし	その他	何れもなし			
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 20		
最大径			出土時期	1		
最大厚			出土層	西524層		
平均径			4.3	1.3	発見土層	西524層
<備考>						



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし		
外周文様	花の乱文	高台	内	なし		
内周文様	なし	その他	何れもなし			
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 21		
最大径			出土時期	1		
最大厚			出土層	西524層		
平均径			4.8	1.4	発見土層	西524層
<備考>						



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	輪文様	なし	
外周文様	花の乱文	高台	内	なし	
内周文様	なし	その他	何れもなし		
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 28	
最大径			出土時期	1	
最大厚			出土層	西524層	
平均径	4.8	1.4	1.4	発見土層	西524層
<備考>					



分類名称	磁器合子(粉)A101	高台	乱文様	なし		
外周文様	花の乱文	高台	内	なし		
内周文様	なし	その他	何れもなし			
用途	口用	煎茶	御膳茶碗	総重量 21		
最大径			出土時期	1		
最大厚			出土層	西524層		
平均径			4.8	1.4	発見土層	西524層
<備考>						

図版84 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑦
P1.84 Modern porcelains from NM12⑦

複製版写真機器⑨



分館名所	福岡県下野物(東田)	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 205
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	3.7		器身全長 器底径 4.5	
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	菊文・牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 209
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	7.3	6.2	11.3	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・菊文(赤・緑・ピンク)	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 205
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	6.8	3.7		器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



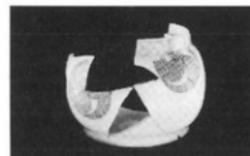
分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文(赤・緑)	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 217
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	5.6	5.8	5.8	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 215
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	7.3	4.3	8.1	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文(赤・緑)	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 210
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	6.2	7.2	7.2	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文(赤・緑)	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 214
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	5.5	5.3		器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 205
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	6.3	3.5		器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文(赤・緑)	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 213
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	6.2	7.2	7.2	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 213
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	6.3	7.3		器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 219
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	7.3			器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				



分館名所	福岡県(東)下野	高台 器文 文様	なし	
外館文様	牡丹・牡丹文	高台 内 器	なし	
内館文様	なし	その他(器内面)	なし	
図案①	口沿	器底	器体(裏面)	総重量 214
最大径			器上縁幅 11	
最小径			器上縁下縁 器底径 4.5	
平均値	4.9	5.3	5.4	器身全長 器底径 4.5
＜備考＞				

図版86 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(9)
Pl.86 Modern porcelains from NM12(9)

銅版転写磁器(9)



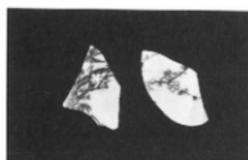
分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約4.4cm
平均高	4.3	2.0	器高約4.5cm 口上縁径
＜備考＞ 高台窯(口上縁径約1.5cm)			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 2
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高	3.1	0.5	器高約3.6cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞ 高台窯(口上縁径約1.5cm)			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			



分類名称	磁器(磁器)類	高台窯文様	なし
外装文様	高台窯文様	高台窯文様	なし
内装文様	なし	その他(何れもなし)	
図案名	口沿	花文	磁器(磁器)類
器大径			口上縁径 1
器小径			口上縁下縁 幅約1.5cm
平均高			器高約1.5cm 口上縁径
＜備考＞			

図版87 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑦
Pl.87 Modern porcelains from NM12⑦

複製転写磁器⑦



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	4.3	磁器(磁器)	なし
<備考>			



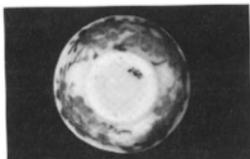
分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径		磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	1.3	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径		磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	3.3 3.8 3.6	磁器(磁器)	なし
<備考>			



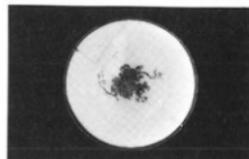
分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	3.3 3.8 3.1	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	3.1 3.7 4.1	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	2.6 2.8	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	6.9 2.3 2.8	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	2.7 2.6	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	2.0 2.9 2.8	磁器(磁器)	なし
<備考>			



分類名称	磁器片類(破片)	高台輪文様	なし
外周文様	なし	高台内周	なし
内周文様	なし	その他(内周)	なし
図案	二連	磁器	磁器(磁器)
最大径		磁器(磁器)	なし
最小径		磁器(磁器)	なし
平均径	2.0 2.7 2.7	磁器(磁器)	なし
<備考>			

図版88 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(77)
P1.88 Modern porcelains from NM12(77)

御坂転写磁器(8)



分類名称	磁器片1皿	高台	無文	種なし
外周文様	なし	高台	内周	なし
内周文様	無文	そのほかの形状	高台	内周
口径	14.0	底径	10.0	高さ
最大径		器口	14.0	高さ
器口径		器口	14.0	高さ
平均径	7.7	7.7	継ぎ目	なし
＜備考＞				



分類名称	磁器片1皿	高台	無文	種なし
外周文様	なし	高台	内周	なし
内周文様	無文	そのほかの形状	高台	内周
口径	12.0	底径	10.0	高さ
最大径		器口	12.0	高さ
器口径		器口	12.0	高さ
平均径	2.3	2.3	継ぎ目	なし
＜備考＞				



分類名称	磁器片1皿	高台	無文	種なし
外周文様	無文	高台	内周	なし
内周文様	無文	そのほかの形状	高台	内周
口径	12.0	底径	10.0	高さ
最大径		器口	12.0	高さ
器口径		器口	12.0	高さ
平均径	18.8	18.8	継ぎ目	なし
＜備考＞				

図版89 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器78
Pl.89 Modern porcelains from NM1208

銅版転写磁器図



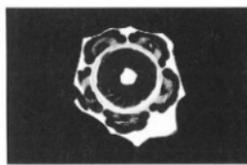
分類名称	磁器(OV#1)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.5	6.3	3.4	器高	6	170
最大厚	14.5	6.3	3.3	器高	6	170
平均厚	14.4	6.4	3.2	器高	6	170
＜備考＞						



分類名称	磁器(OV#2)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.1	6.4	3.1	器高	6	170
最大厚	14.1	6.4	3.1	器高	6	170
平均厚	14.1	6.4	3.1	器高	6	170
＜備考＞						



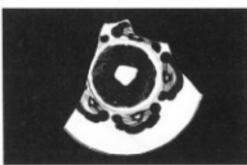
分類名称	磁器(OV#3)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.3	6.5	3.3	器高	6	170
最大厚	14.3	6.5	3.3	器高	6	170
平均厚	14.3	6.5	3.3	器高	6	170
＜備考＞						



分類名称	磁器(OV#4)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
最大厚	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
平均厚	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
＜備考＞						



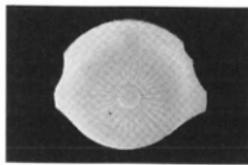
分類名称	磁器(OV#5)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
最大厚	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
平均厚	14.1	6.3	3.4	器高	6	170
＜備考＞						



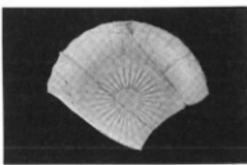
分類名称	磁器(OV#6)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	14.0	6.3	3.3	器高	6	170
最大厚	14.0	6.3	3.3	器高	6	170
平均厚	14.0	6.3	3.3	器高	6	170
＜備考＞						



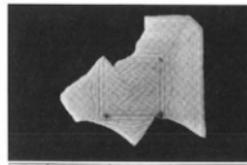
分類名称	磁器(OV#7)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						



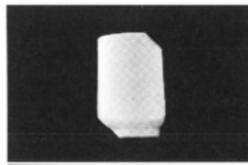
分類名称	磁器(OV#8)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						



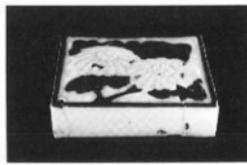
分類名称	磁器(OV#9)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						



分類名称	磁器(OV#10)	高台 編文種	なし			
外装文様	なし	高台 内装	なし			
内装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						



分類名称	磁器(OV#11)	高台 編文種	なし			
外装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
内装文様	なし	高台 内装	なし			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						



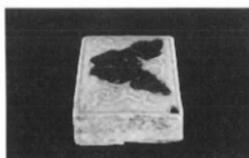
分類名称	磁器(OV#12)	高台 編文種	なし			
外装文様	野打山本模範文	その他の紋様等	野打山本模範文 口縁内面にコバノ模範			
内装文様	なし	高台 内装	なし			
器高cm	口径	底径	器体形量等			
最大径	6.3			器高	6	170
最大厚	6.3			器高	6	170
平均厚	6.3			器高	6	170
＜備考＞						

図版90 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑦
Pl.90 Modern porcelains from NM1209

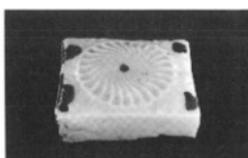
型打ち磁器(1)



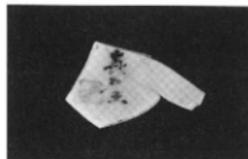
分類名称	磁器水碗破片a	高台 器文様	なし			
上段文様	鳥打羽文	高台 器文	なし			
内段文様	なし	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器厚×器底径
400円	4.4	3.6				最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片a	高台 器文様	なし			
上段文様	鳥打羽文	高台 器文	なし			
内段文様	なし	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径	7.1	3.2	2.3			径中径厚
最大高	6.9	5.1	2.5			最大径×器高×器底径
400円	7.0	5.1	2.4			最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片b	高台 器文様	なし			
上段文様	鳥打羽文	高台 器文	なし			
内段文様	なし	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径	6.0	2.4	2.4			径中径厚
最大高	5.9	2.4	2.4			最大径×器高×器底径
400円	6.0	4.8	2.4			最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



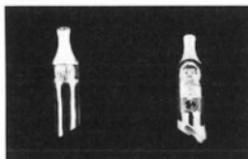
分類名称	磁器水碗破片c	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円	3.6					最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片d	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径	8.1	3.0	2.3			径中径厚
最大高	7.2	2.0	2.4			最大径×器高×器底径
400円	8.0	3.0	2.2			最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



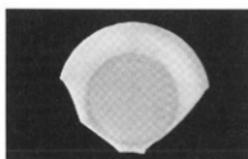
分類名称	磁器水碗破片e	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円						最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片f	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円						最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片g	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円						最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片h	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円						最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片i	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円	13.4	6.1	3.0			最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片j	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円	11.0	5.7	2.1			最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					



分類名称	磁器水碗破片k	高台 器文様	なし			
上段文様	なし	高台 器文	なし			
内段文様	鳥打羽文	その他の器文等	上段にツバの 上縁付			
出典	品目	形状	器高	器体重量	器重量	寸法
最大径						径中径厚
最大高						最大径×器高×器底径
400円						最大径×器高×器底径
＜備考＞	＜番号＞					

図版91 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(1)
P1.91 Modern porcelains from NM12(1)

型打ち磁器(2)



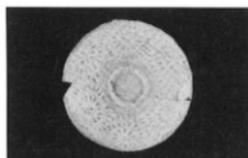
中核名称	磁器製AN164	高台盤文様	なし
外周文様	なし	高台盤文様	なし
内周文様	製打ち文様	製打ち文様	なし
内径	12.0	外径	12.0
高さ	1.7	重量	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3



中核名称	磁器製AN165	高台盤文様	なし
外周文様	なし	高台盤文様	なし
内周文様	製打ち文様	製打ち文様	なし
内径	12.0	外径	12.0
高さ	1.7	重量	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3



中核名称	磁器製AN166	高台盤文様	なし
外周文様	なし	高台盤文様	なし
内周文様	製打ち文様	製打ち文様	なし
内径	12.0	外径	12.0
高さ	1.7	重量	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3



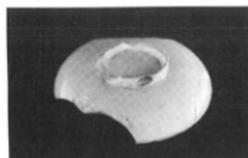
中核名称	磁器製AN167	高台盤文様	なし
外周文様	なし	高台盤文様	なし
内周文様	なし	高台盤文様	なし
内径	12.0	外径	12.0
高さ	1.7	重量	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3



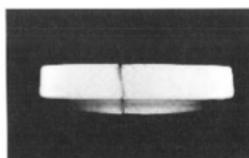
中核名称	磁器製AN168	高台盤文様	なし
外周文様	なし	高台盤文様	なし
内周文様	なし	高台盤文様	なし
内径	12.0	外径	12.0
高さ	1.7	重量	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3
出土層	1.1	1.2	1.3
出土位置	1.1	1.2	1.3
出土状況	1.1	1.2	1.3
出土時期	1.1	1.2	1.3

図版92 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(1)
P1.92 Modern porcelains from NM12(1)

製打ち磁器(3)



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁UV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



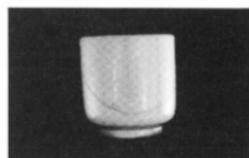
分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁UV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



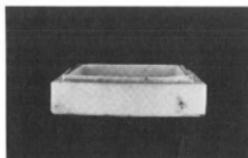
分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					



分類名称	磁器白磁(丸)AV	高台幅文様	なし		
内径文様	なし	高台内径	なし		
内径文様	なし	4の物の形等	なし		
品名	口沿	器高	器体重量	器重量	寸法
器高					
器重量					
器体重量					
器重量					
器重量					
器重量					

図版93 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器物
Pl.93 Modern porcelains from NM1202

白磁(1)



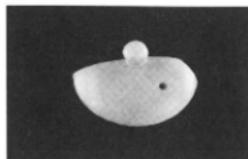
分類名称	白磁合子(白)114V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	5.9	5.3	6.8
重量	1.8	1.8	1.8
備考	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁浅鉢(白)115V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	4.9	3.3	9.8
重量	3.9	5.3	
備考	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁茶壺(白)116V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	2.7	7.3	3.1
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>	高台蓋(土曜)121層		



分類名称	白磁浅鉢(白)117V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	2.1		
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁瓶(白)118V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	3.2	5.3	18.1
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>	高台蓋(土曜)121層		



分類名称	白磁浅鉢(白)119V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	4.6	3.1	3.8
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁浅鉢(白)120V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	3.9	3.7	
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁浅鉢(白)121V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	7.3	2.8	2.8
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>	高台蓋(土曜)121層		



分類名称	白磁浅鉢(白)122V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	4.1	3.4	3.3
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			



分類名称	白磁浅鉢(白)123V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	7.3	2.8	2.8
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>	高台蓋(土曜)121層		



分類名称	白磁浅鉢(白)124V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	7.2	2.8	2.9
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>	高台蓋(土曜)121層		



分類名称	白磁浅鉢(白)125V	高台蓋文様	なし
外底文様	なし	高台蓋文様	なし
内底文様	なし	不明(白磁)	なし
出来年	口縁	高さ	幅
最大径			
最小径			
平均値	7.2	2.8	2.9
重量	高台蓋(土曜)121層		
<備考>			

図版94 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑧
Pl.94 Modern porcelains from NM12⑧

白磁(2)



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	丸線文字(うすむすび)	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	6.4	平均径	なし
平均高	2.6	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



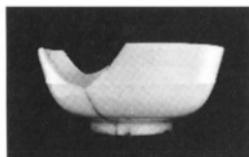
分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	丸線(二破線)	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	7.0	平均径	なし
平均高	2.0	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



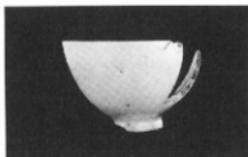
分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	8.7	平均径	なし
平均高	2.9	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	7.4	平均径	なし
平均高	2.6	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



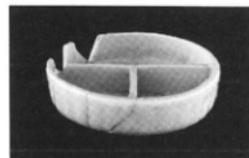
分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径	6.2	最大径	なし
最大高	6.1	最大高	なし
平均径	6.2	平均径	なし
平均高	2.5	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	8.7	平均径	なし
平均高	2.9	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	4.3	平均径	なし
平均高	2.0	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



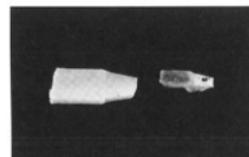
分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	11.3	平均径	なし
平均高	12.5	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径	13.5	平均径	なし
平均高	17.1	平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径		平均径	なし
平均高		平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし



分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径		平均径	なし
平均高		平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし

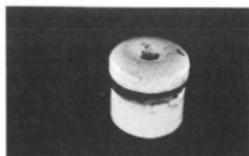


分類名称	磁器器種IV	高台編文種	なし
外装文様	なし	高台内編	なし
内装文様	なし	その他の装飾	横目線文字
器種	内装	器種	器種
最大径		最大径	なし
最大高		最大高	なし
平均径		平均径	なし
平均高		平均高	なし
重量		重量	なし
備考		備考	なし

図版95 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(4)

(白磁3)

P1.95 Modern porcelains from NM1230



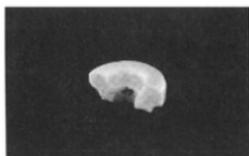
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	140
高台径					110
高台厚					10
平均値	4.0	3.5	4.3		4.0
＜備考＞	JISノブ型				



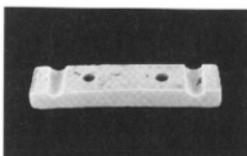
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	111
高台径					77
高台厚					10
平均値	2.7	1.4	2.7		2.7
＜備考＞	JISノブ型				



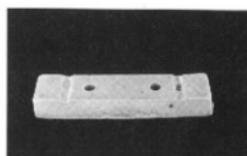
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	77
高台径					44
高台厚					10
平均値	4.0	3.5	4.3		4.0
＜備考＞	JISノブ型				



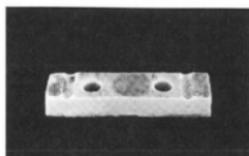
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	77
高台径					44
高台厚					10
平均値	4.0	3.5	4.3		4.0
＜備考＞	JISノブ型				



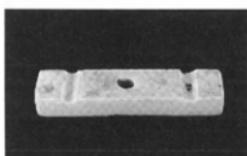
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	9.9	7.1	1.1		54
＜備考＞	JISノブ型				



分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	77
高台径					44
高台厚					10
平均値	7.9	7.7	1.7		31
＜備考＞	JISノブ型				



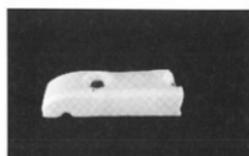
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	7.2	1.8	1.3		30
＜備考＞	JISノブ型				



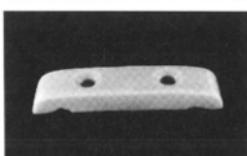
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	9.9	7.1	1.1		54
＜備考＞	JISノブ型				



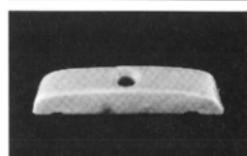
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	7.9	7.7	1.7		31
＜備考＞	JISノブ型				



分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	7.2	1.8	1.3		30
＜備考＞	JISノブ型				



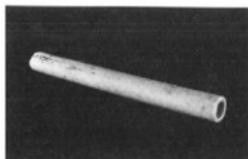
分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	9.9	7.1	1.1		54
＜備考＞	JISノブ型				



分形名	磁器製電筒蓋G+V	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	高台蓋文様なし			
内径文様	なし	4の他の形状等			
品名	口径	高さ	胴体長さ	底径長さ	161
高台径					107
高台厚					11
平均値	7.9	7.7	1.7		31
＜備考＞	JISノブ型				

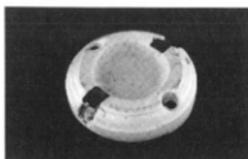
図版96 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器類
Pl.96 Modern porcelains from NM12loc

白磁(4)



分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞ 磁管片



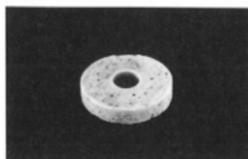
分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞ シームラップ



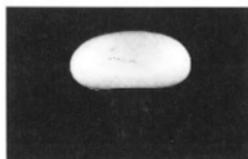
分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞ 高台器に成形して仕上げたと思われる片断



分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞



分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞



分類名称	白磁陶管片ⅠV	高台器文様	なし
外型文様	なし	高台器	なし
内面文様	なし	その他の記号等	片断状態
材質	100%	磁石	磁体測定済
重量	1.7	磁石	磁石測定済
最大径		磁石	磁石測定済
最小径		磁石	磁石測定済
平均径		磁石	磁石測定済

＜備考＞

図版97 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器類
P1.97 Modern porcelains from NM12②

白磁⑤



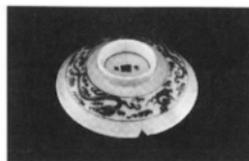
分類名称	仙台大塚(新)AⅤ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文	高台器文様	なし
内観文様	幾何学文(116-2)	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	瀬戸の神倉窯の作か?		



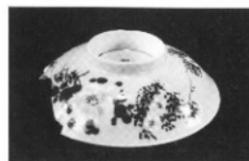
分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅠ	高台器文様	なし
外観文様	書道文	高台器文様	なし
内観文様	花鳥文様(116-2)	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅡ	高台器文様	なし
外観文様	上段の天文文(黒・赤・白・青)	高台器文様	なし
内観文様	上段の天文文(黒・赤・白・青)	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



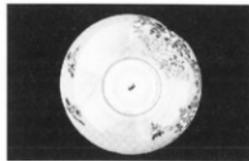
分類名称	仙台大塚(新)AⅤ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文	高台器文様	なし
内観文様	幾何学文(116-2)	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



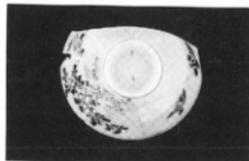
分類名称	仙台大塚(新)AⅤ	高台器文様	なし
外観文様	上段の天文文(黒・赤・白・青)	高台器文様	なし
内観文様	上段の天文文(黒・赤・白・青)	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅠ	高台器文様	なし
外観文様	上段の天文文(黒・赤・白・青)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)AⅤ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



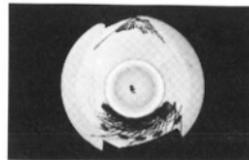
分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅠ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅡ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)AⅤ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅠ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		



分類名称	仙台大塚(新)DⅤⅡ	高台器文様	なし
外観文様	幾何学文(116-2)	高台器文様	なし
内観文様	なし	その他の技法等	外観と同様
図案	二色 黒・白	図案	幾何学文 177
最大径	15.7	4.2	2.2
最小径	15.7	4.2	2.2
平均径	15.7	4.2	2.2
<備考>	大塚(新)AⅤとセット		

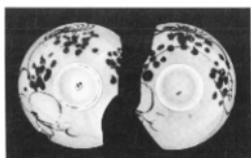
図版98 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(8)

クロム青磁(1)

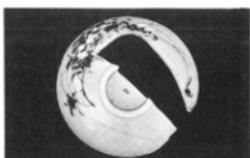
P1.98 Modern porcelains from NM12(8)



分類名称	近世中期(約)GV319	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.4	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV320	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV321	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



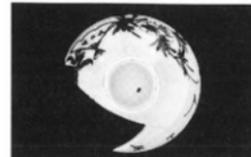
分類名称	近世中期(約)GV322	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



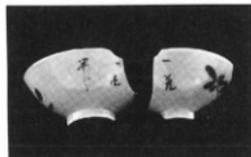
分類名称	近世中期(約)GV323	高台 胎文 種	不明
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



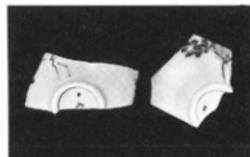
分類名称	近世中期(約)GV324	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV325	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV326	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV327	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	あり(不明)	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV328	高台 胎文 種	不明
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	不明	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



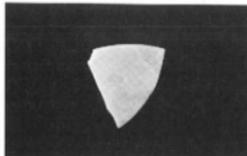
分類名称	近世中期(約)GV329	高台 胎文 種	なし
外周文様	上地黒染文(葉・花・鳥)	高台 内 筒	なし
内周文様	なし	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		



分類名称	近世中期(約)GV330	高台 胎文 種	なし
外周文様	なし	高台 内 筒	なし
内周文様	華文(雲龍)	その他の技法等	内底クハム青 刷
器高	口径	器径	器体重量
最大径	11.3	4.2	4.2
最大厚	11.3	4.3	4.5
平均径	11.4	3.9	4.4
平均厚	11.4	3.9	4.4
重量	11.4	3.9	4.4
出土層	第10層	西沢3号	
出土品目	磁器(白磁)		

図版100 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器⑧
Pl.100 Modern porcelains from NM12跡

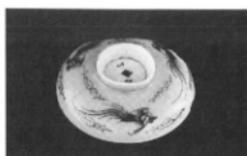
クハム青刷⑧



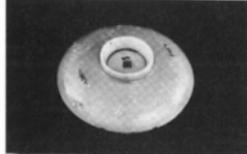
分類名称	磁器(中級)GⅤV10	高台盆	文様	なし
外観文様	なし	高台	内底	なし
内底文様	平花文(磁器)16-10	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.1	4.1	3.2	1.0
最大径	10.5	3.3	2.4	0.8
平均径	11.0	4.0	2.6	0.9
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



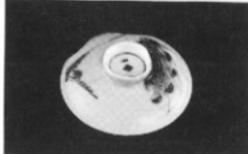
分類名称	磁器(中級)AⅤ11	高台盆	文様	なし
外観文様	平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		白磁の片青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	10.3	4.3	3.7	1.4
最大径	10.2	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



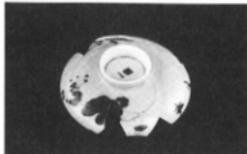
分類名称	磁器(中級)AⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)BⅤ11	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	平花文(磁器)16-10	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.1	4.1	3.2	1.0
最大径	10.5	3.3	2.4	0.8
平均径	11.0	4.0	2.6	0.9
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



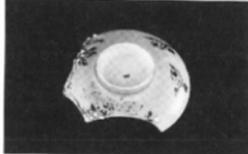
分類名称	磁器(中級)BⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	平花文(磁器)16-10	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	10.3	4.3	3.7	1.4
最大径	10.2	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



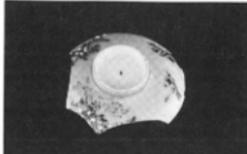
分類名称	磁器(中級)BⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



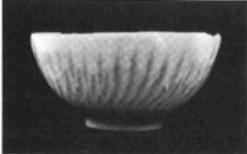
分類名称	磁器(中級)CⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	平花文(磁器)16-10	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.1	4.1	3.2	1.0
最大径	10.5	3.3	2.4	0.8
平均径	11.0	4.0	2.6	0.9
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)CⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	10.3	4.3	3.7	1.4
最大径	10.2	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)CⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	上級平花文(磁器)16-10	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
最大径	11.6	4.3	3.7	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)DⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	なし	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	8.1	3.4	3.9	1.0
最大径	8.2	3.4	4.1	1.0
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)DⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	なし	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	11.5	4.3	3.4	1.4
最大径	11.5	4.3	3.4	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			



分類名称	磁器(中級)DⅤ10	高台盆	文様	なし
外観文様	なし	高台	内底	なし
内底文様	なし	その他の記号等		内底から青磁
記号等	口径	径深	底径	高さ
最大径	8.8	3.4	3.4	1.4
最大径	8.8	3.4	3.4	1.4
<備考>	中級(中)GⅤV10とセット			

図版101 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器90
PL101 Modern porcelains from NM1200

クrom青磁(4)



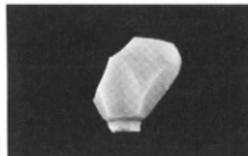
分類名称	磁器小鉢D4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底なし	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.13g	
最大径	7.9	3.3	4.7
最小径	7.8	3.5	4.8
平均径	7.8	3.7	4.3
<備考>	製法不明		



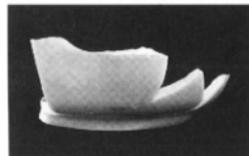
分類名称	磁器小鉢D4V1	高台盆文様なし	
外底文様	動物	高台内底なし	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.5g	
最大径			
最小径			
平均径	7.8	3.5	
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢D4V1	高台盆文様なし	
外底文様	草花文	高台内底 高台内底面	
内底文様	あり不明(透刻)	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.30g	
最大径			
最小径			
平均径			
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢D4V1	高台盆文様なし	
外底文様	動物文	高台内底なし	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.12g	
最大径			
最小径			
平均径			
<備考>	製法不明		



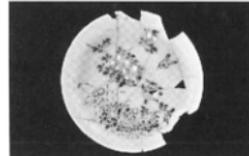
分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底なし	
内底文様	無胎文	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.117g	
最大径			
最小径			
平均径			
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢D4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底なし	
内底文様	無胎文(高台内底面)	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.137g	
最大径			
最小径			
平均径			
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底なし	
内底文様	無胎文(高台内底面)	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.137g	
最大径			
最小径			
平均径	11.6	7.3	
<備考>	磁器A4V1に類似文様が施されている		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底なし	
内底文様	無胎文(高台内底面)	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.402g	
最大径			
最小径			
平均径	15.7	9.3	7.3
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底 高台内底面	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.139g	
最大径			
最小径			
平均径	10.5	7.1	
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底 高台内底面	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.46g	
最大径			
最小径			
平均径	11.6	7.3	
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底 高台内底面	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.329g	
最大径			
最小径			
平均径	11.6	8.7	7.3
<備考>	製法不明		



分類名称	磁器小鉢A4V1	高台盆文様なし	
外底文様	なし	高台内底 高台内底面	
内底文様	なし	その他の技法等	
品名	二色 磁器 高台 磁器重量等	総重量 4.117g	
最大径			
最小径			
平均径	11.6	7.3	
<備考>	製法不明		

図版102 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器(8)

Pl.102 Modern porcelains from NM1280

クロム青磁(5)



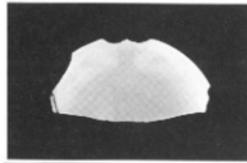
分類名称	磁器類A4V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	菊池鶴(牡丹文様・鳥・雲・心・ツツ)	その他の装飾	
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	12.3 7.6 7.3	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類A4V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	菊池鶴(菊池・鳥)
内装文様	菊池鶴(菊池・鳥)	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	9.0 5.6 1.9	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類A4V2	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	菊池鶴(菊池・鳥)
内装文様	菊池鶴(菊池・鳥)	その他の装飾	菊池鶴(菊池・鳥)
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	10.4 7.0	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



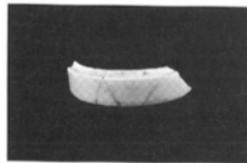
分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	15.5 7.8	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



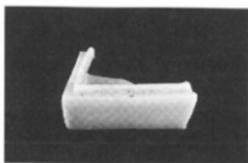
分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	菊池鶴(菊池・鳥・心・ツツ)	高台内装	菊池鶴(菊池・鳥)
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	11.4 6.5 2.4	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	8.8 6.8 2.2	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



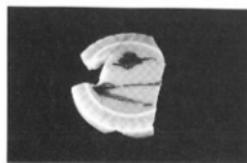
分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	7.8 7.8 2.0	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	7.2	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	菊池鶴(菊池・鳥・心・ツツ)	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	7.8	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	なし	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	7.6 7.5 1.3	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	菊池鶴(菊池・鳥・心・ツツ)	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	6.1 6.1 1.2	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0



分類名称	磁器類B1V1	高台器文様	なし
所属文様	菊池鶴(菊池・鳥・心・ツツ)	高台内装	なし
内装文様	なし	その他の装飾	内装フタム骨装飾
図案図	口径 底径 高さ 胴体高さ 総重量	口径	130
最大径		底径	100
最大高		胴体高さ	100
最大重		総重量	1.0
平均値	7.9	最大径	100.0
標準差		最大高	100.0
標準重		最大重	1.0

図版103 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器類

Pl.103 Modern porcelains from NM1202

クロム青磁(6)



1. 大碗・鉢(蓋)A I 3の内面文様



2. 大碗・鉢(蓋)B Iの内面文様



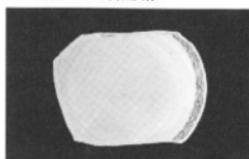
3. 中碗Ac I 2の内面文様



4. 中碗Ac I 3の内面文様



5. 中碗Ac I 5の内面文様



6. 中碗C I 2の内面文様



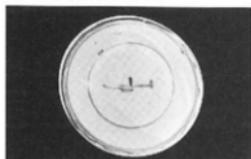
7. 中碗Ga I 1の内面文様



8. 中碗Ia I 1の内面文様



9. 中碗Ia I 2の内面文様



10. 中碗Ic I 3の内面文様



11. 中碗Ic I 4の内面文様



12. 中碗Ic I 9の内面文様



13. 中碗Ic I 10の内面文様



14. 中碗Ic I 12の内面文様



15. 中碗Ic I 13の内面文様



16. 中碗Ic I 14の内面文様

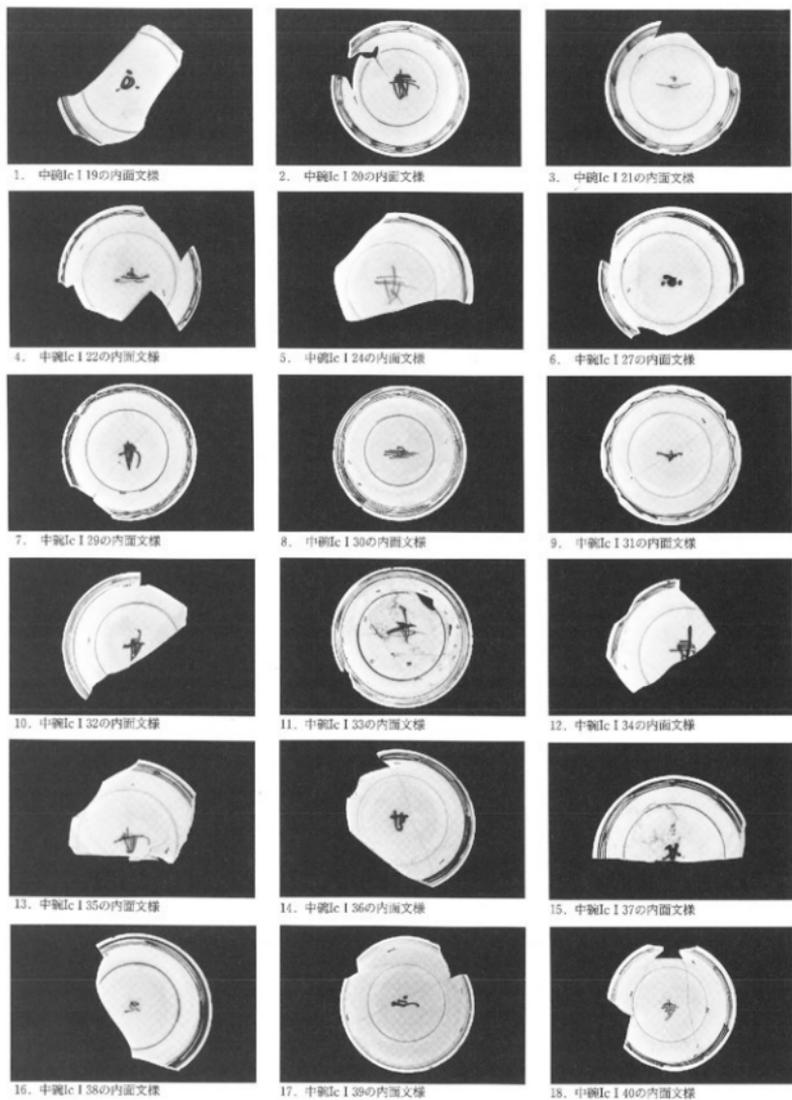


17. 中碗Ic I 15の内面文様



18. 中碗Ic I 17の内面文様

図版105 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(1)
Pl.105 Details of modern porcelains from NM12(1)



図版106 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(2)

Pl.106 Details of modern porcelains from NM12(2)



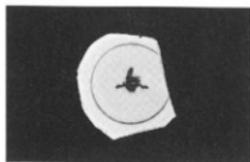
1. 中碗lc 141の内面文様



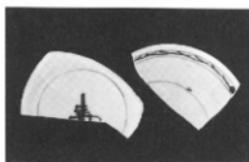
2. 中碗lc 142の内面文様



3. 中碗lc 143の内面文様



4. 中碗lc 144の内面文様



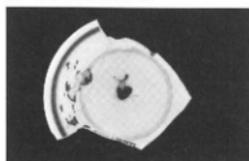
5. 中碗lc 145の内面文様



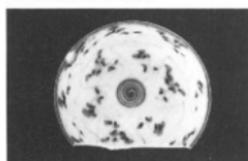
6. 中碗lc 148の内面文様



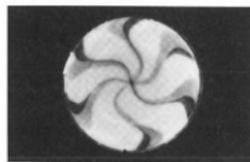
7. 小碗D 1の内面文様



8. 小碗Fa 1 3の内面文様



9. 小碗Fd 1 1の内面文様



10. 小碗Fd 1 2の内面文様



11. 鉢Ab 1の内面文様



12. 鉢Ba 1 1の内面文様



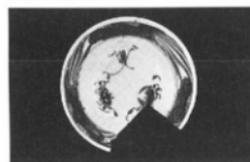
13. 鉢Ba 1 2の内面文様



14. 鉢Ba 1 3の内面文様



15. 鉢Bc 1の内面文様



16. 鉢D 1の内面文様



17. 鉢F 1の内面文様



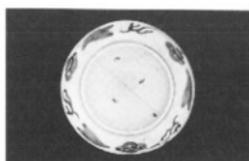
18. 皿Ab 1の外内面文様

図版107 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(3)

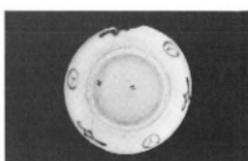
Pl.107 Details of modern porcelains from NM12(3)



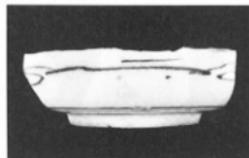
1. 皿Ad 1 の外面文様



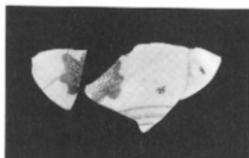
2. 皿Ca 1 の外面文様



3. 皿Cb 1 2 の外面文様



4. 皿Mb 1 1 の外面文様



5. 皿Mb 1 2 の外面文様



6. 皿N 1 の外面文様



7. 酒杯Cb 1 2 の外面文様



8. 酒杯Db 1 2 の外面文様



9. 酒杯Dc 1 2 の外面文様



10. 酒杯De 1 3 の外面文様



11. 酒杯M 1 の外面文様



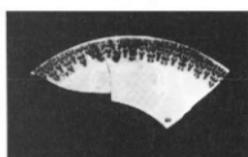
12. 湯冷ましA 1 の内面文様



13. 大碗(身)C II 1 の内面文様



14. 大碗・鉢(蓋)A II 1 の内面文様



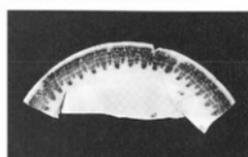
15. 大碗・鉢(蓋)A II 2 の内面文様



16. 大碗・鉢(蓋)A II 3 の内面文様



17. 大碗・鉢(蓋)A II 4 の内面文様



18. 大碗・鉢(蓋)A II 5 の内面文様

図版108 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(4)

Pl.108 Details of modern porcelains from NM12(4)



1. 大甕・鉢(蓋)AII 6の内面文様



2. 摺絵中碗内面文様構成 A類



3. 摺絵中碗内面文様構成 B類



4. 摺絵中碗内面文様構成 C類



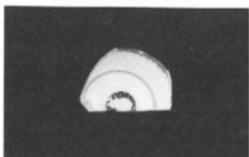
5. 摺絵中碗内面文様構成 C類



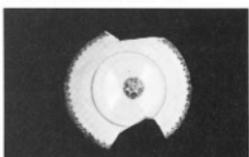
6. 摺絵中碗内面文様構成 C類



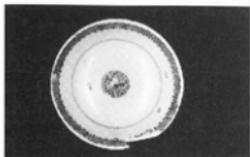
7. 摺絵中碗内面文様構成 C類



8. 摺絵中碗内面文様構成 C類



9. 摺絵中碗内面文様構成 C類



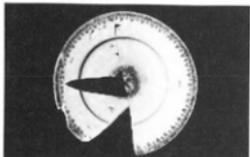
10. 摺絵中碗内面文様構成 C類



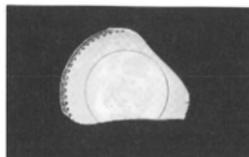
11. 摺絵中碗内面文様構成 C類



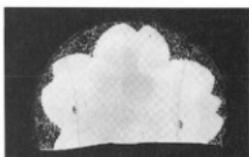
12. 摺絵中碗内面文様構成 D類



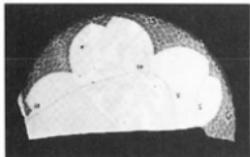
13. 摺絵中碗内面文様構成 D類



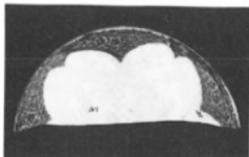
14. 摺絵中碗内面文様構成 E類



15. 摺絵中碗内面文様構成 F1類



16. 摺絵中碗内面文様構成 F1類



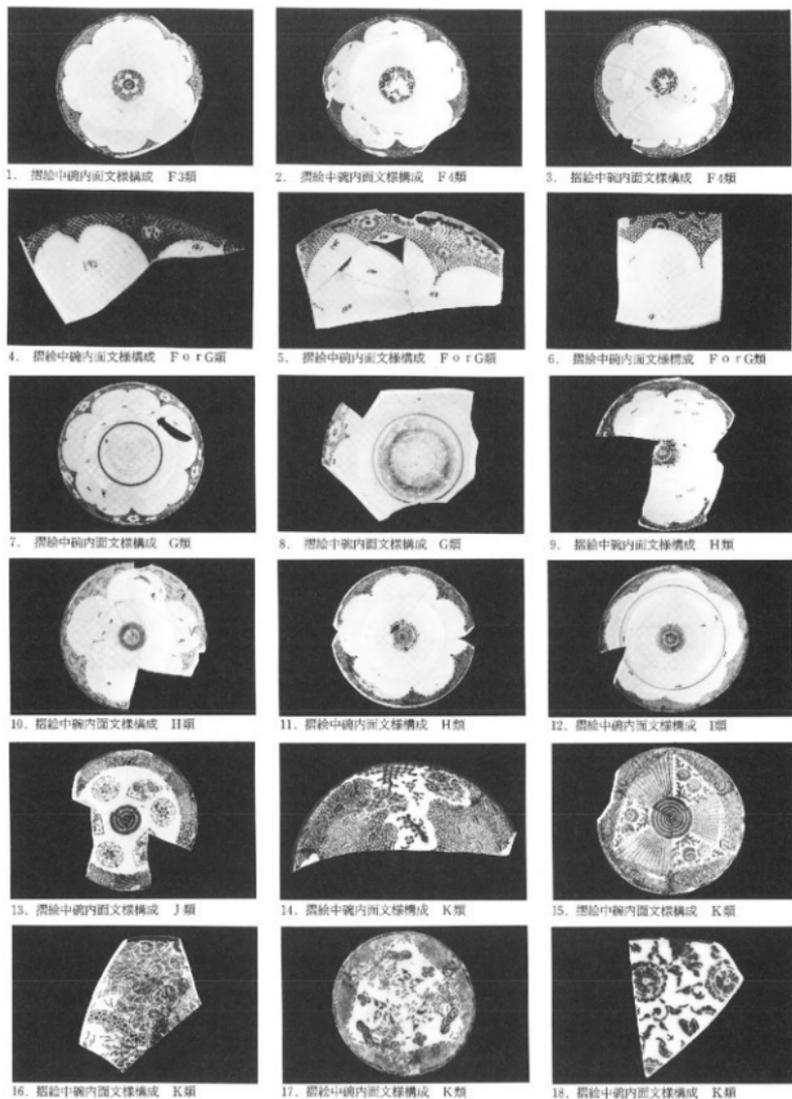
17. 摺絵中碗内面文様構成 F1類



18. 摺絵中碗内面文様構成 F2類

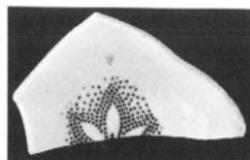
図版109 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(5)

Pl.109 Details of modern porcelains from NM12(5)



図版110 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(6)

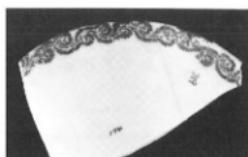
Pl.110 Details of modern porcelains from NM12(6)



1. 摺絵中碗内面文様構成 L類



2. 摺絵中碗内面文様構成 M類



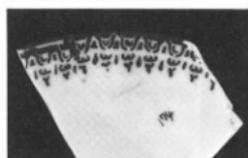
3. 摺絵中碗内面文様構成 N類



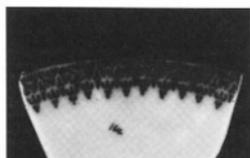
4. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 1類



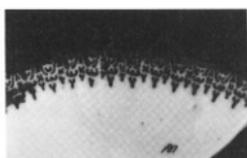
5. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 2類



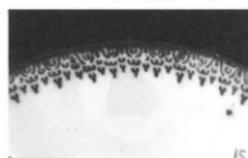
6. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 3類



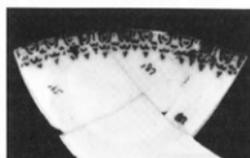
7. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 4類



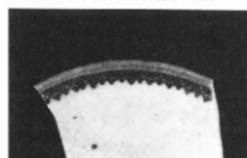
8. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 5類



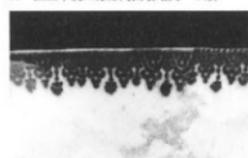
9. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 6類



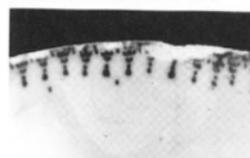
10. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 7類



11. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 8類



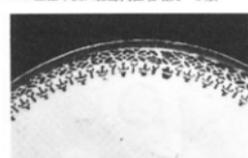
12. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 9類



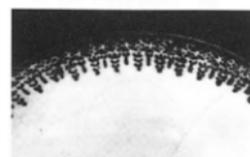
13. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 10類



14. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 11類



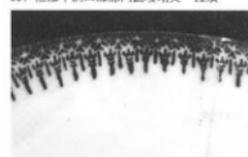
15. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 12類



16. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 13類



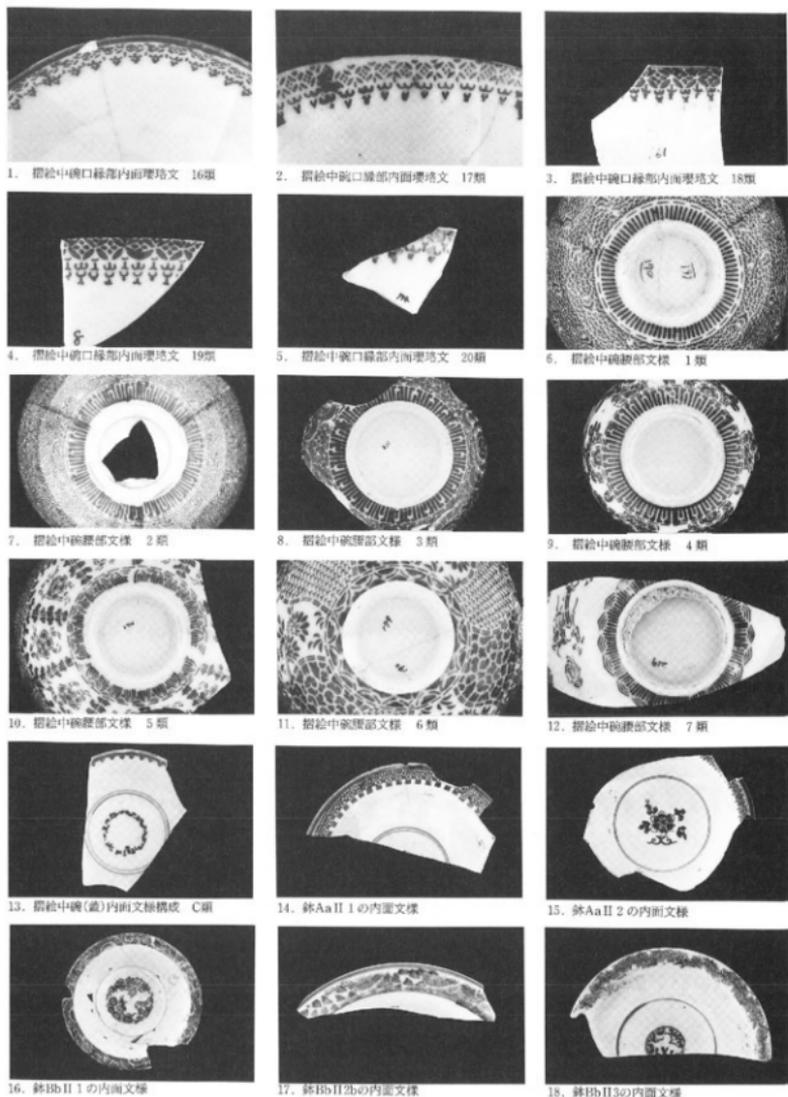
17. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 14類



18. 摺絵中碗口縁部内面堯瑠文 15類

図版111 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(7)

Pl.111 Details of modern porcelains from NM12(7)



図版112 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様⑧
 Pl.112 Details of modern porcelains from NM128)



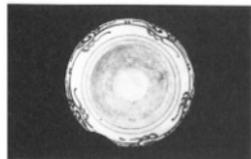
1. 皿AaII 1 の外面文様



2. 皿AdII 9 の外面文様



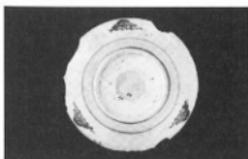
3. 皿BII 1 の外面文様



4. 皿DII 1 の外面文様



5. 皿EaIIa の外面文様



6. 皿FbII 2 の外面文様



7. 皿JII 1 の外面文様



8. 皿MaII 1 の外面文様



9. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 1類



10. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 1類



11. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 2類



12. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 3類



13. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 4類



14. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 4類



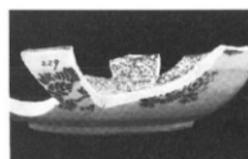
15. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 4類



16. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 5類



17. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 6類



18. 襷絵皿Mb・Mc類の外面文様 7類

図版113 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様(9)

Pl.113 Details of modern porcelains from NM12(9)



1. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 8類



2. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 9類



3. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 10類



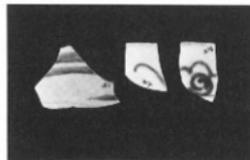
4. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 10類



5. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 11類



6. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 12類



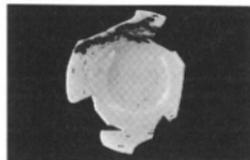
7. 摺絵皿Mb・Mc類の外函文様 13類



8. 大碗A皿1の内函文様



9. 大碗A皿2の内函文様



10. 大碗D皿2の内函文様



11. 大碗E皿2の内函文様



12. 大碗E皿3の内函文様



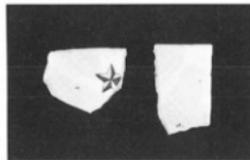
13. 大碗E皿4の内函文様



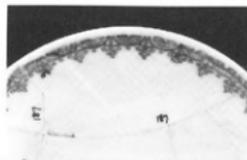
14. 大碗E皿5の内函文様



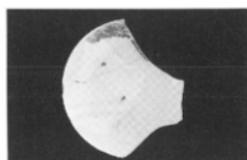
15. 大碗E皿6の内函文様



16. 大碗F皿の内函文様



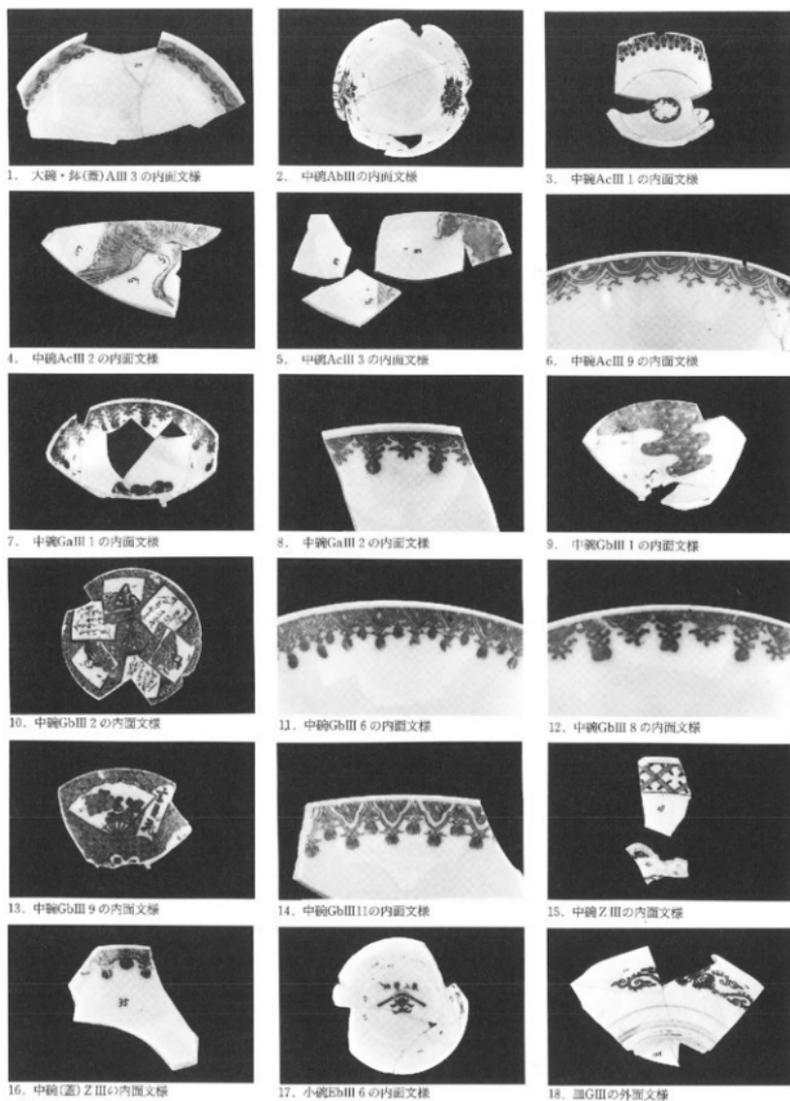
17. 大碗・鉢(蓋)A皿1の内函文様



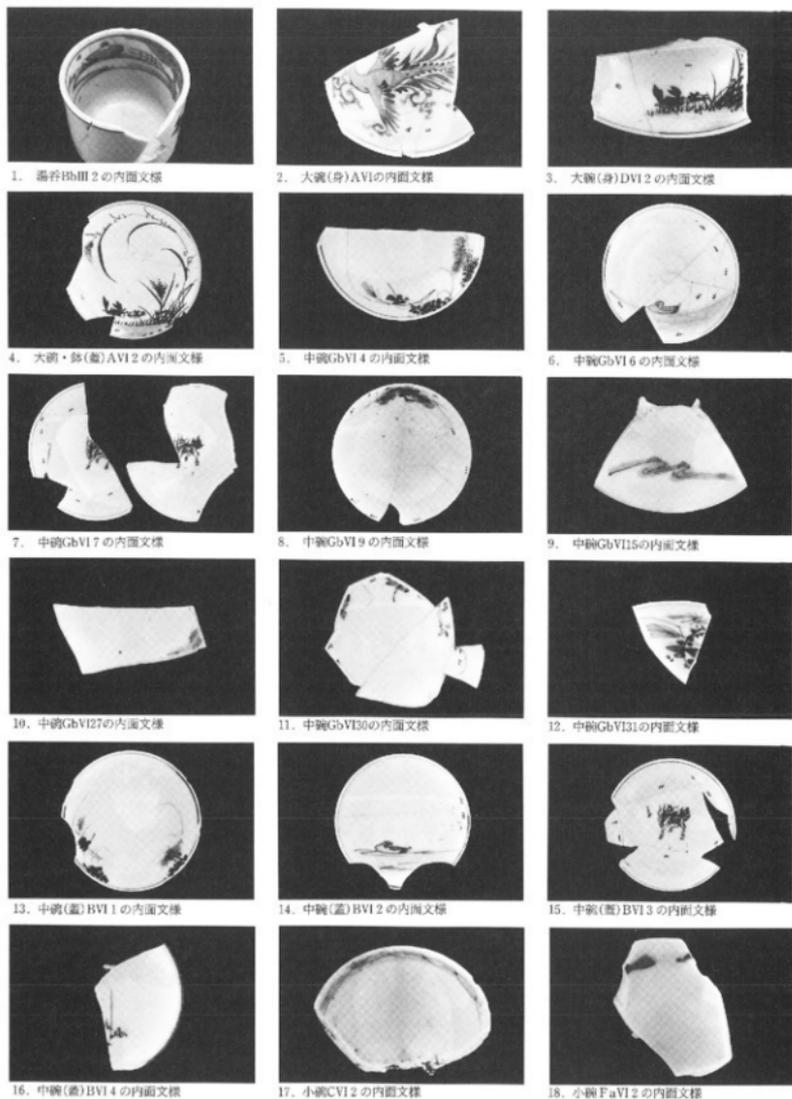
18. 大碗・鉢(蓋)A皿2の内函文様

図版114 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様⑩

Pl.114 Details of modern porcelains from NM120⑩



図版115 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様⑩
 Pl.115 Details of modern porcelains from NM12⑩



図版116 仙台城二の丸跡第12地点出土近代磁器の細部文様⑫
 Pl.116 Details of modern porcelains from NM120⑫



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	なし	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	4.5	2.5	1.1	0.4
底径	2.5	1.5	0.6	0.2
器体重量	1.1	0.6	0.4	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 3. 江戸川流域			



出物名称	陶器-丸鉢A	高 出 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	赤土色地文	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢B	高 出 属 文 様	縁部	
外周文様	内周縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	赤土色地文	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	高 出 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	赤土色地文	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	なし	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢C	高 出 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



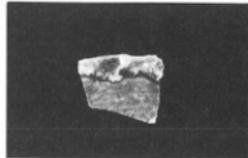
出物名称	陶器-丸鉢C	真 行 属 文 様	不明	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	なし	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			



出物名称	陶器-丸鉢A	真 行 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			

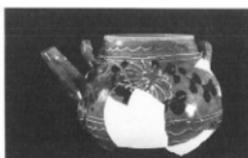


出物名称	陶器-丸鉢	高 出 属 文 様	なし	
外周文様	縁部縁部付分	高 出 属 文 様	なし	
内周文様	なし	其の他の形状等	内周縁部(厚肉部)	
品名	口径	底径	器体重量	観 音 堂 重 量
観音堂	なし	なし	なし	なし
口径	3.4	2.0	0.8	0.3
底径	2.0	1.5	0.5	0.2
器体重量	0.8	0.5	0.3	0.2
観音堂重量	なし	なし	なし	なし
備考	＜備考＞ 大塚町遺跡			

図版117 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(1)
Pl.117 Modern glazed ceramics from NM12(1)



分類名称	【陶器】鉢(浅)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】鉢(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】鉢(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



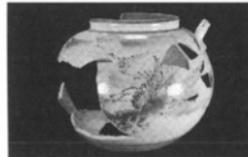
分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		

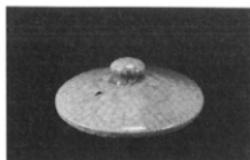


分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		



分類名称	【陶器】茶碗(中)	【高古】	【文様】なし
外装文様	なし	高古	内装文様
内装文様	なし	その他	内装図柄
図柄	【白】	【赤】	【緑】
器大径			
器小径			
器高			
重量			
年代			
出土層			
出土状況			
備考			
＜備考＞	土師器		

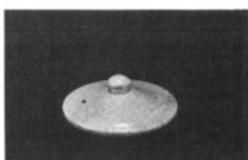
図版119 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(3)
P1.119 Modern glazed ceramics from NM12(3)



分類名称	陶器土器(丸)Aa	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	5	300
最大径	8.5	2.0	80	高土器径	4			
最大径	8.0	2.0	82	高土器径	4			
平均径	8.0	2.0	81	高土器径	4			
重量	5.5	3.0	30	高土器径	4			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Ab	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	5	100
最大径	7.5	2.4	55	高土器径	4			
最大径	7.2	2.1	47	高土器径	4			
平均径	7.4	2.3	50	高土器径	4			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



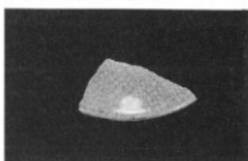
分類名称	陶器土器(丸)Ac	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	5	243
最大径	8.0	2.0	75	高土器径	9			
最大径	7.6	2.0	73	高土器径	9			
平均径	7.8	2.0	74	高土器径	9			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



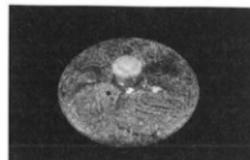
分類名称	陶器土器(丸)Ad	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	54
最大径	9.0	2.0	85	高土器径	3			
最大径	8.5	2.0	84	高土器径	3			
平均径	8.5	2.0	84	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



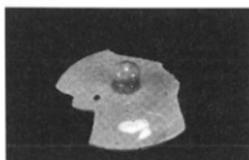
分類名称	陶器土器(丸)Ae	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	15
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Af	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	11
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Ag	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	17
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Ah	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	17
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



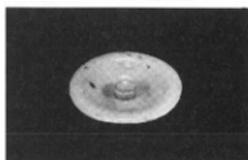
分類名称	陶器土器(丸)Ai	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	200
最大径	8.0	2.0	75	高土器径	9			
最大径	7.5	2.0	73	高土器径	9			
平均径	7.8	2.0	74	高土器径	9			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Aj	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	62
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								



分類名称	陶器土器(丸)Ak	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	17
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								

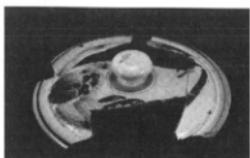


分類名称	陶器土器(丸)Al	高台器文様	なし					
外観文様	なし	高台内筋	なし					
内観文様	なし	その他の技法等	内筋(輪切)					
図案	口径	口径	高さ	胴体直径	底直径	重量	6	22
最大径	7.0	2.0	70	高土器径	3			
最大径	6.5	2.0	68	高土器径	3			
平均径	6.8	2.0	69	高土器径	3			
＜備考＞ 土器(丸)Cとセット 大塚地区								

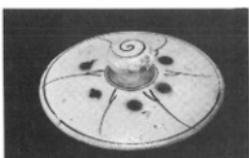
図版120 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(4)
Pl.120 Modern glazed ceramics from NM12(4)



分類名称	陶器土器(白)F	高台 輪文 施なし
所属文様	なし	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵無)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



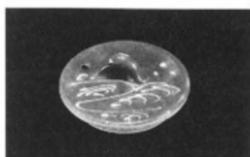
分類名称	陶器土器(黒)石	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵文様不明	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



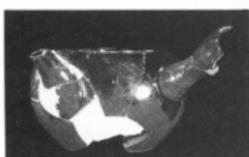
分類名称	陶器土器(白)H	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵動物文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



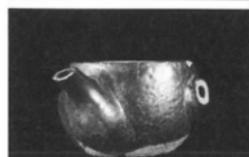
分類名称	陶器土器(白)F	高台 施文 施なし
所属文様	花文(草)浮文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



分類名称	陶器土器(白)	高台 施文 施なし
所属文様	花文(草)浮文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



分類名称	陶器土器(白)H	高台 施文 施なし
所属文様	花文(草)浮文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



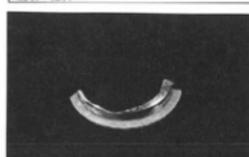
分類名称	陶器土器(白)F	高台 施文 施なし
所属文様	花文(草)浮文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



分類名称	陶器土器(白)F	高台 施文 施なし
所属文様	花文(草)浮文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



分類名称	陶器土器(白)A	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵動物文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		



分類名称	陶器土器(白)A	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵動物文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		

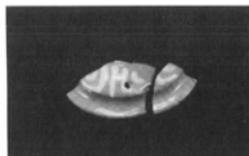


分類名称	陶器土器(白)A	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵動物文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		

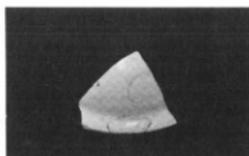


分類名称	陶器土器(白)H	高台 施文 施なし
所属文様	鉄絵動物文	高台 内 施なし
内蔵文様	なし	その他の施装等 (内蔵なし)
品名	口徑 底径 高さ 胴体直径等	総重量 容積
最大径		口徑(約)10.5
最小径		底径(約)7.5
高さ		約1.5
平均径	11.1 10.2 4.2	胴体直径(約)10.5
重量		
備考		

図版121 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(5)
Pl.121 Modern glazed ceramics from NM12(5)



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	自然文様	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	墨書文字(見出し)	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	墨書文字(見出し)	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	墨書文字(見出し)	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



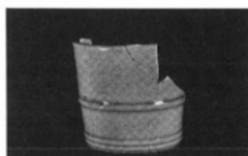
分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	墨書文字(見出し)	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			



分類名称	陶器(赤系土器)	高古類	文様	なし
外部文様	なし	高古	内	なし
内部文様	なし	その他(形状等)	内	なし
用途	口縁	器底	器体(器蓋)	器蓋(蓋)
器大径				
器小径				
器高				
重量				
備考	①赤系土器			

図版122 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(6)
Pl.122 Modern glazed ceramics from NM12(6)



分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



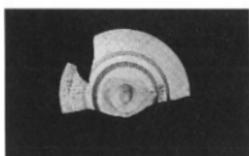
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



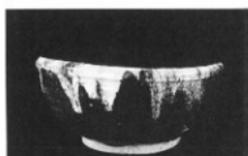
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



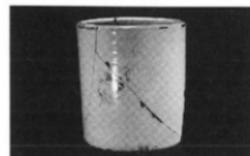
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



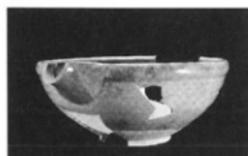
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



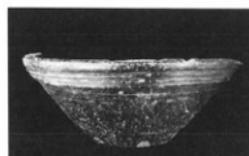
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



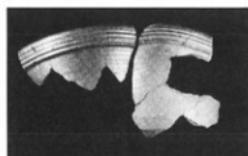
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



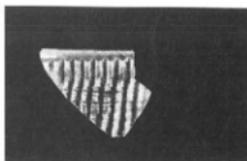
分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				



分類名称	丸底平縁鉢A	品名	黒文様	なし	
外観文様	黒文様	高台	なし	なし	
内観文様	なし	内底	なし	なし	
器高	11.7	口径	18.0	底径	7.5
器重	445	出土層	Ⅱ	西34層	
平均値	11.7	口径	18.0	底径	7.5
<備考>	大塚南丸				

図版123 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(7)

Pl.123 Modern glazed ceramics form NM12(7)



分類名称	陶器片断A	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					緑黄色系
＜備考＞					遺跡名



分類名称	陶器片断B	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.1	3.4	3.5		緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断C	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断D	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					遺跡名



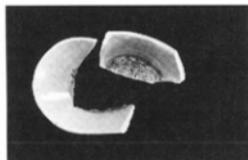
分類名称	陶器片断E	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.1	3.4	3.5		緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断F	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断G	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.3				緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断H	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.1	3.4			緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断I	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.3	3.4	3.5		緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断J	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断K	高台輪文様	不明		
外装文様	なし	高台内筋	不明		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径					緑黄色系
重量等					遺跡名



分類名称	陶器片断L	高台輪文様	なし		
外装文様	なし	高台内筋	なし		
内装文様	なし	その他の紋様等	内装面文様 (高台内筋)		
地色等	白焼	緑色	緑黄色系	緑黄色系	13
最大径					出土層位
最大厚					出土層位
平均径	3.4	3.5			緑黄色系
重量等					遺跡名

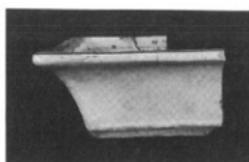
図版124 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(8)

Pl.124 Modern glazed ceramics from NMI2(8)



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(鉢)	A2	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



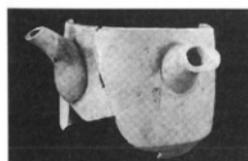
分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



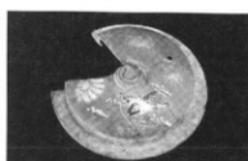
分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



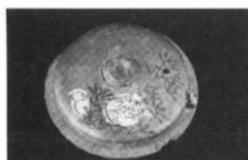
分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?



分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?

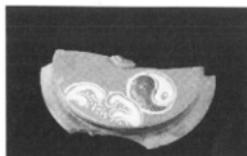


分類名称	陶器(丸鉢)	A1	高台 施文様	なし
外底文様	なし		高台 内 筋	なし
内底文様	なし		その他(底面)	なし
品名	口徑	底径	器体重量	器高
最大径	11.2	7.3	約50g	10.5cm
最大径			器高	10.5cm
平均径	11.2	7.3	約50g	10.5cm

<備考> 大形碗類?

図版125 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶器(9)・炬師(1)

Pl.125 Modern glazed ceramics and unglazed hard-fired ceramics from NM12



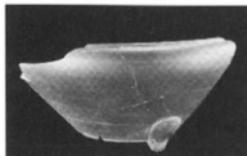
分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	14
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.8	高台器径	10.75
重量			
備考			



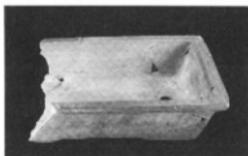
分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	53
最大径		高台器径	12
最小径		高台器径	11.5
平均径	11.75	高台器径	11.75
重量			
備考			



分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	59
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.8	高台器径	10.75
重量			
備考			



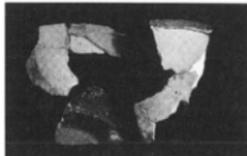
分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	63
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			



分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	140
最大径		高台器径	12
最小径		高台器径	11.5
平均径	11.75	高台器径	11.75
重量			
備考			



分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	194
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			



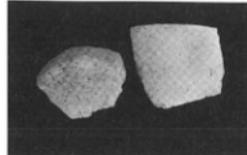
分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	190
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			



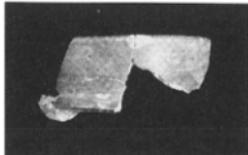
分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	202
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			



分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	493
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			



分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	154
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			

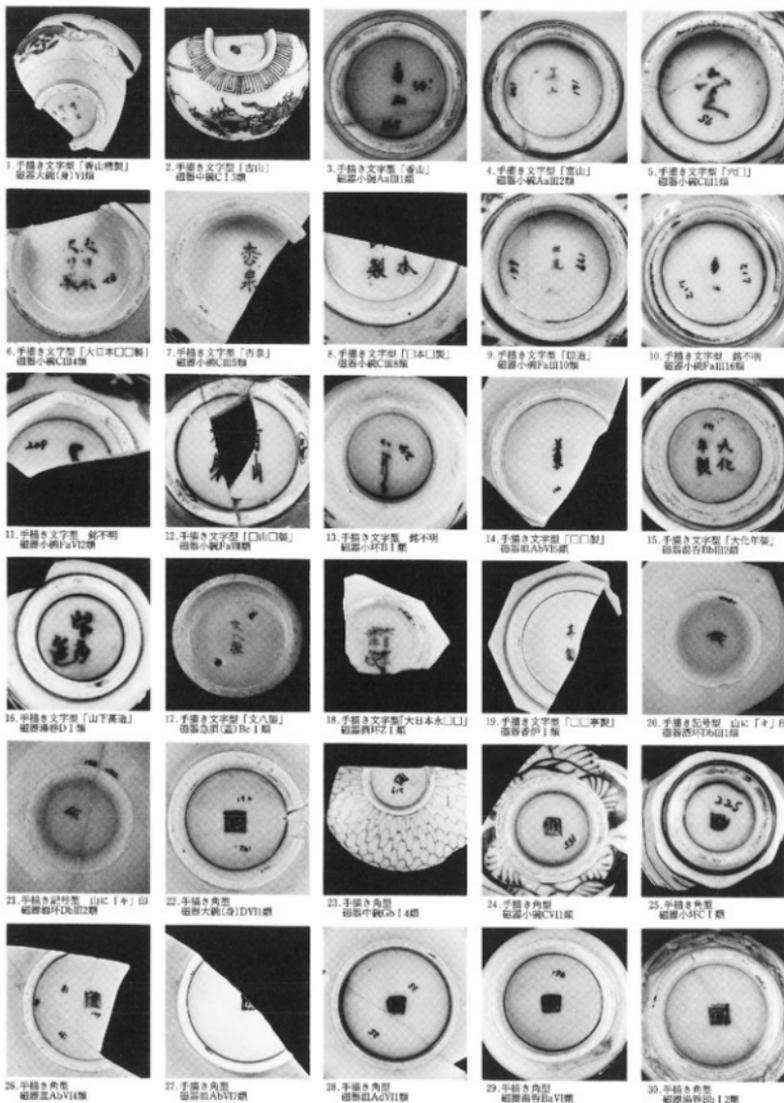


分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	227
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			

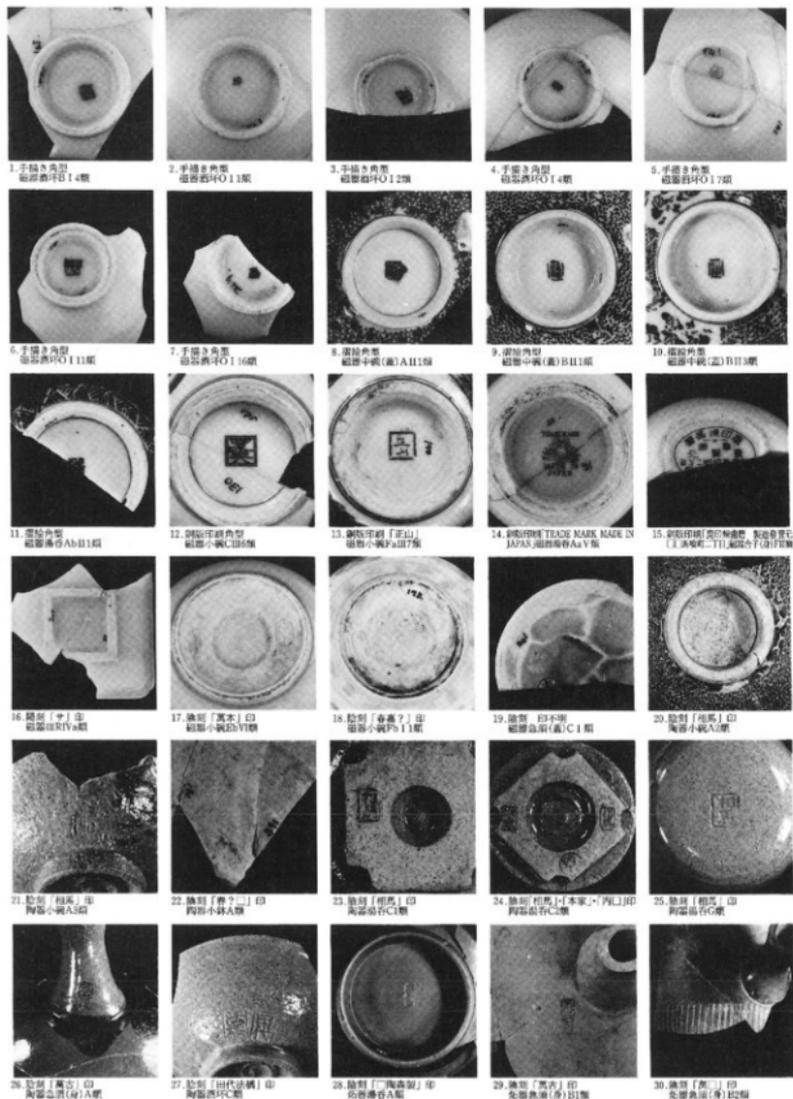


分類名称	丸鉢(高)A	高台器文様	なし
外周文様	なし	高台器文様	なし
内周文様	なし	その他(未定)	なし
出所	山口県 萩市 萩城跡	調査番号	30
最大径		高台器径	11
最小径		高台器径	10.5
平均径	10.75	高台器径	10.75
重量			
備考			

図版126 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の磁器②・土師質土器・軟質磁器
P1.126 Modern unglazed hard-fired ceramics, ceramics and stone china from NM12



図版127 仙台城二の丸跡第12地点出土近代陶磁器・炆器の銘(1)
P1.127 Inscriptions on various modern ceramics from NM12(1)



図版128 仙台城二の丸跡第12地点出土近代陶磁器・炬器の銘(2)
Pl.128 Inscriptions on various modern ceramics from NM12(2)



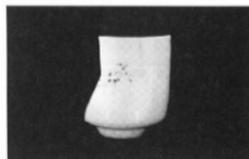
1. E-55C3a 湯呑みAaV類「第二中家七宝堂製」



2. 3層上段湯鉢 湯呑みAaV類「第二中家七宝堂石川製」



3. F-52C3a 湯呑みAaV類「二船F上門」



4. 湯山小判 湯呑みBaV類「龍野」



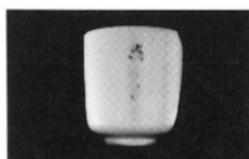
5. E-55C3d 湯呑みBaV類「龍野中位」



6. G-85C3a 湯呑みBaV類「牧野方角」



7. 3層上段湯鉢 湯呑みAaV類「第二中家七宝堂石川製」



8. F-52C3a-3c 湯呑みAaV類「龍野龍山」



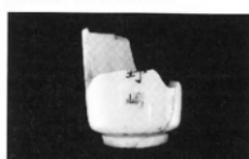
9. F-85C3d 湯呑みAaV類「澤」



10. F-42C3a 湯呑みBaV類「川崎」



11. F-72C3a-3c 湯呑みAaV類「深谷」



12. F-62C3a-3c 湯呑みBaV類「野崎」



13. D-32C3a 湯呑みAaV類「二瓶」



14. E-32C3a 湯呑みAaV類「藤井」



15. E-42C3a 湯呑みAaV類「米村」



16. F-55C3a 湯呑みAaV類「山」



17. F-55C3a 湯呑みBaV類「荒」



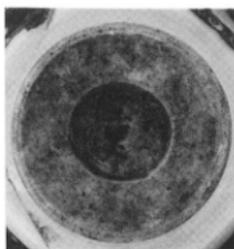
18. 湯位不明 湯呑みAaV類「千景」

図版129 仙台城二の丸跡第12地点出土近代白磁湯呑み（湯呑みV類）の文字資料

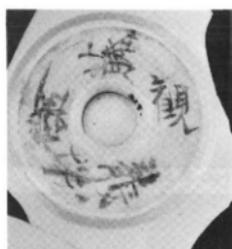
Pl.129 Modern white porcelain cups with inscriptions from NM12



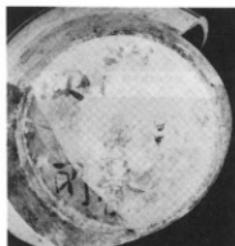
1.E-295M器 磁器小碗A面(器フ)



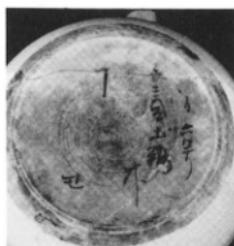
2.E-623M器 磁器小碗B面(器フ二口式)



3.C-D-35x3号美 磁器蓋N1面(無二口美 器底)



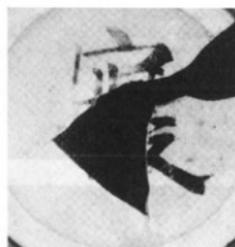
4.F-623M器底下部 磁器土皿(身)1a1面(器底合口部)



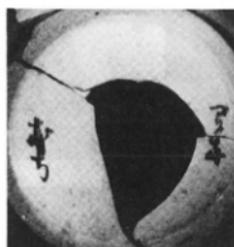
5.E-323M器 磁器土皿(身)EY面(六角口上皿)



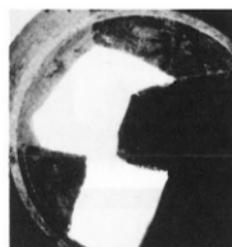
6.E-214器 磁器土皿(身)Z1面(下土産分會用)



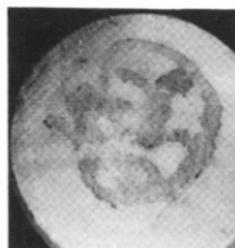
7.F-523M器 陶器土皿(身)C2面(器)



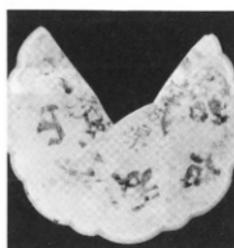
8.F-613M器 陶器土皿(身)C2面(宮津口工)



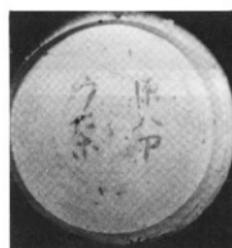
9.F-523M器 陶器土皿(身)F面(器)



10.扁位不明 磁器類器利Ba12版 判読不能



11.上蓋上面部 磁器類其器V器(宮津版 彩色)



12.扁位不明 陶器類器利Ba12版(器)

図版130 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の陶磁器にみられる墨書
 Pl.130 Inscriptions in black ink on modern porcelains and glazed ceramics from NM12



1. 碗



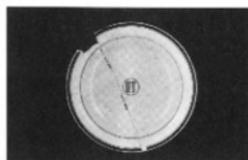
2. 把手付碗



3. 鉢



4. 皿A 1類



5. 皿B 2類



6. 大型碗



7. 大型碗蓋



8. 蓋



9. 碗特1類 星文の反対側



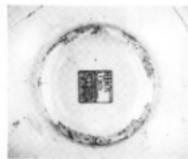
10. 碗特2類 高台内



11. 鉢特1類



12. 鉢特3類



13. 碗1類 高台内



14. 碗2 a類 高台内



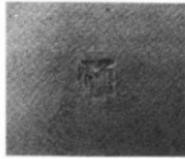
15. 碗3類 高台内



16. 皿B 2類 底面



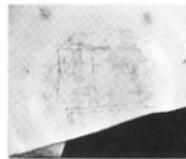
17. 碗2 a類 見込



18. 鉢5類 見込



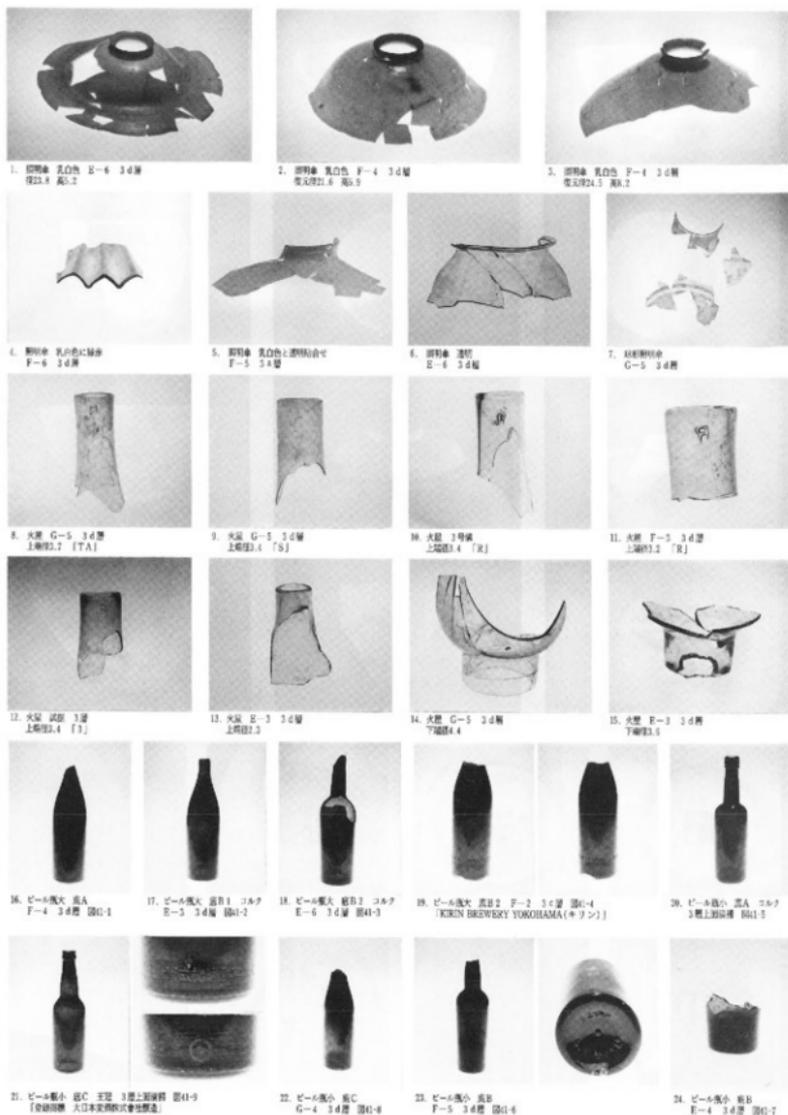
19. 把手付碗4 a類 底面の線書き



20. 把手付碗4 a類 底面の線書き

図版131 仙台城二の丸跡第12地点出土近代硬質陶器

Pl.131 Modern "Iron stone china" from NM12



図版132 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(1)
Pl.132 Modern glass implements from NMI2(1)



図版133 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(2)

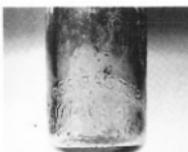
Pl.133 Modern glass implements from NM12(2)



1. ラム酒瓶 F-4 34号 口径2.8 高さ4.9 容積11.4
【徳島県大島】【此器・本頁並一併何レ之類所製者ニテ同四号中模也】



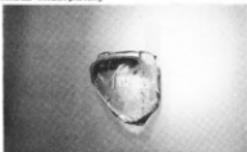
2. ラム酒瓶 E-6 36号 口径4.5
【GLASS FACTORY/YAMATAME/OSAKA JAPAN】



3. ラム酒瓶 F-6 39号 口径3.1
【MANUFACTURE/BY/MKHARA/OSAKA JAPAN】



4. ラム酒瓶 F-4 34号 【未詳】



5. ラム酒瓶 E-5 34号 【未詳】【徳島/山口】



6. インク瓶 E-4 34号
口径2.1 口径1.1 高さ4.9



7. インク瓶 2号
口径2.3 口径0.5 高さ4.4



8. インク瓶 3輪式直筒型
口径2.7 口径4.2 高さ5.3



9. インク瓶 E-6 34号 口径3.9 口径4.7
高さ6.6 表面【CAW'S INK/SELECTED】



10. インク瓶 E-6 34号
口径2.1 口径1.9 高さ4.7



11. インク瓶 G-4 36号 口径2.4 口径3.8
高さ3.3 表面【CAW'S INK/11347】



12. インク瓶 F-4 34号 口径2.3 口径3.8
高さ4.9 表面【S.S.I.】



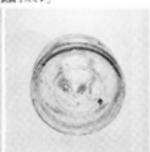
13. インク瓶 G-1 35号
口径2.8 口径4.4 高さ4.4



14. インク瓶 E-1 34号
口径2.5 口径4.5 高さ7.2 表面【M】



15. インク瓶 G-2 34号
口径2.9 口径5.2 高さ6.5 表面【M】



16. インク瓶 G-4 34号
口径4.4 口径5.5 高さ4.3 高さ6.6



17. インク瓶 F-4 34号
口径2.2 口径4.3 高さ3.4



18. インク瓶 F-4 34号
口径2.3 口径4.9 口径3.8 表面【未詳】



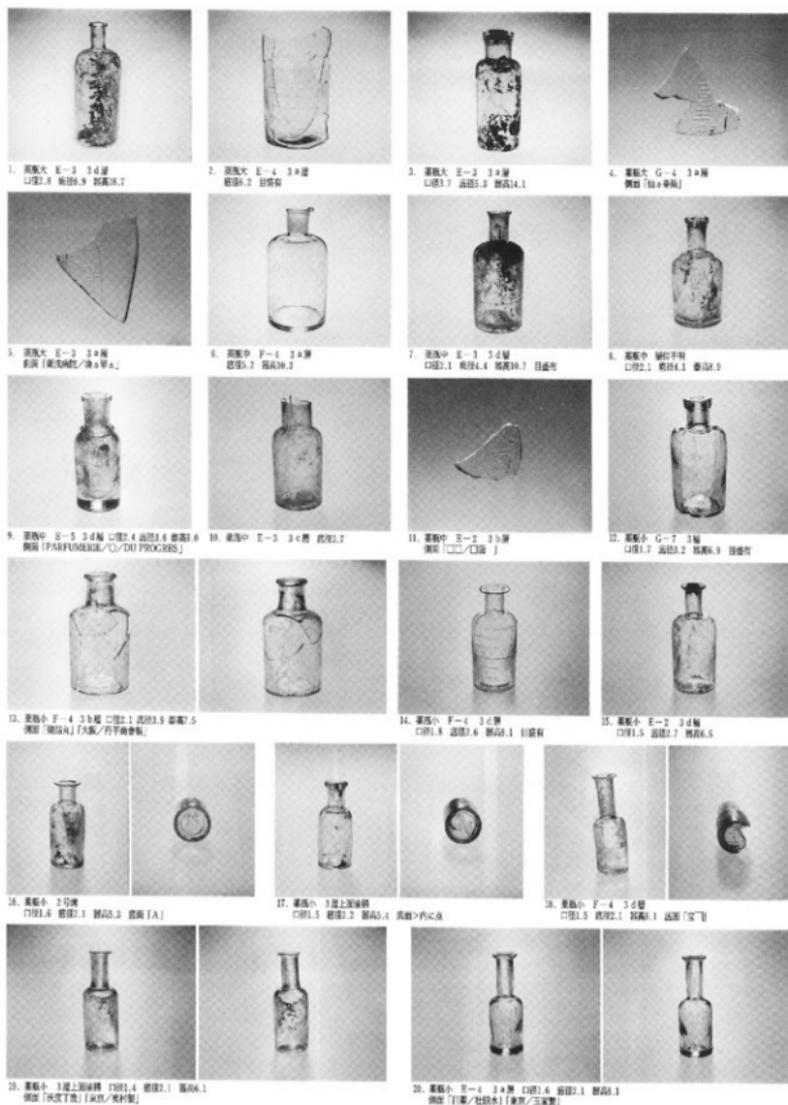
19. インク瓶 F-4 34号
口径2.9 口径3.3 口径5.9 高さ6.3



20. インク瓶 F-3 34号
表面【S.I.インク/大日本製瓶/新大島】

図版134 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(3)

Pl.134 Modern glass implements from NM12(3)



図版135 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(4)
Pl.135 Modern glass implements from NM12(4)



図版136 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(5)
Pl.136 Modern glass implements from NM12(5)



図版137 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(6)

P1.137 Modern glass implements from NM12(6)

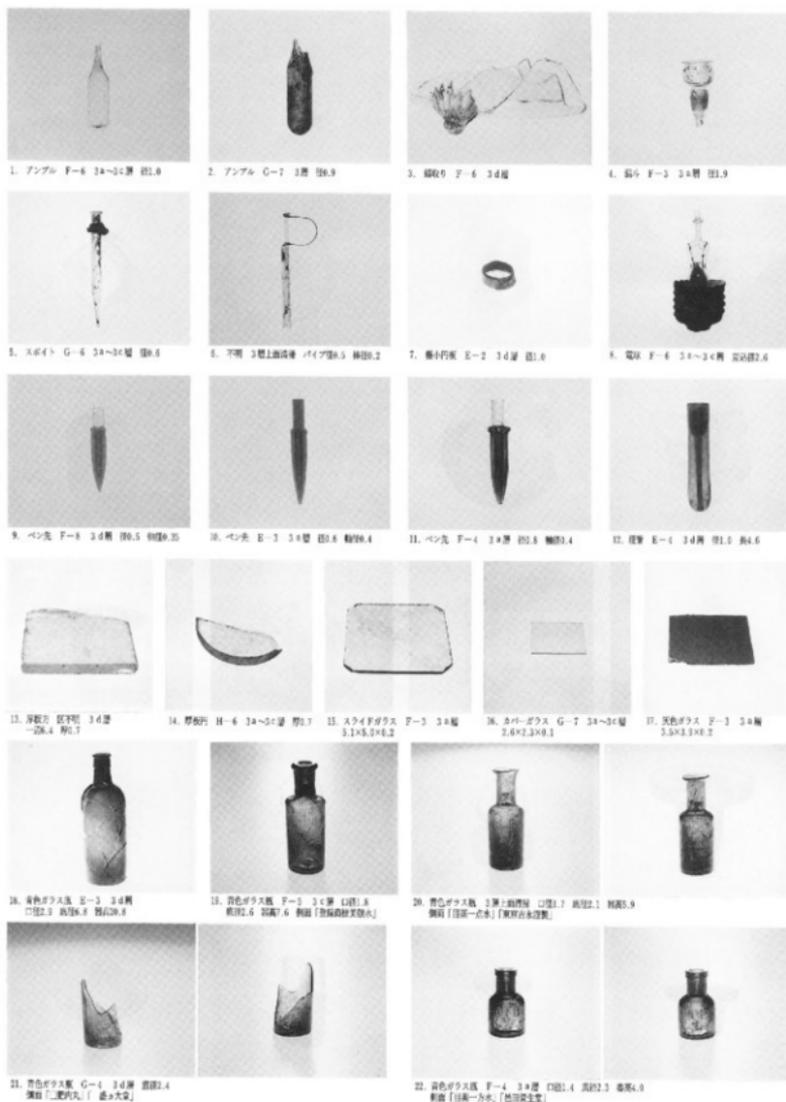


図版138 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(7)

Pl.138 Modern glass implements from NM12(7)



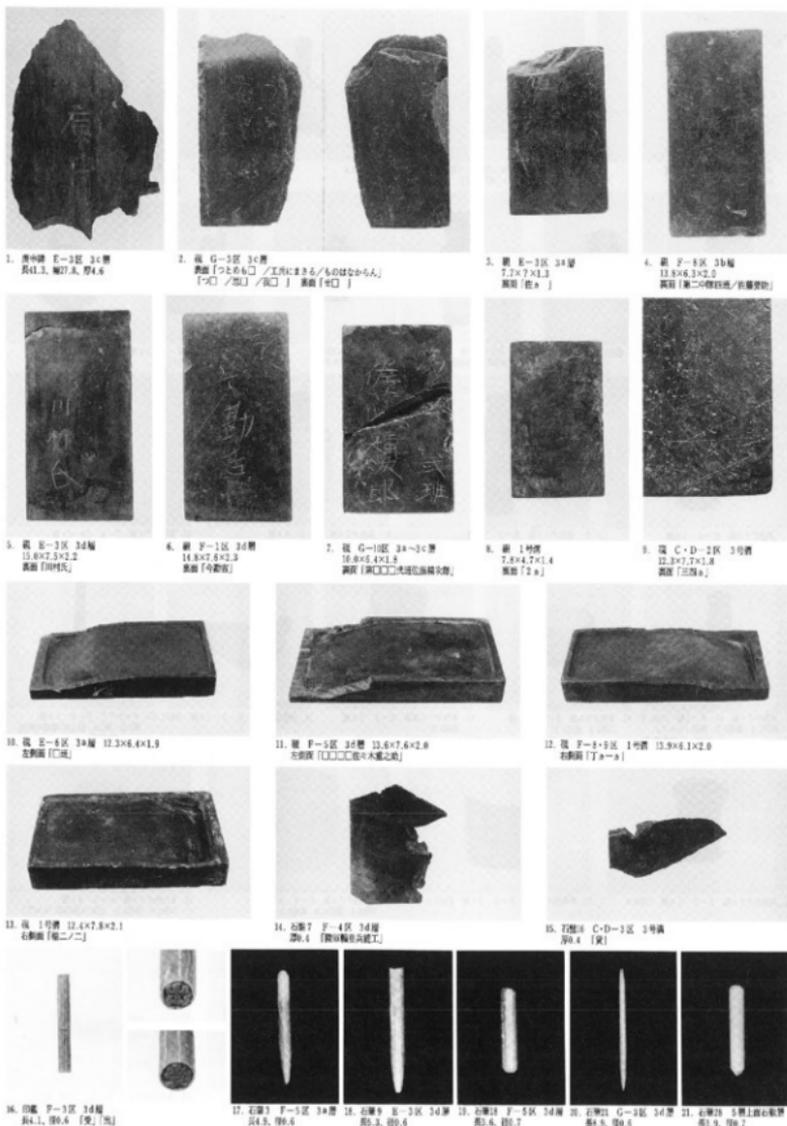
図版139 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(8)
Pl.139 Modern glass implements from NM12(8)



図版140 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(9)
Pl.140 Modern glass implements from NM12(9)

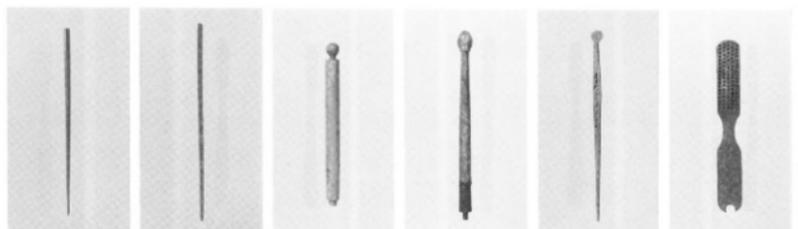


図版141 仙台城二の丸跡第12地点出土近代ガラス製品(節)
Pl.141 Modern glass implements from NM1200



図版142 仙台城二の丸跡第12地点出土近代石製品

Pl.142 Modern stone implements from NM12



1. 骨 E-3区 3号刷
刷頭部分 長13.5cm 幅0.5cm

2. 骨 C-5区 3号刷
刷頭部分 長13.6cm 刷頭幅0.6cm

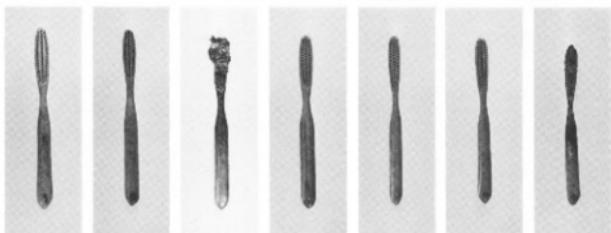
3. 骨(骨針付) G-6区 3号刷
刷頭部分 長6.7cm 幅0.5cm

4. 骨(結合部+下顎部部分) E-2区 3号刷 刷頭部分 長7.5cm 幅0.5cm

5. 骨(骨針付) F-4区 3号刷
長7.2cm 幅0.5cm
口幅7.0cm

6. プラシド-6区 2a-3c刷
長11.4cm プラシド幅1.8cm
幅幅0.5cm

以下、図版143にて歯ブラシ、
写真下の形式は、下記の通り。
・9号刷 - 歯ブラシ
・出展 長さ×ブラシ幅×柄幅
〔 〕 内の数字は保存箱
番号を示す
・柄口の拡大写真の図版番号



IA3a1 3号刷
長11.2×幅1.3
柄幅0.49

IA3a10 3a-2c
柄幅0.79

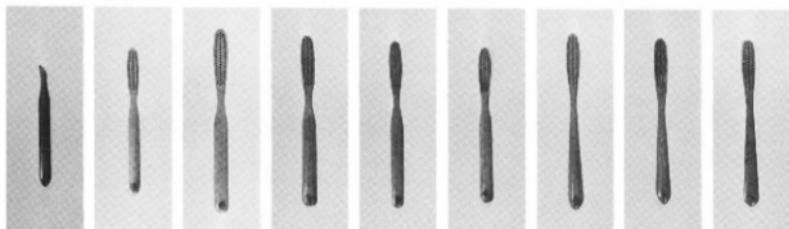
IA3a20 3a-3c
長6.4×幅1.2
柄幅0.5

IA3a3 3a-3c
長6.6×幅1.2
柄幅0.4

IA3a4 3号刷
長13.3×幅1.1

IA3a5 3号刷
長10.4×幅1.1

IA3b1 3号刷
長14.4×幅1.0



IA3b3 3号刷
長さ×幅×柄
幅10.5×1.0×0.75

IA3b5 3号刷
長11.8×幅1.0×柄幅
0.75

IA3c1 兼3号刷
長14.6×幅1.2
柄幅0.42

IA3c2 3号刷
長13.8×幅1.1×柄幅
0.42

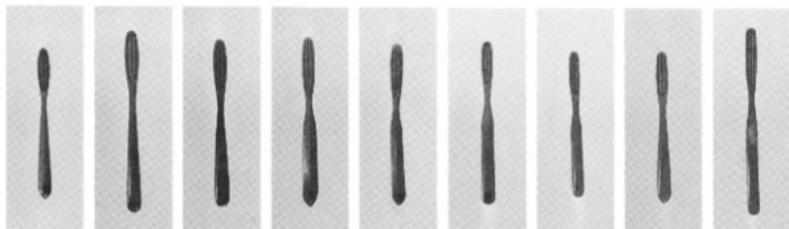
IA3c3 兼3号刷
長12.0×幅1.1
柄幅0.47

IA3c4 3号刷
長12.2×幅1.0×柄幅
0.4

IA3d1 3号刷
長13.8×幅1.0×柄幅
0.42

IA3d2 3号刷
長12.0×幅1.1×柄幅
0.42

IA3d3 3a-3c
長12.0×幅1.1×柄幅
0.4



IA3d4 3号刷
長11.4×幅1.0×柄幅
0.46

IA3e1 3号刷
長14.2×幅1.1×柄幅
0.42

IA3e2 3号刷
長13.2×幅1.0×柄幅
0.43

IA3f1 3号刷
長13.3×幅1.0×柄幅
0.45

IA3f2 3号刷
長12.4×幅1.1×柄幅
0.4

IA3f1 3号刷
長12.8×幅1.0×柄幅
0.4

IA3f2 3号刷
長11.6×幅1.0×柄幅
0.4

IA3g 兼3号刷
長12.0×幅1.0×柄幅
0.4

IA3i1 兼3号刷
長11.7×幅1.0×柄幅
0.4

図版143 仙台城二の丸跡第12地点出土近代骨製品・歯ブラシ(1)
Pl.143 Modern bone implements and toothbrushes from NMI2(1)



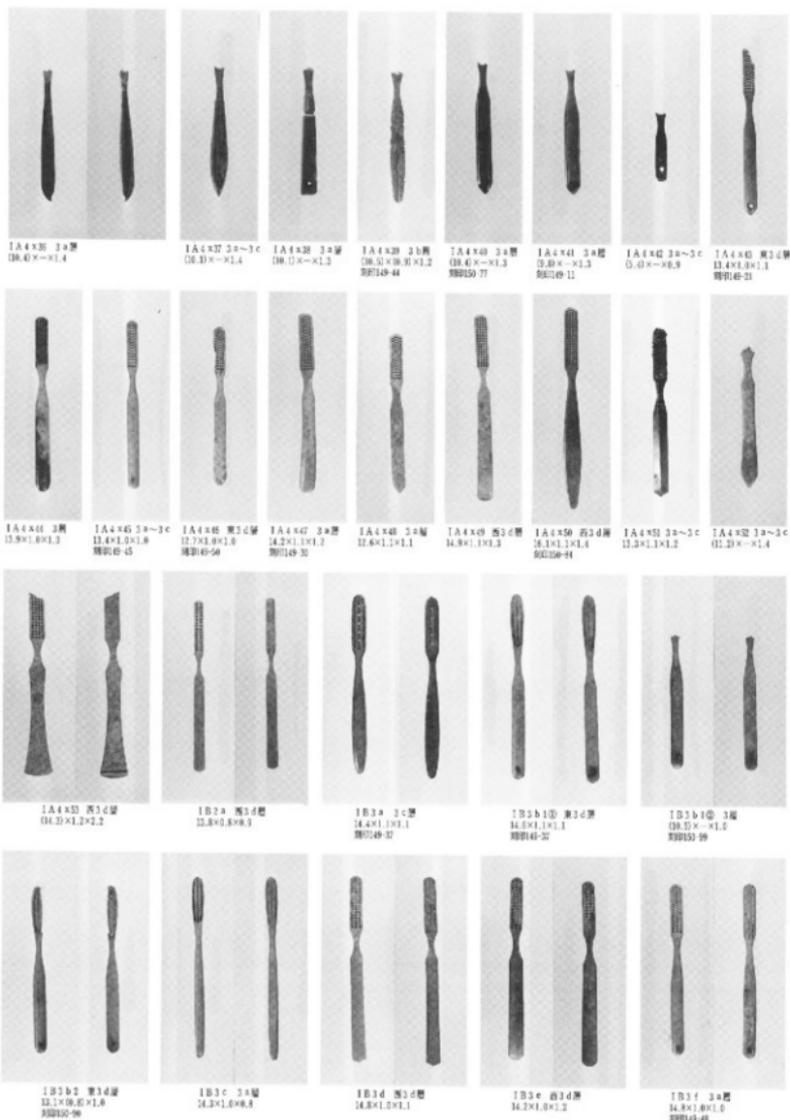
図版144 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシ(2)
Pl.144 Modern toothbrushes from NM12(2)



図版145 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシ(3)
Pl.145 Modern toothbrushes from NM12(3)



図版146 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシ(4)
 PL146 Modern toothbrushes from NM12(4)

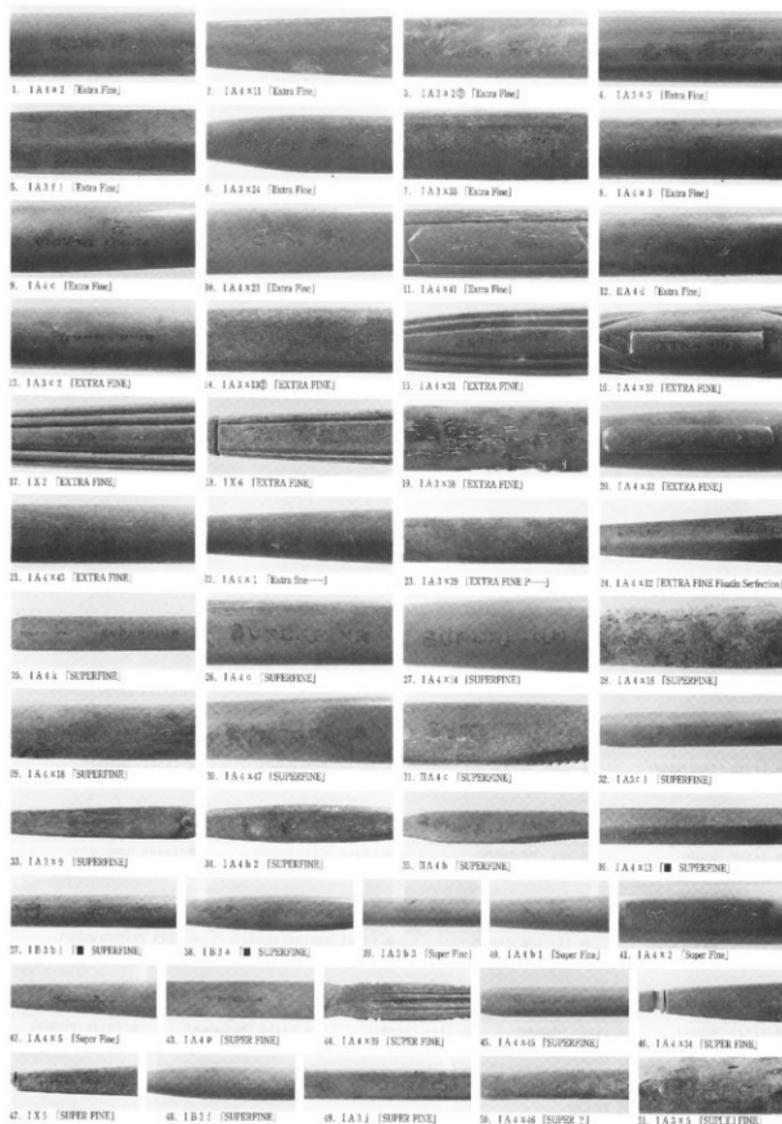


図版147 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシ(5)

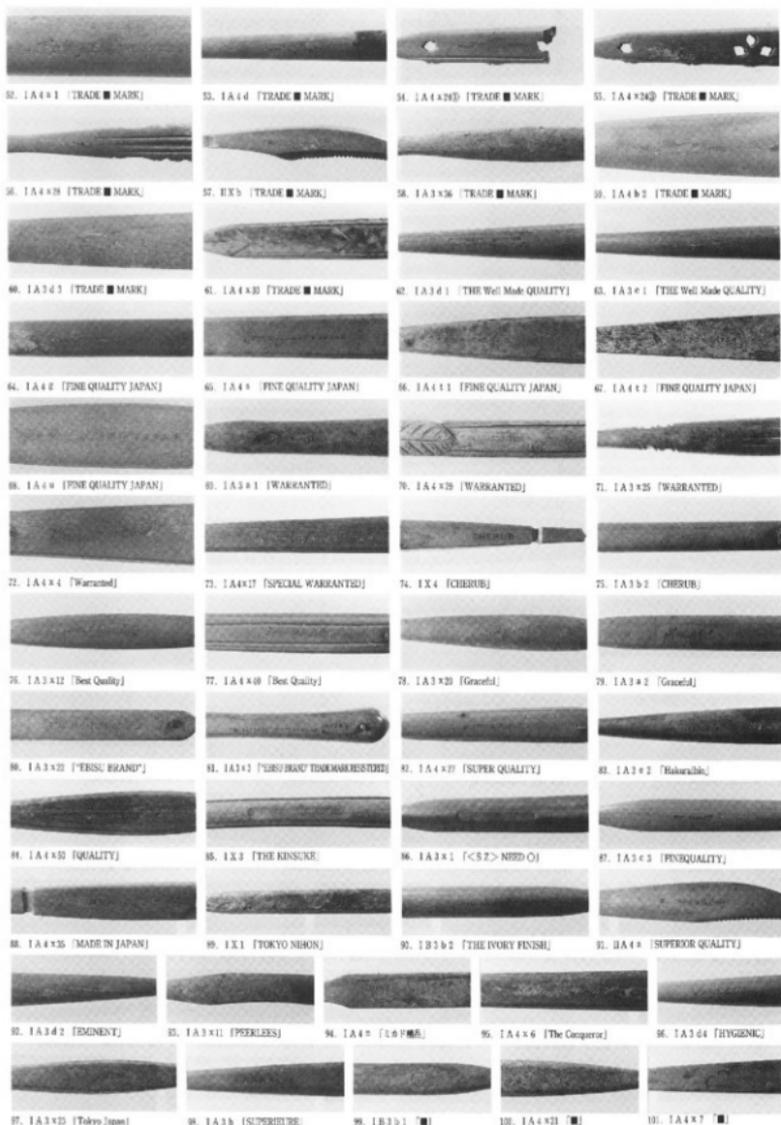
Pl.147 Modern toothbrushes from NM12(5)



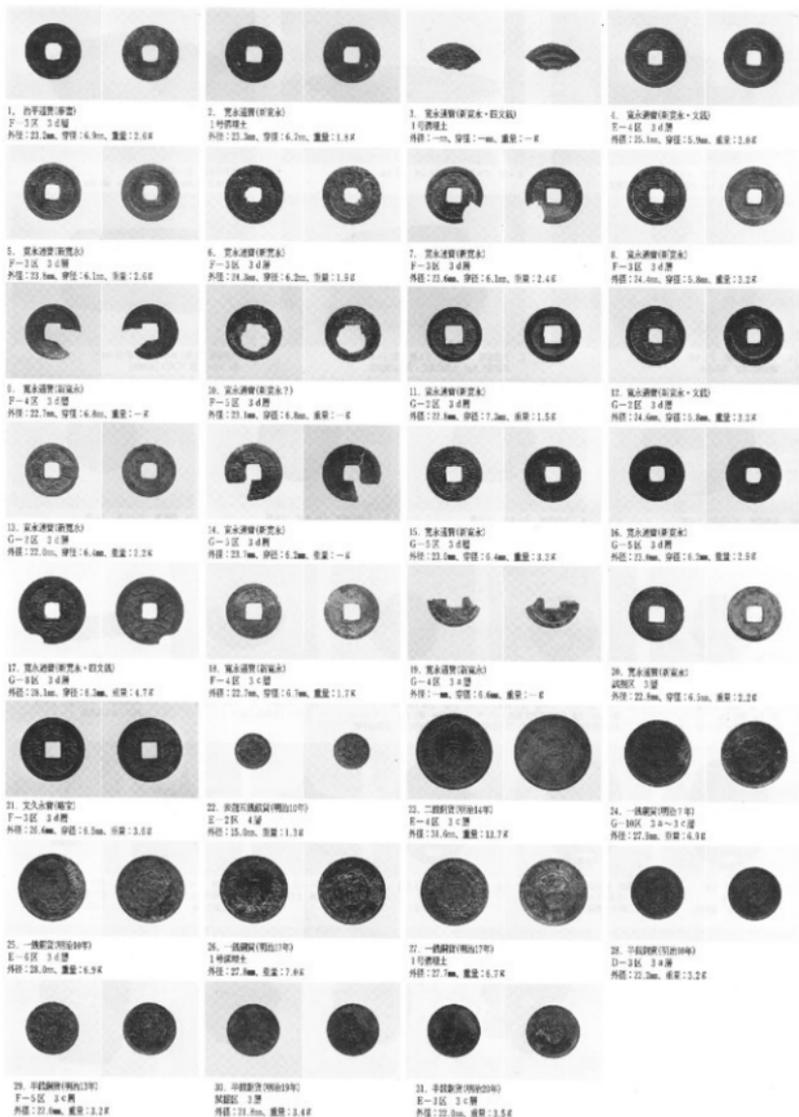
図版148 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシ(6)
Pl.148 Modern toothbrushes from NM12(6)



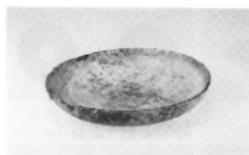
図版149 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシの刻印(1)
 Pl.149 Seal impressions on modern toothbrushes from NM12(1)



図版150 仙台城二の丸跡第12地点出土近代歯ブラシの刻印(2)
 Pl.150 Seal impressions on modern toothbrushes from NM12(2)



図版151 仙台城二の丸跡第12地点出土銭貨
Pl.151 Coins from NM12



1. さわらび鉢 G-5区 34編
口径16.5cm 高さ1.5cm 内径11.5cm・山: 武田菱文



2. 蒸 べつこ B区18.1cm 高さ3.1cm



3. 獅子灯台鉢 D-3区 34編
口径14.7×8.8cm 高さ8.8×6.6cm 高さ6.6cm



4. さわらび符蓋 F-4区 34編
最大径7.8cm 高さ1.1cm



5. 舟形符蓋 E-4区 34編 幅13.5×6.3cm
長さ15.3cm 上蓋に虫文・裏面にKICK



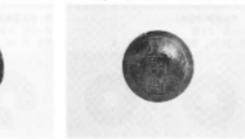
6. 舟形符蓋 3面上蓋付 幅13.5×6.3cm
高さ4cm 上蓋「舟」[jutan]



7. 丸形符蓋 E-5区 34編
径1.2cm 高さ2cm
蓋上蓋「調乳丹/魚肝油標/TRADE MARK/高米」



8. 丸形符蓋 E-6区 34編
径1.2cm 高さ2cm
蓋上蓋「魚肝油標/魚肉標」

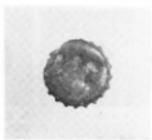


9. 丸形符蓋 D-3区 34編
径2.0×2.5cm 高さ3cm
蓋上蓋「O録酒標/高米標」

10. 丸形鉢 F-5区 34編
径2.5cm 高さ2cm
上蓋「瓦瓶」[4-A]



11. 蓋形 E-4区 34編
径3.9cm 高さ2.5cm
上蓋「KORIN+サンピールBEER」



12. 蓋形 E-1区 34編 径2.8cm
高さ2.2cm
上蓋「焼酎標GOGON高米
ASAMI SAKE BREWERY - SENDAI」



13. 蓋形 3面上蓋付
径3.4cm 高さ3cm
上蓋 縦的YにO 文字不明



14. 丸形鉢のハ E-1区 34編
径1.0 高さ1.0 [待機標「二五」]



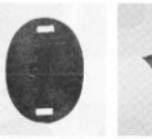
15. 丸形鉢のハ E-5区 34編
径1.0 高さ1.0 [高米標「高米」]



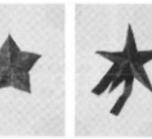
16. 卵形鉢 試製区 3編
4.5×3.4×0.8cm
[二ノノ/高米/高米標]



17. 卵形鉢 試製区 3編
4.5×3.2×0.8cm
[二ノノ+一編標/高米-八八]



18. 卵形鉢 E-2区 34編
4.4×3.3×0.8cm
[二編標/高米三三三]



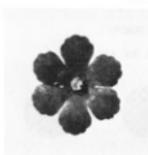
19. 星形 D-3区 34編
上径2.5cm 高さ1.6cm



20. 星形 3枚標
星部分の上径2.5cm
高さ1.3cm



21. 星形 試製区 1編
上径3.3cm 高さ6.4cm 厚0.6cm



22. 星形 3面上蓋付
上径4.7cm 高さ3.7cm



23. マダモ E-3区 34編 上径4.1cm
高さ3.3cm 厚0.3cm 表「CHAAPENSHIP」



24. ペロウ標 F-4区 34編
上径7.7cm 高さ6.2cm (GOOD LUCK)

図版152 仙台城二の丸跡第12地点出土近代金属製品(1)
Pl.152 Modern metal implements from NM12(1)

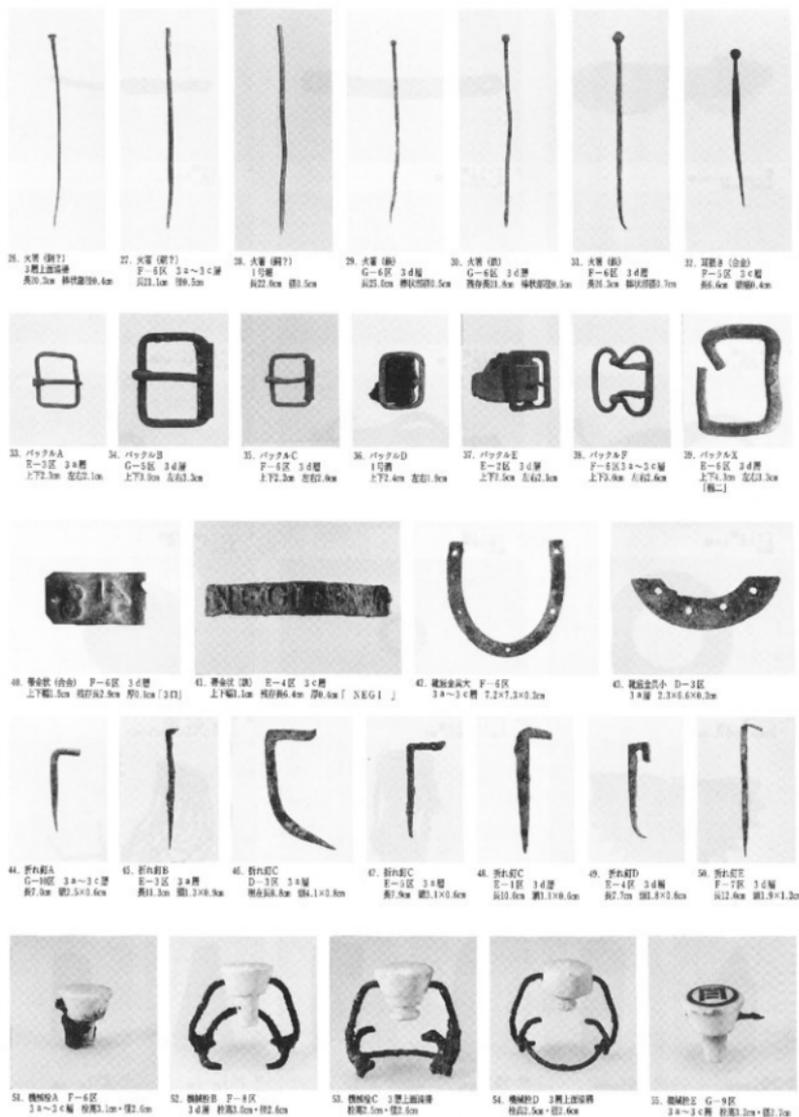
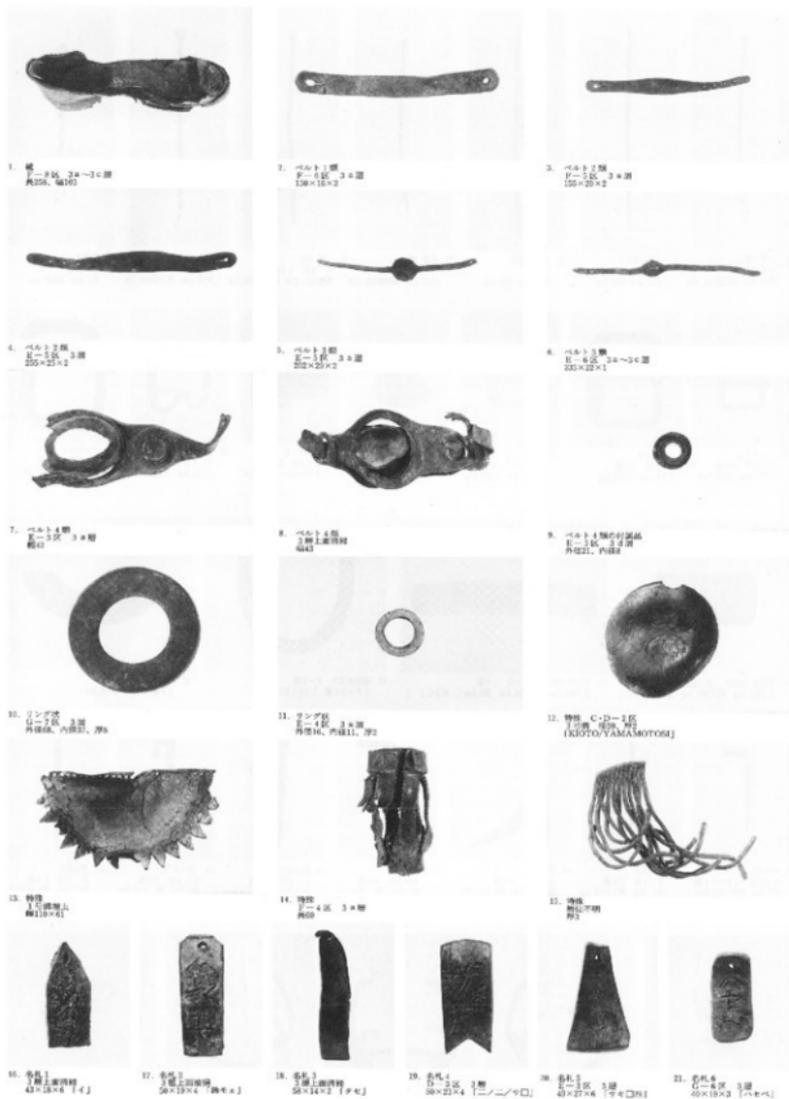


图153 仙台城二の丸跡第12地点出土近代金属製品(2)
Pl. 153 Modern metal implements from N12(2)



図版154 仙台城二の丸跡第12地点出土近代皮革製品(1)

Pl.154 Modern leather articles from NM12(1)



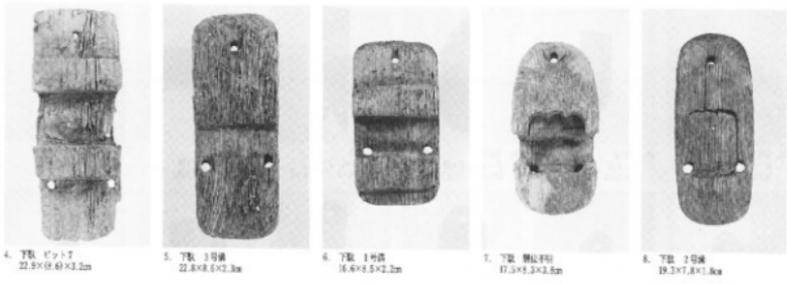
図版155 仙台城二の丸跡第12地点出土近代皮革製品(2)
Pl.155 Modern leather articles from NM12(2)



1. 漆碗片 3層上段漆片
外縁部中に塗て漆皮を・内縁部

2. 漆碗片 E-1区 4層 外縁部・内縁部
口径11.8cm 底径3.3cm 高5.5cm

3. 漆碗蓋 1号版 外縁部中に塗て漆皮を?文
内縁部 口径3.3cm 高径3.3cm



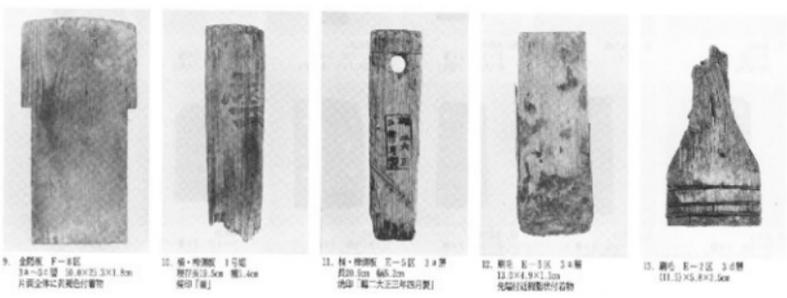
4. 7板 F-7区
22.8×10.4×2.2cm

5. 7板 1号版
22.8×8.5×2.3cm

6. 7板 1号版
16.6×8.5×2.2cm

7. 7板 漆皮付
17.3×8.2×2.2cm

8. 7板 2号版
19.3×7.8×1.8cm



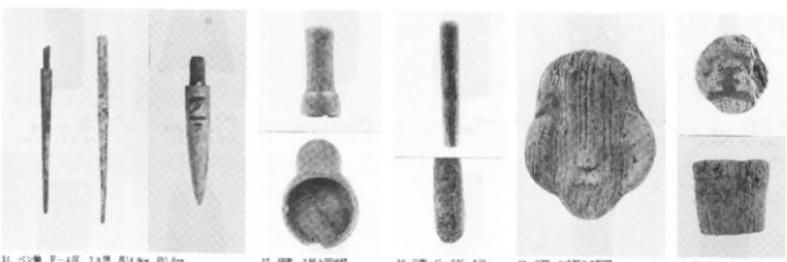
9. 漆器片 F-8区
18×10.5 塗を付 3×1.5cm
外縁部に漆皮を付した物

10. 板・押板板 E-5区
板付長13.3cm 幅1.4cm
厚0.7cm

11. 板・押板板 E-5区 3号版
長20.2cm 幅5.2cm
厚0.7cm 竪二大二三号四片製

12. 板片 E-5区 3号版
12.2×4.9×1.2cm
外縁部付した物

13. 漆器片 E-2区 3号版
11.3×5.8×1.5cm



14. ペン軸 F-4区 3号 長14.9cm 径1.6cm
断面: 菱形 [SA] [SA PENHOLDER]

15. ペン軸 E-3区 3号 長16.6cm 径1.6cm
断面: [SA] [SA PENHOLDER]

16. ペン軸? F-5区 3号 長6.1cm 径1.6cm 断面 [二ノ一]

17. 漆碗 3層上段漆片
口径4.3cm 径1.3cm

18. 漆器 G-5区 2号
断面: 円形 径5.5cm 厚1.1cm
厚板 [大×中]

19. 漆器 漆皮付の板
E-5区 3号
13.4×10.2×2.4cm

20. 漆器 E-1区 3号
長3.1cm 径1.3cm
上段部 [大×]

図版156 仙台城二の丸跡第12地点出土近代木・竹製品(1)
Pl.156 Modern wooden and bamboo implements from NM12(1)



図版157 仙台城二の丸跡第12地点出土近代木・竹製品(2)
Pl.157 Modern wooden and bamboo implements from NM12(2)



図版158 仙台城二の丸跡第12地点出土近代木・竹製品(3)
 PL158 Modern wooden and bamboo implements from NM12(3)



図版159 仙台城二の丸跡第12地点出土近代木・竹製品(4)
 Pl.159 Modern wooden and bamboo implements from NM12(4)



1. ゴートル F-1 3x個
糸の上7幅.5cm

2. ゴートル E-5区 1x個
糸の上7幅.5cm

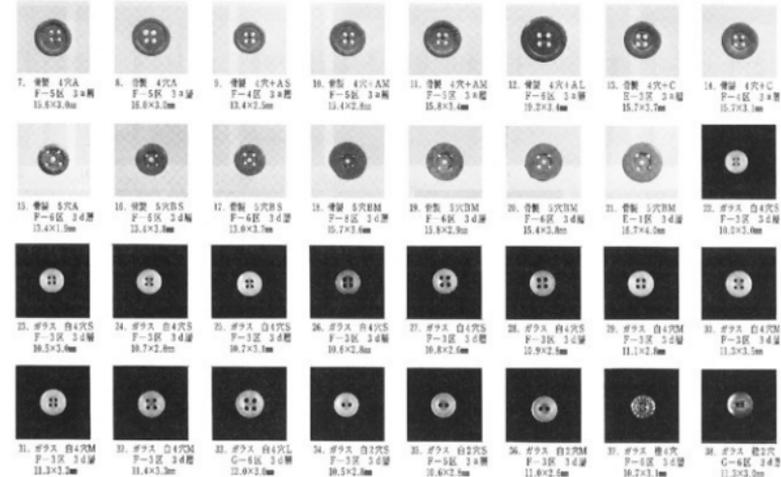
3. ゴートル E-5区 1x個
糸の上7幅.2cm 針金で巻き止め



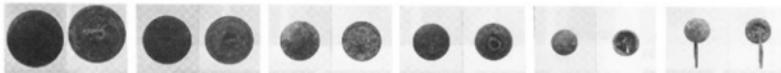
4. ゴートル F-5区 1x個
糸の上7幅.6cm 糸の上7幅.5cm

5. 糸製ボタン F-6区 1x個
糸の上7幅.5cm 糸の上7幅.5cm 糸の上7幅.5cm

6. 紐付 E-5区 1x個



7. 骨製 4穴A F-5区 1x個 15.4x3.8cm
8. 骨製 4穴A F-5区 1x個 16.6x3.1cm
9. 骨製 4穴+A S F-4区 1x個 13.4x2.5cm
10. 骨製 4穴+AM F-5区 1x個 13.4x2.5cm
11. 骨製 4穴+AM F-1区 1x個 15.8x3.5cm
12. 骨製 4穴+AL F-4区 1x個 19.2x3.5cm
13. 骨製 4穴+C B-1区 1x個 15.7x3.5cm
14. 骨製 4穴+C F-4区 1x個 15.7x3.5cm
15. 骨製 5穴A F-6区 1x個 15.4x1.5cm
16. 骨製 5穴B S F-6区 1x個 13.4x3.3cm
17. 骨製 3穴B S F-6区 1x個 13.8x3.7cm
18. 骨製 3穴B M F-2区 1x個 16.7x3.6cm
19. 骨製 3穴B M F-4区 1x個 15.8x2.3cm
20. 骨製 3穴B M F-4区 1x個 15.4x2.5cm
21. 骨製 3穴B M F-1区 1x個 16.7x4.5cm
22. ボタス 白4穴S F-1区 1x個 10.1x3.5cm
23. ボタス 白4穴S F-3区 1x個 10.5x3.5cm
24. ボタス 白4穴S F-3区 1x個 10.7x2.8cm
25. ボタス 白4穴S F-3区 1x個 10.7x3.5cm
26. ボタス 白4穴S F-3区 1x個 10.4x2.8cm
27. ボタス 白4穴S F-1区 1x個 10.8x2.6cm
28. ボタス 白4穴M F-1区 1x個 10.9x2.5cm
29. ボタス 白4穴M F-1区 1x個 11.1x2.5cm
30. ボタス 白4穴M F-3区 1x個 11.2x3.5cm
31. ボタス 白4穴M F-3区 1x個 11.3x3.5cm
32. ボタス 白4穴M F-3区 1x個 11.4x3.5cm
33. ボタス 白4穴L G-4区 1x個 12.8x3.5cm
34. ボタス 白2穴S F-1区 1x個 10.5x2.5cm
35. ボタス 白2穴S F-4区 1x個 10.8x2.5cm
36. ボタス 白2穴M F-3区 1x個 11.8x2.5cm
37. ボタス 黒4穴 F-4区 1x個 16.7x3.1cm
38. ボタス 黒1穴 G-6区 1x個 11.3x3.5cm



39. 金属ボタン E-1区 1x個 23.8x7.5cm
40. 金属ボタン E F-2区 1x個 20.1x4.7cm
41. 金属ボタン C F-1区 1x個 16.4x4.2cm
42. 金属ボタン D E-4区 1x個 15.3x7.5cm
43. 金属ボタン E F-4区 1x個 10.3x3.5cm
44. 金属ボタン F 1x個 13.5x3.3cm



45. 金属ボタン G E-4区 1x個 11.7x1.8cm
46. 金属ボタン H G-4区 1x個 31.8x18.8cm
47. 金属ボタン I 1x個 14.3cm
48. 金属ボタン J G-3区 1x個 14.7cm
49. 金属ボタン K E-3区 1x個 12.3x1.7cm
50. プラスチックボタン G-1区 1x個 53.5cm 糸.5cm
51. ラム革製ボタン 穴不明 3個 糸径1.3cm 糸径.5cm

図版160 仙台城二の丸跡第12地点出土近代織機製品・ボタン・ゴム製品
Pl.160 Modern various implements from NM12



1. 軒瓦1期 E-6区 3d層
丸部径8.9cm



2. 軒瓦1期 D・E-6区 1号棟埋土
丸部径9.0cm



3. 軒瓦2A期 3層上面押付 径30.1cm、厚2.1cm、
丸部径7.7cm、平部幅幅左端4.3cm・中央3.8cm・右端3.5cm



4. 軒瓦2A期 G-5区 3b層上面 長29.9cm、
厚2.5cm、平部幅幅左端4.3cm・中央4.0cm・右端3.5cm



5. 軒瓦2B期 3層上面押付
厚1.7cm、平部幅幅中央3.8cm・右端2.7cm



6. 軒瓦2A期(油付) G-3区 3b層上面
厚2.1cm、平部幅幅中央4.3cm・右端3.6cm



7. 引掛瓦2期 F-3区 3d層
長30.5cm、厚1.7cm、枕筋長21.7cm



8. 引掛瓦2期 E-4区 3a層 厚2.0cm、
平部幅25.5cm、反切込長11.8cm、引掛部幅幅3.7cm



9. 枕瓦 F-2区 3b層上面 長28.3cm、幅20.9cm、
厚2.0cm、平部幅25.2cm、枕筋長18.2cm



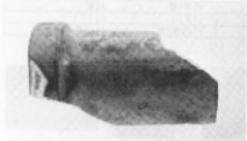
10. 棟瓦 E-3区 3c層
厚2.6cm、軸長15.5cm、軸筋幅7.6~9.7cm



11. 棟瓦 D-3区 3a層
厚2.6cm、軸長15.5cm



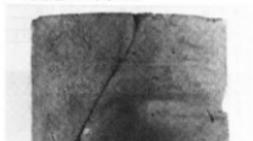
12. 棟瓦瓦 F-2区 3b層上面
瓦向径径15.6cm、厚1.8cm



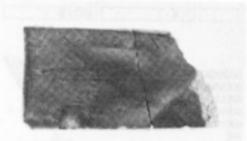
13. 棟瓦2期 F-3区 3d層 長27.0cm、厚2.0cm、
枕筋での高6.8cm、枕筋長4.5cm、丸部幅14.9cm



14. 棟瓦1期 G-3区 3b層上面
厚1.7cm、枕筋長5.6cm



15. 軒瓦1期 G-3区 3層
長24.4cm、幅16.6cm、厚1.8cm



16. 軒瓦2期 D-7区 1号棟埋土
幅12.6cm、厚2.3cm



17. 軒瓦3期 G-3区 3b層上面
幅8.0cm 厚さ1.9cm



18. 特製瓦式 F-3区 2a層
厚1.8cm、格子状に書目

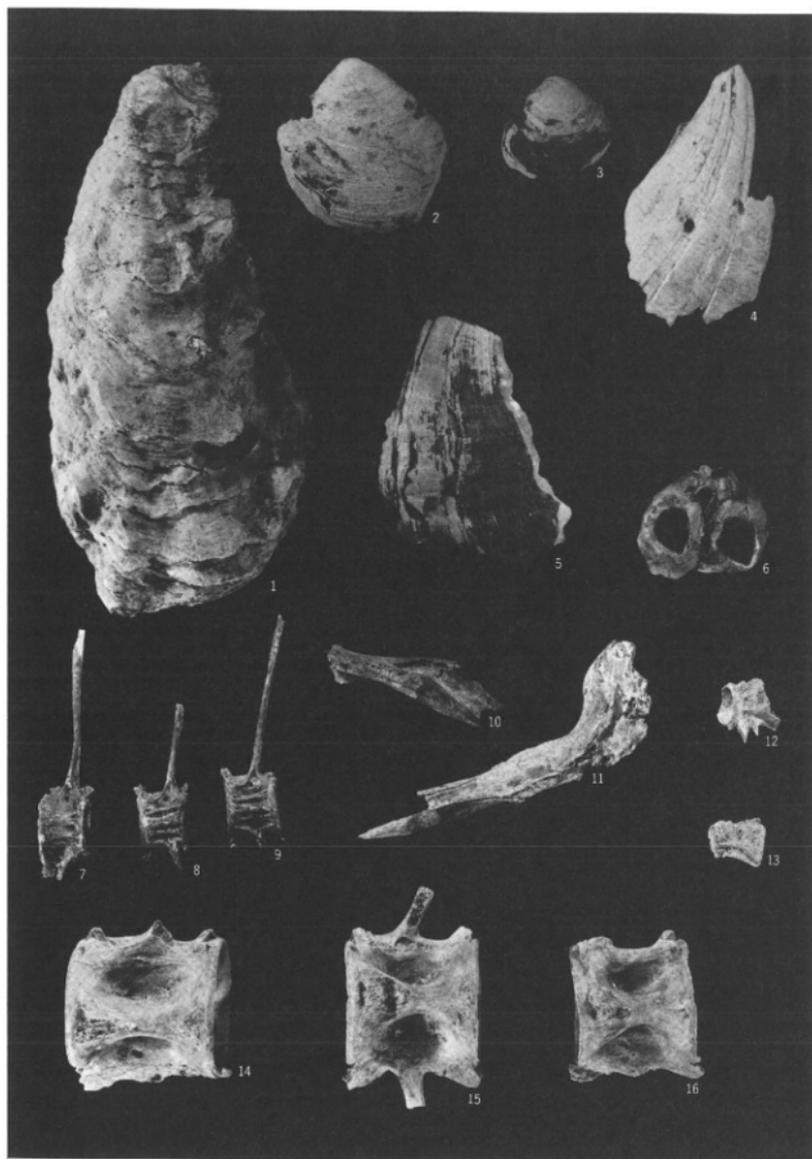
図版161 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の瓦

Pl.161 Modern roof tiles from NM12



図版162 仙台城二の丸跡第12地点出土近代の叩印ある瓦

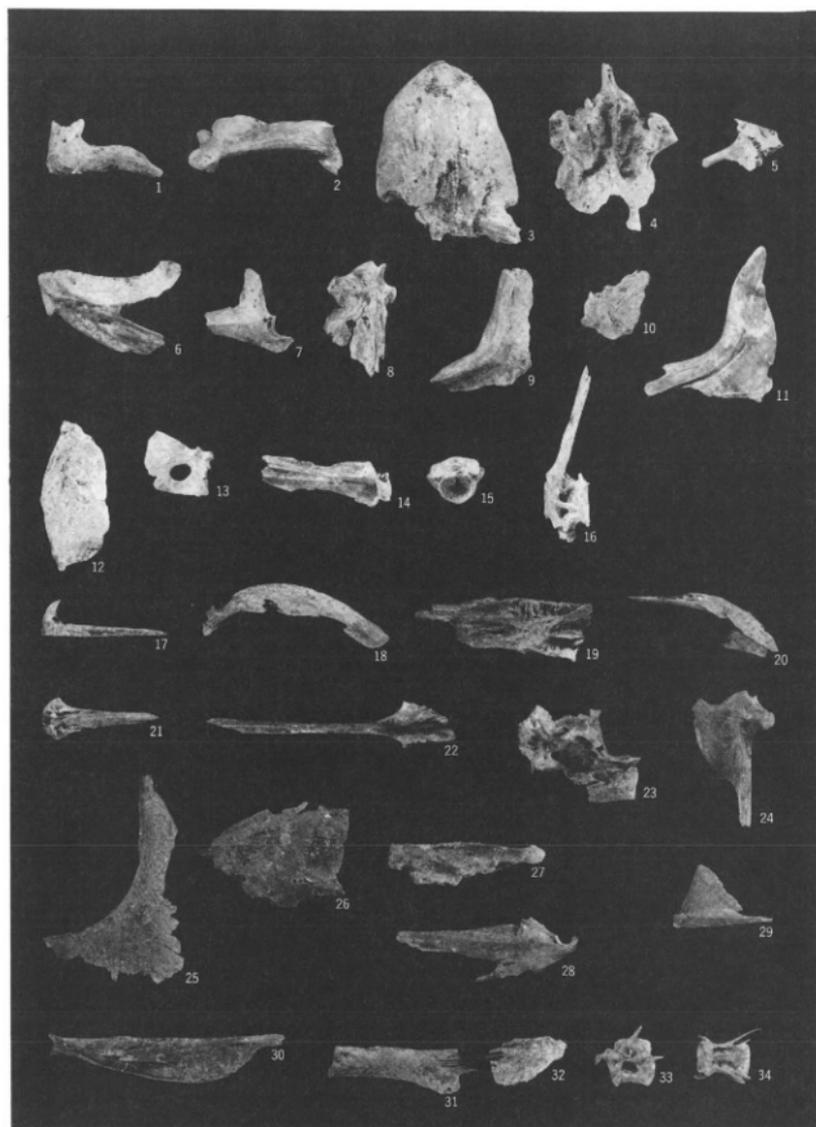
Pl.162 Modern roof tiles with seal impression from NMI2



1. マガキ (R) 2. ハマグリ (L) 3. シジミガイ科 (R) 4. ホタテガイ 5. ミミガイ科 6. フジツボ科 7~10. ヒラメ (7~9 胴椎
10 腹肋骨 (R)) 11~13. フリ属 (11 腹肋骨 (R) 12 腹椎 13 尾椎) 14~16. マダロ属 尾椎 [Scale 1~6=1:1, 7~16=2:3]

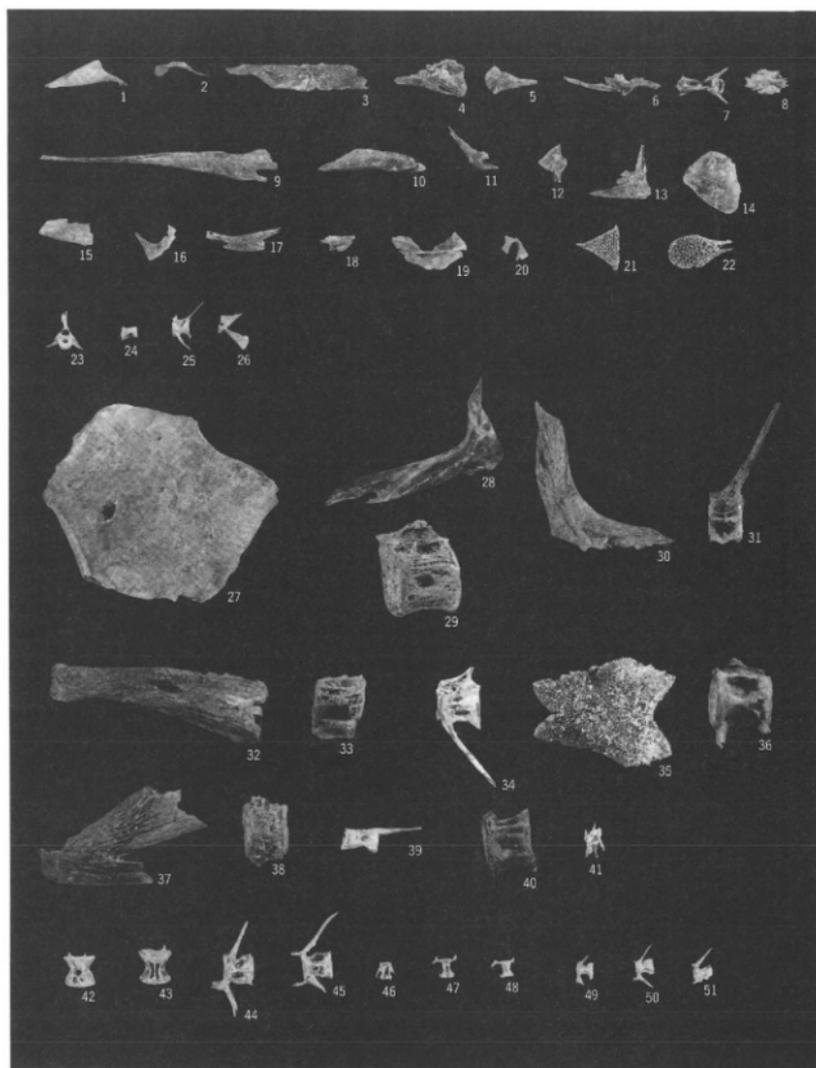
図版163 仙台城二の丸跡第12地点出土動物遺存体(1)貝類・魚類

Pl.163 Mollusca and Pisces(fish) from NM12



1~16. マダイ (1前上顎骨(L) 2主上顎骨(L) 3前歯骨 4上後頭骨 5後側頭骨(L) 6肋骨(L) 7肋骨(L) 8舌咽骨(L) 9前部蓋骨(L) 10主部蓋骨(L) 11縦蓋骨(L) 12上縦蓋骨(L) 13肩甲骨(L) 14骨盤骨(L) 15第一椎骨 16尾椎) 17~34. サバ属 (17前上顎骨(L) 18主上顎骨(L) 19前頭骨(L) 20後側頭骨(L) 21前歯骨 22副鱗形骨 23基後頭骨 24舌咽骨(L) 25前部蓋骨(L) 26主部蓋骨(L) 27肋骨(L) 28肋骨(L) 29肋骨(L) 30尾舌骨 31肩舌骨(L) 32上舌骨(L) 33腹椎 34尾椎) [Scale 1~16=2:3, 17~34=1:1]

図版164 仙台城二の丸跡第12地点出土動物遺存体②魚類
Pl.164 Pisces(fish) from NM12



1~26. サヨリ (1前上顎骨(L) 2主上顎骨(L) 3前頭骨(L) 4高耳骨(L) 5前鰓骨 6副鱗形骨 7基後頭骨 8上後頭骨 9 鰓骨(L) 10 角骨(L) 11方骨(L) 12舌顎骨(L) 13前鰓蓋骨(L) 14主鰓蓋骨(L) 15閉鰓蓋骨(L) 16下鰓蓋骨(L) 17内舌骨(L) 18上舌骨(L) 19 腹鰓骨(L) 20胸甲骨(L) 21・22頭骨 23第一椎骨 24腹椎 25尾椎 26尿管部輪状骨 27~29. スズキ (27主鰓蓋骨(L) 28腹鰓骨(L) 29 腹椎) 30・31. カレイ (30腹鰓骨(R) 31尾椎) 32・33. タラ科 (32高骨(L) 33尾椎) 34. フサカムルチー 尾椎 35. ホウボウ科 前鰓骨 36. カツオ 腹椎 37・38. サケ科 (37角骨(R) 38尾椎) 39. コチ科 尾椎 40. コイ科 尾椎 41. カムルチー 尾椎 42~45. マイワシ (42・43腹椎 44・45尾椎) 46~51. カタクチイワシ (46~48腹椎 49~51尾椎) [Scale 1~41=1:1, 42~51=2:1]

図版165 仙台城二の丸跡第12地点出土動物遺存体(3)魚類

Pl.165 Pisces(fish) from NM12



1~17.ニワトリ 1鳥口骨(R) 2頸甲骨(L) 3上腕骨(R) 4尺骨(L) 5・6尺骨(R) 7中手骨(L) 8・9大翼骨(R) 10脛骨(L、遠位端)
 11脛骨(R) 12脛骨(R、近位端) 13♂中足骨(L) 14♂中足骨(R) 15♀中足骨(R) 16♂中足骨(R) 17趾骨(R) 18・19.ハト(18上腕
 骨(L、近位端) 19大翼骨(R)) 20.イタチ 上腕骨(L、遠位端) 21.ウサギ 寛骨(R) 22.ネズミ科寛骨(R) 23.クマ 肋骨(R、骨幹部)
 [Scale 1~19=2:3, 20~22=1:1, 23=1:2]

図版166 仙台城二の丸跡第12地点出土動物遺存体(4)鳥類・哺乳類
 Pl.166 Aves and Mammalia from NM12



1. II-7区2層上面ピット検出状況(東から)



2. II-7区ピット完部状況(西から)



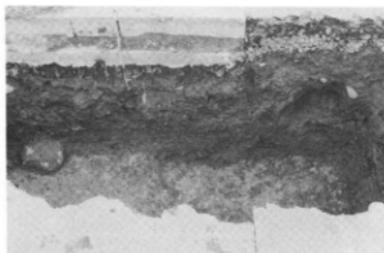
3. II-7区西壁セクション(東から)



4. II-8区ピット1掘り下げ状況(北から)

5. II-8区ピット1完部状況(西から)

図版167 仙台城二の丸跡第14地点調査状況(1)
 PL167 Features and cross section of NM14



1. II-8区南壁セクション (北から)



2. IV-2区ピット1検出状況 (南から)



3. IV-2区ピット1完掘状況 (南から)



4. IV-2区東壁セクション (西から)



5. VI-3・4区関連遺物包含層 (北から)

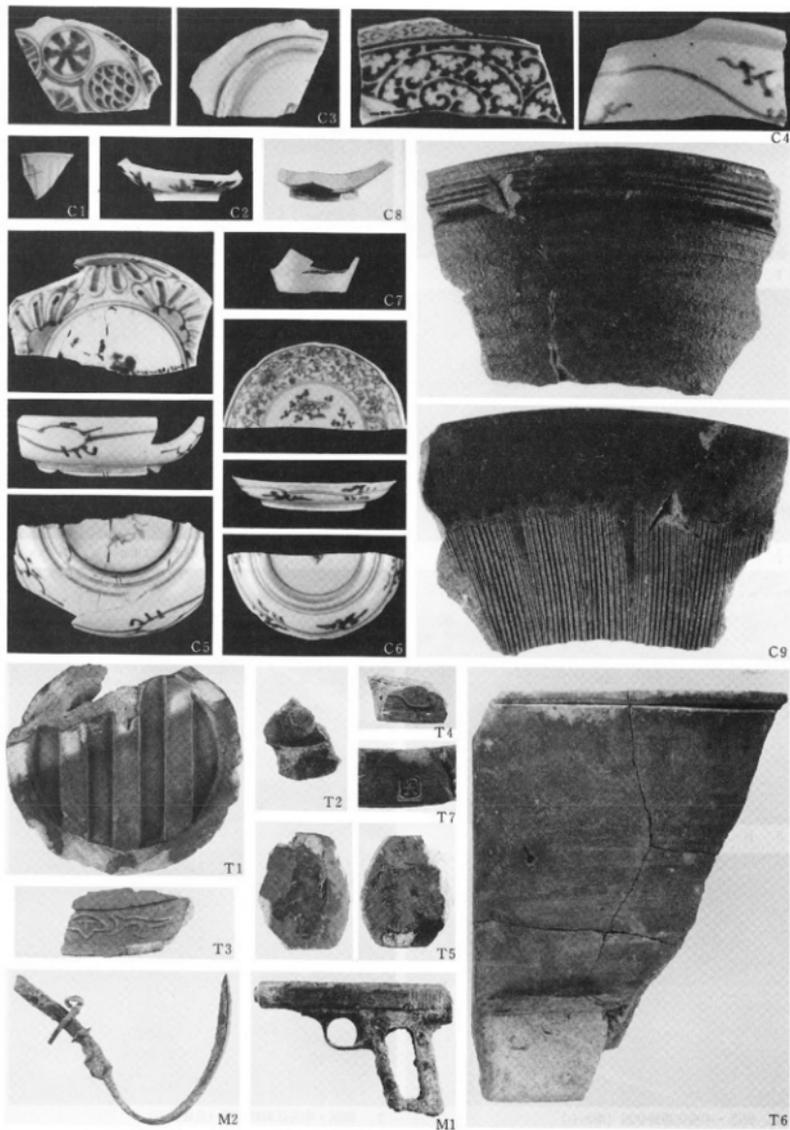


6. VI-4区石組道溝検出状況 (東から)



7. VI-1区石組状道溝検出状況 (北から)

図版168 仙台城二の丸跡第14地点調査状況(2)
Pl.168 Features and cross sections of NM14



図版169 仙台城二の丸跡第14地点出土遺物
Pl.169 Various implements from NM14

C1-9 S=1:3, T1-6 S=1:4
T7 S=1:2, M1-2は縮尺任意



1. 調査前全景 (東から)



2. B-2・3区遺物出土状況 (北東から)



3. A・B-5～13区遺物出土状況 (南西から)



4. A・B-7～13区遺物出土状況 (北東から)



5. B-2区1号・2号土坑 (北西から)



6. 西区・中央区最終状況 (南から)



7. 西区・中央区最終状況 (北東から)

図版170 青葉山遺跡E地点調査状況(1)

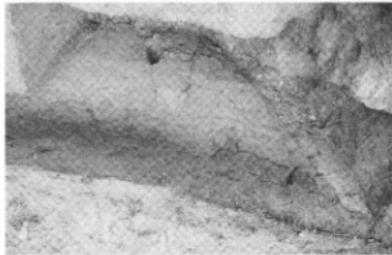
PL170 Views and features of AOE2



1. A・B-1区深掘セクション (南西から)



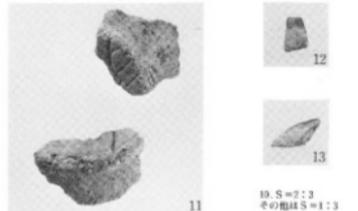
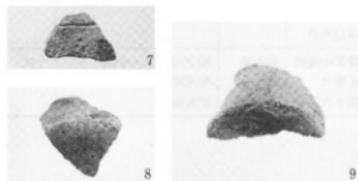
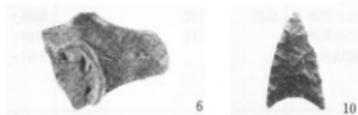
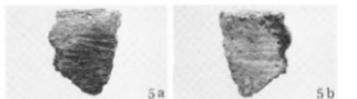
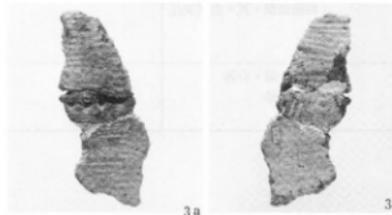
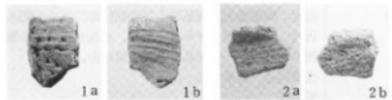
2. B-7区深掘セクション (南西から)



3. B-5区横出地滑りセクション (南東から)



4. 東区全景 (南西から)



19. S=2:3
その他はS=1:3

図版171 青葉山遺跡E地点調査状況(2)・出土遺物

Pl.171 View and cross sections of AOE2 and various implements from AOE2

報告書抄録

ふりがな	とうほくたいがくまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう							
書名	東北大学埋蔵文化財調査年報							
副書名								
巻次	11							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	須藤 隆・藤沢 敦・関根達人・奈良佳子・内藤俊彦・水見淳哉・川口典史							
編集機関	東北大学埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1 TEL 022-217-4995							
発行年月日	西暦1999年2月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仙台城跡 仙台市 青葉区川内	宮城県 仙台市 青葉区川内	04100	01033	38°	140°	1993. 6.30~10.27	386	学校施設建設
				15°	51°			
				22°	10°	1994. 1.24~ 3.17	56	環境整備(外灯設置等)
青葉山遺跡 E地点	宮城県 仙台市 青葉区荒巻 子育菜	04100	01443	38°	140°	1993. 6.25~7.30	181	共同溝建設
				15°	50°			
				16°	24°			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
仙台城跡 二の丸跡 第12地点	城館	近世 近代		掘跡・環状遺構 溝跡 土坑・ピット		近世：陶磁器・木製品等 近代：陶磁器類・ガラス 製品・石製品・骨製品・ 金属製品・皮革製品・木 製品等		19世紀代の二の丸北側の 堀と、それを横断する環 状遺構検出。
仙台城跡 二の丸跡 第14地点	城館	近世		ピット		陶磁器類・瓦・金属製品		
青葉山遺跡 E地点 第2次調査	散布地	縄文時代早・中期 弥生時代後期 平安時代		土坑 ピット		縄文土器・石器 弥生土器 土師器		

東北大学埋蔵文化財調査年報11

平成11年2月26日

発行 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
〒980 8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
東北大学遺伝生態研究センター内
TEL 022 (217) 4995

印刷 今野印刷株式会社
TEL 022 (288) 6123
